

授業計画

平成 29 年度

Syllabus 2017

生涯福祉学部 こども福祉学科

平成29～28（2017～2016）年度

共通教育科目

平成27～26（2015～2014）年度

基礎科目・教養科目

科目名	宗教と人生		科目ナンバリング	YFOL11001
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、兵庫大学の「建学の精神」と仏教について理解を深める。また宗教へ多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

- ・「建学の精神」への理解を深め、自らの言葉で説明できるようになり、兵庫大学学生としての自覚を涵養する。
- ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、①人間や世界や生や死について考え自分自身を見つめなおしていくきっかけとし、②異文化や他者理解を促進する。
- ・社会で起こっている様々な課題を仏教という視点からとらえなおし説明することができる。

《成績評価の方法》

受講態度（講義中の質問、建学の精神に関する宗教行事への参加を含む）30%、レポート 20%、定期テスト50%、この3項目で評価する。
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

建学の精神に関連する宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教についてその機能を理解し説明することができる。
2	宗教の種類	分布や特徴によって分けられる宗教の種類を理解し説明することができる。
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性について理解し説明することができる。
4	建学の精神①	建学の精神である和と聖徳太子について学び説明することができる。
5	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内の宗教施設をめぐるという体験を通して各施設の説明をすることができるようになり、建学の精神への理解を進める。
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学び説明することができる。
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
9	仏教を知る①	建学の精神にある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解し説明することができる。
10	仏教を知る②	初期仏教の展開と社会とのかかわりについて学び説明することができる。
11	仏教を知る③	大乘仏教の広がりや特徴について理解し説明することができる。
12	日本の仏教を知る①	日本仏教の特徴と展開について理解し説明することができる。
13	日本の仏教を知る②	日本の浄土系仏教の流れと教えについて理解し説明することができる。
14	建学の精神③	兵庫大学の建学の精神について理解を深め共有しお互いに説明し合うことができる。
15	建学の精神④	兵庫大学生としての誇りを持ち、建学の精神と自身の将来との関連を自分の言葉で説明することができる。

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	YFOL21002
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学・民族学や人類学や社会学など多くの学問領域と関連する学際的性格をもつ。周りを観察するといかに仏教が生活や思想に関わっているかに気づく。本講義では幅広く仏教と文化について解説し、さらに仏教と人間・グローバル社会・生と死・医療・環境等についての理解を深める。仏教と現代社会や文化について理解し自分自身を見つめるきっかけとする。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

※身近にある仏教について考え説明することができる。
 ※仏教と現代社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解し説明することができる。
 ※浄土系の教えについて理解を深め社会とのかかわりについて理解し説明することができる。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

《成績評価の方法》

受講態度（宗教行事への参加、講義中の質問も含む） 30%
 レポート 30%
 期末プロジェクトと発表 40%
 この3項目で評価する。
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解し説明ができる。
2	仏教の教え(1)	仏教の歴史と基本となる教えについて説明することができる。
3	仏教の教え(2)	仏教の教えについて説明することができる。
4	日本社会と仏教①	日本文化と仏教の関連について理解し説明することができる。
5	日本社会と仏教②	日本人の暮らしと仏教の関連について理解し説明することができる。
6	日本社会と仏教③	日本人の死生観と仏教について理解し説明することができる。
7	日本社会と仏教④	日本社会で起きている問題について仏教の視点を理解し説明することができる。
8	グローバル化と仏教①	仏教の視点からグローバル化や宗教多元社会について考え説明することができる。
9	グローバル化と仏教②	海外でみられる仏教の広がりについて学び説明することができる。
10	グローバル化と仏教③	世界的な規模で起きている社会問題について仏教の視点をもって理解し説明することができる。
11	現代社会と浄土仏教①	浄土仏教の教えの特徴とその展開について学び説明することができる。
12	現代社会と浄土仏教②	海外展開する浄土仏教について理解し説明することができる。
13	現代社会と浄土仏教③	現代社会がかかえる課題について浄土仏教の視点から取り上げ、考えて説明することができる。
14	仏教と現代社会	仏教の教えと現代社会のつながりを整理し発表することができる。
15	仏教と現代社会（まとめ）	現代社会と仏教の関連について関心を持ったテーマで整理し発表することができる。

《共通教育科目 建学の精神》

科目名	兵庫大学の学びと和		科目ナンバリング	YFOL21003
担当者氏名	本多 彩、北島 律之			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

兵庫大学は聖徳太子の説かれた和を建学の精神とし、太子や創始者の先生方が貴ばれた仏教を大切にしています。本講義では建学の精神について深く学びます。教員によるオムニバス形式の講義を通して、所属する学科の専門教育と建学の精神のつながりについて理解を進めます。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

入学時に配布した「ふんだりーか」と『仏教聖典』

《授業の到達目標》

本講義の目的は兵庫大学の建学の精神を深く知り建学の精神が自らの学びとどのように関連しているかを理解することです。
 ・本講義では聖徳太子の説かれた和、そして仏教について学び説明できるようになります。
 ・建学の精神があなたの学科の専門教育とどのように関係しているのかを知り伝えることができるようになります。

《授業時間外学習》

現在履修している専門科目授業の中で、建学の精神とつながっていると思うことを発見しよう。
 一度、仏教の本を読んでみましょう。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加・建学の精神に関連する宗教行事への参加 50%
 レポート・課題・提出物 50%
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	兵庫大学の歴史	兵庫大学の歴史を学び説明することができる。
2	兵庫大学と建学の精神	建学の精神と兵庫大学が掲げる人間力、実践力について学び説明することができる。
3	兵庫大学の建学の精神と仏教①	兵庫大学の建学の精神である和と仏教について学び説明することができる。
4	兵庫大学の建学の精神と仏教②	兵庫大学の創始者である3人の先生と和と仏教との関連を理解し説明することができる。
5	兵庫大学の教育と建学の精神の重要性	大学教育で建学の精神が重要であることを学ぶ。
6	健康システム学科の学びと和	健康システム学科の専門教育と和について学び説明することができる
7	社会福祉学科の学びと和	社会福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。
8	日本の仏教① 聖徳太子と仏教	聖徳太子の時代の仏教について学び十七条憲法にある和と仏教について理解を深め説明することができる。
9	日本の仏教② 龍谷総合学園	浄土系の仏教について学び本学との関係について説明することができる。
10	現代ビジネス学部の学びと和	現代ビジネス学科の専門教育と和について学び説明することができる。
11	栄養マネジメント学科の学びと和	栄養マネジメント学科の専門教育と和について学び説明することができる。
12	看護学部の学びと和	看護学部の専門教育と和について学び説明することができる。
13	こども福祉学科の学びと和	こども福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。
14	兵庫大学と建学の精神	話し合いを通して各学科の学びと和について理解を深め、整理して説明することができる。
15	兵庫大学と建学の精神 (まとめ)	兵庫大学の学びと和について自らの言葉で伝えることができる。

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	YCOS11001
担当者氏名	廣岡 徹		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本語の文字や単語の成り立ち、文章の構成などの日本語の基礎的な知識を通して、正しい日本語についての理解を深めるとともに、健全な社会人として、社会における様々な関係性に応じた表現や効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。

《テキスト》

授業時に、その都度、資料を配付する。

《参考図書》

授業時に指示、紹介する。

《授業の到達目標》

日本語の特徴を理解し、様々な方法を駆使して、会話や文章における適切、的確な表現を身につける。

《授業時間外学習》

授業中に指示する内容について、指示に従いワークシートを完成させる等の準備をすること。

《成績評価の方法》

出席と振り返りシートの記述の内容、授業への参加の態度(60%)、課題の提出と内容(20%)、発表の態度とレポート(20%)を基本に評価する。また、10時間以上の出席がない場合は、単位を認定しない。なお振り返りシートの記載に基づき、フィードバックを行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 日本語の基礎知識	日本語の学ぶことの意義を考えるとともに、日本語とは何か、考える。
2	世界の言語と日本語	日本語とはどのような言語か、特色は何か、どこから来たのか、考える。
3	音声・音韻	言語としての表現は、音と文字の両方から成り立っている。日本語の音声・音韻の特徴を考える。
4	文字・表記	日本語の文字・表記の仕組みについて考える。
5	語彙・意味	語彙とは何か、豊かな語彙が豊かな表現をもたらすことを考え、自己の語彙力を振り返る。
6	演習①自己紹介 極めつけの自己紹介	ワークシートを使い、自己を正しく伝える自己紹介の文章を書く。コラムニスト等の具体的な自己紹介を分析する。
7	発表・協議 自己紹介	実際に3分間で自己紹介をし、その態度、内容等について、相互評価を行い、魅力ある自己紹介を考える。
8	文法一品詞 演習②Show & Tell	日本語の文法を再確認し、文法に適った表現を身につける。「もの」を提示して行うプレゼンテーションを考える。
9	文法―主語・述語、助詞の用法	主語―述語の関係と助詞の用法について理解する。
10	文法―接続・修飾の関係 演習③ビブリオバトル	文と文との接続の関係、修飾・被修飾の関係を理解する。ワークシートを活用し、ビブリオバトルを経験する。
11	文法―敬語 演習④リフレーミング	敬語の種類とその役割を理解する。表現によって、相手に与える印象が変わることを理解する。
12	文章・文体 演習⑤時事ニュース紹介	文章はどのように構成されているか、また、文体によってどう変わるか、を考える。ニュースへの関心は個々人の社会性に関わる。ワークシートでまとめる。
13	発表・協議	「Show & Tell」「ビブリオバトル」「時事ニュース紹介」に「私の主張」を加えて、5分間のスピーチを行い、相互評価を行う。
14	発表・協議	”
15	発表・協議 まとめ	授業全体を振り返り、言語活動の重要性を確認する。

科目名	英語	科目ナンバリング	YCOS11002
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、「社会、文化、人間関係」をテーマに、英語コミュニケーションの真髄である「できる・できない」に関わらず、英語で発信すること大切さを理解し、その基礎を身につけることを目的とする。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに特に重点を置き、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《授業の到達目標》

英語の4技能である「聴き、話し、読み、書く」のうち、「聴き、話す」において、日常語500語程度を使って次のことができるようになる：

- 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；
- 2) 話す：身の回りの出来事（自己紹介、家族、興味・関心事など）について意見交換できる

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

- | | | | |
|----------|-----|-------|-----|
| 1) 授業参加 | 30% | 2) 課題 | 20% |
| 3) 復習テスト | 20% | 4) 発表 | 30% |
- フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《テキスト》

Marc Helgesen、Steven Brosn他著「English Firsthand Success」（ロングマン出版）ISBN：9789880030581

《参考図書》

なし

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：

- 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
- 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: What's your name?	自己紹介、クラスメートへのインタビューなどをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: I love fashion!	ファッションをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: How do you stay healthy?	健康をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: How do I get there?	道案内をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: What's that?	物の名前をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: What's your dream?	将来の夢をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	1) Unit 1からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 1からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
9	Unit 7: It was great!	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: How much do you know?	自然をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: She can really sing!	得意なことをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: What do you like to do?	好き・嫌いをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: Of course you can	生活のルールをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに応用する
14	Unit 12: What happened next?	物語をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	1) Unit 7からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	英語	科目ナンバリング	YCOS11002
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英語を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切的な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分からないことはoffice hours等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	YCOS21003
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、基礎教の「英語」で身につけたリスニング・スピーキングの基礎力をさらにレベルアップすることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する

《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro Combo Split B」(センゲージ出版) ISBN:978-1-3056-4780-0

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

日常語800語程度を使って次のことができるようになる：
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；2) 話す：身の回りの出来事(日課、人間関係、仕事など)について意見交換できる；3) 読む：読んだ内容について話し合える；4) 書く：聞き、話し、読んだ内容を基にまとめた英文が書ける

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：
 1) 授業参加 30% 2) 課題 20%
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%
 フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 7: Time	授業方針説明； A:日課などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み・書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
2	Unit 7: Time	B:週末・余暇の過ごし方などをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
3	unit 8: Special Occasions	A:休日、祭りをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
4	unit 8: Special Occasions	B: 祭りについてプレゼンテーションを行う。そのために必要な、語彙、文法を学ぶ
5	Unit 9: Come Together	A:休日、友達関係をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
6	Unit 9: Come Together	B: デートをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
7	Review Quiz& Presentation	1) Unit 7からUnit 9までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 9で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
8	Unit 10: Home	A:休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
9	Unit 10: Home	A:休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
10	Unit 11: Clothing	A:衣服、買い物などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
11	Unit 11: Clothing	B: ファッションをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
12	Unit 12: Jobs	A:アルバイトなどの仕事をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
13	Unit 12: Jobs	B: 将来のキャリアをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
14	Review Quiz& Presentation	1) Unit 10からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 10からUnit 12で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
15	Presentation and General Review	1) 前回ははじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	YCOS21003
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

このコースに、日本語を話せる外国人講師が、親切指導をしながら、国際理解とコミュニケーション能力を目指すものである。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を評価する。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分からないことはoffice hours等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	趣味・興味を述べる
3	Geography	地理学を語る
4	Weather	気候や天気を述べる
5	Everyday Activities	日常活動を喋る
6	Life Experiences	人生の主な体験を語る
7	School Subjects	学内の教科・科目について語る
8	At School	大学にて。。話し合い
9	Phone Messages	電話で英語を
10	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
11	Wishes	将来の希望
12	Opinions	意見を述べる事
13	Getting Away	海外へ旅行
14	Talking About Sports	暇とスポーツ活動
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	YCOS21003
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につける。特にリスニングパートでは、ディクテーションや発話活動を通して英語独特のリズムや発音に慣れる。文法パートでは、基本的な文法事項を再確認する。

《テキスト》

Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC Test Listening and Reading Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』（桐原書店、2018年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。学習した文法事項を使って日常の出来事を英作文できるようにする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	YCOS22004
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、海外旅行、留学など、海外（英語圏）で生活・行動するのに必要な異文化理解及びコミュニケーションの応用力を身につけることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《テキスト》

『English Firsthand1』 Marc Helgesen他著 ロングマン出版
ISBN: 9789880030598

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

(1) 英語圏で生活・行動するのに必要な日常的话题でコミュニケーションができる。(2) 基礎的な文法・語彙(1000語程度)・表現を使って読み書きができる(3) 海外で生活・行動において、文化の違いが理解できる

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

1) 授業参加 30% 2) 課題 20%
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%
 フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: It's nice to meet you	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: Who are they talking about?	人物描写や家族をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: When do you start?	日課や予定をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: Where does this go?	場所の描写をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: How do I get there?	道案内などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: What happened?	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	1) Unit 1からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 1からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
9	Unit 7: I'd love that job	仕事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: What's happening?	娯楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: What are you going to do?	未来の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: How much is this?	買い物などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: How do you make it?	料理などの作り方をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: Listen to music	音楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	1) Unit 7からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	YCOS22004
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力		

《授業の概要》

このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《テキスト》

Four Corners Student Book One（後半）。

《参考図書》

各授業、歌を勉強し、歌詞を配る。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

試験をせず、出欠のみで成績を評価。

《備考》

全員活発的に参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Breakfast, lunch & dinner.	食事の好みを説明する。
2	Restaurants	レストランで食事を注文する。
3	Daily diet.	食生活を喋る。
4	Around Town	近所を説明する。
5	"How do I get to...?"	方向を聞くと説明する。
6	Fun in the city.	観光案内所に情報を得る。
7	"I'm looking for you"	自分の行動を説明する。
8	"I can't talk now"	電話の話。
9	These days...	日常の生活を語る。
10	"What's new?"	メールの正しいやり取り。
11	Last weekend.	過去の行動を説明する。
12	"You're kidding!"	びっくりするの表現。
13	Getting Away	過去の行動を説明する-part 2.
14	"That's great!"	ニュースを聞き、反応する。
15	We're Finished!	最後のレッスンー大復習。

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	YCOS22004
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、TOEICテストの新問題形式に慣れるとともに、必要な情報を的確に捉える力を身につける。リスニングパートではディクテーションや発話活動を取り入れながら応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。文法パートでは基本的な文法事項を再確認する。TOEICに必要な語いを強化するため、定期的に単語テストを実施する予定である。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

Hiroshi Yoshizuka, Michael Schauerte 『Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test: Revised Edition』(成美堂、2017年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Restaurant1	リスニング：疑問詞を聞き取る。 文法：代名詞①（人称代名詞）
3	Unit 2 Entertainment1	リスニング：助動詞の時制を聞き取る。 文法：代名詞②（不定代名詞と再帰代名詞）
4	Unit 3 Business	リスニング：前置詞から場所を連想する。 文法：時制①（現在、過去の時制）
5	Unit 4 Office	リスニング：人名、肩書き、部署名を連想する。 文法：時制②（現在完了）
6	Unit 5 Telephone	リスニング：理由を述べている文章を探す。 文法：前置詞①（時、期間を表す前置詞）
7	Unit 6 Letter & E-mail	リスニング：「方法」や「具合」を問う形に慣れる。 文法：前置詞②（位置、場所を表す前置詞）
8	Unit 7 Health	リスニング：分量や頻度、程度を問う形を覚える。 文法：数量形容詞
9	Unit 8 Bank & Post Office	リスニング：所要時間、頻度、距離を尋ねる形を覚える。 文法：動詞（自動詞と他動詞）
10	Unit 9 New Products	リスニング：勧誘の表現を覚える。 文法：接尾辞①（形容詞を作る接尾辞）
11	Unit 10 Travel①	リスニング：話者の意図を考える。 文法：接尾辞②（副詞を作る接尾辞）
12	Unit 11 Travel②	リスニング：否定疑問文の形を覚える。 文法：分詞構文
13	Unit 12 Job Applications	リスニング：話者が期待する具体的な行動を聞き取る。 文法：比較
14	Unit 13 Shopping	リスニング：付加疑問文の形を覚える。 文法：受動態
15	Review	Review Test

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	YCOS21006
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	YCOS21007
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	YCOS21008
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
 - 2) 課題等の提出物20%
 - 3) 定期試験60%
- 分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか？」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	YCOS21008
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか？」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	YCOS21009
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
 - 2) 課題等の提出物20%
 - 3) 定期試験60%
- 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
2	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使えらる。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使えらる。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーカーキング	今まで学んだ文法を使つての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	YCOS21009
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーカーキング	今まで学んだ文法を使っての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	コンピュータ演習	科目ナンバリング	YCOS11010
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー (情報処理能力、情報収集・発信力) ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術の習得を目指します。

また、情報化社会の通信基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際しての利便性や危険性など情報化社会で必要とされる「情報モラル」などの知識の獲得も目指します。

《授業の到達目標》

1. 情報収集のためのWebブラウザを使った検索操作ができる。
2. レポート作成に用いるワードプロセッサソフト・表計算ソフトや発表のためのプレゼンテーションソフトの操作が行え、活用できる。
3. 情報の共有やコミュニケーションのための電子メールが活用できる。

《成績評価の方法》

提出課題の提出状況(20%)と課題内容(70%)、平常点(10%)を総合的に評価します。

欠席回数が全授業実施回数の1/3以上あるときには単位認定できないことがあります。

《テキスト》

教科書は使用しません。必要に応じて適宜配布します。

《参考図書》

小柳・小野・平井・宮本編著(教師を目指す人のための)「教育方法・技術論」学芸図書, 2012. など。
必要に応じて適宜授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

授業内での配付資料は学期終了まで閲覧可能ですから、配付資料を熟読し理解を深めて下さい。
課題作成は授業時間内を基本としますが、不足分は時間外学習で対応して下さい。

《備考》

「便利な文房具や道具」としてのコンピュータの積極的な利用を希望します。また、より深い理解を促すために授業計画の順序等を変更・修正することがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 利用のための手続き	計算機実習室利用のための手続きと初期設定
2	Windowsの基礎と電子メール	Windowsのパスワード変更, 電子メールの概要と活用
3	Webブラウザ	Webブラウザの操作方法, 検索サイト, 情報化の光と影
4	文書作成(1)	ワードプロセッサソフトの基本知識・操作
5	文書作成(2)	Webブラウザとの連携(検索エンジンを利用した情報検索/収集)
6	文書作成(3)	Webブラウザとの連携, 情報の引用, 参照のつけ方, 文書作成
7	表計算ソフト(1)	表計算ソフトの基本知識, セル, 罫線, 表組の活用, 基本的な関数の活用
8	表計算ソフト(2)	グラフ描画方法, 有効なグラフの形状
9	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションソフトの基礎知識, 発表テーマの設定と作成
10	プレゼンテーションソフト(2)	アニメーションとデザインの活用
11	プレゼンテーション資料の発表/総合的な演習(1)	資料を用いての発表, レポート, 課題作成のための実践…テーマ設定
12	総合的な演習(2)	レポート, 課題作成のための実践…表計算ソフトとワープロソフトの連携
13	総合的な演習(3)	レポート, 課題作成のための実践…表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携
14	総合的な演習(4)	レポート, 課題作成のための実践…見栄えする資料作成のコツ
15	総合的な演習(5)	まとめ…総合的な演習とその他補足

科目名	コンピュータグラフィックスの基礎		科目ナンバリング	YCOS21011
担当者氏名	稲富 恭、佐竹 邦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー (情報処理能力、情報収集・発信力)			

《授業の概要》

デザインは従来、専門職（デザイナー）が行う分野であったが、近年のデザイン用ソフトウェアの普及に伴い、社会人に求められる能力のひとつになりつつある。本授業では、初心者を対象にグラフィックソフトウェア(Adobe社)の操作について学ぶとともに、それらを用いた作品制作を行い、デザイン基礎力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、プリントを配布する。

《参考図書》

宮川修, 鈴木貴子: 「実践力を身につける Photoshop+Illustrator 集中講座」, マイナビ

《授業の到達目標》

- ・ Adobe Photoshop、Illustrator、InDesign 等の基礎的操作を習得する
- ・ 案内チラシ、プレゼンテーションパネル等のデザインに必要な基礎的能力を身につける

《授業時間外学習》

予習: シラバスを参考に課題制作に必要な資料を収集する。
 復習: 未完成課題の制作を行う。授業内容を元に操作の習熟につとめ、自主的に作品制作を行う。

《成績評価の方法》

- ・ 提出されたデザイン課題によって成績を評価する。
- ・ 課題は提出後、講評を行う。
- ・ 評価の内訳は、操作の習熟度に関する評価(50%)、デザインに関する評価(50%)とする。

《備考》

・ 教室設備の都合により、受講者の定員は20名である。希望者が定員を超える場合、1回目の授業で抽選を行う。またその場合、2回目の授業からの受講はできない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ビジネススキルとして求められるデザインスキルについて理解する。※受講者が定員を超える場合は抽選を行う。
2	Illustratorの基本的操作(1)	Illustratorの基本操作、文字、オブジェクトの作成、レイヤーの操作について理解する。〈課題〉案内地図を作成する。
3	Illustratorの基本的操作(2)	オフセット印刷、特色印刷について理解する。名刺をデザインする。
4	Illustratorの基本的操作(3)	ベジェ曲線等の操作について理解する。ロゴの制作を行う。
5	Photoshopの基本的操作(1)	画像データの形式、Photoshopの基本操作、写真の補正、加工について理解する。持参した写真の加工を行う。
6	Photoshopの基本的操作(2)	プレゼンテーション・スライドの作成を前提とした画像データの作成を行う。パワーポイントのスライドを作成する。
7	ポストカードの制作	Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。季節のポストカードをデザインする。
8	二つ折りパンフレットの作成(1)	パンフレットのデザインを行う。デザインバリエーションを検索し、手書きスケッチによるエスキスを行う。
9	二つ折りパンフレットの作成(2)	Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。エスキスをもとに、パンフレットのデザインを行う。
10	プレゼンテーションパネルの作成(1)	Excel等の数的データの変換、加工について理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。
11	プレゼンテーションパネルの作成(2)	レイアウトのバリエーションについて理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。
12	イベント告知チラシの作成(1)	実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。
13	イベント告知チラシの作成(2)	実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。
14	イベント告知チラシの作成(3)	イベント告知チラシのプレゼンテーション、講評を行う。
15	習熟度確認のための作品制作	授業時間内に与えられた課題の制作を行う。

《共通教育科目 国際理解》

科目名	国際理解と宗教 I (キリスト教)		科目ナンバリング	YINL21001
担当者氏名	野世 英水			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

キリスト教は世界宗教として国際社会のさまざまな問題と深くかかわっている。この講義ではキリスト教の基礎を学ぶとともに、現代の国際社会におけるいくつかの問題を取り上げ、それら問題とキリスト教とのかかわりについて考えていくこととしたい。そこでは国際社会の諸問題をキリスト教という宗教より見ていくとき、また新たな視野がひろがっていくことに気づかされるであろう。

《授業の到達目標》

- ・キリスト教の教えや歴史の基礎を理解できるようになる。
- ・国際社会の諸問題についての認識を深め、それら諸問題とキリスト教とのかかわりについて理解できるようになる。

《成績評価の方法》

授業参加態度20%、ビデオ鑑賞後のレポート10%、期末試験70%

※質問、意見等を書いてもらい次回授業時に答える。

《テキスト》

講義時に必要なプリント等を配布する。

《参考図書》

『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編（岩波書店）2002。
その他講義時に随時紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業終了後、毎回ノートや配布資料をを整理し、内容を理解する。
- ・キリスト教の聖書を手にし読んでみる。

《備考》

シラバスにそって授業をすすめますが、受講生の理解度によって変更することもあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	キリスト教と世界の諸宗教(1)	キリスト教の世界の諸宗教のなかでの位置づけ。キリスト教の国際的な分布。
2	キリスト教と世界の諸宗教(2)	カトリック、プロテスタント、東方正教会などのキリスト教教会の展開。キリスト教の宗教上の分類。
3	キリスト教との出会い(1)	キリスト教とは。イエス・キリストとは。旧約聖書と新約聖書。聖書のなかの神。
4	キリスト教との出会い(2)	イエス・キリストの生涯。
5	キリスト教と国際平和(1)	国際社会と平和。平和と暴力。キリスト教の平和思想。
6	キリスト教と国際平和(2)	キリスト教の正戦論。戦争とドイツキリスト教会、日本キリスト教会。
7	キリスト教と国際平和(3)	イスラームの平和思想、仏教の平和思想との比較。
8	キリスト教とホスピスケア(1)	キリスト教とターミナルケア、ホスピスムーブメント。
9	キリスト教とホスピスケア(2)	キリスト教における生と死。イスラーム、仏教の生死観との比較。
10	キリスト教の愛の実践ーマザー・テレサ	キリスト教の国際支援。マザー・テレサの愛の実践活動。ビデオ鑑賞。
11	キリスト教とジェンダー(1)	ジェンダーとフェミニズム。キリスト教のジェンダー問題。
12	キリスト教とジェンダー(2)	キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。
13	キリスト教と民族紛争・地域紛争(1)	キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。
14	キリスト教と民族紛争・地域紛争(2)	国際社会と原理主義。キリスト教原理主義とイスラーム原理主義。
15	15 学習のまとめ	国際社会の諸問題とキリスト教。キリスト教を通じた国際理解のありかた。

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	YINL21002
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラーム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリムの訪日人数や国内のモスク(イスラームの礼拝所)も増加し、今後内外でムスリムと出会う機会は多くなる。この授業を通して、イスラームに関する基本的な内容を把握し、この宗教をめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。ドキュメンタリーを中心に、VTRも毎回視聴する。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラームに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・レポートに書かれた質問への回答や講評は、可能な限り授業時間内に行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラーム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	結婚、葬礼におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	イスラームをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

- 小川忠『インドネシア イスラーム大国の変貌 躍進がもたらす新たな危機』新潮社、2016
 後藤絵美『神のためにまとうヴェール 現代エジプトの女性とイスラーム』中央公論新社、2014
 内藤正典『となりのイスラーム 世界の3人に1人がイスラーム教徒になる時代』ミシマ社、2016

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームと接点を持つ(例：モスクやハラールショップ見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・出席登録直後の退出は、原則的に認めない。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	国際関係論		科目ナンバリング	YINL21003
担当者氏名	斎藤 正寿			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

- 自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
- 20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

科目名	比較文化論	科目ナンバリング	YINL21004
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この社会に生きている私たちは、様々な背景を持った人や多様な文化や社会とつながっています。本講義では自文化を知るとともに文化の多様性を学び他者理解を深めます。アジア・ヨーロッパ・南北アメリカの文化・社会について、海外経験豊富な教員がオムニバスで講義を行います。いろいろな文化や社会があることを知り進むグローバル化の中で他者、他文化への理解を促進しましょう。

《授業の到達目標》

- ・自文化についての理論を学び海外の多様な文化や社会について理解を深め、説明することができる。
- ・兵庫大学が行っている海外研修や提携大学学生との交流の際に、相手を理解するための知識を身につける。

《成績評価の方法》

レポート・テスト50%
 受講態度（授業への積極的な参加）50%
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特に指定しません。

《参考図書》

特に指定しません。適宜授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

メディア等に登場する国内外の動向に注目しておきましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	比較文化論概説（1）	「文化」とは何かを理解し、身近な文化について考え説明することができる。
2	比較文化論概説（2）	文化を比較するとはどういうことかを考え、自文化に関するいくつかの理論を学び比較文化の視点から説明することができる。
3	アジアの文化（1）	本学が交流しているタイの文化や社会について学び説明することができる。
4	アジアの文化（2）	本学が交流している韓国の社会について学び説明することができる。
5	アジアの文化（3）	本学が交流している韓国の文化について学び説明することができる。
6	ヨーロッパの文化（1）	本学が交流しているドイツの文化や社会について学び説明することができる。
7	ヨーロッパの文化（2）	本学が交流しているフィンランドの文化や社会について学び説明することができる。
8	北アメリカの文化（1）	アメリカの大学システムや学生の学びについて理解し説明することができる。
9	北アメリカの文化（2）	本学が交流しているアメリカの文化について学び説明することができる。
10	北アメリカの文化（3）	本学が交流しているアメリカの社会について学びを深め説明することができる。
11	北アメリカの文化（4）	アメリカの民族的マイノリティについて学び説明することができる。
12	南アメリカの文化	本学や加古川市が交流している南アメリカの国の文化や社会について学び説明することができる。
13	兵庫大学の国際交流	本学の国際交流プログラムに参加した学生や国際交流にかかわる人との交流を通して、国際交流とは何かについて考え意見をまとめる。
14	学習のまとめ（1）	各地域の文化や社会について学んだことをふりかえり、学んだことを整理してまとめる。
15	学習のまとめ（2）	授業全体をふりかえり多様な文化や考え方について関心を持ったテーマに沿って発表する。

科目名	歴史学	科目ナンバリング	YHIL21001
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input type="radio"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

主として日本の前近代を扱います。歴史事実の学習ではなく、「歴史の見方」「歴史的思考方法」の獲得を目指します。アナール歴史学—社会史、等身大の視点からの歴史学—の方法論を主に用います。前近代の市井の人々の感覚世界を探求します。「前近代の自由」が通底するテーマとなります。時代によって変わることのない普遍的人間の感覚、および、時代・地域により変化する感覚・諸価値を考察します。

《授業の到達目標》

1. 各自の感覚・価値観は「時代」「地域」「社会」に規定されている事に気付く。
2. 既に構築されている各自の感覚・価値観を相対化し、疑問を懐き、クラック（ひび割れ）を入れ、将来に脱皮しうるシード（種子）を獲得する。
3. 他時代・異文化のもつ、異なる感覚・価値観の存在を認め、共存しうる感性・理性を涵養する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、等を行います）を40パーセントとします。学期末のペーパーテストを60パーセントとします。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義全体のガイダンス。全体計画説明。注意事項の説明。
2	創られた伝統1	夫婦同姓問題。三行半って本当？ 近代の常識を疑え！
3	創られた伝統2	「大和撫子」「日本男児」幻想。「盆」と「正月」って何？
4	創られた伝統3	母系社会と父系社会。相続原理と社会倫理規範。
5	自由への賛歌1	近代的「唯一絶対的自我」への疑問。多様な自我。「排他的近代」の限界。
6	自由への賛歌2	市と自由1。環太平洋的「マナ」世界と交換の原理。
7	自由への賛歌3	市と自由2。縁切りと変身の原理。
8	自由への賛歌4	変容と変身の原理。俗世界と聖なる世界。
9	自由への賛歌5	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理1。
10	自由への賛歌6	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理2。
11	小さな神仏の世界1	来世利益と現世利益。本堂・本殿と末社・摂社の世界。
12	小さな神仏の世界2	背面信仰と第三項排除理論（差別問題を含む）。
13	小さな神仏の世界3	暗黒世界の神仏と王権。王権と第三項排除理論（差別問題を含む）。
14	総括1	各項目間の関連の確認。
15	総括2	全体のまとめ。

《テキスト》

なし。
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

1. 網野善彦『増補 無縁・公界・楽』、平凡社ライブラリー（大学図書館にあり）
2. 『週刊朝日百科日本の歴史』、朝日新聞社（大学図書館にあり）
3. 福岡大学人文学部歴史学科『歴史はおもしろい』、西日本新聞社

《授業時間外学習》

異なる時代、異なる文化が発している情報に敏感になってください。テレビ、新聞、雑誌、映画、DVD、ゲーム、そして、ネットの板情報、などが発信している、「自分とは異なる感覚・論理」を拒絶するのではなく、受け止める気持を持って情報に接してください。

《備考》

オモチャ箱をひっくり返したような講義に出来たらな、と思っています。重い病苦にあえぐ人、不条理な差別を受ける人なども多数扱います。ご理解の上で御受講くださいませ。

科目名	文学	科目ナンバリング	YHIL21002
担当者氏名	野田 直恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

文学作品は書き手がことばによって構築する芸術だが、ことば自体が流動的なものであることから、その作品は必然的にさまざまに読み手の目に映じるものとなる。また、読み手が置かれた状況によっても作品は姿を変える。その変容ゆえに作品が読み手にもたらすものを見だし、文学と人との関係を考察する。

《テキスト》

プリントを適宜配付する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

作品に用いられたことばの意味やそれを書き手が選んだ理由・背景を探ることを通じ、作品やそのことばを生み出した文化についての知見を広める。作品について自分なりの見解を持つようにする。文学全般についての知識を深める。

《授業時間外学習》

プリントの内容に即した小テストなどを、実施日・範囲を予告のうえ実施するので、復習は必須である。また、授業時の発問に対応できるよう、指定範囲の予習をしておくこと。予習の成果が認められる場合には、平常点を加点する可能性がある。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する小テストなどの課題（50%）と定期試験（50%）によって評価する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

中学・高校で使った文学史の教科書や参考書、国語便覧などがあれば、そのうちの1～2種類を初回の授業時に持参してください（どんなものでも可）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業全般についての説明	授業のすすめ方や小テストなどの課題について説明する。
2	「国語」と文学の違い 文学とは何か	高等学校までの「国語」という教科における文学作品の読み方が私たちにもたらしているものについて説明し、文学のあり方を考察する。
3	日本文学の概観 日本語の起源	日本文学の流れと、その表記に用いられる日本語の起源とについて概説する。
4	神話と歴史	『古事記』や『日本書紀』といった奈良時代の文学作品に見られる特質や、それらが後世に及ぼした影響について概説し、実際に作品の一部にふれてみる。
5	詩歌の変遷（歌について）	『万葉集』から『新古今集』までの歌の変遷についておもに概説し、実際にいくつかの作品にふれてみる。
6	物語と日記	平安時代の物語文学の発展について概説し、実際に作品の一部にふれることを通じて物語と日記との差異について考察する。
7	女性文学1	女性による文学作品が生まれた文化的背景について概説する。また、女性による古典作品にふれてみる。
8	女性文学2	女性による近代文学作品の一部にふれ、女性にとっての創作の意義を考察する。
9	文学と宗教	日本文学における仏教の影響について概説し、鎌倉時代の文学に見られる特質について、実際に作品の一部にふれながら考察する。
10	娯楽としての文学	庶民たちのあいだで広まり、受け継がれていった文学について概説し、作品の一部にふれてみる。
11	教育と出版	明治時代になって一般の人々が読み書きの能力を身につけるようになったことと、社会の流れとの関係について概説し、教育が文学にもたらした影響について考察する。
12	文明開化の光と影	日本文化が西洋文化との接触によってどのような影響を受け、それが明治～大正時代の文学にどのように反映したのかを概説する。また、実際に作品の一部にふれてみる。
13	作家と留学	日本の近代という時代に夏目漱石や森鷗外らが与えた影響について、彼らの作品の一部にふれながら概説する。
14	文学史的区切り	昭和時代における文学の変遷について概説し、近代文学と現代文学との境界をどのようにとらえるべきかを考察する。
15	作品と出会う	限られた時間の中で限られた作品しか読めない私たちが、作品とどのように出会い、どのように向き合えばよいのかということについて考察する。

《共通教育科目 歴史と文化》

科目名	芸術	科目ナンバリング	YHIL21003
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

※各作家の芸術作品について感想・意見を述べさせ、それに対して講評を行う。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期バリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	色彩とデザイン	科目ナンバリング	YHIL21004
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産活動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを“色”、“かたち”、“素材”の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《テキスト》

「新配色カード129a」日本色研事業(株) (<参考>¥500程度、3回目以降の授業以降使用する。)

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野における一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインの基礎(1):かたち	デザインの要素である“色”、“かたち”、“素材”について理解する。“かたち”について、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
2	デザインの基礎(2):素材	デザインの素材について、椅子のデザインを例に材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
3	デザインの基礎(3):色彩の基礎	光と色の関係、色の三属性について理解する。配色カードを利用し、色相環を作成する。
4	デザインの基礎(4):色彩の表現	色の分類、表色系、PCCSについて理解する。配色カードを利用し、等色相面を作成する。
5	デザインの基礎(5):色彩と心理	言葉による色表示、色彩と心理の関係について理解する。配色カードを利用しトーン表を作成する。
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	アーツ・アンド・クラフツからモダニズムに至る19世紀以降のデザインの歴史について概観する。
7	デザインの各分野(1):建築	実用的価値、美的価値、社会的価値といった側面から建築のデザインについて理解する。
8	デザインの各分野(2):ファッションの歴史	20世紀以降のファッションの系譜について解説し、社会の変化とデザインの間わりについて理解する。
9	デザインの各分野(3):ファッションと配色	ファッションの色彩調和とその手法について解説する。配色カードを利用し、ファッションの配色パターンを作成する。
10	デザインの各分野(4):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
11	デザインの各分野(5):都市	都市のデザインを社会状況・政治体制、産業・エネルギーといった側面から考察する。※学期末レポートの課題を説明する。
12	デザインの各分野(6):和風デザイン	和風のデザインについて真・行・草といった側面から考察する。
13	デザインの各分野(7):デザインと地域性	デザインと地域特性の関係について、アメリカ、南欧、北欧のデザインを例に考察する。
14	デザインと配色	各デザイン分野における配色パターンと効果について考察する。配色カードを利用し、配色パターンの作成を行う。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

《共通教育科目 地域に学ぶ》

科目名	地域文化論		科目ナンバリング	YL0L21001
担当者氏名	金子 哲			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

播磨地域、特に東播地域の文化特質を考察する。アジア的視座、日本的視座、西国内部の視座、兵庫県内部の視座、からこれを比較検討する。

地理、歴史、文化、民俗、などから問題にアプローチしていきたい。

《授業の到達目標》

自らの属する地域を外部の視点から相対的に考察する能力の第一歩を獲得する事を目標とする。自文化の相対化、とも表現できる。

これは、異文化との共存、多文化共生をなし得る感覚の取得でもある。

《成績評価の方法》

学期末に行う筆記試験を60パーセントとする。毎回の講義への積極的関与度を40パーセントとする。毎回の講義では、様々な質問を提示し、回答してもらい、評価する。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の全体像の提示。考え方の提示。
2	考現学的アプローチ1	現代日本社会を席卷する「マイルドヤンキー文化」に関する考察。
3	考現学的アプローチ2	「マイルドヤンキー文化」の「聖地」は、何故「東加古川」なのか。
4	アジアの中で日本を考えてみよう	日本は大国か？小国か？ 日本は「単一民族国家」なのか？ 日本文化は均質なのか？ などなど、社会常識を再検討する。
5	東は東、西は西	日本の東西文化の極めて大きい差異を、様々な事例から考察する。
6	歴史的アプローチ1	日本文化の中に残る、縄文文化と弥生文化の濃淡を考察する。さらに、日本の「周縁地域」の文化的独自性を考察する。
7	歴史的アプローチ2	播磨、特に東播の古代を再考し、その位相を考察する。日本武尊関連の神話分析も行う。
8	歴史的アプローチ3	播磨、特に東播の中世を再考し、東播の全盛期の位相を考察する。
9	歴史的アプローチ4	播磨、特に東播の文化財を考察する。
10	歴史的アプローチ5	播磨、特に東播の近世・近代を、「産業」に重点をおいて考察する。
11	文化論的アプローチ1	播磨、特に東播の「祭り」「祭祀」を考察する。
12	文化論的アプローチ2	播磨、特に東播の「芸能」を考察する。
13	文化論的アプローチ3	播磨、特に東播の「食」を考察する。第一回。
14	文化論的アプローチ4	播磨、特に東播の「食」を考える。第二回。
15	おわりに	全体の総括。

《テキスト》

なし
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

網野善彦、『東と西の語る日本の歴史』、講談社学術文庫1343。
原田曜平、『ヤンキー経済』、幻冬舎新書335。

《授業時間外学習》

常に地域の文化、自分の文化に関心を払ってください。日常生活の中で、講義内容を時々思い出し、反芻して、納得してください。他地域の文化、異文化への関心を持つように心がけ、情報に接してください。
できれば、参考文献を御一読ください。

《備考》

楽しい講義にしたい、と考えております。

《共通教育科目 地域に学ぶ》

科目名	建築デザインと地域		科目ナンバリング	YL0L21002
担当者氏名	稲富 恭			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

建築・土木構造物(以下、建築)は気候、歴史、宗教、産業といった多くの要素と密接に関係している。本講義では、兵庫県内の建築を通じて、地域社会、地域文化について学びます。

《テキスト》

テキストは用いない。適宜、資料を配付する。

《参考図書》

「昔も今もこれからも 兵庫を築く」兵庫県建設業協会, 2013

《授業の到達目標》

- ・ 建築のデザインに関する基礎的知識を身につける。
- ・ 建築の理解をを通じて、兵庫県の歴史、文化、産業について理解する。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法: シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・ 復習の方法: 授業ノートを制作する。
- ・ 学期末レポート: 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

- ・ 出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	兵庫県の建築・土木構造物(以下、建築)について概観する。建築と地域環境の関わりについて理解する。
2	古代の兵庫県と人々のくらし	大中遺跡、五斗長垣内遺跡、五色塚古墳等を取りあげ、縄文時代、弥生時代の建築と生活について理解する。
3	神道の成立と神社建築	長田神社、多田神社等を取りあげ、神道の成立と神社建築の系譜、神社がもつ社会的機能について考察する。
4	仏教の伝来と寺院建築	鶴林寺、浄土寺、朝光寺等を取りあげ、寺院建築の歴史と系譜、木造技術の発展について考察する。
5	幕藩体制と都市・城郭	姫路城等を取り上げ、兵庫県内に存在する江戸時代の城郭建築と都市の形成について理解する。
6	古民家の歴史と技術	箱木家住宅、三木家住宅等を例に、兵庫県の民家建築の歴史と形式について考察する。
7	明治維新と欧米型ライフスタイル	異人館、外国人住宅等を例に欧米型住宅の影響と神戸の景観形成について解説する。
8	西洋古典建築の系譜と神戸の近代建築	ギリシア・ローマ建築の系譜について概観し、旧居留地の近代建築について理解する。
9	阪神間モダニズム	ライト、ヴォーリズ等を例にモダニズム建築の系譜について概観し、阪神間モダニズムについて理解する。
10	戦後の住宅政策と都市開発	ポートアイランド、明舞団地等、戦後の大規模住宅開発を取りあげ、戦後の住宅政策について理解する。
11	地域の産業と土木構造物	加古川橋梁、布引ダム、明石海峡大橋等、兵庫県内の土木構造物を取りあげ、技術発展の歴史と構造手法について理解する。
12	ポストモダニズム社会と建築	F・ゲーリー、安藤忠雄等の建築を例に、ポストモダン建築の思想的背景と表現について考察する。
13	兵庫のまちなみとまちづくり	出石、龍野、篠山等の町並みを例に、兵庫のまちづくりと景観形成について考察する。
14	阪神大震災と今後の防災	阪神大震災とその後の対応、今後起こりうる自然災害を取りあげ、建築、まちづくりの面から考察する。
15	レポート発表	課題レポートの発表と講評を行う。

科目名	地域と文化財	科目ナンバリング	YL0L21003
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

加古川エリアは文化財の宝庫です。その中の石造物を中心に、発見・評価・保存・活用する方法論を学びます。地域の新しい魅力を発見し、地域の未来に向けての「街創り」に関する視座の獲得を目指します。座学で各種石造物の評価方法・保存活用方法を学び、フィールドワークで実際に石造物の「発見」に挑戦します。拓本(石造物の表面を紙に写し取った物)を採る実習も行います。歴史的石造物の拓本採りにも挑戦します。

《授業の到達目標》

- ・石造物を評価できる基礎的な知識と感覚を獲得する。
- ・石造物を保存活用するための基礎的な知識を獲得する。
- ・石造物を通して、待機の文化や歴史を再発見する視座を獲得する。
- ・拓本を採る初歩の技術を稼得する。
- ・地域の散策が10倍以上楽しくなり、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《テキスト》

なし
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

考古学調査ハンドブック 5『石造文化財への招待』、坂詰 秀一 監修、石造文化財調査研究所 編集、ニューサイエンス社

《授業時間外学習》

日常的に、地域を散策してみてください。路傍にある身近な文化財（石造物など）を「発見」し、評価してください。次の講義で報告してくれたら嬉しいですよ。
参考として示す「文化財的価値の高い文化財（石造物など）」を現地に足を運んで、積極的に観賞・評価してみてください。

《備考》

体を動かしながら楽しく進めましょう。天候等により、フィールドワーク等の日程は変更となることがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	石造物の面白さ。石造物の価値。石造物をめぐる近年の動向。
2	採拓実習 1	拓本(石造物の表面を紙に写し取った物)を採ってみよう。水をシュシュとふりかけ、墨をつけてポンポン叩いてみよう。
3	中世石造物 1	五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔 1
4	中世石造物 2	五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔 2
5	中世石造物 3	板碑等その他石造物。素材石。龍山石
6	近世・近代石造物	近世力士墓。近代戦死将校兵の墓。など。
7	フィールドワーク 1	大学の近くを散策して、石造物を「発見」しよう。
8	フィールドワーク 2	加古川エリアを散策して、石造物を「発見」しよう。
9	石造物保存	石造物保存の現状と問題点。
10	石造物と街おこし 1	石造物の観光資源化。保存と活用への市民の参画。
11	フィールドワーク 3	石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状を確認。
12	石造物と街おこし 2	石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状の問題点と改善策に関する討議。
13	採拓実習 2	拓本採りに再挑戦。
14	採拓実習 3（フィールド編）	歴史的石造物の実物で拓本を採ってみよう。
15	おわりに	全体の総括。

科目名	地域資料を読む	科目ナンバリング	YL0L21004
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

ミミズがのたうったような崩し字の解説、を指す講義ではありません。絵図・地図を中心に、活字化された地域資料（史料）を読み進め、「昔の地域の姿」を探索する方法論を学びます。地域資料（史料）の現状、消失・流出の危機と、保存方法・保存活動の方法を模索します。現物の古文書にも触れ、感触を確かめ、読める字がないか探してみます。フィールドワークを通して、前近代の古文書の保管状態も見学します。

《授業の到達目標》

- ・地域資料（史料）を評価する初歩的能力を獲得する。
- ・地域資料（史料）の保存活用に関する基礎知識を獲得する。
- ・往年の地域の姿を復元する初歩的方法論を獲得する。
- ・地域資料（史料）読解能力の第一歩を獲得する。
- ・地域文化活動の中核となる能力感性の第一歩を獲得する。
- ・地域の一次資料（史料）を通し、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	全体のガイダンス。地域資料（史料）研究の楽しみに関して。
2	近世絵図・地図 1	近世加古川宿について1。絵図・地図からの復元1。
3	近世絵図・地図 2	近世加古川宿について2。絵図・地図からの復元2。
4	フィールドワーク 1	加古川宿跡の探索。
5	近世加古川エリアの地図・絵図 1	近世加古川地区の名所・寺社。
6	近世加古川エリアの地図・絵図 2	近世加古川地区の用水路とため池。
7	フィールドワーク 2	博物館・資料館見学。
8	近世文書に触れてみよう 1	現物の近世史料の扱い方と読解の第一歩。ため池絵図を中心に。
9	近世文書にふれてみよう 2	現物の近世文書の保存処理体験。
10	フィールドワーク 3	近世文書群の保存・保管状況の見学。
11	フィールドワーク 4	博物館・資料館の保管庫の見学。撮影資料等の見学。
12	地域資料（史料）保存の諸問題 1	地域資料（史料）の現状に関して。
13	地域資料（史料）保存の諸問題 2	地域資料（史料）の保存・活用方法を模索する。特に、対行政問題を中心に。
14	フィールドワーク 5	中世文書群の保存・保管状況の見学。実際に現物の中世文書に触れてみよう。
15	おわりに	全体の総括。

《テキスト》

なし
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

『文献史料を読む—古代から近代』、青木 和夫・高木 昭作
 佐藤 進一・坂野 潤治 編、朝日新聞社
 『古地図で見る神戸—昔の風景と地名散歩』、大国 正美、神戸新聞総合出版センター

《授業時間外学習》

地域のどこに資料（史料）が保管・保存されるか、生活の中でそれとなく聞いてみて下さい。情報を得られたら、次の講義の際に発表して下さい。
 時間に余裕があれば、博物館・郷土資料館などを見学してみてください。
 また、復習も大切に。

《備考》

楽しくなるように工夫します。クイズ要素をちりばめ、フィールドワークも行います。頭と体を動かしましょう。天候等でフィールドワークスケジュールの変更があり得ます。

科目名	哲学	科目ナンバリング	YSOL21001
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（30%）および学期末に設定するレポート課題（70%）によって評価を行う。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポステリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	ベルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェームズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ

《共通教育科目 現代社会を読み解く》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	YSOL21002
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 		

《授業の概要》

日常生活において問題となりうる典型的事例を法律的側面から解説します。実際の事例に基づいて解説します。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

特に指定しない。

《授業の到達目標》

実際に役立つ法的知識の習得。

《授業時間外学習》

特に指定しない。

《成績評価の方法》

レポート課題

《備考》

※授業到達目標に対し講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり（導入）	日本の法制度の歴史的沿革とその概要。
2	土地と建物の賃貸借契約	土地や建物（住居）を賃借する場合の法律問題。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードを利用した買い物やキャッシュカードを利用した借金の法律問題。
4	住宅ローン・自動車ローン①	住宅の購入に際しての法律問題。
5	住宅ローン・自動車ローン②	住宅ローンや自動車ローンを組むまでの流れ、その仕組み。
6	債務の整理・清算	多額の負債を背負った場合の清算方法。
7	刑事事件①	犯罪の容疑者が逮捕されるまでの流れ。
8	刑事事件②	逮捕された容疑者が有罪判決を受けるまでの流れ。
9	婚姻・離婚	主に離婚時の法律問題。
10	相続	相続人の範囲や法定相続分、その他相続制度の概要。
11	成年後見制度	主に高齢者で判断能力が低下した者の権利擁護制度の概要。
12	交通事故の法律関係	交通事故に遭遇した場合の法律問題。
13	保険制度	損害保険、生命保険、火災保険の仕組みと注意点。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟ではなく、民事訴訟制度の概要。
15	知的財産制度	著作権、特許権等の知的財産制度の概要。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	YSOL21003
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。
 ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	YSOL21004
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。
現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート）

なお質問とともに、定期試験やレポート等について事前添削を随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障がい者差別の歴史と障害者差別解消法について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
 砂川秀樹・RYOJI『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス
 岩本孝樹『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

科目名	政治学	科目ナンバリング	YSOL21005
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買取・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめるながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

科目名	社会学	科目ナンバリング	YSOL21006
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2013，有斐閣アルマ）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

○授業内レポート1-2回、ミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点) ○定期試験により学習達成度を評価する。(配点：理論の理解度、データを読む力、社会問題についての理解、批判的視点等の獲得度55点) ○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) ステイグマ	ステイグマ、レイバリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類（社会的カテゴリー）について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイムについて理解する
8	学習の総まとめ (1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解説 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解説 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解説 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解説 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ (2)	「秩序の解説」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

科目名	経済学	科目ナンバリング	YSOL21007
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。毎時間提出する授業時の課題については、翌週の授業時に解答例の紹介とともに補足説明を行います。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されているビッグデータの活用、高機能ロボットなどについても考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	現代社会の理解		科目ナンバリング	YSOL21008
担当者氏名	沖野 光二			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

公職選挙法(第9条)が2015年に改正され、年齢満18歳以上の者が選挙権を有し、政治への直接参加（民主主義的手続き）の権利を得ると同時に政治的帰結の責任を担うこととなった。さらに民法(第4条)を改正し、成年とする年齢を18歳に引き下げ、法律行為の能力を有するべく現在調整されている。社会との政治的・法的・経済的関わりについて、課題とそれを解決すべき行動手順（手続き方法）を学生自らが見い出せる能力を養う。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

テーマ毎に関連する文献資料について、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

(1) 新聞やニュース記事の具体的事案・事例から抽象度を上げた教科書レベルの概念・理論へ展開することができ、論理的に政治的側面・法的側面・経済的側面から問題点と解決手順を思考できる能力を養う。(2) 法律行為の能力（特に契約行為の責任）を有する意味を理解し、不利益を被る場合に自ら解決に向けた思考・行動を起こせるような能力を養う。(3) 政治的帰結の責任を理解し、社会を観察し行動できるような能力を養う。

《授業時間外学習》

学生の日々の何気ない行動が、法律問題に直結する形で社会と関わりを持っている。学生諸君が、法律行為の能力を有する者（＝法的社会的責任を負う者）であると意識しながら、新聞記事などで社会の動きを観察するように心がけること。日常の何気ない行動であっても、その行為に関わる将来への影響の結果（outcome）が予測・想像できるようになってもらいたい。

《成績評価の方法》

1. 講義回数の3分の1以上の欠席の者は不可とする。
2. テーマに関する専門家（本学教授陣および外部講師）を数回交えて講義を展開するため、確認小テストおよび課題レポートの累計により評価する。

《備考》

ルーズリーフ形式ではなく、A4サイズ（B5サイズではない）のいわゆる大学ノートを必ず用意して、授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ライフサイクルにおける資金計画と時間の貨幣的価値（アルバイトの意味と奨学金制度）
2	労働契約の意義	ブラック・バイトやブラック企業などの劣悪な労働環境の事案からの考察、職業的専門家（労働基準監督官・社会保険労務士）の仕事（魅力）
3	契約の意味	契約の意味、労働契約の意義、職業的専門家（法曹（法律家））の仕事（魅力）
4	選挙制度の意義	選挙制度と国民審査制度の現状・裁判員制度の現状の考察
5	投票への準備	選挙制度と国民審査制度の意義・裁判員制度の意義と問題点、職業的専門家（議員・行政職公務員）の仕事（魅力）
6	政治的帰結の責任	（確認小テスト）
7	メディアと法律・人権	ソーシャルメディア（インターネット接続端末の利用）における人権問題・法律問題の考察
8	メディアと法律・人権	ソーシャルメディアと犯罪・人権侵害の事案からの考察、職業的専門家（都道府県警察本部サイバー犯罪対策課）の仕事（魅力）
9	メディアと法律・人権	（確認小テスト）
10	市民活動と住民活動	ボランティア活動・地域活動と行政（その1）
11	市民活動と住民活動	ボランティア活動・地域活動と行政（その2）
12	市民活動と住民活動	（確認小テスト）
13	人生とお金	ライフサイクルにおけるファイナンシャル・プラン、職業的専門家（ファイナンシャルプランナー）の仕事（魅力）
14	人生とお金	社会におけるお金の役割、所得と租税と資産運用、職業的専門家（国税専門官・税理士）の仕事（魅力）
15	まとめ	（確認小テスト）

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	YNAL21001
担当者氏名	本多 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持って余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。
この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《成績評価の方法》

- ①提出レポートの内容について事前にコメントをする。その上での提出を求める。
- ②授業の参加態度 10%
小課題 20%
学期末レポート 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに／倫理の役割	本講義の概要／倫理とは何か？
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／その違いとは
5	安楽死と尊厳死②	死期を決めるのは誰か？
6	脳死と臓器移植①	医療技術の進歩／脳死と臓器移植の関係
7	脳死と臓器移植②	死の基準について
8	相互インタビュー①	これまでの講義のふりかえり
9	人工妊娠中絶①	国家と命の関係について
10	人工妊娠中絶②	出生前診断は必要か？
11	人工妊娠中絶③	議論の組み立て方
12	遺伝子操作と優生思想①	遺伝子操作の現状
13	遺伝子操作と優生思想②	障害学について
14	遺伝子操作と優生思想③	多様な社会を目指して／レポートのフィードバック
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	心理学	科目ナンバリング	YNAL21002
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト70%，レポート20%，受講態度10%
 *授業終了前、テーマに対するミニレポートを求めることがある。そこには授業についての意見や感想も書けるようにする。次の授業で、レポート内容や意見について回答する。
 *オフィスアワーなどにおいて、質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 § 1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 § 1~2, § 6~7》
3	覚えているって、どういふこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 § 4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 § 1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 § 5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 § 1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 § 2~4》
8	君って、どんな人？(性格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 § 1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 § 2~3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 § 1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 § 4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 § 4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

科目名	化学	科目ナンバリング	YNAL21003
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。

私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《成績評価の方法》

- 定期試験（80%）および小テスト（20%）により評価します。授業の出席回数が10回以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。
- 小テストは返却し、フィードバックを行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類、糖質の利用
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜、脂質の利用
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能、タンパク質・アミノ酸の利用
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人）
『あなたと化学』暮らしを支える化学（裳華房）
『環境・暮らし・いのちのための化学のこころ』（裳華房）
『ビギナーズ有機化学』（化学同人）

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読み、専門用語の意味を理解しておくこと。
- 授業内容の要点をまとめる、演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《備考》

- 質問があれば、授業終了後などに質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動（特に、私語）はしないこと。
- アクティブラーニングゾーンにて授業を行う場合もある。

《共通教育科目 自然と科学》

科目名	生物学	科目ナンバリング	YNAL21004
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版 (南雲保編、羊土社)

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻 (デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳)

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験 (100%) により評価する。
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能について学ぶ。
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質について学ぶ。
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミンについて学ぶ。
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳について学ぶ。
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系について学ぶ。
6	光合成	光合成の機構について学ぶ。
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化について学ぶ。
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化について学ぶ。
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システムについて学ぶ。
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性 (ホメオスタシス)、生体防衛機構について学ぶ。
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病について学ぶ。
12	生態系①	生物と環境について学ぶ。
13	生態系②	環境問題、動物の行動について学ぶ。
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類について学ぶ。
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療について学ぶ。

科目名	身のまわりの科学		科目ナンバリング	YNAL21005
担当者氏名	湯瀬 晶文、穂積 隆広			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-F 自然・健康について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

近年、非常に幅広い分野において、科学的な考え方は分野理解のために不可欠な要素となっている。この授業では科学の考え方を知らず、身の回りの様々な現象からいくつかの事例を採り上げ、「実験、体験、経験」を基本にして、「科学はどのようにものを見るのか」について説明を試みる。

なお、大学からの割り当（実施教室や予算）、および受講生の状態により内容を大きく変更することがある。

《授業の到達目標》

この授業では、身のまわりに生じている様々な現象を、科学の観点から見ようとする姿勢を身に付けることを目標とする。またいくつかの具体例において、科学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

＜実験に際しての注意点＞

自分の身は、自分で守る！

《成績評価の方法》

期末試験による評価の予定だが詳細は初回授業で確定する。

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

＜出席について＞

出席回数が全授業実施回数の3分の2に満たない時は、単位認定できないことがあります。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

授業の内容を生活の中で再確認すること。

日常生活の中で、「これはどうなっているのだろうか？」という疑問を持つようにすること。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、科学的世界観は最も幅広く強力なものの一つです。専門領域にとらわれることなく、ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価等についての説明と意思確認を行う。授業内容に関する説明もあるため、履修希望者は必ず出席のこと。
2	選挙速報のふしぎ	開票率1%でも「当選確実」と表示できる理由を考える。手で触って区別がつかないピンポン玉から一部を抽出して全体との比較を行う。
3	GPSの原理	GPSはどうやって場所を突き止めるのかを考える。平面上でロープなどを用いてGPSの仕組みを体験する。
4	コンプガチャ問題 (コンプリートガチャ)	コンプリートガチャでかかる費用とそうなる理由を考える。手持ち資金を設定して、どの程度の費用でどの程度達成できるか実験する。
5	ものの重さと移動	ものの移動を通して、力学の基本とよく言われる事例を考える。力学台車に乗せる重量を変えて、どれくらいの力や時間を必要とするかを体験する。
6	様々なエネルギー	日常で簡単に使っているエネルギーとその大きさについて考える。断熱容器や手回し発電機などを用いて日常利用するエネルギーの大きさを実感する。
7	クルクル回るものたち	回転するものにみられるいくつかの現象を考える。ジャイロや車輪などを用いて回転する物体の意外な現象を実験する。
8	火のないところに煙？	火を使わずに火が出る理由を考える。断熱容器内で急速に圧縮すると発火する実験を行う。
9	おもしろ焼きそば	途中で焼きそばの色が変わる理由を考える。中華そばを調理する途中で調味料により色が変わることを実験する。
10	風で物を浮かべる	強力な送風機でピンポン玉などが浮き続ける理由を考える。ピンポン玉やカップ麺の容器が送風機により一定範囲内に浮揚することを実験する。
11	バスボム	バスボムのようなものを作り、泡が出てくる理由を考える。試薬を調合してバスボムのような入浴剤を作り、実際に発泡することを実験する。
12	小麦粉でボン！	小麦粉が爆発する理由を反応面積などから考える。粉じん爆発や酸素中でのスチールウール燃焼実験を行う。
13	花火のふしぎ	花火の色や酸化の仕組みを考える。炎色反応や花火の燃焼実験を行う。
14	総合演習	これまでの学修内容を振り返る。
15	まとめ	これまでの学修内容と得られた知見を再確認する。

科目名	食と健康	科目ナンバリング	YLIL21001
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目的とし、消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示する。国内外での実践事例や教材を紹介し、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをめざす。本授業は兵庫県教育委員会の高大連携科目でもある。

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- 成績評価の方法と基準
毎回の講義後に提出を求めるリアクション用紙（20%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、定期試験（50%）
- フィードバックの方法
わからない事はオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	A C A Pの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやA C Eの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、資料・プリントを配布する。

《参考図書》

「暮らしの豆知識（2017年9月発刊予定）」 国民生活センター
「ハンドブック 消費者 消費者庁

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》

- 授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。定期試験の受験資格は実施回数3分の2以上の出席（遅刻・早退3回は欠席1回とみなす）。

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	YLIL21002
担当者氏名	三宅 一郎			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

毎時間プリントを配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。レポートに対しコメントを付して返却する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認すると共に、今後の自己の健康管理に役立ててもらいたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	YLIL21002
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-F 自然・健康について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出80%、期末の課題レポート20%で評価します。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する（減量など）。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養（リカバリー）の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	科目ナンバリング	YLIF21003
担当者氏名	矢野 琢也、樽本 つぐみ		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

授業の最初に体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が日々の生活にアプローチできるようにする。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていく中で技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につけることを目的とする。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 ＜復習方法＞
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめる(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめるレポート提出(30%)レポートにはコメントを付して返却する

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	科目ナンバリング	YLIF21004
担当者氏名	矢野 琢也、樽本 つぐみ		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力			

《授業の概要》

屋内、屋外のスポーツを施設の状況や天候に応じて実施します。毎授業の前半は、保育士、幼稚園教諭に必要な体力強化のトレーニングを実施します。スポーツや運動の効果を理解し、楽しく実践できる方法を学びます。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料等を配布します。

《参考図書》

「0～6歳子どもの発達と保育の本」河原紀子（Gakken）、「発達運動論」白井永男（放送大学）、「体力を高める運動75選」神家一成（東洋館出版）

《授業の到達目標》

適切な運動、スポーツの実施方法を体験を踏まえて理解する。将来の保育士、幼稚園教諭として活動する為の基礎体力の養成方法を学ぶ。特に体幹トレーニングを実施して将来の腰痛防止に備えます。

《授業時間外学習》

事前に必要な準備が何かを理解し、その用意を適切に行うこと。

《成績評価の方法》

出席状況（時間、回数、服装、態度）を各1点として全授業で80%とする。レポートや課題等を20%とする。授業実施回数1/3以上の欠席数は評価対象外とする。レポート等の課題の提出は期日厳守とし、遅れは特別な事情以外は受け取らない。質問等はオフィスアワー等で受け付けて対応します。

《備考》

時間厳守。運動やスポーツを行うのに適切な服装、シューズを用意する。選択授業ですので、やる気のある人は大歓迎です。天候等で開催場所の変更もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法や評価等の説明
2	球技1	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
3	球技2	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
4	球技3	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
5	球技4	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
6	球技5	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
7	球技6	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
8	球技7	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
9	球技8	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
10	球技9	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
11	球技10	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
12	球技11	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
13	球技12	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
14	球技13	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する
15	球技14&まとめ	球技を1種目選択、決定しゲームを中心に実施する、全体のまとめ、振り返りを行う

《共通教育科目 キャリアデザイン》

科目名	私のためのキャリア設計	科目ナンバリング	YCAL21001
担当者氏名	三上 嘉代子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-A コミュニケーション力 <input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《成績評価の方法》

1. 平常点(授業への取組姿勢) 50%、
2. レポート 50% (提出遅れは減点) レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

平成29（2017）年度入学者

専門教育科目

科目名	生涯学習論	科目ナンバリング	YF_L21007
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

本講義では、生涯学習や生涯学習社会について理解することをめざします。とくに学校教育との関係から、生涯学習の特徴を学びます。生涯学習は誰によって、いつ、どこで行われるかは多様です。生涯学習が、人の一生と関わることで、人が暮らして行く社会や文化、時代の影響を受けることを理解したうえで、福祉社会における生涯学習とは何か考えます。

《テキスト》

『新しい時代の生涯学習』関口礼子他著(2002, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

適宜、提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 「生涯学習」という考え方について理解する
 - 「生涯学習」とは何か・なぜ必要なのか説明できる
- (2) 「生涯学習」と「生涯発達」の関係について理解する
 - 人はどのように「生涯」を通して発達するか説明できる
- (3) 「生涯学習」と社会福祉の関係について考えをまとめる
 - 「生涯学習」とライフサイクルの変化について説明できる
 - 「生涯学習」と地域社会づくりについて説明できる

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしてください。

《成績評価の方法》

○ 授業内レポート1-2回および調査発表などを数回実施する。(文章作成能力および知識の定着度：45点) ○ 学習の総まとめとして第15回に学習達成度を評価する。(知識体系を理解する力、批判的思考力、関心・意欲など：55点) ○ 試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《備考》

社会状況とくに福祉社会や生涯学習社会に関する情報・知識を入手するよう努めること。講義内容を現実社会との関係から理解するため専門用語の図示・図解する演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生涯学習とは何か	○「生涯学習」導入の背景 ○教育と学習 ○生涯学習と社会教育について理解する
2	生涯学習と生涯発達	○発達段階と発達課題 ○第1の発達と第2の発達 ○高齢期の発達課題について理解する
3	社会の変化と生涯学習(1)	○人口動態の変化 ○人口の高齢化 ○高齢者にとっての学習について理解する
4	社会の変化と生涯学習(2)	○情報化社会と学習 ○学習支援技術 ○遠隔教育について理解する
5	社会の変化と生涯学習(3)	○グローバル化と学習 ○グローバル化と教育制度 ○グローバル化時代の学習課題について理解する
6	社会の変化と生涯学習(4)	○ライフコースの変化 ○少子化と家族の変化 ○男女平等教育と家庭教育(学習)について理解する
7	生涯学習の方法(1)(演習を含む)	○方法論の重要性 ○アンドラゴジーとペダゴジー ○生涯学習の方法について理解する
8	生涯学習の場(1)	○社会資源の利用 ○地域社会における学び ○図書館と公民館/地域センターについて理解する
9	生涯学習プログラムの開発(演習を含む)	○地域のニーズ ○プログラムの対象 ○企画・広報について理解する
10	生涯学習の方法(2)(演習を含む)	○学校の開放 ○学社融合 ○大学の開放について理解する
11	生涯学習の方法(3)(演習を含む)	○実践例に学ぶ ○ボランティア ○NPO活動について理解する
12	生涯学習の場(2)	○職業的社会化と発達 ○職業指導 ○企業内教育について理解する
13	生涯学習の場(3)	○教育によらない学習 ○宗教と儀式(祭り) ○芸術と音楽について理解する
14	生涯学習と生涯福祉	○生涯発達と生涯学習 ○地域福祉と生涯学習 ○社会変化と生涯学習について理解する
15	学習の総まとめ	学習目標およびディプロマポリシーを再確認し、学習成果についてまとめる

科目名	生涯発達心理学 I	科目ナンバリング	YF_L21008
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

人間の生涯にわたる発達のプロセスを理解することを目的として授業を展開する。受胎の瞬間から始まり、死をもって終結する人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。発達の障がいに関する基礎知識について理解することも目的とする。

《授業の到達目標》

- 生涯発達心理学の基礎的事項について十分に理解すること。
- 人間の生涯にわたる発達のプロセスを正しく理解すること。

《成績評価の方法》

最終回の授業時間内に行う筆記試験の評価100%。
 質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《テキスト》

使用しない。授業時にプリントを配布し、プリントの内容に即して講義を進める。

《参考図書》

- 『発達心理学で読み解く保育エピソード』
 若尾良徳・岡部康成（編著） 北樹出版 2010
- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』
 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010

《授業時間外学習》

担当教員が作成・配布したプリントを用いて講義を進めるが、各自で要点をノートにまとめるなどして、知識の定着と理解の深化に努めてもらいたい。また、参考図書としてあげた図書を参照しつつ、講義で取り上げた事柄について各自で理解を深めることも期待する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生涯発達心理学への導入	生涯発達心理学では何をどのような目的のもとに学ぶのかを解説する。授業の進め方と評価の仕方についてシラバスをもとに確認する。
2	人間発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間発達の規定因は何かという問いについて、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について、特に母体内環境の重要性に焦点を当てつつ学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期における発達の特徴について、母子関係を切り口として学ぶ。愛着をキーワードとした学びになる。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期における発達の特徴について、言語発達と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達	幼児期における発達の特徴について、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェの理論をもとに学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達について、人間関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達について、学習に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達について、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達～その1	成人期の発達に関して、親としての成長ならびに中年期危機に焦点を当てて学ぶ。
14	成人期の発達～その2	高齢者の心理的発達について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習成果を測定するための試験を行う。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会福祉 I	科目ナンバリング	YF_L11001
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 		

《授業の概要》

社会福祉の発達と国民に普遍的な課題となった介護や子育て支援等を、具体的な事例を通して、社会福祉サービス体系の役割・機能を解説する。社会福祉の諸制度と支援の方法（相談援助）を、事例を通して解説する。講義は視聴覚教材も併用して、テキスト等の示すデータの意味や社会福祉六法と関連領域法令を。

《授業の到達目標》

現代の社会福祉サービス体系を理解し、児童福祉、障害者福祉、老人福祉と生活保護における支援の役割・機能を理解する。また、社会福祉における支援方法の概要を理解する。さらに、事例を通して課題解決の思考力を養う。

《テキスト》

『国民の福祉と介護の動向2016/2017』1厚生労働統計協会編

《参考図書》

『社会福祉の原理と思想』岩田 正美 永岡 正己 武川 正吾
平岡 公一編 有斐閣
『日本社会福祉の歴史』菊池、清水、田中、永岡、室田編
ミネルヴァ書房
『ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開』山辺朗子
ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

なし

《成績評価の方法》

期末に筆記試験を実施して評価する。（100%）
別紙に正解とコメントを付して渡す。

《備考》

1 事前学習 次回講義予定内容に関連するテキストを読む
2 復習 ノートの整理

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の理念	現代の社会福祉の概要と憲法25条、13条の意味を解説する。
2	社会福祉の歴史	イギリスと日本の社会福祉の発達史を解説する
3	社会福祉の行財政	国、都道府県、市町村の社会福祉関連機関を役割・機能を解説し、国家予算および地方自治体の社会福祉費用の現状とその構造を示す。
4	障害者福祉 I	日本の障害者福祉の歴史と障害者福祉の現状について解説し、障害者権利条約 障害者基本法についてその基本的な考え方について解説する。
5	障害者福祉 II	I C Fと障害の理解を解説し、障害者総合支援法による介護、医療、就労支援サービスがどのように機能しているか、サービス利用の立場から解説する。
6	老人福祉 I	「高齢社会とは何か」を考え、その社会的影響（消費税など）を解説する。
7	老人福祉 II	年金、高齢者医療の概要を説明し、介護保険を詳しく解説して、介護保険の諸問題を考察する。
8	児童福祉 I	児童福祉の歴史を解説し、現代の児童問題を提示して、その論点を示す。
9	児童福祉 II	児童養護・児童自立支援の制度とその支援過程を解説する。
10	児童福祉 III	「子ども貧困」についてその構造と解決への展望を解説する。
11	生活保護制度	現代の貧困を分析し、生活保護制度の仕組みを解説し、その課題を示す。
12	相談援助 I	相談援助と専門職について解説する。
13	相談援助 II	相談援助の理論と方法について解説する。方法の解説には事例を検討する。
14	地域福祉	市町村の社会福祉計画の概要を説明し、地域の福祉課題を示し、それぞれの住む地域での福祉を考察する。
15	福祉の在り方	ノーマライゼーション、自立思想、利用者本位の視点から現代社会福祉サービスを論ずる。

科目名	社会福祉Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L21009
担当者氏名	田中 博一			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する <input type="radio"/> 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する <input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

社会福祉政策の観点から、戦後の社会福祉政策の潮流を解説する。政策転換期の実態と意義を説明し、サービス供給の現状と課題、国民負担（消費税等）、国と地方の関係、社会福祉専門職の確保と育成、国際比較を通じて我が国の社会福祉政策の現状と課題について述べる。

《テキスト》

『国民福祉の動向2013/2014版』（財）厚生統計協会（編）、厚生統計協会、2013

《参考図書》

『福祉国家という戦略』宮本太郎著 法律文化社、1999
 『福祉資本主義の三つの世界』G.エスピン・アンデルセン著 岡沢・宮本監訳 ミネルヴァ書房、2001

《授業の到達目標》

- 1 我が国の戦後社会福祉政策の軌跡を理解する。
- 2 社会福祉サービス供給体制について理解する。
- 3 社会福祉サービスの利用者本位と利用者負担について理解する。
- 4 社会福祉専門職の職業能力とキャリア形成について理解する。
- 5 社会福祉の国際比較の学習方法を修得する。

《授業時間外学習》

- 1 事前学習 示された次回講義予定のテーマに関連するテキスト、参考文献を読む。
- 2 復習 講義ノート整理をし、理解できている部分と理解不十分な箇所を明らかにし、その不明な点の解消に努める。

《成績評価の方法》

期末に課題についてレポート（約3000字程度）を提出し、それを評価する。（100%）
 レポートにコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉政策の領域	社会福祉制度の体系を解説する。
2	現代福祉政策分析の枠組み	福祉サービス対象者、給付の本質および給付額とサービスの種類、福祉の財政と行政を解説する。
3	戦後日本の社会福祉政策の歩み（1）	生活保護法の制定から児童手当・老人医療費無料化までの期間を福祉制度の確立期から充実期として解説する。
4	戦後日本の社会福祉政策の歩み（2）	経済低成長期下の福祉の調整期からゴールドプランの転換期を解説する
5	再構築期の社会福祉政策	社会保障制度審議会「社会保障体制の再構築」（1995）から現在までの社会福祉の構造改革の意味を解説する。
6	社会福祉サービスの供給のあり方	社会福祉サービスが「措置制度」から「契約」に転換し、利用者の選択権について解説する。
7	市場化と経営主体の多様化	非営利法人の社会福祉法人以外のNPO法人や営利法人が福祉の領域に参入した現状とその意味について解説する。
8	施設サービスと在宅サービス及び地域福祉	施設サービスから地域で生活するための福祉サービスへの政策転換を解説し、その意義と課題を示す。
9	社会福祉の専門職	社会福祉士・介護福祉士・保育士の養成課程を示し、その求められる専門職としての職業能力について解説する。
10	社会福祉におけるキャリア形成	福祉サービスに従事する専門職のキャリア形成を、他産業と比較においてその必要性を解説し、各自のキャリア形成を考える。
11	社会福祉サービスの財源	国、地方自治体、利用者負担の構造を明らかにし、これからの費用負担について展望を示す。
12	社会福祉政策の在り方	地域福祉または地域福祉政策から福祉国家の在り方を考察する
13	現代福祉国家と福祉サービス	普遍化する社会福祉サービスの現状をとおして福祉国家戦略を考察する。
14	北欧型モデルとアメリカ型モデルの比較	高福祉高負担を前提に充実した福祉サービスをもつスウェーデンなどのモデルと自己責任型を重視する「小さな政府を」基本とするアメリカのモデルを比較する。
15	これからの日本における福祉政策の課題	少子高齢社会の進展と日本経済の先行き不透明の課題を分析して、これからの福祉政策を考察する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	児童家庭福祉	科目ナンバリング	YF_L11003
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修 開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷，児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権，児童家庭福祉の制度や実施体系等，児童家庭福祉の現状と課題，児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

《テキスト》

『児童家庭福祉』，白地社，2014

《参考図書》

《授業の到達目標》

- 現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解し，主体的に考えることができる。
- 児童家庭福祉の歴史の変遷，制度や実施体系等について学び，保育実習に活かすことができる。
- 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解し，保育実習において検証することができる。

《授業時間外学習》

子どもの生活にかかわる情報を入手し，授業に反映させられるようにしましょう。
授業前にテキストを読んでおきましょう。

《成績評価の方法》

筆記試験（100%）
（授業終了時に学修の理解度を確認するために小テストを課し定期試験実施直前に返却し復習の機会とすることがある。）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と子ども - 1	児童家庭福祉を学ぶ意義，授業内容，授業の進め方，評価について説明する。人口の減少と少子高齢社会について理解する。
2	現代社会と子ども - 2	家族形態の多様化について，家族構成の変化，婚姻と離婚，ワークライフバランスをキーワードにして理解する。
3	現代社会と子ども - 3	子どもの貧困について，生存権と幸福追求権，貧困の世代間連鎖をキーワードにして理解する。
4	児童家庭福祉の歴史 - 1	イギリス，アメリカの児童家庭福祉の歴史について理解する。
5	児童家庭福祉の歴史 - 2	わが国の児童家庭福祉の歴史について理解する。
6	児童家庭福祉の歴史 - 3	戦後の国際社会の動き，戦後の国内の動きについて理解する。
7	児童家庭福祉に関する法制度と実施体系 - 1	児童家庭福祉の法体系について理解する。
8	児童家庭福祉に関する法制度と実施体系 - 2	児童家庭福祉の行財政と実施機関について理解する。
9	児童家庭福祉の現状と課題 - 1	ひとり親世帯の現状，母子世帯のワーキングプア，虐待への行政の対応，DV，母子生活支援施設について理解する。
10	児童家庭福祉の現状と課題 - 2	障害のある子どもの現状，障害のとらえ方，障害のある子の就学，障害の概念，障害児への支援，障害のある子どもを持つ親への支援について理解する
11	児童家庭福祉の現状と課題 - 3	母子保健，健全育成について理解する。
12	児童家庭福祉の現状と課題 - 4	社会的養護について，児童福祉施設，里親制度，特別養子縁組をキーワードにして理解する。
13	児童家庭福祉の現状と課題 - 5	多様な保育ニーズについて，保育所の機能を中心にして理解する。
14	児童家庭福祉の動向と展望 - 1	諸外国の子育て支援の動向について，スウェーデンの保育所と就学前児童の保育内容について理解する。
15	児童家庭福祉の動向と展望 - 2	前回の授業を踏まえ，わが国の就学前児童の保育と比較し，かつ，これまでの授業全体を振り返り，わが国の今後について考察する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	初年次演習 I	科目ナンバリング	YK_S11001
担当者氏名	杉山 貴要江、田中 正彦、田中 博一、斎藤 正寿、未定、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

こども福祉学科での4年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との良好な人間関係を構築するとともに、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《テキスト》

こども福祉学科 初年次演習ワークブック

《参考図書》

必要に応じて、授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①こども福祉学科に入学した学友と、刺激を与え合うことのできる良好な人間関係を構築すること。
- ②大学での学び方を体得すること。
- ③こども福祉学科での学びの特徴を理解する。

《授業時間外学習》

授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《成績評価の方法》

- ・授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 50%
 - ・提出された課題に対する評価 50%
- 提出された課題にはコメント等を付して返却する。

《備考》

無断欠席を厳しく禁じる。止むを得ない理由で欠席する場合は、担当教員に事前連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	自己紹介を通じて自分のことを仲間にも知ってもらい、ネームカードを作成する。
2	人間関係の構築	インタビューを通して仲間と教員のことを知る。
3	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成 (1) キャンパス・マップに盛り込むキャンパス内の情報を収集する。
4	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成 (2) キャンパス・マップを制作する。
5	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成 (3) キャンパス・マップのプレゼンテーションを行う。
6	キャリアについて考える	キャリアについて考えを深める (取得した免許・資格を使って社会にどのように参加するかについて認識を深める) (1)
7	キャリアについて考える	キャリアについて考えを深める (取得した免許・資格を使って社会にどのように参加するかについて認識を深める) (2)
8	キャリアについて考える	キャリアについて考えを深める (取得した免許・資格を使って社会にどのように参加するかについて認識を深める) (3)
9	こども福祉学科での学びに向けて	校外実習に出かけて、子どもの目線と保育者の目線との双方から初夏の自然を体感し、季節に応じた保育を展開することの必要性に気づく。
10	こども福祉学科での学びに向けて	ブラインド・ウォークを体験することによって、全身の感覚を研ぎ澄まして自然を感じる。
11	大学での学び方	幼児教育の基礎的スキルとしての造形活動。
12	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての身体表現を学ぶ。
13	こども福祉学科での学びに向けて	幼稚園の現場に足を運んで調べ、理解した内容をまとめる。幼稚園現場観察。
14	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての手遊びを学ぶ。
15	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての音楽について学ぶ。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	初年次演習Ⅱ	科目ナンバリング	YK_S11002
担当者氏名	杉山 貴要江、田中 正彦、田中 博一、斎藤 正寿、未定、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

初年次演習Ⅰに引き続き、こども福祉学科での4年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との人間関係をさらに深めながら、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《テキスト》

こども福祉学科 初年次演習ワークブック

《参考図書》

必要に応じて、授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①こども福祉学科に入学した学友との関わりを深め、切磋琢磨しあえる人間関係を構築すること。
- ②大学での学び方を体得すること。
- ③こども福祉学科での学びの特徴を理解すること。
- ④卒業後の進路を見据え、学びに対する意欲を高めること。

《授業時間外学習》

授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《成績評価の方法》

- ・授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 50%
 - ・提出された課題に対する評価 50%
- 提出された課題にはコメント等を付して返却する。

《備考》

無断欠席を厳しく禁じる。止むを得ない理由で欠席する場合は、担当教員に事前連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	Ⅱ期の演習内容の解説を行う。
2	大学での学び方	資料を読んで理解した内容をまとめる
3	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ(1)
4	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ(2)
5	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションの準備をする(1) テーマを選定し調べ学習をスタートする。
6	こども福祉学科での学びに向けて	幼稚園の現場に足を運び理解した内容をまとめる。幼稚園現場観察。
7	こども福祉学科での学びに向けて	校外実習に出かけて、こどもの目線と保育者の目線との双方から秋の自然を体感し、幼児教育・保育と季節との関わりについて考える機会とする。
8	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションの準備をする(2) 調べ学習を進めつつスライド等も作成する。
9	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する(1)
10	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する(2)
11	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する(3)
12	こども福祉学科での学びに向けて	レクリエーション活動を通して、幼児教育の基礎的スキルを身につける。
13	キャリアについて考える	コミュニケーション作法：手紙の書き方について学ぶ。
14	キャリアについて考える	コミュニケーション作法：話し方について学ぶ。
15	Ⅱ期の学びのふりかえり	チューターとの面談を通して、理想とする保育者イメージを鮮明にし、これから何を学ぶべきかを再認識する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	人間福祉論	科目ナンバリング	YK_L11005
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 		

《授業の概要》

我が国の福祉に大きな影響を与えた人物に焦点を当て、社会福祉（慈善事業・社会事業を含む）の思想と実践を検証し、その人々の主体性、人間観について解説する。そして、現代福祉の根底にある基本的人権（歴史と体系）とノーマライゼーションの思想を解説し、福祉における「自立・自律」および「主体的に生きる」というテーマについて考察する。

《授業の到達目標》

- 1 基本的人権の歴史と体系について理解する
- 2 ノーマライゼーションについて説明できる
- 3 「主体的に生きる」意味を理解できる
- 4 福祉における自立支援が説明できる
- 5 福祉支援における人間理解の意義を理解する

《成績評価の方法》

期末に試験を実施して、それを評価する（100%）
コメントはテスト解答用紙に記入して渡す

《テキスト》

『人間福祉の思想と実践』住谷・田中・山辺編 ミネルヴァ書房

《参考図書》

- 『ICFの理解と活用』上田 敏著 きょうされん
- 『障害者福祉の世界』佐藤・小澤著 有斐閣
- 『ノーマライゼーションの原理』ニイリエ著 現代書館
- 『エミール』ルソー 岩波書店
- 『この子らを世の光に』糸賀一雄著 NHK出版

《授業時間外学習》

授業で指摘した個所に関連したことについてさらに調べる。
参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人間福祉の思想Ⅰ	基本的人権の歴史と体系を解説
2	人間福祉の思想Ⅱ	ノーマライゼーションの思想を解説
3	人間福祉の源流Ⅰ	石井十次の思想と実践を解説
4	人間福祉の源流Ⅱ	留岡幸助の思想と実践を解説
5	人間福祉の源流Ⅲ	糸賀一雄・池田太郎・田村一二の思想と実践
6	人間福祉の体系	基本的人権の確立、ノーマライゼーションの施策の実行、自立生活（自己決定）実現のための福祉の基本理念を示す
7	高齢者福祉と人間福祉Ⅰ	ADL(Activities of Daily Living)からQOL(Quality of Life)へ、高齢者の生活機能を視点に自立と支援を解説。
8	高齢者福祉と人間福祉Ⅱ	正岡子規『病牀六尺』有吉佐和子『恍惚の人』等文学にみる介護をする側、される側の考え方を解説。
9	児童福祉と人間福祉Ⅰ	こどもの貧困、虐待、DVなどにあるように取り巻く環境が悪化し、こどもが育つ環境が社会的な問題となっている。その、本質を見極め課題の解決を考察する。
10	児童福祉と人間福祉	ルソー『エミール』の要点を解説し、ルソーの教育論から見た、養護が必要な子どもに「生きる力」を育むための児童福祉の在り方を示す。
11	障害者福祉と人間福祉Ⅰ	ICFの理論を解説し、障害者の社会参加を広げる意義と方法を示し、共生社会の形成を考察する。
12	障害者福祉と人間福祉Ⅱ	障害者が地域生活し、「主体的に生きる」意味を考察する障害者の自立・自律思想とその実践を解説し、エンパワーメント、セルフ・アドボカシーの理論を解説する。
13	人間福祉の展開にみる支援と援助	ソーシャルワークの理論を解説し、ソーシャルワークが「人間」をどのように扱ってきたかを示し、「生活の主体」としての人間を考察する。
14	共に生きる社会	「孤独死」、「無縁社会」という言葉で表現される地域崩壊の現況を課題を考え、地域の再構築について議論する。
15	社会福祉の新潮流と人間福祉	社会福祉の構造改革から再構築へと、転換期にある社会福祉の方向性を解説し、人間本位の福祉の在り方を提示する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	保育原理 I	科目ナンバリング	YK_L11006
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

保育という営みを制度や歴史の変遷、内容と方法、子どもの発達過程などの主要な観点から考察し、保育者としての基礎的知識の獲得を目指す

《テキスト》

『よくわかる保育原理第3版』森上史朗浩編、ミネルヴァ書房
 『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説書』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育の意義と特質について理解できる
- 子どもの発達と保育者の役割について理解できる
- 保育を取り巻く現状と課題について主体的に考えることができる

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 試験70%
 課題及び授業の到達目標へのフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育の意義と目標
2	保育の基盤としての子ども観	様々な子どもの捉え方 保育者として備えておきたい子ども観
3	保育の歴史的変遷①	西洋の保育
4	保育の歴史的変遷②	日本の保育
5	幼稚園・保育所・認定こども園の意義と役割①	幼稚園・認定こども園の意義と役割
6	幼稚園・保育所・認定こども園の意義と役割②	保育所・認定こども園の意義と役割
7	保育の内容と方法①	養護的側面と教育的側面を併せ持つ保育の特質
8	保育の内容と方法②	子どもの生活と5領域の関係
9	子どもの発達と保育①	環境を通して行う教育とは
10	子どもの発達と保育②	遊びを中心とした総合的な指導とは
11	保育の計画と評価①	保育・教育課程と指導計画
12	保育の計画と評価②	評価の観点と方法
13	多様な保育ニーズと子育て支援	多様化する保育ニーズと子育て支援の現状を理解する
14	保育の現代的課題	現行の保育を取り巻く様々な課題について考察する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	保育原理Ⅱ	科目ナンバリング	YK_L21009
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

保育原理Ⅰの学習内容をさらに発展させ、個別の事例研究などを取り入れながら保育者として必要な知識を深める。また、家庭や他機関との連携協力にも着目し、保育者としての幅広い視野の獲得を目指す。

《テキスト》

『よくわかる保育原理第3版』森上史朗編、ミネルヴァ書房
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育の内容や方法に関する基礎知識をさらに深める
- 保育者としての幅広い視野を獲得する
- 保育施設の現状を理解し、それぞれが抱える課題に対して主体的な意見を述べるができる

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 試験70%
 課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育とは（保育原理Ⅰの学習内容を踏まえて）
2	子ども理解と保育の方法①	日本における保育の始まりと恩物教育
3	子ども理解と保育の方法②	新教育運動と児童中心主義①
4	子ども理解と保育の方法③	新教育運動と児童中心主義②
5	保育における遊び①	遊びの意義
6	保育における遊び②	子どもの発達と遊び（事例研究）
7	保育の計画と評価①	課程編成の原理と方法
8	保育の計画と評価②	指導計画作成の原理と方法
9	保育の計画と評価③	評価と省察の原理と方法
10	家庭および他機関との連携	子どもを取り巻く多様な人々との連携協力
11	連続性を踏まえた保育①	保育における連続性とは
12	連続性を踏まえた保育②	事例研究
13	保育の現状と課題①	保育現場が抱える今後の課題について検討する
14	保育の現状と課題②	保育現場が抱える今後の課題について検討する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	YK_L11007
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む 		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③授業中のミニテスト 40%

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

科目名	こどもの心理学 I	科目ナンバリング	YK_L11008
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のおまじぎについて理解することも目標とする。

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して 成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%。質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

- 『シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』 本郷一夫（編） 建帛社 2011
- 『発達心理学で読み解く保育エピソード』 若尾良徳・岡部康成（編著） 北樹出版 2010
- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の成長を見つめる心理学への導入	心理学とはどのような学問か、そして「こどもの心理学Ⅰ」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間の発達を規定する要因は何かという問いについて、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期の母子関係について学ぶ。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期の発達に関して、言語と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	乳児期から幼児期にかけての発達～その3	乳幼児期の発達に関して、注目獲得行動に焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達に関して、仲間関係、児童-教師との関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達に関して、学習に対するやる気に焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、特に親としての成長をテーマに学ぶ。
14	発達のおまじぎ～その1	発達障がいについて、障がいの捉え方について学ぶ。
15	発達のおまじぎ～その2	自閉スペクトラム症について詳しく学ぶ。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと環境	科目ナンバリング	YS_S21011
担当者氏名	三宅 茂夫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもち、それらを生かして生活や遊びに取り入れようとする力を養うことが目標である。そのなかで多様な感覚や概念等も形成される。本授業では、幼児教育の基本的視点「環境を通して行う教育」から、領域「環境」のねらいを捉え、子どもにとって必要な環境のあり方、保育構成や展開に必要な知識や技能について学ぶ。前半は講義形式で、後半は模擬保育等を実施する。

《テキスト》

・三宅茂夫・大森雅人・爾寛明編著／MINERVA保育実践学講座9「保育内容『環境』論」／ミネルヴァ書房／2010 ・文部科学省／「幼稚園教育要領解説」／フレーベル館／2008

《参考図書》

必要に応じて、文献の紹介や資料の配布を行う。

《授業の到達目標》

幼稚園教育の基本とする事項や領域概念を理解し、領域「環境」の目標やねらい、内容を把握し、それらを生かして生活や遊びの中で培い、育んでいくための保育実践に必要な基礎的な知識や基本的な技能の修得を目指す。

《授業時間外学習》

今回の授業の予習や模擬保育等の準備を入念にしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めておくこと。

《成績評価の方法》

試験（50%）、指導案作成（20%）、レポート（5%）、平常点（25%）などを総合して行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の目的や目標、内容、計画等についての理解。
2	幼稚園教育の基本と領域	幼稚園教育の基本や重視する事項、領域概念などについて理解する。
3	領域「環境」の基盤となる事項について1	領域「環境」の基盤となる事項である好奇心・探究心について調べ学習を通して学ぶ。
4	領域「環境」の基盤となる事項について2	調べ学習の成果を発表し、学びを共有する。
5	領域「環境」の基盤となる事項について3	調べ学習の成果を発表し、学びを共有する。
6	領域「環境」の目標とねらい	領域「環境」に示される目標とねらいに関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
7	領域「環境」における内容1	領域「環境」に示される内容に関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
8	領域「環境」における内容2	領域「環境」に示される内容に関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
9	領域「環境」における指導上の留意点	領域「環境」に示されるねらいと内容をふまえ、それらを指導する上での留意点を理解し、保育を実施する見通しをもつ。
10	指導案作成の理論と実際1	指導案作成のための理論や留意点について理解し、保育を構想する力を身につける。（基本的事項・「子どもの姿」・「ねらい・内容」を中心に）
11	指導案作成の理論と実際2	指導案作成のための理論や留意点について理解し、保育を構想する力を身につける。（「環境構成」「子どもの活動」「保育者の援助・留意点」を中心に）
12	指導案作成の理論と実際3	指導案作成の理論をもとに各自で指導案を作成する。
13	指導案作成の理論と実際4	各自が作成した指導案についてグループで発表、検討し、改善する。
14	指導案作成の理論と実際5	グループで選択した指導案を全体で発表し、学びを共有する。
15	まとめ	学習のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと言葉	科目ナンバリング	YS_S21012
担当者氏名	徳永 満理		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する		

《授業の概要》

本教科は、保育者をめざす皆さんが、乳幼児のことばについて学習する教科である。乳幼児期のことばを学ぶことは、どのような意味があるのか？ その問いに答える授業をします。保育者に求められることは、こどもや人間をどうとらえるのかを、自分や仲間と共に考えていくことだといえるが、この学びをことばを中心に進めることにより、今までとは違った子どもの世界が見えてくることだろう。

《授業の到達目標》

幼稚園教育指導要領、保育所保育指針における5領域の中の「言葉」の歴史と内容について学び理解する。ことばの持つ機能を理解し、ことば獲得のプロセスを乳幼児の発達に沿いながら学び、その指導方法を理解し取得する。ことばを育てる文化財を理解しその実践力を培う。創作絵本の制作を通してことばの大切さを理解する。保育者としてふさわしいことば感覚を培うことの大切さを学ぶ

《成績評価の方法》

筆記試験（教科書、資料、持ち込み可）60%
 創作絵本 20%
 レポート提出・授業内発表 20%

《テキスト》

『ことばと保育』近藤幹生他・著 ひとなる書房
 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』

《参考図書》

『0歳～5歳 よくわかる読み聞かせ』徳永満理・著 チャイルド社
 『子どもが発見する「ごっこ・劇あそび・劇づくり』かもがわ出版
 『子どもと楽しむ 手あそび わらべうた』梅谷美子・著 かもがわ出版
 『保育内容・言葉』安倍明子他・著 健ぱく社

《授業時間外学習》

- ・創作絵本作成
- ・絵本の選書と事前練習
- ・子どものいるところに出かけていき、絵本の読み聞かせや手あそびなどを実践させてもらう
- ・演劇や映画などを鑑賞する機会を多く持ち感性を磨く

《備考》

- ・遅刻・早退・欠席の場合は必ず連絡をする事
- ・提出物の期限厳守
- ・授業中の飲食、スマホ扱い、私語厳禁

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ことばのねらいと内容	・こどもとことばを学ぶ意義 ・履修上の注意・進め方 ・子どものことばを育てる児童文化財ー絵本の読み聞かせの演習について
2	領域「言葉」について	・保育内容としての「言葉」の歴史と子どもにとってのことばについて ・絵本の読み聞かせの演習 ・手あそびの演習の開始
3	人間にとっての「ことば」とは	・ことばの機能を考えるー教科書を中心に ・絵本の読み聞かせ ・手あそびの演習
4	子どもの発達とことば	・「ことば」の育つみちすじ①ことばを話す前に ことば獲得の土台期 0歳児前半 ・絵本の読み聞かせ ・手あそび演習
5	子どもの発達とことば	・「ことば」の育つみちすじ②ことばを話す前に ことば獲得の土台期 0歳児後半 ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 0歳児』
6	子どもの発達とことば	・「ことば」の育つみちすじ③1歳児のことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 1歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
7	子どもの発達とことば	・「ことば」の育つみちすじ④2歳児のことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 2歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
8	子どもの発達と保育	・「ことば」の育つみちすじ⑤3歳児のことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 3歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
9	子どもの発達と保育	・「ことば」の育つみちすじ⑥4歳児のことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 4歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
10	こどもの発達と保育	・「ことば」の育つみちすじ⑦5歳児のことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 5歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
11	「ことば」を育てる①	・ことばを育てるあそびー児童文化財とは ・創作絵本を制作するにあたって
12	「ことば」を育てる②	・児童文化財とのかかわり 絵本について
13	「ことば」を育てる③	・児童文化財との関わり ことばあそび ごっこあそび等 ・ビデオ視聴ー保育所における発表会のビデオ
14	「ことば」を育む保育者の関わり・役割	・話し合いの場での保育者の役割 ・ケンカ・トラブル場面での保育者の役割 ・幼稚園・保育所におけることばをめぐる問題等
15	授業のまとめ	・授業の振り返り ・創作絵本の発表

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと身体表現	科目ナンバリング	YS_S21014
担当者氏名	長井 典子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力			

《授業の概要》

こどものあらゆる表現に気付ける保育者となるために、様々な身体表現活動に触れ、自己表現できるようになる。こどもの発達にふさわしい身体表現を知り、保育現場で適切に活用できる技術を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《授業の到達目標》

自分自身が積極的に身体表現できるようになる。子どもの発達を通して、適切な身体表現の方法を知る。発達に適した指導法を、主体的に考え組み立て実践できるようになる。

《授業時間外学習》

日頃から様々な身体表現に興味を持つようにする。授業で実施した表現活動は、必要な時に実践できるようノート等にまとめておくこと。

《成績評価の方法》

平常点40%、グループ発表20%、筆記試験40%

《備考》

動きやすい服装(スカートは不可)で、底の薄いシューズで参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体表現の経験	身体表現とは何かを経験する。自身のボディーイメージを知り、表現することができる
2	0歳児の表現遊び	0歳児の表現遊びを経験し、表現することの楽しさを知る
3	0歳児の表現遊び	各月例の発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
4	1歳児の表現遊び	拍の活動を中心に、音楽を通して自分自身で表現しようとする指導法を学ぶ
5	1歳児の表現遊び	各月例の発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
6	2歳児の表現遊び	音楽の要素を知り、模倣活動を中心に表現しようとする指導法を学ぶ
7	2歳児の表現遊び	2歳児の発達を知り、発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
8	3歳児の表現遊び	音楽を通して音楽の要素を理解し、自分自身で表現しようとする遊びを学ぶ
9	3歳児の表現遊び	3歳児の発達を知り、発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
10	4歳児の表現遊び	1人でできる表現遊びから、複数人、グループ活動へと発展させる指導法を学ぶ
11	4歳児の表現遊び	4歳児の発達を知り、発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
12	5歳児の表現遊び	様々な音楽要素を知り、自分自身の思ったように表現できるようにする
13	5歳児の表現遊び	5歳児の発達を知り、発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
14	わらべ歌遊び	わらべ歌を通して、異年齢での保育の指導法を学び、実践できるようにする
15	まとめ	学習の振り返り、筆記試験

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと音楽 I	科目ナンバリング	YS_S11001
担当者氏名	立本 千寿子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美、小杉 裕一、津田 安紀子、佐藤 亜衣		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子ども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、現場における応用力を身につけるための基礎技能を学ぶ。ピアノ初学者から経験者に至るまで、個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンとを適宜おりまぜながら進めていき、様々な形態での演奏能力を身に付ける。また、連弾を通してアンサンブルの大切さも学ぶ。

《テキスト》

- ① いっしょにうたおう子どもの歌
- ② ピアノ・ステップ・アップ・レッスン
(以上、共同音楽出版社)

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業の到達目標》

- 楽譜に書かれてあることを理解し、子ども教育に必要なピアノ演奏技術を身に付けることができる。
- コードネームによる奏法や、メロディーと伴奏による演奏ができる。
- 子ども教育現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業平常点(40%)で評価する。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	I期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(コードネームと音階の理解)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(C, F, Gコード)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(セブンスコード)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(シャープ系のコード)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(フラット系のコード)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(マイナーコード)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ディミニッシュコード)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(オーギュメントコード)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ナインスコード)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(コードの変換)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(アルペッジョ)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(様々な終止形)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽 I」の総まとめ、II期「こどもと音楽 II」に向けての説明と指導。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと音楽Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S21016
担当者氏名	立本 千寿子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美、小杉 裕一、津田 安紀子、佐藤 亜衣		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子ども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、Ⅰ期の内容を更に発展させる形で、受講生個人の進捗状況に応じて、現場で必要とされるピアノ演奏技能を身につける。子どもの歌の弾きうたいは勿論、連弾やピアノ楽曲、マーチ・ワルツ・かけっこ・スキップ・ギャロップといった身体表現と関わりの深い曲等も修得する。

《テキスト》

- ① いっしょにうたおう子どもの歌
 - ② ピアノ・ステップ・アップ・レッスン[仮称]
- (以上、共同音楽出版社)

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業の到達目標》

- 楽譜に書かれてあることを理解し、子ども教育に必要なピアノ演奏技能を身に付けることができる。
- コードネームによる奏法や、メロディーと伴奏による演奏ができる。
- こども教育現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業平常点(40%)で評価する。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	Ⅱ期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形についての理解)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーの運指法について)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形の運指法について)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(4拍子の伴奏形)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(3拍子の伴奏形)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(4拍子と2拍子の違いについて)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(連符について)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーへの和音付け)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーと伴奏のバランス)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(装飾音符の扱い方と演奏法)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(調性について)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(移調奏法)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅱ」の総まとめ。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと造形 I	科目ナンバリング	YS_S11002
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

保育現場での造形遊びで生かせる基礎（描写、色彩）や道具の扱い方を学ぶ。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現する。材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ絵や工作に表したくなる。言葉でいいあわせない気持ちを存分に出すことができる。まずは、小さな思いをコンセプトに作品を制作する。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案する。

《授業の到達目標》

鉛筆を使いこなす自由で表現できるようになる。色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》

「お絵描きあそび」アトリエ・リュミエール/鈴木あきこ

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、疑問点がある場合随時答える。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション/鉛筆基礎①	材料、道具の説明。鉛筆の持ち方。
2	鉛筆基礎②	線の練習、消しゴム。
3	鉛筆基礎③	立体感、マチエール、線画。
4	鉛筆基礎④	グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線。
5	鉛筆デッサン	果物や野菜を精密に鉛筆デッサンする。
6	色と形を楽しもう①	エリックカール技法、エンバリーおじさん技法。
7	色と形を楽しもう②	3原色でリアルな野菜を描こう。
8	色と形を楽しもう③	子供の物語性を引き出す想像の世界。
9	スタンプ遊び①	指紋スタンプで描いてみよう。
10	スタンプ遊び②	紙版画技法を学ぼう。
11	きってやぶいてよーくみて①	いちごがいっぱい！何に見えるかな！絵本作り。
12	きってやぶいてよーくみて②	巨大クッキング～焼そば。
13	重ねてコラージュ①	水きりえ～水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
14	重ねてコラージュ②	紙ビーズのアクセサリ。
15	まとめ	オリジナルの授業計画を作成する。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと造形Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S21019
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

造形あそびをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれている。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供はこれらの事を遊びを通して行う。この様な活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができる。園で開催される行事や展示立体作品を中心にイベント企画を提案する。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《参考図書》

イタリア:レッチョ・エミリア市の幼児教育実践録『子どもたちの100の言葉』（学研）

《授業の到達目標》

オリジナルの紙を作る（集める、並べる）
 粘土で記念品を作る（組み合わせる、重ねる）
 ダンボール、布、缶、プラスチックで壁面や展示作品を作る（組み換える、生かす）

《授業時間外学習》

予習方法。毎回使用する素材や材料について研究、収集をする。復習の方法。授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料、道具の説明。
2	造形遊び①	紙の引出しペーパーの制作。
3	造形遊び②	模写作品。
4	造形遊び③	粘土でミニチュアクッキング。food制作。
5	造形遊び④	粘土でミニチュアクッキング。記念品制作。
6	造形遊び⑤	ガチャポンの風鈴制作。
7	造形遊び⑥	立体ワンコ。型紙切断、組み立て。
8	造形遊び⑦	立体ワンコ。組み立て、張子作業。
9	造形遊び⑧	立体ワンコ。張子作業、ジェッソ塗り、下図犬制作。
10	造形遊び⑨	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り。
11	造形遊び⑩	立体ワンコ。本塗り、仕上げ。
12	造形遊び⑪	カンカン宝箱制作。
13	造形遊び⑫	リメイク大作戦、お昼ねテント&ふりふりフラッグ制作。
14	造形遊び⑬	全作品チェック後、学内にてピクニックを開催。
15	まとめ	オリジナルの授業計画を制作。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと運動Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S11003
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 		

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、Ⅱ期開講の子どもと運動Ⅱに有効に活用されることを期待する。

《授業の到達目標》

保育者として乳幼児期の運動遊びを適切に援助できる能力を養うことを目標とする。その為、子どもの発育発達特徴を理解し乳幼児期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動遊びの考え方や実践方法を理解する事によって、乳幼児期に適した運動実践の在り方や援助方法を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。ノート、レポート、テストに対してコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ方等を説明する。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動遊びの必要性、援助における問題点の対策について
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動遊びと留意点の理解
4	精神面の発達特徴	各年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション方法
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた運動発達の特徴と運動遊び
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動遊び
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達特徴と運動遊びの実際
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と運動遊びの実際
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法及び測定結果の活用方法
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動遊びプログラムの実際と援助方法
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと運動遊びプログラム
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方をと運動遊びプログラム
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方をと運動遊びプログラム
15	まとめ	各年代における運動発達特徴の確認。場面に応じた運動実践方法。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
 「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
 「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
 “Motor Development and Movement Experiences for Young Children” DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

乳幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

科目名	こどもと運動Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S21022
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

演習科目である為理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。今までの学校体育で経験した内容やスポーツ実践での考え方の枠を外してより柔軟的に運動を捕らえ、保育における幅広い運動遊びの実践に役立つ内容を実施する。

《授業の到達目標》

保育における幼児期の各年代に応じた運動遊びの援助が的確に出来る能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期における運動遊びの正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期の各年代に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）ノート、レポート、テストに対してコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際①
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践
10	集団ゲーム（1）	集団におけるルール遊びの方法と実践①
11	集団ゲーム（2）	集団におけるルール遊びの方法と実践②
12	年代に応じた運動遊び（1）	3歳児における運動遊び指導の考え方や実践方法及び留意点
13	年代に応じた運動遊び（2）	4歳児における運動遊び指導の考え方や実践方法及び留意点
14	年代に応じた運動遊び（3）	5歳児における運動遊び指導の考え方や実践方法及び留意点
15	まとめ	全体のまとめをする

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
 「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
 「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
 “Motor Development and Movement Experiences for YoungChildren”
 DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児期の運動遊び指導者および小学校体育指導者として必要な知識を身につけて欲しい。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こども文化論Ⅰ	科目ナンバリング	YS_L21025
担当者氏名	土居 安子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

こども文化の意義と技術の習得のために様々な文化財を提示する。
 こども文化とは何かを理解し、様々なこども文化財の創作を通してこども文化の心に触れ、幼児教育者としての感性と創造性を養う。

《テキスト》

『ことばと表現力を育む児童文化』川勝泰介他編著 萌文書林

《参考図書》

『子どもの本100問100答』大阪国際児童文学館編 創元社

《授業の到達目標》

こども文化がこどもの個性を伸ばし新しい時代に的確に対応した自己確立を促すものであることを理解することができる。
 こども文化の意義を理解し、こどもの価値志向を伸ばす素材について考えることができる。
 こどもが文化を享受し、創造して遊ぶことの実際を、各実習において検証することができる。

《授業時間外学習》

日頃から、絵本、紙芝居、人形劇など、こどもの情操を育む素材に触れるようにしましょう

《成績評価の方法》

定期試験（70%）、小レポート（20%）、受講態度等（10%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明、本授業と幼稚園教諭・保育士資格との関連、幼稚園等における本授業内容の展開
2	こども文化とは何か	こども文化の定義
3	こども文化における「こども」	法律におけるこども、心理学におけるこども
4	こども文化とこども観①	古代から近世
5	こども文化とこども観②	明治時代
6	こども文化とこども観③	大正時代
7	こども文化とこども観④	昭和時代
8	さまざまなメディアとこども文化の変遷	メディアの変遷の中でこども文化を考える
9	こどもの情操を育む文化財①	絵本
10	こどもの情操を育む文化財②	幼年童話
11	こどもの情操を育む文化財③	詩・ことばあそび
12	こどもの情操を育む文化財④	マンガ
13	こどもの情操を育む文化財⑤	紙芝居
14	こどもの情操を育む文化財⑥	ペープサート・人形劇
15	こどもの情操を育む文化財⑦	アニメーション

平成28（2016）年度入学者

専門教育科目

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 I		科目ナンバリング	YF_L12002
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-A コミュニケーション力			

《授業の概要》

社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。I期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6 「相談援助の基盤と専門職」第3版 中央法規出版、2015

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7 「相談援助の理論と方法Ⅰ」第3版 新社会福祉士養成講座8 「相談援助の理論と方法Ⅱ」第3版 中央法規出版、2015

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論が理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。授業中の携帯操作は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題について検討を加える。
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する、クライアント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。
5	ソーシャルワークの歴史 ① 前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。
6	ソーシャルワークの歴史 ② 基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。
7	ソーシャルワークの歴史 ③ 援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。
8	ソーシャルワークの歴史 ④ 統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。
9	ソーシャルワークの歴史 ⑤ グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。
10	ソーシャルワークの援助 ⑥ 地域援助	コミュニティデベロップメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのような変化したのかを検討する。
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L22010
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-A コミュニケーション力 			

《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱでは、相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学びを進めていく。各自が問題意識を持てるように、課題を与え、研究を進めていくことも、プログラムの中に入れていき、実践現場で生きる学びになるように学びを進めていく。

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論とが理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6 「相談援助の基盤と専門職」第3版 中央法規出版、2015

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7 「相談援助の理論と方法Ⅰ」第3版 新社会福祉士養成講座8 「相談援助の理論と方法Ⅱ」第3版 中央法規出版、2015

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。授業中の携帯操作は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の理念：自己決定	自己決定は相談援助の中心概念ではあるが、危機的状況では、一時自己決定権を預かることも支援の一つとなる。ここでは状況に合わせた自己決定権の行使について考える。
2	相談援助の理念：自立支援	ソーシャルワーク援助の最終目標は自立支援にあるが、障害状況によっては、依存的、立も考慮に入れた支援が必要である。自立の在り方についても検討する。
3	相談援助の理念：エンパワメントとストレングス	利用者の能力、保持力をうまく引き出し、課題解決に取り組めるように支援することで、利用者はパワレス状況から抜け出し、エンパワメントされることを確認する。
4	ノーマライゼーション：地域生活という視座	ソーシャルワーク援助の目的と過程はノーマライゼーションの実現への取り組み過程ともいえる。地域でのありきたりの生活の実現とはについて検討する。
5	ノーマライゼーション：社会的包括	人がいかなる状況にあろうとも、社会参加が確保され、社会の一員としての権利と義務を果たせる状況づくりが社会福祉の目的であることを学ぶ。
6	専門職の倫理	専門職はその技術、知識、そしてそれらを人々の福利のためだけに使うことが求められるが、それを維持、向上させるための仕組みが倫理であることを学ぶ。
7	専門職の社会的責任と倫理綱領	社会的責任として、専門職の倫理を遵守するために、専門職団体などがどのように対応するかを社会に向けて公表したものが、倫理綱領であることを学ぶ。
8	専門職制をめぐる倫理的ジレンマ	我々は、複数の役割を持って社会生活を送っていくが、時に目指すところが矛盾し倫理的な葛藤を専門職の内部に生み出す。これへの対応を検討する。
9	総合的、包括的な相談援助	福祉は今、重複し、重層した問題を抱える利用者への支援で、ニーズを総合的、包括的にとらえることが求められる。そこでの留意点について検討する。
10	地域を基盤としたソーシャルワーク	施設から在宅へと福祉は大きくシフトした。地域を基盤にノーマライゼーションの実践がどのように進められるべきか検討する。
11	総合的な相談援助を支える理論	従来の援助技術では、重複し重層した利用者のニーズに対応できない。ここではシステム理論を用いた生活モデルを基盤にした、支援の在り方を検討する。
12	相談援助に関わる専門職とは	総合相談を担当できる専門職は、どのような専門基盤を必要とするのであろうか。ここでは求められる専門性とその資格について検討する。
13	総合相談援助における専門的機能	現在の相談援助専門職は、多くの求められるスキルを身に付け、多専門職との連携で仕事ができることを求められる。ここでのスキルとは、技術とはを検討する。
14	社会の変化とニーズの変化	複雑化とともに、少子超高齢化に歯止めがかからない社会。このような状況の中で利用者のニーズも大きく変化してきている。その変化と看られる問題点について学習する。
15	他職種との連携	今地域で他職種と連携をし、支援をしていくためには、どのような知識、技術、技能が求められるのか、またその留意点についても検討する。

科目名	ソーシャルワークの理論と実践 I		科目ナンバリング	YF_L22011
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 基教-A コミュニケーション力			

《授業の概要》

対人援助の在り方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認と、それを実践に移していける援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の理論と方法Ⅲ第3版」2015 中央法規

《参考図書》

- ・H.M. パートレット著 小松源助訳「社会福祉実践の共通基盤」ミネルヴァ書房 2009
- ・Germain, C著 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」学苑社 1992年
- ・社会福祉小6法 中央法規 2017

《授業の到達目標》

実習に赴いたときに、利用者の問題や、課題を利用者や家族との話しの中から、また記録の中からまとめだすことができ、具体的な支援計画の作成の手順とが理解できる。また、利用者との話をどのように展開していくかの流れを形成していくことができるようになる。

《授業時間外学習》

新聞をはじめとするメディアの報道に目を通すことと、人についての発達段階と、その各段階で遭遇する解決課題について、各自の知識として整理しておくこと。授業はシラバスに添って進められます。教科書の該当箇所を、各自でしっかりと事前学習をしてください。

《成績評価の方法》

評価は、授業態度30% 課題達成20% 終了時テスト50%として行う。この基準で出した評価点（100点満点）を、各自の評価とする。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

遅刻は一切認めない。定時に始まり、定時に終わる。授業中の携帯の操作は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助とは	相談援助とは、その援助技術であるソーシャルワークとは、どのように考えるべきものであるのか、また相談援助にあたる専門職の役割とはについて検討する。
2	ソーシャルワークの構成要素とその機能を考える	人と環境との関連性を検討するとともに、個人、家族、小集団、地域等がそれぞれに、総合的な観点から、評価し、優れたところも保持した存在であることを、検討する。
3	人と環境との相互作用とは	システム理論をもとに、人と環境の関わり、人と人の関わりを検討するとともに、システム理論をソーシャルワークが取り入れる意味について検討する。
4	援助関係の形成と援助関係のもたらすもの	援助関係とはどのような状況をいうのか、また、援助関係を形成していくにはどのような事柄に留意していくべきなのかを検討する。
5	援助者の機能と役割、また援助者に求められるもの	援助関係で援助者が果たすべき役割はどのようなものであり、援助関係の質を高めるためには、援助者としてどのような取り組みが求められるのかを検討する。
6	対象による援助関係の特徴	援助の対象、利用者の状態、おかれている環境によって、形成されるべき援助関係についての配慮が求められるが、それぞれでどのような配慮を必要とするのかを検討する。
7	相談援助での一般的な留意点	ソーシャルワーク援助のすべてのプロセスを通して、援助者はどのようなことに留意し、支援を進め、形作っていくのかについて述べる。
8	インテーク面接の役割と留意点	ソーシャルワーク援助でのインテーク面接の位置づけと、インテークワーカーの役割、クライアントのモチベーションと面接の進め方について検討する。
9	問題とは、ニーズとは、事実とは	利用者の抱える困りごとを聴きとるためには、どのような配慮と、援助者の視点が求められるのか、真実に迫る面接を構成する要件とはについて検討する。
10	アセスメントの精度を高める情報収集と分析	アセスメントの精度が支援の効果を左右する。利用者の全方位的なアセスメントが総てを決することを意識したうえで、アセスメントの在り方を検討する。
11	解決課題設定と支援計画の作成	解決課題（ニーズ）の確定と、効率的な解決手順の設定を目指した利用者との共同作業の内容が、支援計画の質の高さに大きく影響することを確認する。
12	支援計画の実施とモニタリング	周到な準備の上で実施される支援計画に基づいたサービス提供が、予定通りの効果を上げているのかの確認と、それによる利用者の変化についての確認の仕方を学ぶ。
13	モニタリングと支援計画の変更	モニタリング結果を参考に、予定通りの効果が発揮できていない原因の把握と、効果的なサービス提供がなされるためのサービスの変更や支援計画の修正について学ぶ。
14	支援の終了とアフターケア	支援の終了は環境の変化を生み出し、利用者の新しいストレスとなりうる。新しい適応課題の出現の有無を確認するとともに、精神面のサポートを行うことの重要性を学ぶ。
15	効果的な面接の進め方	14回の授業を総括し、効果的な面接の進め方を確認し、より学びを実践に近づけるものとする。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度		科目ナンバリング	YF_L22013
担当者氏名	河野 真			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

公的扶助の概念・対象・歴史とともに、日本の生活保護制度や関連する諸制度上の仕組みを学ぶ。さらに、低所得者対策等に関して学ぶとともに、相談援助活動や自立支援プログラムに関する知識を習得する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会/「新・社会福祉士養成講座」16 低所得者に対する支援と生活保護制度/中央法規出版

《参考図書》

《授業の到達目標》

現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。生活保護制度の仕組みと今日的動向を理解する。低所得者対策に関連する組織、専門職の役割について理解する。

《授業時間外学習》

講義受講に際立ち教科書は必ず熟読しておくこと。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《成績評価の方法》

定期試験80%、授業への参加とその成果20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公的扶助の概念	公的扶助の概念と範囲、意義と役割
2	貧困・低所得者問題と社会的排除 (1)	貧困・低所得者問題の意味
3	貧困・低所得者問題と社会的排除 (2)	社会的排除等の意味
4	公的扶助制度の歴史 (1)	イギリスの公的扶助発達史 (貧困の把握、対応策の変化)
5	公的扶助制度の歴史 (2)	日本の公的扶助発達史
6	生活保護制度の仕組み (1)	生活保護法の目的と基本原理
7	生活保護制度の仕組み (2)	生活保護法の原則
8	生活保護制度の仕組み (3)	生活保護の種類、内容、方法
9	生活保護制度の仕組み (4)	保護施設、被保護者の権利・義務、不服申立て
10	生活保護制度の仕組み (5)	生活保護の財源・予算
11	生活保護基準と最低生活保障水準	生活保護基準と最低生活保障水準
12	生活保護の動向・低所得者対策	生活保護の動向および低所得者対策
13	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体	生活保護の運営実施体制と関係機関
14	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動	生自立支援プログラムの位置づけおよびその策定
15	自立支援プログラムの意義と実際	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動

科目名	介護概論	科目ナンバリング	YF_L22015
担当者氏名	小倉 毅		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む		

《授業の概要》

介護の理念や対象およびその理念、基本施設について学ぶ。さらに障がい等の状況等に応じた介護過程における生活支援技法や介護予防の基本的な考え方を学ぶ。

対象者が自己決定や自己選択し、主体的に暮らすこと、生活の質を高めるための介護の本質を理解し、よりよい支援につなげる知識と生活支援技術の習得に向け段階的に学習する。

《テキスト》

社会福祉学双書 15 介護概論
 社会福祉学習双書編集委員会編 全国社会福祉協議会

《参考図書》

①ケアの本質-生きることの意味- ミルトン・メイワ ゆみる出版
 ②人間科学的生活支援論 黒澤貞夫 ミネルヴァ書房

《授業の到達目標》

社会福祉専門職として必要な介護の歴史、機能、原則、援助の方法などについて理解する。また、介護の理念および介護福祉実践のあり方を理解するとともに、ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を習得する。

《授業時間外学習》

家族や近隣者の高齢者とかかわり、ボランティアに積極的に参加し、対象者への理解を深めていきましょう。
 またレポートでは、近年の介護における社会的問題や事件等から介護に求められる政策・社会的課題などについても考える機会にしてほしい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加とその成果 (20%)
 授業への参加態度・成果については随時説明します。
- (2) 課題レポート・小テスト (20%)
 コメントを付して返却します。
- (3) 定期試験 (60%)

《備考》

- ①私語をはじめ、他の受講者の迷惑なる行為は慎むこと。
- ②質問は、授業中もしくはオフィスアワーで受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人間と生活	人々の生活とは何かを理解し、家庭機能変化、高齢者や障がい者の実態と権利、ライフサイクルにおける人間関係の変化や自律・自立について考える。
2	法律の変遷から介護を考える	社会福祉士及び介護福祉士法、専門職による介護の展開及び介護職に求められる医療行為について理解する。
3	介護の目的	介護の原則と介護職員の倫理、自立に向けた介護、尊厳を支える介護、介護提供の場、介護の対象について理解する。
4	援助関係	介護における援助関係の基本①援助関係の理解②利用者の理解について学ぶ。
5	介護関係維持のための技法	①察観②コミュニケーション③記録と情報の共有④他職種との連携について理解する。
6	介護過程 (1)	介護過程の意義①在宅生活を支援する方法②家族への援助について理解する。
7	介護過程 (2)	介護過程の実際①介護過程とチームアプローチについて理解する
8	生活支援技術の基本 (1)	①利用者の自立支援と介護、②住生活環境の整備と介護、③食事の介護、④排泄の介護、⑤入浴の介護方法について理解する。
9	生活支援技術の基本 (2)	①衣服の着脱の介護、②清潔の介護、③体位変換・移動の介護、④社会生活を維持するための支援、⑤健康な生活習慣づくりへの支援について理解する。
10	生活支援技術の基本 (3)	①緊急・事故時の対応、②介護家族への支援、③福祉用具の活用、④終末期の支援について理解する。
11	障害別生活支援 (1)	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害(盲ろう)の理解と生活支援について理解する。
12	障害別生活支援 (2)	運動機能障害、重症心身障害の理解と生活支援について理解する。
13	障害別生活支援 (3)	内部障害の理解と生活支援について理解する。
14	障害別生活支援 (4)	知的障害、高次機能障害、精神障害の理解と生活支援について理解する。
15	障害別生活支援 (5) まとめ	認知症(若年性認知症を含む)の理解と生活支援について理解する。

科目名	社会調査の基礎	科目ナンバリング	YF_L22024
担当者氏名	田端 和彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

保育を含む社会福祉分野における社会調査の歴史的な役割を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法、その分析の方法を学びます。個人情報保護など、社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考図書》

授業内で指示します。必要に応じてプリントを配布します。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察など社会調査の手法を身に付けることができます。公表された統計表、アンケート調査の結果、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し地域社会における総合的な状況を理解することができます。

《授業時間外学習》

事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。宿題を課すことがありますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス／社会科学と社会調査	社会を理解するうえで社会調査が必要となる理由や社会科学と社会調査の関係を学びます。
2	社会調査の歴史①	イギリスのブースの貧困調査など社会調査の歴史とその役割を振り返り社会福祉での位置づけを理解します。
3	社会調査の歴史②	シカゴ学派による社会調査やフィッシャーによる推計学の導入、優生学につながる悲劇など、社会調査を取り巻く近代の歴史を理解します。
4	統計法と統計制度	国家と統計の関係から、民主的な公的統計のあり方を学びます。日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的調査と質的調査	公的統計調査やアンケート調査など量的調査と観察など質的調査の違い、また横断的調査、縦断的調査など調査の考え方の基本を学びます。
6	母集団と標本集団	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解し、母集団から標本集団を抽出する方法を学びます。
7	アンケート調査の方法①	調査の設計と調査目的の明確化、正確な調査を行うためのワーディングなどを学び、アンケート調査を作成するための基礎的な内容を理解します。
8	アンケート調査の方法②	調査票の配布回収方法など、実際にアンケート調査を行う場合に注意すべき点などについて把握します。
9	量的調査のデータ解析①	尺度水準などデータ分析の基本と1変量、2変量、多変量での分析方法の違いを踏まえ、1変量の場合の記述統計、単純集計などの分析手法を学びます。
10	量的調査のデータ解析②	引き続き、1変量での分析方法を学ぶとともに、2変量での分析方法である、回帰分析、相関分析について学びます。
11	量的調査のデータ解析③	重回帰分析など、多変量解析の解説を行うほか、仮説検定の基本を学び、その概念を理解します。
12	インタビューの手法	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて学びます。インタビューの記述方法について学びます。
13	観察の方法／質的調査のデータ解析①	参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。質的データ調査の分析方法として、グランデットセオリーの考え方を学びます。
14	質的調査のデータ解析②	引き続き、グランデットセオリーの考え方を学び、またKJ法などについても学びます。
15	個人情報保護と社会調査の結果の利用	個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について学びます。

科目名	精神保健福祉論		科目ナンバリング	YF_L12006
担当者氏名	後藤 謹武			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる			

《授業の概要》

保育者による母親支援、発達障害児の早期発見、虐待の早期発見をするための機能が今後ますます期待されている。これらを実践できるよう、メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけることを目的とする。

《テキスト》

指定テキストはなし。資料は毎回配布する。

《参考図書》

参考図書については適宜紹介していく。

《授業の到達目標》

「なぜ精神保健福祉を学ぶ必要があるのか」「学んだ内容を支援現場でどのように役立てるのか」を明瞭に説明できる。

《授業時間外学習》

精神保健福祉に関する新聞記事（インターネットのニュース等も可能）を切り取り、感想を記述し提出することで成績・評価に加点する。

《成績評価の方法》

レポート（提出物）・受講態度（出欠を含む）・期末テスト（70%）※出席時間数が授業時間数の2/3に満たない者は原則として期末試験を受けることはできない。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講の目的について理解する。
2	こころの病	こころの病を発症した当事者の悩みや想いを理解する。
3	精神疾患による生活上の障害Ⅰ	統合失調症を患う人々の生活にしづらさについて理解する。
4	精神疾患による生活上の障害Ⅱ	気分障害を患う人々の生活のしづらさについて理解する。
5	精神疾患による生活上の障害Ⅲ	日本社会に深く浸透している「依存症」の実態について理解する。
6	精神疾患による生活上の障害Ⅳ	高次脳機能障害のある人の生活のしづらさについて理解する。
7	精神疾患による生活上の障害Ⅴ	発達障害のある人の生活のしづらさについて理解する。
8	精神障害の概念	精神障害の定義、精神障害の構造について理解する。
9	育児をめぐる精神保健	周産期の精神保健について理解する。
10	ストレスとセルフケア	ストレスの仕組みを知り、セルフケアの方法について理解する。
11	精神保健福祉サービス	精神障害者が利用できる医療や福祉のサービスについて理解する。
12	精神障害と社会	精神保健福祉制度の歴史的な発展経緯について理解する。
13	差別と偏見Ⅰ	精神障害者への誤解や偏見に基づく拒否的態度の根底について理解する。
14	差別と偏見Ⅱ	精神障害者への差別事例を学び差別と偏見の解消方法について理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認する。

科目名	精神医学 I	科目ナンバリング	YF_L22027
担当者氏名	光田 豊茂		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる		

《授業の概要》

代表的な精神科疾患についてその症状やその状態像について具体的に講義する。それと共に、精神科医療機関でどのような治療がなされているのか、また精神障害者に対してどのような支援が必要であるかについて講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座1『精神疾患とその治療』第2版、日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2016

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神科疾患の症状やその状態像について理解して、精神科医療機関等でどのような治療や取り組みがなされているのか説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み (50%)
 レポート課題に対する取り組み (50%)
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害の理解	精神疾患の成因と分類について理解する。
2	精神疾患の症状と診断	精神疾患の様々な症状とその状態像を理解すると共に、その診断の手順と方法、検査法について学び、診断の基本的な知識を理解する。
3	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の症状等の差異について理解する。
4	症状性精神障害とてんかん	症状性精神障害とてんかんの症状とその治療について理解する。
5	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	アルコールや薬物、有機溶剤など精神作用物質使用による精神疾患の症状等について理解する。
6	依存症の理解と治療	依存症の理解とその治療法と自助グループの役割について理解する。
7	自助グループ参加者の体験談	自助グループに参加し回復した当事者の体験談を聞いて、自助グループの役割やその働きについて考える。(ゲスト講師予定: AAメンバー)
8	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	統合失調症の症状、病型、及び治療法について理解する。
9	統合失調症患者への支援について	統合失調症患者に対する支援やかかわり方について考える。
10	統合失調症当事者の体験談	統合失調症者の体験談を聞き、統合失調症への理解を深める。(ゲスト講師予定: 当事者)
11	気分障害の症状	気分障害の特徴や症状及びその性格傾向や環境因子等について理解する。
12	気分障害の治療	気分障害の治療とかかわり方の留意点について理解する。
13	精神科医師による精神科治療について	精神療法、薬物療法の実際について理解する。(ゲスト講師予定: 精神科医師)
14	神経症性障害、ストレス関連障害、心身症	心理的原因によって起こる様々な神経症やストレス関連障害、心身症の症状や治療について理解する。
15	精神科リハビリテーション	社会復帰の促進に向けた様々な精神科リハビリテーションの技術、方法について理解する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	こども福祉基礎演習 I		科目ナンバリング	YK_S12003	
担当者氏名	杉山 貴要江、田中 正彦、田中 博一、斎藤 正寿、未定、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する				

《授業の概要》

幼児教育、保育、こども福祉の基本を個別学習、個別指導形式により学ぶ。学習内容の理解を深めると同時に、自ら調べ、まとめ、そして発表するという個別研究の方法を修得することも目指す。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

授業時間内に必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ① 幼児教育、保育、こども福祉等についての理解・認識を深めること。
- ② 音楽や造形等の幼児教育・保育に関わる実践力を磨くこと。
- ③ 自主的に学び、そして学んだ事柄をわかりやすくまとめて発表するスキルを獲得すること。

《授業時間外学習》

教員から課された課題をこなすだけでなく、自分自身で疑問を見出し、そして調べることによってその疑問を解決するという自主的な学びを期待する。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 20%
- ・ 課題に対する評価 80% ・ 提出期限を過ぎて提出された課題は減点対象となる。提出された課題は、コメントを付して返却する。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。やむを得ない理由で欠席する場合は、必ずチューターに連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉基礎演習 I における学びの全体像を提示する。
2	研究発表の方法論を学ぶ	個別研究発表の仕方について学ぶ。特に、文献の収集方法と読み込み方について学ぶ。
3	研究発表の方法論を学ぶ	文献の読み込みや調査等を通じて学んだことのまとめ方と発表の仕方について学ぶ。
4	個別研究のテーマの選定	学生個々が興味・関心あるテーマを選定し、個別研究のリサーチクエストを設定する。
5	音楽表現	音楽活動を通して子どもの発達を支援する方法を学ぶ。
6	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
7	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
8	幼稚園での観察	幼稚園現場を訪問し、幼児教育の現場における実践を観察する。
9	校外学習	校外学習に出かけて、子どもの目線と保育者の目線との双方から初夏の自然を体感し、季節に応じた保育を展開することの重要性に気づく。
10	校外学習を終えてのふり返りと造形活動	校外学習で感じたことを造形活動に昇華する。
11	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
12	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
13	研究発表会	個別研究の成果を発表する。その1
14	研究発表会	個別研究の成果を発表する。その2
15	研究発表会	個別研究の成果を発表する。その3

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	こども福祉基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	YK_S12004
担当者氏名	杉山 貴要江、田中 正彦、田中 博一、斎藤 正寿、未定、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

幼児教育、保育、こども福祉の基礎をゼミ形式で主体的に学ぶ。教員の専門領域における最新の知見等に触れることにより、追求すべきテーマを絞り込み、専門演習における学びにつなげていく。また学外実習を通じて、幼児教育・保育に関わる実践力も磨いていく。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考図書》

グループ学習時に、担当教員から適宜紹介される。

《授業の到達目標》

- ①幼児教育、保育、こども福祉の基礎についての理解を確固たるものとする。
- ②演習形式の授業で積極的に発言する等、主体的な学びのあり方について体得すること。

《授業時間外学習》

教員から課された課題をこなすだけでなく、自分自身で疑問を見出し、そして調べることによってその疑問を解決するという自主的な学びを期待する。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 20%。
- ・ 課題に対する評価 80%。
- ・ 提出期限を過ぎて提出された課題は減点対象となる。提出された課題は、コメント等を付して返却する。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。やむを得ない理由で欠席する場合は、必ずチューターに連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉基礎演習Ⅱにおける学びの全体像を提示する。第2回以降において展開されるグループ学習の構成単位となるグループの編成を行う。
2	担当教員の専門領域に関するグループ学習～1	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その1）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
3	担当教員の専門領域に関するグループ学習～2	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その2）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
4	担当教員の専門領域に関するグループ学習～3	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その3）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
5	担当教員の専門領域に関するグループ学習～4	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その1）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
6	担当教員の専門領域に関するグループ学習～5	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その2）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
7	校外学習	校外実習に出かけて、こどもの目線と保育者の目線との双方から秋の自然を体感し、季節と幼児教育ならびに保育の内容とをリンクさせることの意義を考える。
8	校外学習のふりかえり	校外実習を終えての ふり返しを行うとともに、保育実践への昇華を試みる。
9	幼稚園での参与観察	幼稚園現場を訪問し、園児たちと活動を共にすることにより、幼児教育・保育の実践力を高める。
10	担当教員の専門領域に関するグループ学習～6	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その3）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
11	担当教員の専門領域に関するグループ学習～7	少人数制の演習形式の授業（第3サイクル その1）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
12	担当教員の専門領域に関するグループ学習～8	少人数制の演習形式の授業（第3サイクル その2）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
13	担当教員の専門領域に関するグループ学習～9	少人数制の演習形式の授業（第3サイクル その3）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
14	担当教員の専門領域に関するグループ学習～10	少人数制演習形式授業のまとめ。
15	こども福祉基礎演習のまとめ	担当チューターとの面談を通して、こども福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱにおける学習内容を総括し、こども福祉専門演習に向けての準備態勢を整える。

科目名	こどもの心理学Ⅱ	科目ナンバリング	YK_S22010
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

保育者は、子どもたちを発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちを発達・成長へと導ける質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達の流れを正しく理解するとともに、保育者として子どもたちの発達を促すにはどのように関わっていけばよいのかを知る必要もある。子ども時代に焦点を絞って、発達のプロセスと発達支援のあり方について学んでいく。

《授業の到達目標》

- 子どもの心身の発達と保育実践について理解すること。
- 普段の生活と遊びを通した学びのプロセスについて理解すること。
- 子どもの発達を支援する働きかけについて理解すること。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

- 『シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』 本郷一夫（編） 建帛社 2011
- 『発達心理学で読み解く保育エピソード—保育者を目指す学生の学びを通して』 若尾 良徳・岡部 康成 北樹出版 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《成績評価の方法》

- ・提出課題に対する評価 50% ・筆記試験の評価 50%
- ・提出課題は、提出するだけで得点を得られるのではなく、内容を伴わなければ得点は得られない。
- ・提出期限を厳守しなければ採点対象とならない。
- ・質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学ぶとともに、子どもの発達を正確に捉えるためにはどのような点に留意すべきかを学ぶ。
2	子どもの発達の理解	保育所保育指針の記述に基づいて乳幼児期の発達の流れを再確認する（その1）。
3	子どもの発達の理解	保育所保育指針の記述に基づいて乳幼児期の発達の流れを再確認する（その2）。
4	発達の個人差	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。
5	環境の重要性と環境としての保育者	子どもたちの発達にとって環境がどれだけ重要であるかを再認識するとともに、保育者という人的環境の重要性について学ぶ。
6	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“母なるもの”との出会いの持つ意味について理解する（その1）。
7	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“母なるもの”との出会いの持つ意味について理解する（その2）。
8	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“父なるもの”との出会いの持つ意味について理解する。
9	子どもの発達と出会い	人間関係の範囲が仲間関係へと広がっていく幼児期から児童期にかけての子どもたちの発達にとって、“友なるもの”との出会いの持つ意味について理解する。
10	集団の中の1人として	集団の構造と機能について学ぶとともに、子どもたちが集団生活の中で経験・学習することについて学ぶ。
11	子どもの生活と学び	「学習」のメカニズムについて学ぶとともに、子どもたちは日常生活で何をどのようにして「学習」するのかについて学ぶ。
12	生活習慣の獲得とその援助	子どもたちが基本的な生活習慣を獲得していくに際して、保護者や保育者はどのように援助すればよいのかを「学習」の観点から学ぶ。
13	遊びと学び	子どもたちの発達にとって遊びがいかに重要かを再認識するとともに、子どもの遊びに保育者はどのように関わっていけばよいかを考える。
14	生きる力の基礎を培う	「生きる力」とはどのような力を指すのか、という問いに対する回答を探るとともに、そのような力はどのようにして身につけていくのかを考える。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を測定するために筆記試験を行う。

科目名	乳児保育 I	科目ナンバリング	YK_S22011
担当者氏名	徳永 満理		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する		

《授業の概要》

近年、核家族化と少子化の中で育った若い親たちは、乳児期の子育てに大きな不安を抱えている。そのような中で、保育所（園）が、子どもと親たちの生活と発達の間として急速な広がりを見せている。また、児童虐待も増加の一途をたどっており、深刻な社会問題となっている。養護施設や乳児院の果たす役割も大きくなっている。ここでは、乳児保育に必要な理論、知識、技術を学び実践力をつけることを目的とする

《テキスト》

『乳児の保育新時代』乳児保育研究会・著 ひとなる書房
『保育所保育指針解説書』
『保育資料集2016』ミネルバ

《参考図書》

『わくわくどきどき てづくりおもちゃ』徳永満理他 かもがわ出版
『手あそび・わらべうた』梅谷美子・著 かもがわ出版 他、適宜、講義時紹介する

《授業の到達目標》

- ・保育所保育指針における乳児保育の位置付けと内容を理解する
- ・0・1・2歳児の発達の道すじについて理解し、子ども理解を深める
- ・乳児期の生活とあそびについて具体的に学び、その技術を通して実践力をつける

《授業時間外学習》

- ・乳児の発達に基づいた手づくりおもちゃを作成する
- ・乳児への読み聞かせのための選書と読み方を提起する
- ・保育所など乳児のいるところに行き、出来るだけ乳児に触れるようにする

《成績評価の方法》

筆記試験（教科書・資料、持ち込み可） 70%
作品・レポート提出・授業内発表 20%
授業中の態度 10%

《備考》

- ・正当な理由のない欠席、遅刻、早退は認めない
- ・授業中の飲食、スマホ扱い、私語は厳禁
- ・提出物の期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・乳児の概念及び乳児保育の概念 ・ビデオ『赤ちゃんの科学-赤ちゃんからのメッセージ』
2	発達とは	こどもの発達をとらえ基本的視点 発達の順序性、個人差等
3	乳児の発達①	新生児から0歳児前半（0～6ヶ月）-0歳児前半の発達の道すじと特徴- ビデオ視聴『赤ちゃんの一年～前半』 視聴の内容をメモする
4	乳児の発達②	0歳児後半（7か月～12ヶ月）-0歳児後半の発達の道すじと特徴- ビデオ視聴『赤ちゃんの一年～後半』 視聴の内容をメモする
5	乳児の発達③	1歳児の発達の道すじと特徴
6	乳児の発達④	続きの講義とビデオ視聴『発達診断の実際 1歳児』 視聴の内容をメモする
7	乳児の発達⑤	2歳児の発達の道すじと特徴
8	乳児の発達⑥	続きの講義とビデオ視聴『発達診断の実際 2歳児』 視聴の内容をメモする
9	乳児保育の内容と方法①	基本的生活を中心に-乳児保育の目指すもの- 保育園の一日-子どもの姿のビデオを視聴-メモを取る
10	乳児保育の内容と方法②	基本的生活を中心に-食事・睡眠・排せつ等-
11	乳児保育の内容と方法③	演習-赤ちゃんのおむつを替えて見よう 保育園におけるオムツ替えのビデオ視聴
12	乳児保育の内容と方法④	演習-赤ちゃんが喜ぶ「いないいないばあ人形」を作ろう
13	乳児保育の内容と方法⑤	演習-「いないいないばあ人形」の完成と発表
14	特別な配慮を必要とする子ども	病気がちな子ども、与薬の必要な子どもなど
15	まとめ	授業の振り返りとまとめ

科目名	乳児保育Ⅱ	科目ナンバリング	YK_S22012
担当者氏名	徳永 満理		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

乳児保育Ⅰで学んだ乳児の発達の知識を基礎に、発達の道すじをより深く学ぶと同時に、保育所（園）・乳児院における保育内容を実践的に学び、生活と遊びのスキルを身につける。また、近年進行する少子化問題が、どのようなところからきているのかを、乳児保育の歴史からひもとき、保護者への子育て支援など、これからの乳児保育の課題について理解を深め、その具体的スキルを学ぶ。

《授業の到達目標》

乳児保育Ⅰで学んだ0歳児～2歳児の発達の道すじを深め、発達に沿った保育内容を進めるための、乳児保育の指導計画の作成の仕方を学び、適切な援助活動が出来るようになる。乳児保育を豊かに展開するための教材について学び、作成する。事例を通して多様な保育ニーズを知り、保護者支援について学ぶ。

《成績評価の方法》

筆記試験（教科書・資料、持ち込み可） 70%
 作品・レポート提出・授業内発表 20%
 授業中の態度 10%

《テキスト》

『乳児の保育新時代』乳児保育研究会・著 ひとなる書房
 『保育所保育指針解説書』
 『保育資料集2016』ミネルバ

《参考図書》

『わくわくどきどき てづくりおもちゃ』徳永満理他 かもがわ出版
 『手あそび・わらべうた』梅谷美子・著 かもがわ出版 他、適宜、講義時紹介する

《授業時間外学習》

- ・保育所における子育て支援などに関心を持ち、ボランティアなどをする
- ・乳児の発達に基づいた手づくりおもちゃを作成する
- ・乳児への読み聞かせのための選書と読み方を提起する
- ・保育所など乳児のいるところに行き、出来るだけ乳児に触れるようにする

《備考》

- ・正当な理由のない欠席、遅刻、早退は認めない
- ・授業中の飲食、スマホ扱い、私語は厳禁
- ・提出物の期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・乳児保育Ⅰの振り返り ・ビデオ視聴 「子どもの笑顔に会いたくない」
2	乳児保育の内容と方法	あそびを中心に あそびのあり方について
3	乳児保育の内容と方法	大人とあそぶ 「手あそび・わらべうた」演習
4	乳児保育の内容と方法	身体を使ってあそぶ 散歩の意義と楽しさを知るーしっぽとりのための教材を作る
5	乳児保育の内容と方法	お散歩を豊かにするために 制作ーお散歩マップ
6	乳児保育の内容と方法	友だちとあそぶ 制作ーカスタネットづくり
7	乳児保育の内容と方法	乳児のあそびと生活を豊かにするおもちゃ 制作ー手袋人形
8	乳児保育の内容と方法	乳児のあそびを豊かにするおもちゃ 制作ー手袋人形
9	乳児保育の内容と方法	生活を中心にー布おむつの役割とオムツ替えの演習 ビデオ「保育園のオムツ替え」 手あそび・絵本の読み聞かせの演習
10	保育の記録と計画①	子どもの姿・活動のメモと記録を取ることの意味 手あそび・絵本の読み聞かせの演習
11	保育の記録と計画②	保育課程・指導計画の作成について 作成の演習 絵本の読み聞かせ・手あそびの演習
12	乳児保育と子どもの発達・親としての発達	子どもの成長発達と親としての成長の関わりとの関係性について 絵本の読み着せ・手あそびの演習
13	保育士のあり方をめぐって	乳児保育の中の保育士の役割と位置付け 絵本の読み聞かせと手あそびの演習
14	乳児保育のこれまでとこれから	乳児保育の歴史とこれからの課題について ・少子化対策にみる乳児保育など 絵本の読み聞かせと演習
15	まとめ	授業の振り返りとまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	障害児保育 I		科目ナンバリング	YK_S22013	
担当者氏名	星野 祥子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

- 障害についての基礎知識を身につける。
- 乳幼児の発達について学ぶ。
- 障害の状況や発達段階に応じた働きかけについて理解を深めていく。

《テキスト》

「保育者のためのテキスト障害児保育」（全国障害者問題研究会出版部） 近藤直子・白石正久・中村尚子

《参考図書》

適宜紹介します

《授業の到達目標》

障害についてや乳幼児期の発達についての理解を深め、一人一人の子どもの発達に応じた配慮や支援についてイメージできるようになる。

《授業時間外学習》

○障害についての書籍、ニュース、報道に興味を持つようにする。 ○授業で学んだことを振り返り、自分なりの意見をまとめる。また、自分の意見を家族や友人と話し合う機会を持つようにする。

《成績評価の方法》

小レポート（50%）、試験（50%）で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業のねらい、授業の概要、授業の進め方、評価の仕方について説明する
2	障害児保育について	障害児保育の歴史や障害の定義について
3	こどもの発達と気をつけること 乳児期I	こどもの発達の考え方について 乳児期の発達過程の理解と保育の中で気をつけること
4	こどもの発達と気をつけること 乳児期II	乳児期の発達過程の理解と保育の中で気をつけること
5	こどもの発達と気をつけること 幼児期I	幼児期の発達過程の理解と保育の中で気をつけること
6	こどもの発達と気をつけること 幼児期II	幼児期の発達過程の理解と保育の中で気をつけること
7	障害についてI	発達の遅れについての理解と保育について
8	障害についてII	自閉症の理解と保育について
9	障害についてIII	ADHDの理解と保育について
10	障害についてIV	視覚障害と聴覚障害についての理解と保育について
11	障害についてV	運動障害と医療的ケアが必要な児の理解と保育について
12	虐待について	虐待についての理解と保育について
13	”気になる子”について	”気になる子”の理解と保育について
14	障害乳幼児の生活	生活の中で気をつけることについて
15	まとめ	授業の振り返りとまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	障害児保育Ⅱ		科目ナンバリング	YK_S22014	
担当者氏名	星野 祥子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

- 障害児保育が行われている場について知り、そこでの障害児保育の実践について学ぶ。
- 保護者支援、家族への支援について学ぶ。
- 関係連携機関について知る。
- 障害児を含めたクラス集団づくりや指導のあり方について考える。

《テキスト》

「保育者のためのテキスト障害児保育」（全国障害者問題研究会出版部） 近藤直子・白石正久・中村尚子

《参考図書》

適宜紹介します

《授業の到達目標》

- 障害児保育が実践されている場について学ぶこと、関係機関の役割を知ることを通して、障害児保育の実践について多面的に見ることができるようになる。
- ケーススタディを通して、集団保育の中での支援のあり方についてイメージできるようになる。

《授業時間外学習》

○障害についての書籍、ニュース、報道に興味を持つようにする。○授業で学んだことを振り返り、自分なりの意見をまとめる。また、自分の意見を家族や友人と話し合う機会を持つようにする。

《成績評価の方法》

小レポート（50%）、試験（50%）で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育の実践の場についてI	障害児保育が行われている場について
2	障害児保育の実践の場についてII	保育所・幼稚園での障害児保育について
3	障害児保育の実践の場についてIII	療育について
4	関係機関についてI	乳幼児健診、発達検査について
5	関係機関についてII	医療機関について
6	就学に向けて	就学に向けての連携、特別支援教育について
7	集団保育の中での支援について	集団保育の中での障害児への支援について
8	個別支援計画についてI	個別支援計画について
9	個別支援計画についてII	個別支援計画を立ててみます
10	家族支援についてI	保護者支援について①
11	家族支援についてII	保護者支援について②
12	家族支援についてIII	兄弟支援について
13	ケーススタディーI	実際のケースを想定して学びます
14	ケーススタディーII	実際のケースを想定して学びます
15	まとめ	障害児保育における保育士の専門性について

科目名	相談援助	科目ナンバリング	YK_S22015
担当者氏名	大西 雅裕		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイやワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせ、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《授業の到達目標》

- ①相談援助の基本的な知識を身につける。
- ②保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
- ③援助者として必要な実践力を身につける。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%
 授業中に課すレポートと小テスト 20%
 合計 100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ
5	対人援助の原則①	相談援助における対人援助の原則について学ぶ①
6	対人援助の原則②ソーシャルワーク実践の方法	原則について学ぶ② ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われるのかを学ぶ
9	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ
11	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ
12	コミュニケーション面接技法①	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ
13	コミュニケーション面接技法②	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ
14	コミュニケーション面接技法③	面接技法について学ぶ
15	学習のまとめ及び筆記試験	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる相談援助技法、技術についてまとめる

《テキスト》

赤木正典、大西雅裕編著「相談援助セミナー」建帛社

《参考図書》

橋本好市・直島正樹「保育実践に求められるソーシャルワーク」 ミネルヴァ書房
 対人援助実践研究会編「77のワークで学ぶ対人援助ワークブック」久美出版

《授業時間外学習》

講義については、資料を作成し配布いたします。そして授業にむけての予習及び復習を丁寧に行ってください。

《備考》

授業では受け身ではなく、自分自身で考え、それを文字や言葉やその他の方法を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

科目名	家庭支援論	科目ナンバリング	YK_L23016
担当者氏名	片岡 章彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 		

《授業の概要》

現代家族の子育て環境における、家族の構成、子育て不安、育児ストレスや児童虐待等の要因について検討、考察する。そのうえで、どのような家庭支援が必要なのかを、その背景と援助の在り方について、「子育て支援新制度」の解説を踏まえると共に、保育現場での事例も交えながら理解を深める。また、保育者にはどのような社会的役割が求められているのかについても理解する。

《授業の到達目標》

- 現代家族における子育て環境の抱える問題、課題について知り、家庭支援の背景や必要性について理解する。
- どのような家庭支援の方法があるのか、また配慮が必要なのかについて理解に基づいた考えを述べる事が出来る。
- 保育者に求められる社会的役割を意識する。
- 事例を通して家庭支援の実際を学び、今後における課題を明確にする。

《成績評価の方法》

受講態度10%、課題提出物10%、グループワーク20%、筆記試験60%

《テキスト》

井村圭壯・今井慶宗『保育実践と家庭支援論』勁草書房

《参考図書》

新保育ライブラリ家庭支援論[新版] 北大路書房実践
家庭支援論[改訂版] ななみ書房
これでわかる！子ども・子育て支援新制度 ひとなる書房

《授業時間外学習》

予習：事前学習としてテキストを読んでおき、自分なりの考えを整理しておく。
復習：授業で獲得した知識を、自分の考えとして述べたり生かしたり出来るように、振り返りと整理を十分に行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭の機能とその変容	「家庭」についての理解を深める。
2	家庭支援の必要性	子育てをとりまく現状から、家庭支援の必要性について考え、理解を深める。
3	保育者が行う家庭支援の原理①	実際の保育現場での事例を基にグループディスカッションを行い、保育現場での支援の在り方について学ぶ。
4	保育者が行う家庭支援の原理②	実際の保育現場での事例を基にグループディスカッションを行い、保育現場での支援の在り方について学ぶ。
5	現代家庭における人間関係	社会変化に伴う、人間関係の変容について学ぶ。
6	地域社会の変容	家庭や子ども達をとりまく地域社会の変化を、写真や映像を基に学び、家庭や子どもの育ちにどのような影響をもたらしているのか理解を深める。
7	男女共同参画社会とワークバランス	男女共同参画社会において、特に保育者の役割について学ぶ。
8	子育て家庭のための社会資源	子育て家庭を支援するための社会資源の種類について調べて発表し、お互いの知識の交換を行うことで理解を深め合えるようにする。
9	子育て支援施策・次世代育成支援推進法①	今までの子育て支援施策と次世代育成支援推進法の違いについて理解する。
10	子育て支援施策・次世代育成支援推進法②	ある企業の子育て支援課の従業員という設定で、行動計画の作成をグループで話し合っ て行い、次世代育成支援推進法の意義について理解を深める。
11	子育て支援施策・次世代育成支援推進法③	グループワークで作成した次世代育成支援推進法に伴う行動計画をグループ毎に発表 し、色々な考えに触れながら学び合える機会とする。
12	地域の子育て家庭への支援	今の時代に即した子育て家庭支援における地域の役割について考える。
13	特別な配慮を必要とする児童及び家庭への支援	特別な配慮を必要とする子どもの支援方法と共に、保護者支援について考え学ぶ。
14	子育て支援における関係機関との連携	子育てを支援するうえでどのような関係機関が存在しているのかを学ぶ。
15	家庭支援と今後の課題	授業全体のまとめとして、これからの家庭支援について考え、自分なりの考えを確立 する。

科目名	社会的養護	科目ナンバリング	YK_L22017
担当者氏名	杉山 宗尚		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

この授業では、現代社会における家庭養育の状況や社会的養護の歴史の変遷、体系について把握する。また、家庭養護や施設養護の特質、施設養護の実際を具体的に学び、施設養護の内容を理解する。そして、この学びを通して、施設での実習に活かすことができるようになることを望む。

《テキスト》

「保育と社会的養護」井村圭壯・相澤譲治編著、学文社。

《参考図書》

「明日の子供たち」有川浩 著、幻冬舎。

《授業の到達目標》

- ①社会的養護の意義を理解できる。
- ②社会的養護の歴史的背景を理解できる。
- ③社会的養護の仕組みについて説明できる。
- ④家庭養護と施設養護・家庭的養護について説明できる。
- ⑤社会的養護施設における役割や機能、保育者の援助・支援について理解できる。

《授業時間外学習》

毎回授業で実施した箇所については、テキストやノート、配布資料等を読み返し、復習をすること。
また、レポート課題を求めることがあるので、そのために必要な事柄を調べることを。

《成績評価の方法》

理解度確認試験80%、レポート20%
理解度確認試験（各回のテーマ内容についての知識を問う問題により到達目標の①～⑤について評価する）、レポート（提出状況と授業内容に沿った課題に対するその内容）で評価する。
質問等は授業の前後にて受け付ける。

《備考》

施設実習に大きく関わる授業のため、意欲的に受講して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	子どもの育ちに与える影響について考える。
2	社会的養護とは何か	児童養護施設の実践から社会的養護とは何かを学ぶ。
3	社会的養護の歴史	社会的養護の歴史において貢献した人物と施設概要について学ぶ。
4	子どもの権利	子どもの権利について、児童の権利等に関する条約をふまえて学ぶ。
5	社会的養護の実施機関と法制度	社会的養護における実施機関と法制度について学ぶ。
6	家庭養護	里親、ファミリーホームについて
7	家庭的養護	家庭的養護と施設の形態、小規模化について
8	施設養護①	児童養護施設について
9	施設養護②	乳児院、児童自立支援施設について
10	施設養護③	児童心理治療施設、母子生活支援施設、障害児施設について
11	施設養護の実際	施設養護の流れをふまえ、実際の支援について学ぶ。
12	治療的支援の実際	児童心理治療施設の実践から治療的支援について学ぶ。
13	被措置児童等虐待	被措置児童等虐待について学ぶ。
14	施設運営管理	施設の運営管理について学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業内容に関する理解度の確認

科目名	社会的養護内容	科目ナンバリング	YK_S22018
担当者氏名	藤本 政則		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 基教-A コミュニケーション力		

《授業の概要》

今日の子育て家庭の全体的な状況を説明し、社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景等を理解する。また社会的養護体系についても説明し、保育所以外の児童福祉施設の役割やその養護の実際について理解する。さらにそこでの援助者としての役割についても理解する。

《テキスト》

特になし。適宜資料を配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

保育所以外の児童福祉施設における処遇を体系的に理解する。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
 授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

1. 授業態度、授業内討論への参加、授業レポート（40%）
 2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）（60%）
- 授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
 授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護とは	社会的養護の概念と概要について学ぶ。
2	家庭や社会の役割①	子どもにとって家庭や社会の役割について考える。
3	家庭や社会の役割②	社会の役割と児童養護について考える。
4	社会的養護を必要とする子どもたち	児童相談所や児童福祉施設などからの支援を必要とする子どもや家庭について理解する
5	児童養護の歴史①－欧米の児童養護の変遷－	欧米における児童養護の変遷を理解する。
6	児童養護の歴史②－日本の児童養護の変遷－	日本における児童養護の変遷を理解する。
7	児童養護の領域－養護系施設①－	児童養護施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
8	児童養護の領域－養護系施設②－	乳児院、母子生活支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
9	児童養護の領域－障がい系施設①－	知的障害児施設や盲ろうあ児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
10	児童養護の領域－障がい系施設②－	肢体不自由児施設や重症心身障害児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
11	児童養護の領域－その他の施設①－	児童自立支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
12	児童養護の領域－その他の施設②－	情緒障害児短期治療施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
13	家庭養護としての里親養育①	家庭養育の代表としての里親養育についての基礎知識を習得する。
14	家庭養護としての里親養育②	里親養育の実際を学び、その意義と課題について習得する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの保健 I A	科目ナンバリング	YS_L22004
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			

《授業の概要》

子どもの保健 I A を学ぶ意義と胎生（胎児）から青年期に至るまでの特性を理解し、胎生から子どもが健全に発育・発達・成長できるようにかかわることができるための学習であり、必要に応じて VTR を導入しながらイメージがしやすいようにする。

《テキスト》

『子どもの保健 I - 心身の発達・健康と安全 -』
山崎知克 編著（建帛社）

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ・胎生（胎児）から青年期までの、心と身体のメカニズム、および成長発達ごとの子どもの心と身体の健康を保持増進するための条件や方法を理解することができる。
- ・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

テレビ番組の子どもの保健と関連する番組を視聴する。
【よみうりテレビ 月曜日～金曜日 18:53～18:58
ten! <めばえ>】新生児の特徴や親の子どもに対する思い・かかわり方を感じ取り、イメージできるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

学期末試験（100%）

《備考》

1. ニュースや新聞での『子どもの健康』『子どもの事故』に関する記事を講義に取り入れることもあるので、着目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの保健の意義	保育学に子どもの保健が欠かせないことが解り、健康な子ども像を明確にできる。
2	人の一生の中での小児期	人の一生の中での各小児期が解り、社会的広がり・自立への過程を理解することができる。
3	出生前期の子ども（胎児）	VTR視聴にて出生前期の成長発達の特徴が解り、成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
4	小児の特性	発達の方向性サイクルと大まかな運動発達の順序を理解することができ、説明することができる。
5	新生児の成長発達①	新生児の形態的・機能的・精神的成長発達を理解することができる。
6	新生児の成長発達②	新生児の成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。（VTR視聴予定）
7	乳児の成長発達①	乳児全般の成長発達と各時期ごとの主なからだの発達を理解することができる。
8	乳児の成長発達②	乳児全般の成長発達と各時期ごとの主なこころの発達を理解することができる。
9	幼児の成長発達①	幼児が健全に成長するために幼児の成長発達を阻害する要因を理解することができる。
10	幼児の成長発達②	幼児期前期・幼児期後期の主な養護の目的と導入方法、かかわり方のポイントを理解することができる。
11	乳幼児の健康管理	乳幼児の健康管理の目的、乳児・幼児の健康状態の観察項目が解る。（子どもの保健の観点からの特異な虐待含む）
12	乳幼児の身体発育の評価	乳幼児が年齢に応じて発育できているか、身体発育の評価であるカウプ指数・パーセントイル値曲線を用いて説明することができる。
13	予防接種	集団での予防接種の意義が解り説明することができ、乳幼児に有効とされるワクチンの種類と感染症が理解できる。
14	小児保健行政	子どもを取り巻く主な行政対策が理解できる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの保健 I B	科目ナンバリング	YS_L22005
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
			開講年次・開講期
	2年・II期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			

《授業の概要》

子どもの保健 I A で学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい病気・症状・事故についての理解を深めると共に、子どもの異変時に『子どもたちの命を守る』という的確な判断とその対応が行えるようになるための学習であり、また、施設などにおける乳幼児の健康と安全管理が理解できるようにする。

《テキスト》

『子どもの保健 I - 心身の発達・健康と安全』山崎知克 編著 (建帛社)

《参考図書》

その都度紹介する。

《授業の到達目標》

1. 乳幼児特有の感染症と症状、発達段階ごとの病気と症状、その予防と対応方法が解る。
2. 施設における事故に対する安全対策・事故時の対応が解り、保育者には常に子どもを守るという『危機管理』のがしかかっていることを理解できる。
3. 毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

子どもの保健と関連する番組を視聴する。
【NHK教育テレビ『すくすく子育て』土曜日21:00～21:29】
乳幼児が病気になった時の状態を知り、その対応方法を観て授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておくこと。
*番組テーマは毎週異なる。

《成績評価の方法》

- ・VTR視聴後に課すレポート (10%)
- ・学期末試験 (90%)

《備考》

VTRを全員に観てほしいので、VTR視聴日には欠席しないようにすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの病気の特徴	発達段階ごとの病気の特徴とその病気の症状・対応について理解できる。
2	病気をもった子どもへの保育者のかかわり方	病気をもった子ども・健康な子どもへの保育者の対応・役割が解るようになる。
3	学校において予防すべき伝染病	感染症と伝染病の定義が理解でき、『学校において予防すべき伝染病』の感染症の種類と出席停止期間の基準が解る。
4	子どもによくみられるアレルギー	子どもによくみられるアレルギー性の病気とアレルギーを起こす病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
5	子どもによくみられる痙攣	子どもによくみられる痙攣を引き起こす病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
6	子どもによくみられるウイルス・細菌性感染	子どもによくみられるウイルス・細菌による感染症とウイルス・細菌による食中毒の病気が理解できて、現場でその対応・予防ができるようになる。
7	施設などでの衛生管理	施設などでの感染症の取り扱いが解り、二次感染を予防することの重要性が理解できる。
8	子どものさまざまな病気	子どもによくみられる骨・関節の病気・耳の病気・皮膚の病気・泌尿器の病気・心臓の病気が解り、その対応・予防ができるようになる。
9	子どもの精神保健	幼児期によくみられる『こころ』の病気と発達障害が理解でき、その対応と予防及び保育者へのかかわり方が解る。
10	VTR視聴による学習	小児がんの病気を理解するために『白血病』に罹患した幼児のVTRを視聴し、白血病の状態や治療のつらさが解るようになる。
11	保育現場での事故の種類	保育現場でのインシデント・アクシデント事例から、危険防止・事故防止・安全教育における保育者の役割ができる。
12	保育現場における事故防止・安全対策	子どもの発達段階ごとの事故の特徴とその種類が解り、子どもへの安全教育の重要性が理解でき、子どもに安全教育・指導ができるようになる。
13	子どもの救急処置①	保育所で起こった、けが・鼻出血・やけど・溺水・窒息を紹介しながら、それらの対応が解る。
14	子どもの救急処置②	保育所で起こった熱中症の事例を紹介し、なぜ、熱中症が予防できなかったのか?をディスカッションし、熱中症の原因・症状・予防が解る。
15	まとめ	『子どもの健康』が理解できているか、を確認する。

科目名	こどもの保健Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S22006
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			

《授業の概要》

乳児保育や子どもの保健Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基礎として、子どもの健康問題や、事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するために必要な技術を習得すると共に実践力を養う。

《テキスト》

『子どもの保健演習』 大西文子編集（中山書店）

《参考図書》

子どもの保健1A・1Bで使用した」テキスト

《授業の到達目標》

1. 発達段階に応じた観察・養護・援助ができるようになる。
2. 子どもが体調不良時や病気になったときの適切な正しい判断と対応ができる。
3. 応急処置や救急時の対応が素早く適切にできるようになる。
4. 毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

ニュース等で子どもに関する事故を視聴した場合、あなたがその場に出くわしたとして、どのような応急処置・救急処置を行うか、をイメージしておく。また、幼稚園・保育所実習時、園児の病気や怪我をした時にどのような対応・応急処置をされていたかを想起して、演習に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ・実習に臨む態度（10%）
- ・学期末確認試験（90%）

《備考》

授業テーマによっては、皆さんに持参してほしい物があるので、ご協力をお願いします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児の健康観察①	健康な乳幼児の発育・発達・生理機能を想起しながら、保育所・幼稚園での乳幼児の健康観察方法と保育者として見落としてはならない健康観察を理解する。
2	乳幼児の健康観察②	モデル人形を用いて、乳幼児の体温・脈拍・呼吸の測定方法を理解し、実際に学生同士で測定できるようになり記録を行うことができる。
3	主な乳幼児の症状とその対応	発達段階に応じた発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水を理解し、その対応ができるようになる。
4	乳幼児の養護①	発達段階に応じた抱っこの仕方・衣服の着脱・おむつの当て方の方法をモデル人形を用いて実際に行うことができ、注意点が解る。
5	乳幼児の養護②	発達段階に応じた身体の清潔の目的・方法を理解し、発達段階に応じてその方法をモデル人形を用いて実際にできる。
6	清潔の指導① -手洗いを通して-	発達段階に応じた手洗いの目標がわかり、細菌やウイルスを取り除く手洗い方法ができ、手洗いの重要性を園児に指導することができるようになる。
7	清潔の指導② -むし歯予防-	発達段階に応じたむし歯になりやすい箇所がわかり、その予防ができ園児に指導することができるようになる。
8	保健活動と保健計画	これまでの演習が活かせるように園での保健活動と保健計画立案について理解できる。
9	子どもを取り巻く事故とその予防①	園で発生した事故を紹介し事故が起こる原因となった問題点をグループで考え、幼稚園教諭・保育士には子どもの命を守るという危機管理がのしかかっていることが解る。
10	子どもを取り巻く事故とその予防②	事故の種類を考えて、幼児が転倒事故を起こしやすいのはなぜか？を理解するためにチャイルドビジョンを装着して行動し“なぜか？”の理由が解る。
11	応急手当①	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオを視聴し、現場での応急手当の仕方が解る。
12	応急手当を実際に行う	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオの内容に示されていない、頭部外傷・骨折の疑いの症状と病院に搬送するまでの応急手当を実際に行うことができる。
13	救急蘇生法	『幼稚園・保育所での心肺蘇生法』のビデオを視聴しながら、現場での発達段階に応じた心肺蘇生の仕方が解る。
14	救急蘇生を実際に行う	心肺蘇生用のモデル人形を用いて、子どもの命を守るができるように、発達段階に応じた心肺蘇生ができるようになる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの食と栄養 I	科目ナンバリング	YS_S23007
担当者氏名	武田 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む		

《授業の概要》

保育士として、子どもの食に関する支援をするうえで必要な知識を習得し、実践力につなげていく。小児期の食生活の大切さを理解する。身体に必要な栄養素の働きと、それを含む食品について学ぶ。乳児期・幼児期の食生活の実際を学び、正しい食指導や支援ができる能力を培う。

《テキスト》

「子どもの食と栄養～健やかに発育する食生活をめざして～」
赤塚順一他，著 医歯薬出版（株）

《参考図書》

授業時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 食べ物に含まれている栄養素がわかり、その働きが説明できる。
- 子どもたちの成長発育段階に適した望ましい食生活指導ができる。

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について、教科書をよく読み、内容を把握してこること。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心として、小テスト、レポート、受講態度を総合的に評価する。配分は定期試験を70%、小テストやレポートを20%、受講態度を10%を原則とする。

《備考》

学外実習で、子供たちの食環境について学んでください。また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活	子どもの栄養の意義と特徴、我が国の最近の食生活の現状と課題について理解し、健康的な生活習慣の大切さを学ぶ。
2	子どもの健康と食生活	子どもの発育と栄養の特徴、子どもの食行動の問題点を理解する。
3	食生活のチェック	自分自身の食生活の問題点を見つけることができる。
4	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（炭水化物、脂質）
5	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（たんぱく質、エネルギー）
6	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（無機質、ビタミン、水分）
7	食事摂取基準	食事摂取基準とは何か。日本人の食事摂取基準について理解する。
8	接触・消化機能の発達	小児の食物摂取機序、消化吸収の生理を理解する。
9	栄養状態の評価	食生活が健康状態や成長・発達に及ぼす影響を見るための指標について理解する。
10	献立・調理の基本	献立作成の基本、1日の栄養配分、調理の意義と方法を理解する。
11	乳児期の心身の発達と栄養	授乳栄養（母乳栄養・人工栄養・混合栄養）について理解する。
12	乳児期の心身の発達と栄養	育児用ミルクの種類や特徴を理解し、調乳ができる。
13	離乳期の心身の発達と栄養	離乳栄養（離乳の必要性、離乳食の進め方）について理解する。
14	離乳期の心身の発達と栄養	離乳食の作り方、調理方法などを学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもの食と栄養Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S23008
担当者氏名	武田 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

食事は子どもにとって身体の成長のための栄養摂取だけでなく、基本的な人間形成に極めて重要である。健全な心身の発達を目指すため、保育に関わる人々が、子どもの頃からの発達の栄養学を理解することが求められる。「こどもの食と栄養Ⅱ」では、幼児期から学童・思春期における栄養と食育を含む食環境および特別な配慮を要する子どもの基礎的なことを学ぶ。

《テキスト》

「子どもの食と栄養一健やかに発育する食生活をめざして」
赤塚順一 他著、医歯薬出版（株）

《参考図書》

授業時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
- 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。
- 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
- 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について、教科書をよく読み、内容を把握してこよう。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心として、小テストやレポート、受講態度を総合的に評価する。配分は、定期試験を70%、小テストやレポートを20%、受講態度を10%を原則とする。

《備考》

子どもをとりまく社会・環境と健康に目を向けて、授業には受け身でなく、積極的に取り組んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期栄養の特徴と必要性、栄養上の注意を理解する。
2	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期の間食の意義について理解する。幼児食の実習
3	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期の食生活上の問題と健康への対応を理解し指導法を考える。
4	学童期・思春期の心身の発達と栄養、生涯発達	学童期・思春期の心身の発達、学童期の栄養の問題を理解する。学校給食の目標、栄養管理について理解する。
5	食育について	食育基本法について学ぶ。保育所・幼稚園における食育の目標、内容について理解する。
6	食育について	保育所における食育計画の立て方（計画・実施・評価・改善）を理解する。
7	食育について	保育所における食育の実際、食育のための環境について理解する。
8	食育について	食育推進のための保護者・地域との連携を理解し、保護者に向けての食育便りを作成することができる。
9	家庭における食事と栄養	家庭の食事と栄養の特徴、家庭の食生活をとりまく現状と課題、保育所・地域と家庭との連携を理解する。
10	食品と食の安全	食品の選び方、食の安全性について理解する。
11	施設における食事と栄養	児童福祉施設の給食、保育所の給食の役割・問題点について理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応について理解する。
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	慢性疾患、肥満症、糖尿病の子どもへの対応について理解する。
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障害のある子どもの栄養について学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

科目名	こどもと健康	科目ナンバリング	YS_S22009
担当者氏名	黒崎 令子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

乳幼児の発達の特徴を踏まえ、ふさわしい運動遊び、生活習慣、保育者の役割を理解する。乳幼児の身体や心、子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、より良い方法を考え合う。

《テキスト》

『保育内容「健康」』高内正子他編、保育出版社

《参考図書》

保育所保育指針 2008年フレーベル館
 幼稚園教育要領 2008年フレーベル館
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領2014年フレーベル館

《授業の到達目標》

- 領域「健康」のねらいと内容を理解する。
- 発達の道筋について理解し、具体的な保育方法について知る。
 ○子どもの「健康」について理解し、具体的な指導方法を考えることが出来る。

《授業時間外学習》

日頃から「健康」に関する時事問題について意識を高めて情報を収集しておくこと。意識して子どもに触れる機会を持つようにすること。子どもの様子を観察して学んだことと重ねる事が出来るように。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験60% (2) 平常点30% (学習準備や課題への取り組み、提出物、グループワークでの積極性等) (3) その他10% (授業態度)

《備考》

子どもの「健康」を理解するためにまず、日ごろから自分自身の健康に対する意識を高めておくこと。健康的な生活を心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 領域「健康」とは	領域「健康」 健康保育・安全保育の概念
2	領域「健康」の変遷	領域「健康」について時代の変化とともにその内容の移り変わりについて学ぶ。
3	伝統的行事と子どもの健康	保育行事の分類、年間行事計画、代表的な保育行事とその由来
4	保育行事と子どもの健康な育ち	保育行事の意義
5	子どもの健康と生活	食物アレルギー、子どもの生活習慣病、生活リズムの重要性について
6	自然環境と子どもの健康	健康と自然環境について、自然の中での子どもの遊び、幼児期に触れる自然
7	子どもの遊びと健康	子どもの遊びとは、子どもの遊びの今昔、子どもの遊びと発展性
8	子どもの運動指導と健康①	運動発達の適時性、子どもの運動発達について、子どもの運動発達の今昔
9	子どもの運動指導と健康②	子どもの運動指導の実際①
10	子どもの運動指導と健康③	子どもの運動指導の実際②
11	子どものこころの健康①	子どもの心の発達 子どものストレスとそのサイン
12	子どものこころの健康②	指しゃぶり、トウレット症候群、夜尿症への対応 子どもの権利条約 虐待の現状について、その対応
13	子どもといのちの教育	子どもといのちの出会い、子どもと話すいのち、子どもに命の大切さを伝える
14	子どもの安全教育	子どもへの安全教育と安全管理 安全を守るための避難訓練 子どもと交通安全教育
15	まとめ	幼稚園教育要領、健康とは、指導計画に活かす

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと人間関係	科目ナンバリング	YS_S22010
担当者氏名	鎮 朋子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 		

《授業の概要》

授業は乳幼児期の人間関係の発達段階を理解することから始める。特に「あそび」の役割と子どもの発達について学びを深める。また、保育者間の人間関係、保育者と保護者間の人間関係にも焦点を当てて保育者自身の人間関係について考察する。講義はテキストからの学びと、事例検討やグループ討議、人間関係を育む具体的なあそびの立案をしながら進めていく。

《テキスト》

保育内容人間関係 小田豊・奥野正義著 北大路書房 2009

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

①子どもと人のかかわりの発達過程を理解できる。②子どもどうしの関係性の発達を理解できる。③子どもの関係性の発達における保育者の役割を理解できる。

《授業時間外学習》

①授業前：テキストの予習を期待する。②授業後：授業内容の復習と

《成績評価の方法》

①グループワーク等への参加姿勢、提出物40%②レポート試験60%

《備考》

日常から子どもの姿に接し、理解を深めるように努めることを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション 授業概要の説明から、講義の全体像の把握、到達目標を理解する。
2	保育内容人間関係の目指すもの	保育内容人間関係の目指すものは何なのか、保育内容人間関係の歴史の変遷を概観し、理解する。
3	現代社会と子どもの人間関係	社会環境と子どもの人間関係のかかわりを理解する。
4	道徳性について	幼児期に育てるべき道徳性について学び、理解する。
5	乳児期の人間関係	乳児期の人間関係の特徴について、愛着形成を中心に理解する。
6	幼児期の人間関係	幼児期の人間関係の特徴について、仲間とのかかわりを中心に理解する。
7	あそびと人間関係	乳幼児期におけるあそびと子どもの関係性の発達について理解する。
8	気になる子どもについて	保育における気になる子どもへの理解と、関係性について理解する。
9	保育者間の人間関係	保育者間の人間関係について考え、よりよい職場環境の形成について考える。
10	保育者と保護者の人間関係	保護者との人間関係について考え、子どものために望ましい連携について考察を深める。
11	保育者と地域・関係機関との人間関係	地域の人、機関との連携や日常のかかわりについて理解する。
12	自己理解のワーク	グループワークを通して、自己理解を促進し自身への洞察を深める。
13	関係性を学ぶグループワーク	グループワークを通して、自身の関係性の持ち方を知り、自己理解を深める。
14	事例検討	グループで事例検討することで、人との関係性、子どもの見方を学ぶ。
15	まとめ	子どもの人間関係を育むとはどのようなことなのか、授業を振り返り考察することができる。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと音楽表現	科目ナンバリング	YS_S22013
担当者氏名	立本 千鶴子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

幼稚園教育要領及び保育所保育指針の「表現」における音楽の内容を理解し、幼児の発達と音楽の関連性を知ることが保育者として重要なことである。それらを基盤として、子どもの歌、歌の指導法、調性とコードネーム、教材開発と音楽指導法、楽器の理解及び合奏等を修得する。そして、実際に幼稚園や保育園での使用頻度の高い題材を用いて、保育実践力を身につける。

《授業の到達目標》

- (1) 幼稚園教育要領及び保育所保育指針の「表現」における音楽の内容及び幼児の発達と音楽について説明できる。
- (2) 子どもの歌を習得してレパートリーを増やし、保育者らしい明るさと表情で歌うことができる。
- (3) ペーパーサートや手作り楽器等の教材を、イメージ豊かに教育的視点から創造することができる。
- (4) リズム楽器を正しく奏で、合奏をすることができる。

《成績評価の方法》

授業目標の (1) はレポート、(2) は実技、(3) は作品、(4) は実技で評価する。また、全体を通して授業への参加態度と意欲を加味する。評価の割合は、レポート10%、作品30%、実技30%、授業への参加態度と意欲30%で評価する。授業内においてコメントをフィードバックする。

《テキスト》

- 「新・幼児の音楽教育」/井口太/朝日出版社/2015
- 「実践しながら学ぶ子どもの音楽表現」/石井玲子他/保育出版社/2010

《参考図書》

テキスト以外の楽譜・資料等は、適宜配布する。

《授業時間外学習》

- ・ 授業で学んだことを反復練習して、自分の技能として定着できるように努めること。
- ・ 授業時間内に完成できなかった場合は、次の授業までに仕上げて持参すること。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。幼稚園教育要領・保育所保育指針の「表現」の理解
2	子どもの発達と音楽	0歳児から6歳児までの音楽面の発達について
3	子どもの歌 (1)	四季(春・夏・秋・冬)の歌
4	子どもの歌 (2)	子どもの年齢ごとに適した歌・保育展開に使用できる歌
5	子どもの歌 (3)	園生活における歌・園行事に関する歌
6	歌の表現と指導法	感情(楽しい・悲しい・嬉しい・寂しい等)と状態(賑やかな感じ・可愛らしい感じ・ゆったりした感じ等)の感受と幼児へ指導法
7	調とコードネーム (1)	ハ長調・ヘ長調の調とコードネーム
8	調とコードネーム (2)	ト長調・二長調の調とコードネーム
9	教材開発と音楽指導法 (1)	ペーパーサートの制作とそれを用いた音楽表現指導
10	教材開発と音楽指導法 (2)	手作り楽器の制作とそれを用いたリズム遊び
11	幼児と楽器 (1)	リズム楽器の基本的知識(タンブリン・鈴・カスタネット・トライアングル・マラカス・ウッドブロック・太太鼓・小太鼓等)及び奏法(叩く・こする・はじく等)
12	幼児と楽器 (2)	リズム楽器以外の楽器(鍵盤楽器、木琴・鉄琴等)及び諸外国の楽器・民族楽器
13	合奏及び幼児への指導法 (1)	各年齢に応じた合奏譜を用いた合奏及び導入・指導展開法
14	合奏及び幼児への指導法 (2)	各年齢に応じた合奏譜を用いた合奏及び指揮法
15	総まとめ	これまでの学びの振り返りとまとめ

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと言語表現	科目ナンバリング	YS_S22015
担当者氏名	黒崎 令子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

本講では、人間の言葉の獲得についての基本的な知識を習得する。また、保育の場において子どもの言葉の育ち・言語表現の望ましいあり方を支援するための保育者に求められる具体的な活動や態度について、事例や実践を取り入れながら学ぶ。

《テキスト》

保育内容「言葉」柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編 ミネルヴァ書房

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 2008年 フレーベル館
 『保育所保育指針』 2008年 フレーベル館
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 2014年 フレーベル館

《授業の到達目標》

- ・子どもの言語表現を豊かに支援する方法・技術が習得できる。
- ・子どもの発する言語から子どもの内面理解が深まる。
- ・教職（保育）に対する自らの適性を探求し、実践者としての意欲を高めることができる

《授業時間外学習》

- ・適宜課題を出すので、課題について深く考えたり、調べたりすること。
- ・授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめておくこと。

《成績評価の方法》

- ①筆記テスト60%
- ②レポート課題等の提出20%（提出遅れは減点）
- ③授業内討議や発表などへの参加・態度と成果20%

《備考》

- ・子どもの話し言葉に耳を傾ける習慣を身につける。
- ・豊かな言葉を聞いたときは、メモを取っておく
- ・絵本や童話等をよく読みこなす。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法等のガイダンス。
2	保育の基本と領域「言葉」	領域「言葉」の内容の取扱い
3	領域「言葉」について	領域「言葉」についての基本的な考え方を理解し、子どもにとっての言葉の獲得の意義を知る。
4	言葉の発達過程	子どもは誕生時からどのように言葉を獲得するのか、子どもの発達の過程と言葉のかかわりについて学びを深める。
5	言葉の発達①	言葉の発達のとらえ方と子どものかかわりについて学ぶ。（乳児）
6	言葉の発達②	言葉の発達のとらえ方と、子どものかかわりについて学ぶ。（幼児）
7	言葉と人間関係	言葉の育ちにかかわる諸課題をとらえ、言葉と人間関係・コミュニケーションについて学ぶ。
8	言語表現と身体表現	乳幼児期には、言語表現と重ねて身体による表現がよく見られる。言語表現と身体表現のかかわりを探りながら乳幼児の内面を探る手法を習得する。
9	豊かな言語表現を育む①	豊かな言語表現を支える保育者の役割について、保育の場における実践例を挙げながら援助の仕方を学ぶ（乳児への語りかけ）
10	豊かな言語表現を育む②	豊かな言語表現を支える保育者の役割について、保育の場における実践例を挙げながら援助の仕方を学ぶ（幼児への語りかけ）
11	言葉を育む保育①	経験したことや思い、考えを言葉で表現する力を育てる保育を学ぶ。
12	言葉を育む保育②	言葉が育つ環境 言葉の育つ体験を大切にする保育の実際を学ぶ。
13	言葉を育む保育③	絵本を通して子どもがその言葉の内容を理解し、話の世界・情景等を感じ取れる指導法をさぐる。
14	保育者の専門性と言葉	保育者の実践知 同僚性の中で育まれる知について学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと生活	科目ナンバリング	YS_L22024
担当者氏名	安藤 和彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

こどもが具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技術を身に付けさせ、自立への基礎を養うことについて解説する

《テキスト》

『子どもに伝えたい年中行事・記念日』 萌文書林編集部編
萌文書林

《参考図書》

随時紹介

《授業の到達目標》

- ・こどもを取り巻く生活環境などについて理解する
- ・こどもと生活について、多面的に理解する
- ・こどもへの危機管理について理解する

《授業時間外学習》

次回の授業範囲を予習し専門用語の意味等ノートに整理して理解しておくこと

《成績評価の方法》

定期試験 80% 出席状況 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	こどもの生活実態 (1)	実態調査からみる、こどもの生活実態
2	こどもの生活実態 (2)	実態調査からみる、こどもの生活実態
3	こどもの生活	現代社会とこどもの生活
4	こどものしつけ	しつけの意義、しつけの方法、しつけと虐待
5	こどもの生活リズム	現代のこどもの生活リズム
6	こどもの遊び	あそびの意義、現代のこどもの遊びの特徴
7	こどもの家庭生活	基本的な生活習慣
8	こどもの社会生活	地域の子育て支援、こどもの地域のつながり
9	こどもの生活と行事	こどもの生活と春の行事
10	こどもの生活と行事	こどもの生活と夏の行事
11	こどもの生活と行事	こどもの生活と秋の行事
12	こどもの生活と行事	こどもの生活と冬の行事
13	こどもの生活とメディア	こどもとメディアの活用について
14	こどもと生活の課題	こどもと生活についての問題点を考える
15	こどもの生活の展望	こどもと生活環境の今後について考える

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こども文化論Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S22026
担当者氏名	土居 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

さまざまなこども文化財を保育活動の中で展開できるように概説するとともに、自らもこども文化財の創作を試み、発表（模擬保育）を通して、こども文化の意義を知り、実践力を養う。

《テキスト》

『児童文化と保育』高橋司 宮帯出版社

《参考図書》

『乳幼児のことばの世界』高橋司 宮帯出版社
 『子どもの本100問100答』大阪国際児童文学館編 創元社

《授業の到達目標》

こどもの健全育成に資するこども文化財の高いスキルを習得するとともに、保育者としての感性や創造性を育む。

《授業時間外学習》

日常的にこどもの文化財に触れる機会を持つ。

《成績評価の方法》

定期試験 50% 創作作品・発表内容 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代のこどもの生活とこども文化	現代におけるこども文化の重要性
2	こども文化の重要性	創作への心構え
3	こども文化を創るⅠ（絵本）	ことばあそび絵本の創作
4	こども文化を創るⅠ（絵本）	ことばあそび絵本の発表
5	こども文化を創るⅠ（絵本）	コラージュ絵本の創作
6	こども文化を創るⅠ（絵本）	コラージュ絵本の発表
7	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	紙芝居とは？グループ分けして企画
8	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	作品の創作（絵コンテ、脚本）
9	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	作品の創作
10	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	創作・練習
11	こども文化を創るⅡ（紙芝居）	グループごとの発表・評価
12	おはなしを語る1	素話の素材の探求
13	おはなしを語る2	素話の練習
14	おはなしを語る3	素話の発表と評価
15	こども文化の現状と課題	こども文化の現代的な課題について考える

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育課程総論		科目ナンバリング	YS_L12006	
担当者氏名	澤田 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

保育・幼児教育における課程の意義と役割、また課程編成の原理と方法について講義する。
保育・教育課程、指導計画の実践的な編成能力を育成することを目的とし、保育・幼児教育現場で使用される指導計画等を検討する。

《テキスト》

谷田貝公昭編集 高橋弥生編著 コンパクト版保育内容シリーズ『教育・保育課程論』一藝社 2017年

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育課程・教育課程の意義と役割が理解できる。
- 保育の評価について理解できる。
- 保育の計画、実践、省察、評価、改善のサイクルについて理解できる。
- 指導案の作成ができる。

《授業時間外学習》

予習：テキストの該当箇所および事前配布資料は熟読しておくこと。
復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各界のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること。

《成績評価の方法》

受講態度（20%）、課題提出物等（30%）、筆記試験（50%）の総合評価とする。
提出物にはコメントを付して返却する。

《備考》

課題等の提出物は期限厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の内容と特性、目標を理解する。
2	カリキュラムの基礎理論①	教育活動におけるカリキュラムの意義と役割について学ぶ。
3	カリキュラムの基礎理論②	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領について学ぶ。
4	教育課程・保育課程の意義と実際	教育課程・保育課程編成の原理と方法について学ぶ。
5	指導計画の意義と実際	各種指導計画編成の原理と方法について学ぶ。
6	保育形態と保育方法	様々な保育形態や保育方法による指導計画の特徴と留意点について学ぶ。
7	保育の評価①	保育評価の視点について理解を深める。
8	保育の評価②	保育評価の実践的な実施方法について学ぶ。
9	保育の記録①	保育記録の意義と役割について学ぶ。
10	保育の記録②	実践的な保育記録の作成方法について学ぶ。
11	指導計画の作成①	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。
12	指導計画の作成②	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。
13	指導計画の具体的検討①	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。
14	指導計画の具体的検討②	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。
15	まとめ	これまでに学んだことの整理と総括を行なう。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	YS_S22007
担当者氏名	黒崎 令子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 		

《授業の概要》

テキストや資料、具体的事例を基に幼児理解を深め、保育活動の組み立てに関する講義を行う。実践演習と省察を通して保育技術を培う。

《テキスト》

民秋言他『保育内容総論』北大路書房 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育内容を総合的にとらえ考察する視点を養う。
- 保育活動の計画・展開・評価について具体的事例や演習を通して理解を深める。
- 保育の現代的課題について自分なりの問題意識を明確にする。

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

受講態度（20%）、課題提出物等（30%）、模擬保育（30%）、筆記試験（20%）の総合評価。課題の提出は期限厳守。
 課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の内容と特性、目標を理解する。
2	幼児理解	幼児理解を深めるための視点について考察する。
3	保育内容の歴史的概観	保育内容の歴史的変遷を理解し、現代保育の位置づけを考察する。
4	子どもの生活と遊び	保育における子どもの生活、遊びが持つ意味を考察する。
5	領域と保育内容	領域の特性を理解し、保育内容との関連について考察する。
6	保育内容の計画	活動計画の意義と方法を理解する。
7	活動の展開と保育における指導の特質	保育における指導の特質を理解し、活動計画立案の視点を獲得する。
8	保育の評価と記録	評価及び記録の意義と方法を理解する。
9	事例研究…室内活動	視聴覚教材を用いた実践例を通して、これまでに学んだことの整理と総括を行う。
10	事例研究…戶外活動	視聴覚教材を用いた実践例を通して、これまでに学んだことの整理と総括を行う。
11	模擬保育の実施と反省（3歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
12	模擬保育の実施と反省（4歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
13	模擬保育の実施と反省（5歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
14	保育の現代的課題	現代の保育を取り巻く様々な課題について、各自の問題意識を明確にする。
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	YS_L22009
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

人は生まれてから実にたくさんを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》

筆記試験の評価100%。
質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』 鎌原雅彦・竹網誠一郎(著) 有斐閣 2012
 『絶対役立つ教育心理学 ー実践の理論、理論を実践ー』 藤田哲也(編著) ミネルヴァ書房 2007
 『よくわかる発達障害 第2版』 小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
4	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
5	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
6	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その2	効果的な記憶の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。
9	学級集団の理解	リーダーシップと集団への同調現象について学ぶ。
10	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
11	発達の基礎の理解	発達の規定因としての遺伝要因と環境要因との相互作用について学ぶ。
12	子ども時代の発達の理解	子ども時代の発達について、知的側面ならびに社会的側面から学ぶ。
13	青年期の発達の理解	思春期・青年期の心理的特徴について学ぶ。
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を測定するための筆記試験を行う。

科目名	幼児理解	科目ナンバリング	YS_L22010
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

子どもの内面世界を理解し子どもの心に寄り添うための多様な方法について学ぶ。また子どもの内面を理解したうえで子どもの成長と保護者による子育てに対してどのような支援の仕方があり得るのかについても考えていく。

《テキスト》

『新・保育講座③ 幼児理解と保育援助』
森上史郎・浜口順子（編） ミネルヴァ書房 2003

《参考図書》

『子ども理解と援助 ―子ども・親とのかかわりと相談・援助の実際―』 名倉啓太郎（監修） 寺見陽子（編著）
保育出版社 2004

《授業の到達目標》

- 子どもの内面世界を理解することの重要性について理解すること。
- 子どもの内面世界を理解するための方法について熟知すること。
- 子どもの健全な発達のために保護者支援が必要であることを理解し、保護者支援のあり方について理解を深めること。

《授業時間外学習》

幼児教育や保育に関わる新聞報道などにも関心を持ち、子どもと子どもを取り巻く環境についての認識を深めてもらいたい。子どもを観察したり、子どもと関わる機会を作ったりすることで、子どもの内面に目を向けることを習慣化していこう。

《成績評価の方法》

- ・授業時間内に課す「ミニレポート」に対する評価 70%
 - ・学期末に課す「まとめのレポート」に対する評価 30%
 - ・レポートは提出期限を厳守しなければ採点対象とならない。レポートはコメントを付して返却する。
- 質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児理解の必要性	子どもの目に見える行動を把握するだけでなく、内面世界に目を向けることで行動の意味を理解することがいかに重要かを理解する。
2	子どもの発達の理解	幼稚園教育要領を題材にし、幼児の特性と幼児期の発達の特徴を確認する。
3	子どもの内面の理解	子ども時代の様々なエピソードを受講学生から収集し、そのエピソードを題材として子どもの心の動きを理解し子どもに寄り添うための練習をする。
4	子どもの内面の理解	絵本に描かれた子どもの姿から、子どもの内面世界を理解する。
5	子どもの内面を理解するための方法	実習日誌に記録された子どもの姿から、子どもの内面世界を理解する。
6	子どもの内面を理解するための方法	子どもと関わりつつ観察することによって浮かび上がってくる子どもの内面世界を理解する。
7	子どもの内面を理解するための方法	描画や歌などの子どもによる自己表現を通して、子どもの内面世界を理解する。
8	子どもの内面を理解するための方法	子どもの理解を妨げる要因としてのステレオタイプについて学ぶ。
9	子どもの理解と援助	子どもを理解し援助する上で不可欠となるカウンセリングマインドについて理解する。
10	子どもの理解と援助	遊びを主とした子どもと保育者との関わりを通じて、子どもがどのように育つのかを理解する。
11	子どもの理解と援助	子どもの気になる行動をどう理解し、どのように対処していけばよいかを事例を通して考える。
12	子どもと子育てを取り巻く現状の理解	子育てを取り巻く現代的課題について理解する。
13	保護者支援のありかた	保育者と保護者との間に信頼関係を構築することの必要性を理解し、保育者と保護者との間に信頼関係を構築するためにとり得る方策について学ぶ。
14	保護者支援のありかた	保護者支援の実際を様々な事例から理解する。
15	まとめ	授業を通して理解したことを総括し、レポートを作成する。

科目名	音楽教育	科目ナンバリング	YS_S22018
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

保育現場での実践力を高めるために、年間を通した乳幼児の育ちや総合的表現という視野から音楽を捉える中で、保育における音楽の活用法を学ぶ。また、乳幼児にとってのねらいを達成するために必要な具体的な指導方法について学び、実践力を修得する。

《テキスト》

- 「新・幼児の音楽教育」 / 井口太 / 朝日出版社 / 2015
- 「実践しながら学ぶ子どもの音楽表現」 / 石井玲子他 / 保育出版社 / 2010

《参考図書》

音楽表現のテーマごとに、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 手遊びのレパートリーを増やし、音程を正しく、保育者らしい表現ができるか。
- (2) 様々なリズムパターンを修得できるか。
- (3) 教材を教育的視点からイメージ豊かに作ることができるか。
- (4) 保育指導案を正しく、自分の意図を持って作成できるか。

《授業時間外学習》

- ・ 授業で学んだことを反復練習して、自分の技能として定着できるように努めること。
- ・ 課題を授業時間内に完成できなかった場合は、次の授業までに仕上げて持参すること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)は実技、(2)は試験、(3)は作品、(4)は試験で評価する。また、全体を通して授業への参加状況と意欲を加味する。評価の割合は、実技30%、試験30%、作品10%、授業への参加状況と意欲30%で評価する。授業内においてコメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。
2	手遊びの指導法(1)	各年齢に適した手遊び曲の習得と導入法について
3	手遊びの指導法(2)	季節・動物・数字等それぞれのテーマ性を持った手遊びの習得
4	手遊びの指導法(3)	ストーリー性・ゲーム性・教育的テーマ性を持った手遊びの習得
5	幼児とリズム表現(1)	4分の4拍子・4分の3拍子・4分の2拍子・8分の6拍子の理解と様々なリズムパターン
6	幼児とリズム表現(2)	マーチやスキップ等幼児の動きとリズム・ボディパーカッション
7	幼児とリズム表現(3)	「おはなしリズム」・「おはなしリズム」を組み合わせた音楽表現の創造
8	わらべうた(1)	乳児を対象としたわらべうた・幼児(各年齢ごと)を対象としたわらべうた
9	わらべうた(2)	小道具・ぬいぐるみ・乳幼児に身近な物を用いたわらべうた
10	わらべうた(3)	身体表現を伴うわらべうた・ゲーム性のあるわらべうた
11	音楽の保育展開と教材開発(1)	指人形の制作
12	音楽の保育展開と教材開発(2)	制作した指人形を用いた音楽遊び・身近にある物を用いてできる音楽遊び
13	指導法の検討(1)	音楽を用いた保育指導案の立案・作成(保育園での設定保育を視座として)
14	指導法の検討(2)	音楽を用いた保育指導案の立案・作成(幼稚園での設定保育を視座として)
15	総まとめ	これまでの学びを振り返り、まとめを行う。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育相談支援Ⅰ		科目ナンバリング	YS_S22022	
担当者氏名	渡邊 慶一				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる			

《授業の概要》

保育者は子ども家庭福祉の最前線に立つ者として、子どもに対する生活支援や遊びへの支援（保育技術）のみならず、保護者の立場に寄り添った支援（保育相談支援）をも視野に入れた幅広い役割が求められている。本授業は、保育の特性をいかした保護者支援のあり方について、演習形式の授業を交えながら基本的知識および技能の獲得を目指す。

《授業の到達目標》

1. 保育相談支援の意義と原則について説明することができる。
2. 保護者支援の基本的技能について修得する。
3. 保育相談支援の実際を学び、基礎を応用につなげていく視点を理解する。

《成績評価の方法》

「授業中に課す演習課題への取り組み30%」「授業後に課すレポート課題30%」「授業の前半で実施する確認テスト40%」により評価する。
 欠席が授業回数の1/3を超えた時点で評価の対象としません。
 また、遅刻についても厳正に評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	保育相談支援とは何か
2	保育相談支援の意義	家族・保護者の現状、保護者のニーズ、保護者支援の意義
3	保育の専門性と保育相談支援	求められる専門性、保育相談支援の構造、支援の技術・方法
4	保育相談支援の展開過程	保護者からの相談内容、保育相談支援の展開過程、支援者の倫理、他機関との連携
5	子どもの最善の利益と保育相談支援	子どもの権利、条約・憲章、アボドガシー・代弁
6	保護者の養育力の向上	保護者の理解、エンパワメント、親の成長、子育てのパートナーとしての保育者
7	保護者との信頼関係の構築	受容、共感、自己決定、秘密保持
8	地域資源の活用と関係機関との連携・協力	子育ての地域資源、ネットワーキング・組織化
9	保育相談支援の計画・記録・評価	支援計画の必要性、カンファレンス、記録の方法、ジェノグラム、エコマップ、評価の種類と方法
10	保育所の特性を活かした保護者支援	面接技法、相談・助言、保育指導、子育て支援センター
11	特別な支援を必要とする保護者への支援	子ども虐待が疑われる家庭、ひとり親世帯、発達障がい
12	問題・課題を抱える保護者への支援	不適切なかかわり、苦情を繰り返す、保護者同士のトラブル、地域型保育・小規模保育
13	保育相談支援の事例検討①	育児不安、生活課題、利用できる社会資源
14	保育相談支援の事例検討②	児童相談員と保育士の役割、多職種連携・他分野との連携
15	まとめ	講義と演習のふりかえり

《テキスト》

成清美治・真鍋頭久編『家庭支援論・保育相談支援』学文社

《参考図書》

小原敏郎・橋本好市・三浦主博編『学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 演習・保育と保護者への支援—保育相談支援』みらい
 橋本好市・直島正樹編著『保育実践に求められるソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
 柏女圭峰。橋本真紀編著『保育相談支援』ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

レジュメプリントやワークシートを作成し配布します。授業のふりかえりや準備学習を行うと共に、子どもや家庭に関連するニュースや新聞、また身近で起こった出来事などを通して、日頃から社会的な動きに関心を持ち、問題意識を高められるよう心掛けてください。

《備考》

ワークショップ形式の授業も取り入れていますので、積極的に参加するようにしましょう。そのため、出欠席に関する自己管理を十分行うようにしましょう。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習ⅠA	科目ナンバリング	YS_F22025
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

実際に保育所保育の現場に参加し、乳幼児理解を深めるとともに保育士の役割について実践的に学ぶ。

《テキスト》

実習園の指導内容を参考にする事 久富陽子『保育の学びスタートブック』萌文書林 相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》

実習園の指導を参考にする事 保育実習指導ⅠAで用いた資料やノートを参考にする事

《授業の到達目標》

- 保育所の役割と機能について理解する。
- 保育所における乳幼児の生活を実践的に学ぶ。
- 保育士の職務について実践的に学ぶ。
- 観察や記録、省察を通して保育実践の在りようを具体的に学ぶ。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

実習園の評価、実習ノートの記入内容を総合的に判断する(100%)。
 課題へのフィードバック：わからないことは随時質問を受け付ける。

《備考》

円滑な実習が行えるよう体調管理に万全を期すこと。早朝より開始される保育所生活に十分対応できるよう生活リズムを整えて臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所実習	保育実習指導ⅠA、その他既習科目の内容を十分に踏まえること。実習園の指導に従い、積極的に実習を行うこと。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習指導ⅠA		科目ナンバリング	YS_S22029
担当者氏名	澤田 真弓			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

保育所での現場実習に向けて、実習の意義と目的を理解する。各自の実習課題を明確にし、事前準備を行う。実習終了後は自己評価、他者評価を基に実習の振り返りを行う。

《テキスト》

久富陽子他『保育の学びスタートブック』萌文書林 『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 相馬和子編『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育所の役割と機能を理解する。
- 実習内容や方法、心得を理解し、現場実習に向けた準備を整える。
- 保育所を利用する子どもや保護者についての理解を深める。
- 保育士の職務内容について理解を深める。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

事前指導（50%）、事後指導（50%）
 課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

全出席を前提とする。やむを得ず欠席、遅刻をする場合は必ず事前に連絡をすること。連絡先については授業の初回に提示する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と実習全体の説明 保育士資格について 実習手続きについて
2	事前指導1	実習の意義と目的
3	事前指導2	保育所の生活（1） 乳児クラス
4	事前指導3	保育所の生活（2） 幼児クラス
5	事前指導4	保育所の生活（3） 子育て支援活動 保育所に勤務するさまざまな職種
6	事前指導5	保育士の職務
7	事前指導6	実習の心構え 実習生に求められること 子どもや保護者、職員とのかかわり
8	事前指導7	実習中に学ぶこと 実習における観察の視点
9	事前指導8	実習ノートの記入（1） 実習ノートの意味 記録の書き方（1）
10	事前指導9	実習ノートの記入（2） 記録の書き方（2）
11	事前指導10	直前指導 実習中の注意事項 実習終了後の注意事項
12	事後指導1	実習の振り返り①
13	事後指導2	実習の振り返り②
14	事後指導3	実習報告①
15	事後指導4	実習報告②

科目名	子育て支援地域活動 I	科目ナンバリング	YH_L22001
担当者氏名	山村 けい子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子育て支援の理念や歴史文化的な視点から子育てを検討します。また、保育所、幼稚園、地域子育て支援センター等の活動を事例から学びます。地域子育て支援活動の中で様々な家庭の子育て支援を理解し、効果、課題を明らかにします。地域子育て支援拠点の成り立ちや制度を知ることにより、子育て支援地域活動の実践的な学びへと展開をします。

《授業の到達目標》

- 子育て支援の歴史文化的な視点から子育て支援の意義を理解する。
- 保育所、幼稚園、地域子育て支援センターなど子育てに関連する施設の機能や目的を知り、実践が展開できるように計画をする。
- 地域子育て支援拠点のことを学び、在宅の子育てについても理解を深める。

《成績評価の方法》

- (1)授業中の態度や発表等 (10%)
- (2)レポートなど提出物 (30%)
- (3)筆記試験 (60%) 授業の最後には振り返りを行う

《テキスト》

子育て支援プロジェクト研究会編『子育て支援の理論と実践』ミネルヴァ書房

《参考図書》

渡邊頭一郎・橋本真紀編著『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引』中央法規
授業中に適宜紹介をする。

《授業時間外学習》

- (1)授業中に出されて課題には積極的に取り組むこと。
- (2)子育て支援移管する情報や資料を必ず収集し、整理しておくこと。
- (3)ボランティア活動に積極的に参加することが望ましいが、授業を優先すること。

《備考》

授業形態は講義ですが、理論だけでなく実践からも子育て支援地域活動を考えていきます。実践活動も取り入れることもあります。学生の主体的に学びを深めることを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て支援の理念	① 子育て支援は何のためか ②子育て支援の研究動向
2	子育て支援の歴史文化的諸相	① 伝統社会の子育て ② 家族の近代化と子育て不安 ③ 少子化社会の子育て不安
3	幼稚園による地域の子育て支援	① 地域の子育て支援の意義 ② 幼稚園の園庭開放の実際 ③ 地域の子育て支援の在園児とのかかわりと保護者の育ち
4	保育所における子育て支援	① なぜ保育所が子育て支援をするのか? ② 現代家族の課題と政策 ③ 保育所が行う子育て支援(保護者支援) ④保育所外で行う子育て支援の実践例
5	子育てセンターの活動と課題	① 実践事例にみる活動の実際 ② 子育てセンターにおける活動内容 ③ 子育てセンターの課題
6	地域子育て支援活動Ⅰ	① 地域に根ざした子育て支援 ② 保育所併設型地域子育て支援センターの試み ③ 障害家庭を支援する
7	地域子育て支援活動Ⅱ	④ 地方自治体の子育て支援 ⑤ NPO, 社団法人の子育て支援 ⑥ 家庭的保育の子育て支援
8	子育て支援の効果	① 子育て意識尺度の開発 ② 子育て支援と子育て意識 ③ 子育て支援の効果 ④ 効果的子育て支援
9	父親の子育ての支援活動	① 父親を取り巻く状況 ② 父親を支える子育ての支援とは ③ おやじの会がもたらす子育ての支援とは
10	子育て支援活動の展望と課題	① 錯綜する子育て支援 ② ユニヴァーサル社会の中の子育て ③ 子育て支援のスタンス・パラダイム ④ 子育て支援のアラカルト
11	地域子育て拠点とは	子育て支援拠点とは何か
12	地域子育て支援拠点の成り立ち	① 地域子育て支援センター事業の成り立ち ② つどい広場事業の成り立ち
13	地域子育て支援拠点の制度上の位置づけ	母親たちがゆっくりできる広場
14	学修まとめ・実践例	① 地域子育て支援活動と展望 ② 地域子育て支援の担い手を育てる・実践例
15	筆記試験と振り返り	教科書を中心に授業で学んだことについて筆記試験を行う

平成27（2015）年度入学者

専門教育科目

科目名	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L23012
担当者氏名	小出 享一			
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

相談援助の過程とそれに係る知識や技術について理解し、事例分析の意義や方法、相談援助の実践について学ぶ。授業ではテキストのほか、新聞記事、DVDなども活用する。また相談援助に実際に関わっているソーシャルワーカーにゲストスピーカーで来てもらい、話しをしてもらう予定である。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法Ⅱ』（中央法規出版）

《参考図書》

参考図書は授業時にその都度、紹介したい。

《授業の到達目標》

①相談援助の理論、対象者、実践モデルについて学ぶ。②相談援助の過程とそれに係る知識、技術、相談援助の実践について学ぶ。

《授業時間外学習》

社会福祉は、その時々々の政治、社会、経済のあり方や状況によって、変化し、動く。法律・制度や福祉サービスはその影響を受けることが多い。新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用して、社会の動向などに注目しておいてほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験、出席によって評価する。（出席重視）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	障がいを持って生きるということ（自己紹介と授業の進めたかたについて）
2	相談援助における対象の理解	①社会福祉相談援助活動の概念と定義、②相談援助の対象、③新たなソーシャルワークの展開
3	ケースマネジメント	①ケースマネジメントの基本、②過程、③アセスメント、④ケアプランの作成・実施、⑤特徴、⑥ケースマネジメントとソーシャルワークの関係
4	グループワーク	①グループを活用した相談援助、②自助グループを活用した相談援助
5	コーディネーションとネットワーク	①コーディネーションの目的と意義、②ネットワークの目的と意義
6	相談援助における社会資源の活用・調整・開発	相談援助における社会資源の活用・調整・開発
7	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ	①実践モデルとその意味、②治療モデル、生活モデル、ストレスモデル、③ジェネラリストソーシャルワークの展開と実践モデル
8	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ	①エンパワーメントアプローチ、②ナラティブアプローチ、③認知アプローチ、④その他のアプローチ
9	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ	①スーパービジョンの意義と目的、②スーパービジョンの方法と留意点、③コンサルテーション
10	ケースカンファレンスの技術	①ケースカンファレンスの意義と目的、②運営と展開過程、③ケースカンファレンスの実際、④ケースカンファレンスの評価と普遍化
11	スーパービジョンとコンサルテーション	①スーパービジョンの意義と目的、②スーパービジョンの方法と留意点、③コンサルテーション
12	個人情報保護と情報通信技術の活用	①相談援助における個人情報保護、相談援助における情報通信技術の活用
13	事例研究・事例分析	①事例研究の目的と意義、②事例研究の方法と留意点、③事例分析の目的と意義、④事例分析の方法と留意点
14	相談援助の実践	実践事例
15	まとめ	相談援助の理論と方法Ⅱのまとめと社会福祉士国家試験の対策について

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I		科目ナンバリング	YF_L13004
担当者氏名	谷口 泰司			
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む 			

《授業の概要》

不慮の事故や疾病がない限り、人は誰しも高齢期を経験する。高齢期における尊厳を考えることは、その前段としての「今をどう生きるか」「そのために今何が必要か」を考える際の視野を拓けるものとなる。本講義では、高齢者の理解にはじまり、介護保険制度だけでなく様々な公的支援の概要と、公的支援以外の地域や家族のあり方について学習していく。

《授業の到達目標》

- ・高齢者の生活課題は「介護」だけではないことを説明できる。
- ・高齢者は課題と生活同等以上の強み・可能性を持つことを説明できる。
- ・豊かな高齢期を迎えるために幼少期～青壮年期に何が必要かを考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・試験80%
- ・レポートまたは質問票による質疑内容20%

《テキスト》

指定しない。
毎回の講義ごとに配布する資料を用いる。

《参考図書》

高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版（中央法規）

《授業時間外学習》

歴史領域を講義する個所以外においては、高齢者の支援は極めて日常的な問題である。日々の新聞やテレビ等において、高齢者や地域といったキーワードを含む報道に対し、批判的に考察するという習慣づけが望ましい。

《備考》

制度や法律に完全なものは一つもない。また、高齢者支援の答えに唯一絶対のものはない。このことをふまえ、常に講義内容を批判するという姿勢で臨むことが大事である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 高齢者とは何か	・講義全体の流れとスケジュール、聴講に際しての留意点を理解する。 ・高齢者に関する様々な定義から、自身としての高齢者像の輪郭を持つ。
2	少子高齢化の推移と現状 少子高齢社会の将来予測	少子高齢化の推移、特に戦後の高度成長期がわが国の人口動態に与えた影響を理解するとともに、現在の人口減少局面が将来にどのような影響があるかを説明できる。
3	高齢期の心身特性と課題	高齢期に特有の心身特性を理解し、これら心身特性に対し何等の支援も行われない場合に、いかなる生活課題を抱えることになるかを説明できる。
4	高齢者を取り巻く環境因子の特性と課題	本人以外の環境が、高齢者に及ぼす影響を理解し、社会としての支援の必要性・環境整備の重要性を説明できる。
5	高齢期の所得保障と生活水準	高齢期の所得保障の手段として何があり、いかなる水準かを理解する。また、高齢期における所得格差が生み出す諸課題について説明できる。
6	高齢期の医療保障と疾病	後期高齢者医療制度をはじめとする医療保障の現状と諸課題について理解し、疾病と生活水準の関係性、医療保障の意義について説明できる。
7	高齢期の諸活動	高齢者の強みを生かした諸活動の現状をとおして、高齢期における様々な可能性を理解することで、第1週で思い描いた高齢者像の再考を試みる。
8	高齢者支援の沿革	高齢者支援が今日の姿となるまでに、わが国が迎ってきた諸施策や家族支援の沿革を説明できる。
9	介護保険制度の創設	1990年代のゴールドプランの重要性と介護保険制度の関係を理解し、介護保険制度創設の意図と、創設に至るまでの各制度における問題の所在について説明できる。
10	介護保険制度における介護サービスの特徴	介護サービスの種類ごとの特徴と意義を理解するとともに、介護保険制度の限界について、支給限度基準額と居宅生活継続の可否等を含めた問題の所在を説明できる。
11	介護保険制度における地域包括ケアの意義と課題	地域包括ケアの必要性とあるべき姿を把握したうえで、地域包括ケアにかかる市町村ごとの格差の現状を理解し、専門職としての活動の在り方を説明できる。
12	老人福祉法の意義と課題	介護は高齢者支援の一部に過ぎず、より広範な「福祉」が必要であることを理解し、高齢者支援の幅の広さを説明できる。
13	高齢者虐待の実態と今後のあり方	高齢者虐待の実態を理解し、虐待防止に必要な視点、専門職として留意すべき点を説明できる。
14	高齢障害者を取り巻く諸課題	社会的排除状態にあった障害者の高齢化がもたらす諸課題や、地域の偏見により隠されてきた高齢障害者の生活実態を説明できる。
15	まとめ（尊厳とは何か）	全体のまとめを通して、第1週及び第7週で描いた高齢者像との比較を行いつつ、尊厳とは何か、生活支援ではなく生き方支援とは何かについて説明できる。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	科目ナンバリング	YF_L23014
担当者氏名	河野 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

高齢者支援の方法，専門職の役割について理解するとともに，介護の概念やプロセス，多様な介護の態様について学ぶ。

《テキスト》

『高齢者に対する支援と介護保険制度(新・社会福祉士養成講座13)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版，及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業の到達目標》

高齢者支援の方法，専門職の役割について説明できる。介護過程の展開技法について理解する。介護の内容や対象者別の介護方法について理解する。

《授業時間外学習》

講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験80%，授業への参加とその成果20%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	高齢者に対する支援	I期講義のまとめとⅡ期講義の課題と対象
2	高齢者支援の方法と実際(1)	高齢者支援の方法
3	高齢者支援の方法と実際(2)	介護保険法における連携と実際
4	専門職の役割と実際	他職種連携と専門職の倫理
5	介護の概念や対象(1)	介護の概念と範囲，介護の理念
6	介護の概念や対象(2)	介護の対象，介護予防の概念
7	介護過程(1)	介護過程の概要
8	介護過程(2)	介護過程の展開方法
9	介護各論(1)	自立に向けた介護
10	介護各論(2)	食事・口腔衛生の介護，入浴・清潔・排泄の介護
11	介護各論(3)	認知症ケア
12	介護各論(3)	終末期ケア
13	介護各論(4)	住環境
14	近未来の高齢者福祉課題(1)	近未来社会における高齢者問題と支援システム
15	近未来の高齢者福祉課題(2)	能動的積極的な支援(アクティブエイジング，グロウイングホルダー)講義のまとめ

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	加齢及び障害に関する理解		科目ナンバリング	YF_L23016
担当者氏名	奥 典之			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	3年・Ⅱ期			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

高齢者・障がい者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行っていく。本講は免許・資格取得科目のため、それらのエッセンスを適宜加えていくことにより、それらの専攻者としてのアイデンティティをもてるような内容とする。

《テキスト》

中野善達・守屋國光 編著「老人・障害者の心理」（改訂版）
福村出版

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

社会福祉の専門職をめざす学生に対して、高齢者や障がい者に適切に接し、あるいは支援したり介護し、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになるために、高齢者や障がい者をよりよく理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめる訓練を続けて欲しい。

《成績評価の方法》

平常点と筆記試験、及び課題レポートによる。
全評価に対する割合（％）については、最初の授業で説明する。
提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老人の心理	老年期と老化について
2	老人の心理	老人意識の問題について
3	障害とその心理的影響	障害と障害者について
4	障害とその心理的影響	障害の受容について
5	老人の心理的特性	老年期の精神機能について
6	老人の心理的特性	老年期の知能、記憶機能について
7	老人の心理的特性	老年期の人格と適応について
8	障害の原因・程度・種類別心理的特性	先天性・中途、中・軽度障害、視覚障害について
9	障害の原因・程度・種類別心理的特性	聴覚、言語、内部障害、肢体不自由について
10	障害の原因・程度・種類別心理的特性	知的、精神障害、軽度発達障害について
11	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の精神障害とその心理について
12	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の機能障害とその心理について
13	高齢者・障害者への対応	高齢者事例研究について
14	高齢者・障害者への対応	障害者事例研究について
15	老人・障害者の心理	総括として

科目名	障害者福祉論	科目ナンバリング	YF_L23017
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む		

《授業の概要》

就学前の集団保育の場では、義務教育の場より統合保育が進んでいるといわれる。就学前の子どもに関わる仕事をしたいと考える受講生に、障害があるということ、障害のある子どもを持つということ、その保護者への支援、その子どもの将来像について考える機会を提供する。

《テキスト》

プリント教材の配布、視聴覚教材の利用。

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 障害に関する資料をもとに、受講生は意見交換をし、障害に関する視野を広げ、知識を深め技術を磨き、実践に役立てられるようにする。
- 自らの障害者福祉論を確立させ、他者に説明することができる。
- 授業の学びを「保育実習」等において、役立たせることができる。

《授業時間外学習》

障害のある人に関する新聞報道等には関心を持ち、現状を把握するよう努めてもらいたい。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲（50%）
 課題の提出：授業終了時に学修の理解度を確認するために小テストを課し、その後返却し復習の機会とする。（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業のねらい、授業内容、授業の進め方、到達目標と評価について説明する。「障害があるということ」について考え理解する。
2	障害者支援の歩み - 1	スウェーデンにおける脱施設化の経緯（DVD）について理解する。
3	障害者支援の歩み - 2	スウェーデンの実態とわが国の現状について理解する。
4	障害のある子とともに - 1	障害のある子どもを持つということについて理解する。
5	障害のある子とともに - 2	わが子が子どもの時に会った保育者・先生について保護者が語る（DVD）を視聴して、保育者のあるべき姿について理解する。
6	統合保育から統合教育へ	健康診査（5歳児健診、就学時健診）の現状を理解する。
7	特別支援学校と普通学校	子どもの最善の利益を視点にして、学校教育について理解する。
8	ふつうに生きるということ - 1	作業所で働くということ（DVD）を視聴して、障害のある人のふつうの生活を理解する。
9	ふつうに生きるということ - 2	当事者からの報告（DVD）を視聴して、自閉症について理解する。
10	ふつうに生きるということ - 3	法定雇用率と特例子会社について学習し、障害者雇用について理解する。
11	障害の概念の変化 - 1	ICFの概念を理解する。
12	障害の概念の変化 - 2	ICFの活用の仕方について学習し、その利点について理解する。
13	インクルージョン - 1	統合保育の意義について理解する。
14	インクルージョン - 2	糸賀一雄と金子みすゞの世界（DVD）について考え理解する。
15	まとめ	授業全体を振り返り、各自の障害者福祉論を報告する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	権利擁護と成年後見制度		科目ナンバリング	YF_L23018
担当者氏名	小林 茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

社会で暮らすうえで誰もが基本的人権が守られ暮らしていく権利があります。社会福祉の支援を求める人々は、権利侵害を受けやすい状況にあります。社会福祉の専門職をめざす学生として、権利擁護の仕組みを学ぶとともに、その運用について理解を深めます。

《授業の到達目標》

- (1) 日本国憲法、民法等を理解し、その運用について正しく把握する
- (2) 権利擁護、成年後見制度の仕組みと関係諸機関について理解する
- (3) 権利擁護を必要とする人々の現状を理解し、専門職連携について実践を学ぶ

《成績評価の方法》

- (1) 授業における課題、事例検討などへの参加 (20%)
- (2) 定期試験 (80%)

《テキスト》

「新・社会福祉士養成講座19(第4版) 権利擁護と成年後見制度」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版(2015年)

《参考図書》

「自立生活の思想と展望」定藤丈弘、岡本栄一、北野誠一編 ミネルヴァ書房(1993年)
 「自立と福祉」庄司洋子、菅沼隆、河東田博、河野哲也編 現代書館(2013年)

《授業時間外学習》

予習すべきテキストの箇所は適時指示をします。

《備考》

授業中における携帯電話使用の禁止、私語、無断離席など授業を妨害する者は、他の学生の権利を侵害したもの見なします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉と権利擁護	オリエンテーション/ 社会福祉の現場における権利擁護の必要性の理解、児童の権利擁護の概要の理解をする
2	日本国憲法の基本原理の理解	日本国憲法の基本原理、特に基本的人権、生存権、自由権、社会権について理解をする
3	民法の理解①	意思能力、行為能力、契約、不法行為、消費者保護の概念を理解をする
4	民法の理解②	親族法、親権、扶養、相続等について理解をする
5	行政法の理解	行政行為等の行政法の理解、行政救済三法の理解をする
6	成年後見制度の概要①	未成年後見制度、成年後見制度の概要を理解するとともに、成年後見の概要について理解する
7	成年後見制度の概要②	保佐、補助の制度概要について理解するとともに、任意後見人制度を理解する
8	日常生活自立支援事業の概要	日常生活自立支援事業の概要を理解するとともに、社会福祉協議会における実践事例から制度の活用の仕方を学ぶ
9	成年後見制度利用支援事業の概要	成年後見制度利用支援事業の概要を理解する
10	権利擁護に関わる組織団体の役割	家庭裁判所、法務局、市町村等権利擁護に関わる組織・団体について理解する
11	権利擁護に関わる専門職の役割	弁護士、司法書士、社会福祉士など権利擁護に携わる専門職を理解するとともに、近年注目が集まる市民後見について考察する
12	権利擁護活動の実際①(障害者への支援)	知的障害者、精神障害者等への権利擁護活動の事例から、権利擁護の実践を理解する
13	権利擁護活動の実際②(要保護児童への支援)	要保護の児童への権利擁護の事例から、権利擁護の実践を理解する
14	権利擁護活動の実際③(多問題家族への支援)	多問題家族への権利擁護活動の事例から、地域での日常生活支援の実践を理解する
15	総論	社会福祉における権利擁護制度の役割について、これまでの授業を振り返りながら考察していく

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	地域福祉の理論と方法 I	科目ナンバリング	YF_L23019
担当者氏名	田端 和彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

地域社会が大きく変容する中であって、児童の虐待問題など子どもを取り巻く環境も変化をしています。こうした課題に取り組む社会福祉の視点は、国家が制度と枠組みを定める福祉国家から、多様な地域社会のそれぞれの状況に合致する福祉を目指す福祉社会の方向に移り変わりつつあります。そうした時代を踏まえ、地域福祉を学ぶ際に必要な各分野の基礎知識を身につけます。

《授業の到達目標》

福祉社会の中での地域の重要性と地域福祉の意義を理解し、地域福祉に係る理論、制度、歴史的経緯、利用可能な資源（人材や組織を含む）についての知識を獲得し、福祉の専門職やそれを支える専門職として地域と関わる実践に役立てるようにします。

《成績評価の方法》

定期試験で70%を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30%）。

《テキスト》

井村圭壯、相澤譲治編著『地域福祉の原理と方法（第2版）』学文社

《参考図書》

必要に応じてプリントを配布します。

《授業時間外学習》

事前学習としては、次回の授業に関連し調べておくことを指示します。事後学習としては授業で宿題を課すことがありますので、レポートとして提出してください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要と地域福祉の位置づけなどを理解します。
2	地域福祉の思想と理論	地域福祉の理論について、岡村の考え方から、2000年以降の新しい理論における考え方を学びます。
3	地域福祉の形成と発展	先進国イギリスの制度的な歩みと日本における明治時代からの地域福祉の源流、戦後の発展、さらに戦後アメリカからもたらされた地域組織化について学びます。
4	地域福祉の法律と組織	地域福祉法という法律はありませんが、社会福祉法、地方自治法など関連する法律が多くあり、それに基づく組織があります。主なものについて学びます。
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割	地域福祉の要でもある社会福祉協議会の歴史的な経緯や現在の活動を学びます。
6	地域福祉の主体と対象	地域福祉の推進を担う存在は何か、それらはどのような役割を果たすものであるのか、を学びます。
7	地域福祉の専門職	地域には様々な専門職の方がいます。地域福祉を支える専門職の役割と推進する中心者たるコミュニティソーシャルワーカーについて学びます。
8	地域福祉における社会資源	フォーマル、インフォーマルを問わず、地域にある様々な社会資源の存在とその開発について学びます。
9	地域福祉における福祉ニーズの把握方法	ニーズとは、本来あるべき像と実際との違いであり、それが社会的に認められたものを社会的ニーズとといいます。福祉におけるニーズの定義とその調査方法を学びます。
10	地域トータルケアシステム	人の抱える課題は複雑化しており、それらを縦割りで区分された状況での解決は困難です。チームアプローチや制度の連携など具体的な在り方を学びます。
11	地域福祉における福祉サービスの評価	福祉サービスの評価が必要となる背景は何か、そしてそのための仕組みはどのようなものかを学びます。
12	地域福祉と福祉計画	地域福祉計画の内容とその策定に係る過程、課題について学びます。
13	地域福祉と福祉教育	実は、学校教育の中に福祉教育は組み込まれていました。さらに福祉教育は社会教育の場面でも発揮されます。そうした事情について学びます。
14	地域福祉とNPO・ボランティア活動	1998年のいわゆるNPO法の制定以来、成長したNPOは地域福祉を支える要ともなりつつあります。その役割と福祉との関係を学びます。
15	地域福祉の財源基盤、そして課題と展望へ	地域福祉を動かすためには「お金」が不可欠です。財政学の基礎を含め、お金の出所を学びます。そして15回の授業を踏まえ地域福祉の将来の展望について学びます。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	福祉行財政と福祉計画		科目ナンバリング	YF_L23020
担当者氏名	西澤 正一			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力			

《授業の概要》

三位一体の改革や基礎構造改革、また介護保険制度や障害者総合支援法等の導入に伴い、福祉は大きな転換を余儀なくされた。それと共に、今日までの中央集権的な福祉システムから地方分権型へと、行財政のあり方も大きく変化し、地方自治体の役割が問われている。社会福祉の現状と今後の動向を理解し、福祉の法制度と行財政の双方から学んでいく。

《テキスト》

著者名 新社会福祉士養成講座第10巻「福祉行財政と福祉計画」第4刷発行 出版社 中央法規出版2014.4

《参考図書》

「わよくわかる福祉と法」ミネルヴァ書房2010.10 第2刷発行

《授業の到達目標》

①基本的な福祉制度の形成過程を理解する。②これまでの国と地方の役割や福祉サービスの供給体制や制度の経緯をしる。③福祉サービスを利用する住民の視点で制度政策を理解する。④家庭や児童、また高齢者や障害者等が地域で自立して生活できる仕組みを理解する。⑤少子高齢化の問題を自分たちの課題として捉えていく。以上を通し、福祉行財政の全般を理解し、自らも福祉計画に参画することができる。

《授業時間外学習》

授業の中で適時課題を課すので、随時指示された期日までに提出のこと。

《成績評価の方法》

出席状況(20%)＋学期末試験(60%)＋その他、受講態度など(20%)で総合的に判断。

《備考》

授業内容は講義の進展により前後する場合があるが、基本的にはテキストに沿う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉の学習を始めるにあたって、それを取り巻く環境や社会福祉法制の原理と学習について概要説明。
2	福祉行財政と福祉計画①福祉法制度の展開	日本における社会福祉の起源と戦後の展開。また措置から契約への制度転換、今日の日本の基礎構造改革等について学ぶことができる。
3	福祉行財政と福祉計画②福祉計画の概要	福祉の概念を多面的な角度で整理し、半世紀以上にわたる社会福祉の法制度の展開過程を知り、福祉計画が登場した背景を知ることができる。
4	福祉行政の骨格と社会福祉の法制度	社会福祉援助に取り組む実践の場が、どのような法制度や福祉行政によって規定されているかを知ることができる。
5	福祉行政の組織と社会福祉基礎構造改革	措置から利用者の自己選択、自己決定に基づく制度転換をもたらせた社会福祉の構造改革と、社会福祉の基礎構造について学ぶ事ができる。
6	福祉財政	国や地方自治体の社会福祉財政の全体像について学ぶ事ができる。
7	福祉行政の組織と団体の役割	福祉八法を中心とする公的な組織や団体を知り、その役割や課題について学べる。
8	福祉専門機関と専門職	介護保険制度の創設や要介護認定の方法、サービス利用の手続きについて学ぶ事ができ、福祉に携わる専門職として実践で有効な知識を身につけることができる。
9	福祉計画の目的と意義	福祉計画がどのような文脈の中で行政で取り組まれているかを理解し、その目的を踏まえた計画策定がなされていることを理解することができる。
10	福祉計画の基本的視点と課程及び留意点	福祉援助の実際、地方自治での福祉計画を知り、その目的や役割を理解することができる。
11	福祉計画におけるニーズの把握と評価	福祉計画作成の際の原点でもあるニーズの把握技法やその評価を知ることができる。
12	福祉計画への住民参加	福祉計画への住民参加の現状を知ることができる。
13	老人福祉計画と介護保険計画及び障害者計画	今回まで学んだ福祉計画の理解を元に、実践編として計画者の立場から福祉計画を一つのシステムとして捉え、その特性や方法などを5つの枠組みで研究できる。
14	次世代育成支援計画と地域福祉計画	老人福祉計画や介護保険計画の作成と共に義務づけられている、次世代支援計画や地域福祉計画を学ぶ事ができる。
15	まとめ	社会福祉行財政の全般的理解と共に、学生自らが主体的に問題意識を持ち、多様な福祉サービスのなかで、自己ができることを考えられるようになる。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	福祉サービスの組織と経営		科目ナンバリング	YF_L23021
担当者氏名	西澤 正一			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力			

《授業の概要》

福祉六法を基盤とする福祉のあり方は、その時代の背景と共に常に変化しているが、特に今日、「少子超高齢化社会の到来」という深刻な社会問題に直面するなかで、公立や社会福祉法人が中心となって運営していたサービスに加え、多様な形態の福祉サービスの提供主体が参入してきた。利用者自らが福祉サービスを選択する時代のもとで、選ばれる施設となるための組織や施設経営のあり方を、福祉実践体験を通して学ばせる。

《授業の到達目標》

①福祉サービスに関わる組織や団体について学ぶ。②福祉サービスに関わる組織の経営についての基本的理論を理解する。③福祉サービス提供組織の経営の実際を学ぶ。④福祉サービスの管理運営の方法と実際を理解する。以上を通して、児童福祉に関わる福祉サービスのみならず全般的な福祉サービス提供主体を学び、そこにおける経営のあり方を考えることができる。

《成績評価の方法》

出席状況（20%）＋学期末試験など（60%）＋その他グループ討議の発表や受講態度を総合的に判断（20%）

《テキスト》

中央法規「福祉サービスの組織と経営」は社会福祉士養成テキストであり、こども福祉学科では特にテキストは指定しないが、下記記載の参考図書があれば望ましい。

《参考図書》

「保育士完全合格テキスト」上 2017年版「保育士完全合格テキスト」下 2017年版 共に著者：保育士試験対策委員会

《授業時間外学習》

授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示期日までに提出のこと。また積極的に自分自身で講義に関する課題を見だし、不明な点は随時確認すること。

《備考》

※授業計画における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後する場合もある。基本はテキストに沿うが、福祉現場での実践を多く紹介し、受講者自らが考える授業としたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉の専門職としての資格取得や社会福祉事業に従事する者として、机上の理論のみでなく、実践から学ぶ福祉の運営管理について学ぶことができる。
2	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスの異議だけでなく、福祉サービスの提供組織や経営管理について、その時代のニーズや環境によって変化する現状と経営理論を理解する事ができる。
3	福祉サービスに関わる組織・（社会福祉法人等）	法人の存在意義や基本形態を学び、福祉サービスに関わる団体や組織について学ぶことができる。
4	福祉サービスに関わる組織・（NPO法人等）	福祉サービスに関わる多様な組織団体について学ぶ事ができる。
5	組織と経営の基礎理論	福祉サービスに関わる組織の経営の実際に触れ、その基礎理論を理解することができる。
6	福祉サービスの管理運営の方法①管理と質	福祉サービスの管理運営の方法とサービスの質の向上について理解することができる。
7	福祉サービスの管理運営の方法②人事と労務	福祉サービスにおける人事と労務管理について理解することができる。
8	福祉サービスの管理運営の方法③研修と倫理	福祉における研修のあり方と福祉従事者の倫理を学ぶ事ができる。
9	福祉サービスの管理運営の方法④財源と財務	福祉サービスの財源とその運用管理の財務事務を理解することができる。
10	福祉サービスの管理運営の方法⑤情報と広報	福祉の情報発信のあり方と広報について学ぶ事ができる。
11	児童福祉法に基づく福祉施設	児童福祉法上の多くの福祉施設類型を理解し、その現状と社会的養護の必要性を学ぶ事ができる。
12	事例検討①社会養護	福祉（特に児童福祉を中心として）に関わる事例をもとに、社会養護の現状を理解することができる。
13	事例検討②児童養護施設	福祉（児童養護施設等）に関わる事例をもとに、養護施設の現状を理解することができる。
14	事例検討③児童相談所	児童相談所での事例をもとに、児童相談所の役割や現状を理解することができる。
15	まとめ	福祉施設の役割や現状を知る姿勢を学生自らが身につけることによって、今日の福祉施設の役割や課題を理解し、総合的な判断をすることができる。

科目名	社会保障論 I	科目ナンバリング	YF_L12005
担当者氏名	谷口 泰司		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

現代社会においては、私たち全ては何らかの社会保障のもとに安心した生活を営んでいる。社会保障の仕組みを正しく理解することは、子育てと生計維持の両立に悩む保護者に貴重な助言を与えると同時に、自身の生活の見通しを立てるためにも有効である。本講義では、わが国の社会保障の理解を中心に、生涯を通じた諸制度の理解と保護者支援時の伝達力の向上を視野に入れた展開を行う。

《授業の到達目標》

- ・ライフステージや生活実態に応じた社会保障について、保護者に助言を与えることができる。
- ・自身の生活設計について、社会保障を含めた将来像を描くことができる。
- ・社会保障をめぐる議論や報道に対し、自らの考えを根拠を持って述べるができる。

《成績評価の方法》

- ・試験80%
- ・レポートまたは質問票による質疑内容20%

《テキスト》

指定しない。
毎回の講義ごとに配布する資料を用いる。

《参考図書》

社会保障 第4版（中央法規）

《授業時間外学習》

日々の生活に社会保障は密接に関連している。医療機関の受診時の医療保険または医療扶助、アルバイト学生の場合は労災保険など、日常生活における諸制度について少し立ち止まるだけでも実際に伴った学習となるので、日々の生活を制度面から再考することが大事である。

《備考》

制度や法律に完全なものはない。また、社会保障のあり方に唯一絶対のものはない。このことをふまえ、常に講義内容を批判するという姿勢で臨むことが大事である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 社会保障とは何か	・講義全体の流れとスケジュール、聴講に際しての留意点を理解する。 ・社会保障とは何かについて、保険・福祉・公的扶助の輪郭を持つ。
2	ライフステージと社会保障の関係	幼少期から高齢期に至るまで、ライフステージごとに異なる社会保障の仕組みを理解し、安心・安定した社会生活と自己実現を図るための社会保障の必要性を説明できる。
3	社会保障の沿革	社会保障が今日の姿となるまでにわが国が辿ってきた道程を理解するとともに、50年勧告における理念と今日のかい離の是非について説明できる。
4	医療保険制度・医療扶助	各種医療保険の概要を理解するとともに、国保及び後期高齢者医療保険から排除された場合の医療扶助を含む医療保障の全体像を説明できる。
5	年金保険制度①（高齢）	老齢基礎年金・老齢厚生年金の制度を理解するとともに、企業年金を含めた老齢年金の概要と受給者の実態を説明できる。
6	年金保険制度②（障害・遺族）	障害（基礎・厚生）年金・遺族（基礎・厚生）年金の制度を理解するとともに、障害年金を巡る都道府県格差の実態と、未受給者に対する支援の現状について説明できる。
7	社会手当	児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当等の社会手当の目的・対象者等の違いと併給の可否等について整理し、保護者に対し適切な助言を行うことができる。
8	介護保険制度・介護保障	介護保険制度の輪郭を理解するとともに、制度未加入者の整理とこれらの者に対する他法制度による救済の状況を理解し、保護者等に説明できる。
9	雇用保険制度・求職者支援	失業時等における雇用保険制度の機能と給付等について理解するとともに、雇用保険対象外の者に対する求職者支援の概要を含め、保護者等に説明できる。
10	労災保険制度・労働法制	労働災害とは何かを理解するとともに、企業における労災隠し等の要因の所在を理解することで、労働者としての正しい権利を行使できる。
11	社会保障給付の推移と諸課題	今日までの国民所得の推移と社会保障給付費の推移を比較しつつ、社会保障を取り巻く諸課題のうち、財源問題について理解し、他者に説明できる。
12	社会福祉制度	事故別に構成された社会保険制度と対象者別に構成された社会福祉制度の違いを理解し、保険制度になじまない福祉の諸制度の必要性和各制度の概要を説明できる。
13	公的扶助制度・生活困窮者支援	社会保険・社会福祉をもってしても最低生活の維持が困難な場合の公的扶助の役割と、要保護状態となる恐れのある者に対する生活困窮者支援について説明できる。
14	社会的排除の実態と展望	社会保障の枠組みから漏れた者の生活実態と、社会保障の制度疲労等の欠陥について理解し、今後のあり方について自身の考え方を説明できる。
15	まとめ	全体のまとめを通して、自身の生活設計における社会保障との関わりを説明できるとともに、保護者等に対し、状況に応じた適切な助言を行うことができる。

科目名	社会保障論Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L23022
担当者氏名	河野 真			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

本講義では、少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達、管理運営に関する公私関係、現代社会における社会保障制度の諸課題について教授するとともに、社会保障制度の発達過程や諸外国の制度についても理解を深める。

《テキスト》

『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版、及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業の到達目標》

社会保障が対応する今日的課題(格差問題、少子化問題、高齢化問題)について、それらの本質や動向について理解する。社会保障の発展プロセスの学習や制度の国際比較を通して、社会保障制度の本質や制度形成のメカニズムを理解する。

《授業時間外学習》

授業で使用するテキストやプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については、新聞や書籍、ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《成績評価の方法》

定期試験80%、授業への参加とその成果20%。

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追うあまり、社会保障改革はなおざりにされてきたが、そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会保障の今日的課題	オリエンテーション：講義の課題と対象
2	格差問題 (1)	日本及び世界の所得格差の状況
3	格差問題 (2)	格差問題の諸相、格差問題の背景と社会保障制度
4	少子化をめぐる諸問題 (1)	少子化の状況、少子化が進む理由、問題点
5	少子化をめぐる諸問題 (2)	少子化対策の動向(日本及び先進諸国)と対応策
6	高齢社会をめぐる諸問題 (1)	高齢化の状況
7	高齢社会をめぐる諸問題 (2)	高齢化の背景、問題点と対応策
8	社会保障の歴史的展開 (1)	欧米における社会保障発達史
9	社会保障の歴史的展開 (2)	欧米における社会保障発達史
10	社会保障の歴史的展開 (3)	日本社会保障発達史 (1) 第2次世界大戦終了まで
11	社会保障の歴史的展開 (4)	日本社会保障発達史 (2) 戦後～現代
12	諸外国における社会保障 (1)	社会保障の国際比較
13	諸外国における社会保障 (2)	社会保障の国際比較
14	諸外国における社会保障 (3)	北欧、アメリカ、ドイツの社会保障制度
15	社会保障の要点解説	医療・所得保障・社会福祉制度の要点整理

科目名	社会調査の応用		科目ナンバリング	YF_L22025
担当者氏名	田端 和彦			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

テーマを決めて社会調査を行います。調査計画の作成とアンケート調査、または聞き取り調査を実施します。アンケート調査の場合は、回収した結果についてパソコンを使って分析をします。聞き取り調査については、その整理の方法を学びます。こうした実践を通し、統計など分析の手順を学びます。分析の結果を踏まえて考察し、報告書（レポート）を作成します。

《授業の到達目標》

社会調査を企画、実施し、その結果を考察して報告をまとめるという一連の作業について自力でできるようになることが目標です。その過程を通して、統計学的な理解、パソコンへの習熟、報告書を作成することによるプレゼンテーション能力の向上を図ります。

《成績評価の方法》

報告書作成の過程、正課として提出されるレポートの内容で評価をします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	調査の事例などを通して、社会調査の目的や意味、意義などについて理解をします。受講者数によりですが、関心に合わせてグループに分かれます。
2	調査計画の作成1	調査テーマを検討し、調査目標を定め、調査対象や調査項目を考察するなど調査計画書を作成します。グループワークまたは個人でテーマを広げましょう。
3	調査計画の作成2	引き続き、調査対象や調査項目を考察するなど、調査計画書を作成します。
4	アンケート調査票の作成と調査の実施1	調査計画書を元にして、アンケート票を作成します。調査対象者からアンケート調査対象者をどのように抽出するのかを検討します。
5	アンケート調査票の作成と調査の実施2	引き続き、アンケート票を作成します。アンケート調査対象者に対してアンケートを実施します。
6	アンケート調査の実施	引き続き、アンケート調査を実施します。調査件数は100件以上を目標とします。
7	アンケート調査結果のデータ入力1	単数回答、複数回答の場合、また自由記述欄の入力など、アンケート調査結果のデータ入力方法について理解し、実際に入力します。
8	アンケート調査結果のデータ入力2	入力したデータについて論理チェックを行い、修正などを加えて、データ入力を完了し、データセットを作成します。
9	アンケート調査の分析（1変数の分析）1	1変数の分析として単純集計、統計値の計算、ヒストグラムの作成、複数回答に対する集計を行います。統計値について平均値の差の検定などを行います。
10	アンケート調査の分析（2変数の分析）2	2変数の分析としてクロス集計を行い、分散分析、カイ二乗検定についても理解をします。回帰分析、相関係数を行い、係数、定数に対する検定を理解します。
11	聞き取り調査の準備	構造化インタビュー、非構造化インタビューの内容やそこで聞き取るべき内容についてまとめ、調査項目等を作成します。
12	聞き取り調査の実施	調査計画に基づいて調査対象者への聞き取り調査を行います。
13	聞き取り調査の整理	聞き取り調査の結果について、KJ法やGTを用いて整理を行います。
14	報告書の作成1	アンケート分析や聞き取り調査を整理した結果を考察して報告書を作成します。
15	報告書の作成2	引き続き、考察を踏まえ、報告書を作成します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

慶応義塾大学教養研究センター監修 西山敏樹・常盤拓司・鈴木亮子著『アカデミック・スキルズ 実地調査入門—社会調査の第一歩』慶応義塾大学出版会

《授業時間外学習》

アンケート調査の実施、聞き取り調査の実施については授業時間外に行う必要があります。

《備考》

受講者の数によりですが、原則としてグループ学習で行います。ただし人数が少ない場合は、個人での学習になります。分析や報告書の作成のためパソコンを使用します。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	心理検査法	科目ナンバリング	YF_L23026
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

こどもの福祉現場に出て行ったとき、保育者として知っておくべき「心理検査」について学ぶ。体験・実習した心理検査については、自己理解を深めるためにも有効である。

《テキスト》

必要な資料は適宜配布する。

《参考図書》

遊戯療法ハンドブック ブレーン出版6800円

《授業の到達目標》

知能・発達テスト、人格検査・パーソナリティテストを体験し、自己理解・こども理解を深める。

《授業時間外学習》

こどものあそびについてのDVDや本をできるだけ関心をもってみておいてください。

《成績評価の方法》

受講態度30% 数回のレポート30% まとめのレポート40%

《備考》

配布する資料は、各自ファイルを用意して閉じておいてください。保育実習後の土曜日に2コマ続けて授業をする場合もあるので授業日程や時間をよく確認してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理士の心理検査の訓練と心理療法を実際に経験するまでの修行について
2	こどもの相談現場で使用される心理検査①	描画療法
3	こどもの相談現場で使用される心理検査②	風景構成法
4	こどもの相談現場で使用される心理検査③	児童相談所で使用される発達検査 1
5	こどもの相談現場で使用される心理検査④	児童相談所で使用される発達検査 2
6	こどもの相談現場で使用される心理検査⑤	心理学的判定に用いられる社会生活能力検査 1
7	こどもの相談現場で使用される心理検査⑥	心理学的判定に用いられる社会生活能力検査 2
8	こどもの遊びについて①	遊びを用いた心理療法、遊戯療法について 1
9	こどもの遊びについて②	遊戯療法について 2
10	こどもの遊びについて③	遊べないこどもへの支援①
11	こどもの遊びについて④	遊べないこどもへの支援②
12	こどもの相談現場で使用される心理療法	箱庭療法について 1
13	こどもの相談現場で使用される心理療法	箱庭療法について 2
14	こどもの相談現場で使用される心理療法	箱庭療法について 3
15	学習のまとめ	この授業についてのふりかえり

科目名	精神保健学 I	科目ナンバリング	YF_L23028
担当者氏名	和田 光徳		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる		

《授業の概要》

精神障害者を取り巻く現状について検討し、障害者の生活の諸相と課題を概括します。精神保健福祉法等の変遷、施策やサービスの現状、改革の動向を踏まえ生活支援システムについて、とりわけ相談支援、居住支援さらに就労支援を軸に実践課題を明らかにします。精神障害者の理解を疾病や障害の側面からだけでなく、地域で暮らす主体者、市民としてあるべき社会的システム（について検討を加えていきます。

《テキスト》

《参考図書》

《授業の到達目標》

- 精神障害者の生活支援の理念と特徴について理解する。
- 地域生活における精神障害者の暮らしにくさと課題解決のための支援のあり方、制度や施策について理解する。
 - ・就労支援及び居住支援に関する制度・施策
 - ・精神保健福祉士の相談支援活動について

《授業時間外学習》

- 「精神保健福祉に関する制度とサービス」等のテキスト及び授業内容について再確認し歴史や精神障害者支援の課題等を把握しておくこと。
- 新聞等の記事に注目し関連する記事を収集すること。

《成績評価の方法》

- ・授業への積極的な参加（発言、意見表明等）状況
- ・課題レポート

《備考》

- 授業への積極的な参加を求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害者の概念	オリエンテーション及び障害の概念
2	精神障害者の生活の実際	精神障害者を取り巻く現状と生活
3	精神障害者の生活と人権	精神障害者の生活支援の理念、生活支援における人権
4	精神障害者の居住支援 1	居住支援制度の概要
5	精神障害者の居住支援 2	居住支援の実際
6	精神障害者の居住支援 3	居住支援における関係機関等との連携
7	精神障害者の就労支援 1	就労支援制度の概要
8	精神障害者の就労支援 2	就労支援の実際
9	精神障害者の就労支援 3	就労支援における関係機関等との連携
10	精神障害者の生活支援システム 1	精神障害者の自立と社会参加
11	精神障害者の生活支援システム 2	福祉的就労等の生活支援
12	精神障害者の生活支援システム 3	生活支援における地域の役割
13	ソーシャル・サポートネットワーク	ソーシャル・サポートネットワーク
14	行政機関における相談支援	市町村における相談支援
15	まとめ	まとめ

科目名	精神保健福祉援助技術各論 I		科目ナンバリング	YF_L23029
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

- ①精神障害者を対象とした相談援助活動の展開
 - ②家族調整・支援
 - ③地域移行
 - ④地域を基盤にした相談援助
- 上記4点について、講義と事例検討を通して学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした支援の基本的考え方と相談援助技術の展開について理解する。
- ②精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。
- ③精神障害者の地域生活の実態と社会情勢および地域相談援助における基本的な考え方について理解する。
- ④上記①②③について説明し自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

- 授業への参加意欲、態度 20%
- レポート等の提出 20%
- 定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の展開①	個別支援の実際と事例分析
2	相談援助の展開②	集団を活用した支援の実際と事例分析
3	相談援助の展開③	事例による相談援助活動の検討
4	相談援助の展開④	事例による相談援助活動の検討
5	相談援助の展開⑤	事例による相談援助活動の検討
6	家族調整・支援の実際①	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係、家族支援の方法
7	家族調整・支援の実際②	事例による家族調整・支援の検討
8	地域移行の対象および支援体制①	地域移行支援の対象と地域移行の体制
9	地域移行の対象および支援体制②	精神保健福祉士の役割と多職種との連携
10	地域移行の対象および支援体制③	地域移行支援・地域定着支援の取組
11	地域移行の対象および支援体制④	地域移行にかかる組織や機関
12	地域移行の対象および支援体制⑤	事例による地域移行支援の検討
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①	精神障害者をとりまく社会的状況、地域相談援助の主体・対象・体制
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L23030
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する 			

《授業の概要》

- ①地域を基盤にした精神科リハビリテーションの基本的考え方
 - ②精神障害者のケアマネジメント
 - ③地域を基盤にした支援とネットワーク
 - ④地域生活を支援する包括的な支援
- 上記4点について講義と事例検討を通じて学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした地域リハビリテーション、ケアマネジメント、コミュニティワークについて理解する。
- ②地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について理解する。
- ③上記①②について説明し、自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
レポート等の提出 20%
定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方①	地域ネットワーク、アウトリーチ
2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方②	地域生活支援事業と訪問援助、家族会およびセルフヘルプグループ
3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方③	精神保健福祉ボランティアの育成と活用
4	精神障害者のケアマネジメント①	ケアマネジメントの原則
5	精神障害者のケアマネジメント②	ケアマネジメントの意義と方法
6	精神障害者のケアマネジメント③	ケアマネジメントの展開過程、チームケアとチームワーク
7	精神障害者のケアマネジメント④	事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
8	地域を基盤にした支援とネットワーク①	地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
9	地域を基盤にした支援とネットワーク②	地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析
10	地域を基盤にした支援とネットワーク③	地域を基盤にした支援の具体的展開
11	地域を基盤にした支援とネットワーク④	事例による地域を基盤にした支援の検討①
12	地域を基盤にした支援とネットワーク⑤	事例による地域を基盤にした支援の検討②
13	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開①	包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開
14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開②	事例による地域生活を支援する包括的な取組の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

科目名	家庭支援論	科目ナンバリング	YK_L23016
担当者氏名	片岡 章彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 		

《授業の概要》

現代家族の子育て環境における、家族の構成、子育て不安、育児ストレスや児童虐待等の要因について検討、考察する。そのうえで、どのような家庭支援が必要なのかを、その背景と援助の在り方について、「子育て支援新制度」の解説を踏まえると共に、保育現場での事例も交えながら理解を深める。また、保育者にはどのような社会的役割が求められているのかについても理解する。

《授業の到達目標》

- 現代家族における子育て環境の抱える問題、課題について知り、家庭支援の背景や必要性について理解する。
- どのような家庭支援の方法があるのか、また配慮が必要なのかについて理解に基づいた考えを述べる事が出来る。
- 保育者に求められる社会的役割を意識する。
- 事例を通して家庭支援の実際を学び、今後における課題を明確にする。

《成績評価の方法》

受講態度10%、課題提出物10%、グループワーク20%、筆記試験60%

《テキスト》

井村圭壯・今井慶宗『保育実践と家庭支援論』勁草書房

《参考図書》

新保育ライブラリ家庭支援論[新版] 北大路書房実践
家庭支援論[改訂版] ななみ書房
これでわかる！子ども・子育て支援新制度 ひとなる書房

《授業時間外学習》

予習：事前学習としてテキストを読んでおき、自分なりの考えを整理しておく。
復習：授業で獲得した知識を、自分の考えとして述べたり生かしたり出来るように、振り返りと整理を十分に行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭の機能とその変容	「家庭」についての理解を深める。
2	家庭支援の必要性	子育てをとりまく現状から、家庭支援の必要性について考え、理解を深める。
3	保育者が行う家庭支援の原理①	実際の保育現場での事例を基にグループディスカッションを行い、保育現場での支援の在り方について学ぶ。
4	保育者が行う家庭支援の原理②	実際の保育現場での事例を基にグループディスカッションを行い、保育現場での支援の在り方について学ぶ。
5	現代家庭における人間関係	社会変化に伴う、人間関係の変容について学ぶ。
6	地域社会の変容	家庭や子ども達をとりまく地域社会の変化を、写真や映像を基に学び、家庭や子どもの育ちにどのような影響をもたらしているのか理解を深める。
7	男女共同参画社会とワークバランス	男女共同参画社会において、特に保育者の役割について学ぶ。
8	子育て家庭のための社会資源	子育て家庭を支援するための社会資源の種類について調べて発表し、お互いの知識の交換を行うことで理解を深め合えるようにする。
9	子育て支援施策・次世代育成支援推進法①	今までの子育て支援施策と次世代育成支援推進法の違いについて理解する。
10	子育て支援施策・次世代育成支援推進法②	ある企業の子育て支援課の従業員という設定で、行動計画の作成をグループで話し合っ て行い、次世代育成支援推進法の意義について理解を深める。
11	子育て支援施策・次世代育成支援推進法③	グループワークで作成した次世代育成支援推進法に伴う行動計画をグループ毎に発表 し、色々な考えに触れながら学び合える機会とする。
12	地域の子育て家庭への支援	今の時代に即した子育て家庭支援における地域の役割について考える。
13	特別な配慮を必要とする児童及び家庭への支援	特別な配慮を必要とする子どもの支援方法と共に、保護者支援について考え学ぶ。
14	子育て支援における関係機関との連携	子育てを支援するうえでどのような関係機関が存在しているのかを学ぶ。
15	家庭支援と今後の課題	授業全体のまとめとして、これからの家庭支援について考え、自分なりの考えを確立す る。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの食と栄養 I	科目ナンバリング	YS_S23007
担当者氏名	武田 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む		

《授業の概要》

保育士として、子どもの食に関する支援をするうえで必要な知識を習得し、実践力につなげていく。小児期の食生活の大切さを理解する。身体に必要な栄養素の働きと、それを含む食品について学ぶ。乳児期・幼児期の食生活の実際を学び、正しい食指導や支援ができる能力を培う。

《テキスト》

「子どもの食と栄養～健やかに発育する食生活をめざして～」赤塚順一他、著 医歯薬出版（株）

《参考図書》

授業時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 食べ物に含まれている栄養素がわかり、その働きが説明できる。
- 子どもたちの成長発育段階に適した望ましい食生活指導ができる。

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について、教科書をよく読み、内容を把握してこること。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心として、小テスト、レポート、受講態度を総合的に評価する。配分は定期試験を70%、小テストやレポートを20%、受講態度を10%を原則とする。

《備考》

学外実習で、子供たちの食環境について学んでください。また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活	子どもの栄養の意義と特徴、我が国の最近の食生活の現状と課題について理解し、健康的な生活習慣の大切さを学ぶ。
2	子どもの健康と食生活	子どもの発育と栄養の特徴、子どもの食行動の問題点を理解する。
3	食生活をチェック	自分自身の食生活の問題点を見つけることができる。
4	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（炭水化物、脂質）
5	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（たんぱく質、エネルギー）
6	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（無機質、ビタミン、水分）
7	食事摂取基準	食事摂取基準とは何か。日本人の食事摂取基準について理解する。
8	接触・消化機能の発達	小児の食物摂取機序、消化吸収の生理を理解する。
9	栄養状態の評価	食生活が健康状態や成長・発達に及ぼす影響を見るための指標について理解する。
10	献立・調理の基本	献立作成の基本、1日の栄養配分、調理の意義と方法を理解する。
11	乳児期の心身の発達と栄養	授乳栄養（母乳栄養・人工栄養・混合栄養）について理解する。
12	乳児期の心身の発達と栄養	育児用ミルクの種類や特徴を理解し、調乳ができる。
13	離乳期の心身の発達と栄養	離乳栄養（離乳の必要性、離乳食の進め方）について理解する。
14	離乳期の心身の発達と栄養	離乳食の作り方、調理方法などを学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

科目名	こどもの食と栄養Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S23008
担当者氏名	武田 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

食事は子どもにとって身体の成長のための栄養摂取だけでなく、基本的な人間形成に極めて重要である。健全な心身の発達を目指すため、保育に関わる人々が、子どもの頃からの発育の栄養学を理解することが求められる。「こどもの食と栄養Ⅱ」では、幼児期から学童・思春期における栄養と食育を含む食環境および特別な配慮を要する子どもの基礎的なことを学ぶ。

《テキスト》

「子どもの食と栄養一健やかに発育する食生活をめざして」
赤塚順一 他著、医歯薬出版（株）

《参考図書》

授業時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
- 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。
- 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
- 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について、教科書をよく読み、内容を把握してこよう。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心として、小テストやレポート、受講態度を総合的に評価する。配分は、定期試験を70%、小テストやレポートを20%、受講態度を10%を原則とする。

《備考》

子どもをとりまく社会・環境と健康に目を向けて、授業には受け身でなく、積極的に取り組んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期栄養の特徴と必要性、栄養上の注意を理解する。
2	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期の間食の意義について理解する。幼児食の実習
3	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期の食生活上の問題と健康への対応を理解し指導法を考える。
4	学童期・思春期の心身の発達と栄養、生涯発達	学童期・思春期の心身の発達、学童期の栄養の問題を理解する。学校給食の目標、栄養管理について理解する。
5	食育について	食育基本法について学ぶ。保育所・幼稚園における食育の目標、内容について理解する。
6	食育について	保育所における食育計画の立て方（計画・実施・評価・改善）を理解する。
7	食育について	保育所における食育の実際、食育のための環境について理解する。
8	食育について	食育推進のための保護者・地域との連携を理解し、保護者に向けての食育便りを作成することができる。
9	家庭における食事と栄養	家庭の食事と栄養の特徴、家庭の食生活をとりまく現状と課題、保育所・地域と家庭との連携を理解する。
10	食品と食の安全	食品の選び方、食の安全性について理解する。
11	施設における食事と栄養	児童福祉施設の給食、保育所の給食の役割・問題点について理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応について理解する。
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	慢性疾患、肥満症、糖尿病の子どもへの対応について理解する。
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障害のある子どもの栄養について学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと音楽Ⅲ	科目ナンバリング	YS_S23017
担当者氏名	立本 千寿子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美、小杉 裕一、津田 安紀子、佐藤 亜衣		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

ピアノ学習において一番大切なのは、日々の練習である。反復練習を怠らず行うことによって確実に進歩していくものである。本科目では、「こどもと音楽Ⅰ・Ⅱ」で学んだピアノ演奏技能の基礎を更に高め、子ども教育現場におけるあらゆる場面で使えるように、個々の進捗状況に合わせて、レパートリーの幅を広げていく。

《テキスト》

- ①うたのメルヘン
- ②ぴあのってすばらしい
- ③ピアノ連弾ドラゴン「ショパン」 (以上、共同音楽出版社)

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教諭を目指す者としての必要なピアノ演奏能力を身につけることができる。
- 楽譜から音楽的な様々な事柄を読み取ることができる。
- 現場での行事等に使用できる楽曲を弾くことができる。
- 様々なリズムの知識と、それを表現する曲を演奏できる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業平常点(40%)で評価する。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	I期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(マーチ表現奏法)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(スキップ表現奏法)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ギャロップ表現奏法)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ゆったり歩く表現奏法)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ワルツ表現奏法)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(かけっこ表現奏法)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(バロック時代の小品)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(古典派の小品)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ブルグミュラーまたはソナチネ)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ソナチネまたはソナタ)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ロマン派の小品)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(近現代の小品)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅲ」の総まとめ、Ⅱ期「こどもと音楽Ⅳ」に向けての説明と指導。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと音楽Ⅳ		科目ナンバリング	YS_S23018
担当者氏名	立本 千寿子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美、小杉 裕一、津田 安紀子、佐藤 亜衣			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	3年・Ⅱ期			
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力				

《授業の概要》

「こどもと音楽Ⅲ」で学び得た技術を、現場においてどのように展開し使用するかを具体的に考えながら、楽曲を中心としたレッスンをを行う。編曲法も学び、ピアノ表現の可能性を探る。編曲の技術は、子どもに音楽指導する際にも重要なものとなる。このことを踏まえて、個人の進捗状況に合わせて実践的なレッスンをを行う。また、次年度(最終学年)の就職試験演奏課題に備えたレッスンも行う。

《テキスト》

- ①うたのメルヘン
- ②ぴあのおってすばらしい
- ③ピアノ連弾ドラゴン「ショパン」 (以上、共同音楽出版社)

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教諭を目指す者としての必要なピアノ演奏能力を身につけることができる。
- 楽譜から音楽的な様々な事柄を読み取ることができる。
- 現場での行事等に使用できる楽曲を弾くことができる。
- 様々なリズムの知識と、それを表現する曲を演奏できる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業平常点(40%)で評価する。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	Ⅱ期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディー編曲法)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形編曲法)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(装飾を使用した編曲法)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(和音変化による編曲法)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(リズム変化による編曲法)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(音域と調性の考え方)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ソナチネの緩叙楽章)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ソナタの緩叙楽章)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(バロックの楽曲)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(古典派の楽曲)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ロマン派の楽曲)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(研究発表リハーサル)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅳ」の総まとめ。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと造形Ⅲ	科目ナンバリング	YS_S23020
担当者氏名	田中 正彦、満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

折り紙、ペーパークラフトなど紙を使った造形の演習を行ない、形を見る目を養い、造形の楽しさを伝える。子ども達の好奇心と意欲を刺激するための表現力と発想力を養う。個々の作品制作に加えて、壁面や空間の構成、展示など社会環境の中での造形表現について学び、これらを総合的に体験するワークショップを企画する。

《授業の到達目標》

紙の素材としての特徴を理解し、折る、曲げる、切る、貼るなどの技術を身につける
 紙を利用した表現の幅を広げる
 環境の中での造形と構成を考慮することができる
 ワークショップの企画ができる

《成績評価の方法》

作品などの提出物により成績評価を行う。100%
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

なし

《参考図書》

空間・壁面構成と立体工作のアイデア 学校を飾ろうよ (学陽書房)
 イタリア/レージョ・エミリア市の幼児教育実践録 子どもたちの100の言葉 (学研)
 ダンボール&ポリ袋であそぼう (世界文化社)

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考慮すること。
 作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	折り紙1	授業概要説明、折り紙のレクチャー
2	折り紙2	折り図の読み方
3	折り紙3	季節の行事の種類を提示します。テーマにあった折り紙の選定と制作
4	平面構成1	テーマにあった企画を考え、パーツを作成する
5	平面構成2	壁面の制作をすすめる
6	平面構成3	壁面完成、合評
7	立体造形1	ペーパークラフトのレクチャー
8	立体造形2	企画にそったペーパークラフトの選定と制作
9	立体造形3	展示用ペーパークラフトの制作を進める
10	空間構成1	展示の内容を提示します。各自テーマを選び企画案作り
11	空間構成2	展示空間を構成する、合評
12	ワークショップの企画	グループ別に企画案にそって制作
13	ワークショップの準備	分担し制作をすすめる
14	ワークショップ発表1	グループ別ワークショップ発表(前半)
15	ワークショップ発表2	グループ別ワークショップ発表(後半)

科目名	こどもと造形Ⅳ	科目ナンバリング	YS_S23021
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

ペーパークラフトの設計と制作を行う。組み立てる、さわる、描くなどの作業を通して3次元の形状を理解する。立体と展開図の対応を理解し、展開図への書き込みや部品の追加ができる。組み立て作業の技術を学び、作業手順を考えることができる。紙の特性を活かした表現ができるようにする。設計時にパソコンを利用します。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

パソコンを利用したペーパークラフトの設計と制作の演習を行う。3次元の形状とその表現方法、展開図との対応を理解する。紙の特性を活かした立体造形ができるようになる。

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《成績評価の方法》

作品など提出物により成績評価を行う。100%
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	作品制作におけるパソコンの利用
2	ドローソフトの使い方	描く、塗る、配置、変形
3	平面作品を描く	パソコンを利用したイラストの作成
4	部品を作る	平面構成で使用する部品の設計
5	部品を使う	パーツを印刷し、作品を構成する
6	展開図を組み立てる	サンプルを使って設計制作の流れを知る
7	展開図の理解	組み立てたものに着色し、展開図との対応を考える
8	展開図の着色	完成形を考えながら展開図に着色する
9	展開図の修正	部品の追加、応用を考える
10	組み立て、評価	展開図を組み立て、互いに評価する
11	作品制作1	資料収集、作品テーマ決定
12	作品制作2	全体の形をイメージし制作手順を考える
13	作品制作3	全体から部分へと制作を進める
14	作品制作4	試作、着色
15	作品制作5	作品完成、発表

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと数	科目ナンバリング	YS_L23023
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

生活の中でみられるいろいろな量を比べることを題材とし、数や量の種類と意味を理解し、意味に応じた処理や計算方法を考える。
 平面図形・立体図形の計量・作図をとおして 図形の性質を発見したり、図を使って考える方法を学ぶ。
 問題解決の場面において、数や図形を利用したり、 数学的視点で捉えることを試みる。

《授業の到達目標》

こどもの発達段階に応じた数や図形の意味と数学的な概念との関連について理解し、 保育者として数量概念、図形概念の基礎作りを行うための数学的な考え方を習得すること。
 数、量の種類と意味を知り、生活の中で数を使った考え方ができること。
 四則演算の意味と法則を理解すること。
 図形の性質を知り、作図や図形の計量、操作ができること。

《成績評価の方法》

レポート等の提出物、授業中に行う小テストにより評価する(100%)。
 提出物にはコメントを付して返却する。
 からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

なし

《参考図書》

遠山啓「親と子で学ぶ算数入門」(SBクリエイティブ,2014)
 野崎昭弘他「意味がわかれば数学の風景が見えてくる」(ベレ出版,2011)

《授業時間外学習》

授業内容のふりかえり、資料などの整理。
 生活のなかにある数や図形について考える。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	なぜ算数・数学を学ぶのか
2	算数・数学の内容	小中高における算数・数学の内容と関連
3	数のしくみ	記数法、数とことば
4	数と演算の意味	数と量、分離量、連続量、四則演算の意味
5	比較と計量	比較方法、長さ、面積
6	割合	かけ算、割り算、分数
7	立体図形	見取り図、直方体、組み合わせてできる形
8	展開図	直方体の展開図、箱の折り紙
9	正多面体	頂点、辺、面の数と形
10	座標と長さ	座標や長さを使って考える
11	図形の性質	角度、平行、移動
12	投影図	平行投影、透視投影
13	投影図を使って考える	投影図と展開図の利用
14	展開図を使って考える	投影図と展開図の応用
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

この演習では、皆さんと「論理的に考える」つまり「言葉を正しく運用する」ことを学んでいきたい。具体的には『論理トレーニング』という教科書を輪読し、問題演習を積み重ねていくことになる。別の言い方をすれば、ある事柄を社会科学的に学んだり、考えたりするというのとはどういうことなのかを体験してもらうことになる。野球で言えば一番基礎的なバットやボールの握り方を学ぶ場だと考えていただきたい。

《授業の到達目標》

○基礎的な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考図書》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

せっかく大学に入ったのだから、科学的「知」の「考え方のくせ」くらい身に付けてみるのもよいと思う。これを身に付けるだけでも、身の回りの見え方が変わってくるはずである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	序論 論理とは何か
3	論理トレーニング	第1章 さまざまな接続関係（1）
4	論理トレーニング	第1章 さまざまな接続関係（2）
5	論理トレーニング	第1章 さまざまな接続関係（3）
6	論理トレーニング	第2章 接続の構造（1）
7	論理トレーニング	第2章 接続の構造（2）
8	論理トレーニング	まとめと復習
9	論理トレーニング	第3章 議論の組み立て（1）
10	論理トレーニング	第3章 議論の組み立て（2）
11	論理トレーニング	第3章 議論の組み立て（3）
12	論理トレーニング	まとめと復習
13	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（1）
14	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（2）
15	論理トレーニング	まとめと復習

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

折り紙、ペーパークラフトなどさまざまな紙工作を行います。
制作スキルの習得、表現力のトレーニングをします。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

折り紙、ペーパークラフトなど紙工作の楽しさを知る
折りの性質の理解
立体形状の理解

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《成績評価の方法》

作品、レポートなどの提出物 100%
提出物はコメントを付して返却する。
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	演習の目的
2	平面の造形1	平面のペーパークラフト制作1
3	平面の造形2	平面のペーパークラフト制作2
4	平面の造形3	平面のペーパークラフト制作3
5	半立体の造形1	半立体のペーパークラフト制作1
6	半立体の造形2	半立体のペーパークラフト制作2
7	半立体の造形3	半立体のペーパークラフト制作3
8	半立体の造形4	半立体のペーパークラフト制作4
9	立体の造形1	立体のペーパークラフト制作1
10	立体の造形2	立体のペーパークラフト制作2
11	立体の造形3	立体のペーパークラフト制作3
12	立体の造形4	立体のペーパークラフト制作4
13	造形作品の利用1	場面に応じた作品を考える1
14	造形作品の利用2	場面に応じた作品を考える2
15	造形作品の利用3	場面に応じた作品を考える3

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子どもと家庭の福祉

社会福祉領域の一分野である児童福祉について、現代社会に生きる子ども、支援を必要とする子どもをキーワードにして、様々な課題をとらえ考察する。新聞、映画、小説等を資料として用い、受講生間の意見交換を中心にして、視野を広めるとともに、知識を深める。

《テキスト》

プリント等の配布、視聴覚教材の利用

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 社会福祉の専門性について説明することができる。
- 子どもが有する様々な課題（貧困、虐待、障害等）に関する資料をもとに、受講生間で意見交換し、問題の所在を明らかにできる。
- こども福祉卒業演習に向けて、各自研究テーマを選定することができるように、自らの関心について探究することができる。

《授業時間外学習》

子どもに関する新聞報道等には関心を持ち、現状を把握するよう努めてください。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲（50%）

課題の提出：授業中に提出したレポート等は返却し、次への課題解決に役立たせる機会とする。（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習にねらいと進め方、到達目標と評価について説明する。
2	社会福祉と専門性 - 1	社会福祉という用語について学習し、理解する。
3	社会福祉と専門性 - 2	社会福祉分野の仕事と保育士資格について理解する。
4	社会福祉と専門性 - 3	保育士資格の専門性について理解する。
5	社会福祉と専門性 - 4	「社会福祉と専門性」について、討議により受講生間で学びを共有する。
6	子どもと家庭の福祉 - 1	社会的養護の必要性について理解する。
7	子どもと家庭の福祉 - 2	経済的支援について理解する。
8	子どもと家庭の福祉 - 3	障害のある子どもへの支援について理解する。
9	子どもと家庭の福祉 - 4	「子どもと家庭の福祉」について、討議により受講生間で学びを共有する。
10	子どもを取り巻く環境 - 1	社会的に弱い立場とワーキングプア、貧困の世代間連鎖について理解する。
11	子どもを取り巻く環境 - 2	貧困家庭における暴力、虐待とDVについて理解する。
12	子どもを取り巻く環境 - 3	学歴社会と教育、多様化する価値観、ワークライフバランスについて理解する。
13	意見交換と成果発表 - 1	授業を振り返り、受講の成果発表をする。
14	意見交換と成果発表 - 2	授業を振り返り、受講の成果発表をする。
15	意見交換と成果発表 - 3	受講の成果発表を踏まえ、こども福祉専門演習Ⅱに向けて研究テーマを選定する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

こどもとこどもの成長に関わる諸問題を心理学の観点から検討する。受講学生による文献選択⇒精読⇒まとめ⇒発表⇒討議のプロセスを通して授業を展開する。

《テキスト》

教科書は使用しない。教員が用意した文献をテキストとして利用する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① こどもの心理学に関する文献を精読できる。
- ② こどもの心理についての理解を深める。
- ③ こどもの心理について問題意識を持つ。
- ④ こどもの心理について問いを立てられる。

《授業時間外学習》

授業時間内には学生個々の発表とディスカッションを行うので、文献の精読は授業時間外に行わなければならない。

《成績評価の方法》

授業に対して積極的に取り組み態度への評価 50%。
 発表内容への評価 50%。
 学生の発表に対してコメントをすることで、こまめにフィードバックを行う。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や発表資料の作成の仕方などについて説明する。
2	文献の精読と資料作成	教員が取り上げた全員共通のテキストを用いて、発表資料作成の練習を行う。
3	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
4	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
5	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
6	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
7	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
8	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
9	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
10	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
11	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
12	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
13	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
14	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
15	まとめと展望	自分自身が調べて理解したこと、他の学生の発表を聞いて理解したことをまとめ、これから追及していきたいテーマを絞り込んでいく。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

展示、体験、制作の3つの構成についての研究。はじめに素材とどのように出会い、感じるか、その後自分なりに関わりを展開していく事や積極的な気持ちを持続させる事の大切さについて学びます。「素材との出会い展、造形発見展、オープスタジオ等」の企画書を作成する。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》

図工室にいこう～こどもがつくる楽しい時間
美術手帖編集部・編 東京都図画工作研究会

《授業の到達目標》

道具・材料の取り扱いを知る。
制作する上で伸びやかに作業する環境を学ぶ。
作品の展示方法と保存の仕方について学ぶ。

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。
復習の方法/授業内容を再確認し、随時質疑応答を行う。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後その日の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料、道具の取り扱いについて。
2	イメージを広げる①紙	紙をつなげながら、考え、感じとり、活動する。
3	イメージを広げる②絵具	からだで感受する色やかたちのリズム表現。
4	イメージを広げる③のり	表現欲を刺激するのり絵具で制作。
5	イメージを広げる④石	ホンモノそっくりの石を作ってみる。
6	イメージを広げる⑤模写	名画を素材に鑑賞・表現を学ぶ。
7	イメージを広げる⑥模写	仕上げ。
8	イメージを広げる⑦大作	つづきの国の道づくり企画案。
9	イメージを広げる⑧大作	つづきの国の道づくり制作。
10	体験① イメージを広げる④石	屋外に作品を持ち出し遊びを考える。
11	体験② イメージを広げる⑤模写	図書館（絵本コーナー）にいこう。
12	体験③ スケッチ大会	画用紙と色鉛筆を持ち、学内周辺にでかけ風景をスケッチする。
13	展示① マイアートスペース	全ての作品の仕上げとレイアウト企画。
14	展示② マイアートスペース	自分の卓上美術館。
15	まとめ	作品の保存方法を学ぶ。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

ジャン・ジャック・ルソーの『エミール』研究
 今から約250年前に書かれたルソーの『エミール』第1, 2, 3編を解説し、その教育論の現代的意味について考察する。ルソーは教育とは「人間を作る術」と述べており、教育の目的と対象、とりわけ第1編の5歳未満の教育について詳しく考察し、こども本位の教育とは何かを考える。

《授業の到達目標》

- 1 ルソーの人間観を理解する。
- 2 『エミール』の第3編までを理解し、その教育論を説明できる。
- 3 ゼミで『エミール』教育論を述べ、人間教育の意味を説明でき、自分の考察を述べるができる。

《成績評価の方法》

レポート (80%)
 授業参加意欲 (20%)
 別紙にコメントを付して渡す。

《テキスト》

ジャン・ジャック・ルソー『エミール』(上)(中)(下)
 岩波書店

《参考図書》

福田敏一著『ルソー』岩波現代文庫
 林達夫『ルソー』レグルス文庫
 ルソー『告白』岩波書店
 ルソー『社会契約論』岩波書店
 長尾十三二 福田弘『ペスタロッチ』清水書院

《授業時間外学習》

参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人間ルソー	ルソーの生涯を年代を辿ってみる。幼少期、青年期 壮年期 晩年の特徴を解説する。
2	第1編幼年期(1)	序論 5歳になるまでの理想の教育を述べる。
3	第1編幼年期(2)	序論 5歳になるまでの理想の教育を述べる。
4	第1編幼年期(3)	序論 5歳になるまでの理想の教育を述べる。
5	第1編幼年期(4)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
6	第2編幼少年期(1)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
7	第2編幼少年期(2)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
8	第2編幼少年期(3)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
9	第2編幼少年期(4)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
10	第3編少年期(1)	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
11	第3編少年期(2)	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
12	第3編少年期(3)	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
13	第3編少年期(4)	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
14	まとめと考察(1)	幼年期教育論について各自発表と議論
15	まとめと考察(2)	幼少年期 少年期の教育論について各自発表と議論

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育・保育実践に関する様々な事象や課題について調査・研究を行い、受講生のディスカッションを交えながら検討、考察する。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育・教育実践に関する調査・研究の方法を知る。
- 受講生の意見交換を通して、様々な考え方に触れる。
- 設定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。

《授業時間外学習》

常に教育・保育に関する話題に関心を寄せ、自身が学びを深めたいテーマ、課題を明確にできるよう努めること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度及び提出課題を総合的に評価する。100%課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する
2	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
3	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
4	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
5	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
6	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
7	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
8	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
9	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
10	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
11	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
12	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
13	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
14	演習のまとめ	学習内容を総括する
15	演習のまとめ	学習内容を総括する

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

乳幼児を取り巻く様々な音楽について広く知り、音楽が乳幼児に寄与する可能性について様々な視点から探求する。保育現場で実践することができるテーマを取り上げ、座学・演習・各自の文献等による調査・学生間の意見交換等を取り入れながら授業を展開する。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 乳幼児を取り巻く様々な音楽について理解できる。
- (2) 音楽が乳幼児に寄与する可能性について課題を設定し、自ら探求することで、考察をすることができる。
- (3) 少人数での学びの形態や意見交換を通して、人の意見を受け入れ、自分の意見も表現することができる。

《授業時間外学習》

- ・自分の生活の中で何気なく触れている音楽に改めて耳を傾ける時間を持つこと。
- ・授業で出された課題は、各自文献等で調べて、次回の授業までに資料としてまとめてくること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)についてはレポート及び作品、(2)についてはレポート、(3)については授業への参加態度と意欲で評価する。評価の割合は、レポート50%、作品10%、授業への参加態度と意欲40%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。評価は、授業内においてコメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本科目の概要・目標等の確認
2	乳幼児と音楽の聴取	サウンドスケープー大学構内での音探しー
3	文化と音楽 (1)	日本における子どもの音楽
4	文化と音楽 (2)	諸外国における子どもの音楽
5	保育現場における音楽 (1)	四季と音楽
6	保育現場における音楽 (2)	園生活と音楽
7	保育現場における音楽 (3)	園行事と音楽
8	乳幼児の心と音楽	音楽が乳幼児に与える心的働きと役割
9	イメージと音楽 (1)	音づくりー素敵な音・心が落ち着く音・乳幼児を惹きつける音 等ー
10	イメージと音楽 (2)	音絵ー音楽を色で表現する・音楽を線や図で表現する・音楽を絵で表現するー
11	乳幼児に関する音楽の可能性の検討 (1)	選定したテーマに基づいた調査・研究 (1)
12	乳幼児に関する音楽の可能性の検討 (2)	選定したテーマに基づいた調査・研究 (2)
13	乳幼児に関する音楽の可能性の検討 (3)	選定したテーマに基づいた調査・研究 (3)
14	個別成果発表 (1)	個人による研究課題の発表と意見交換
15	個別成果発表 (2)	総まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

この演習では、専門演習Ⅰにつづき、『論理トレーニング』の第3部「演繹」を中心に、論理的な言語運用能力を鍛えていくつもりである。いままでの演習が広い意味での論理をとらえる練習であったとすると、これからはかなり厳密な意味での論理の運用について学んでいくことになる。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考図書》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業の到達目標》

○ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

・文字通り理屈っぽい演習です。理屈がお好きであれば是非ご参加下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（1）
3	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（2）
4	論理トレーニング	第5章 演繹と推測（1）
5	論理トレーニング	第5章 演繹と推測（2）
6	論理トレーニング	まとめと復習
7	論理トレーニング	第6章 価値評価（1）
8	論理トレーニング	第6章 価値評価（2）
9	論理トレーニング	第6章 価値評価（3）
10	論理トレーニング	第7章 否定（1）
11	論理トレーニング	第7章 否定（2）
12	論理トレーニング	第8章 条件構造（1）
13	論理トレーニング	第8章 条件構造（2）
14	論理トレーニング	第8章 条件構造（3）
15	論理トレーニング	まとめと復習

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

これまでに学んだ技術を組み合わせた紙工作や立体造形を行う。
 展示、ワークショップなどにおける、造形作品の利用について考える。
 内容によってはパソコンを利用します。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

造形の楽しさを知り、その伝え方を考えることができる
 制作の工程について考えることができる
 デザイン的な観点から作品を見ることができる

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
 できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《成績評価の方法》

作品、レポートなどの提出物 100%
 提出物はコメントを付して返却する。
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	演習の目的
2	デザイン1	デザインとは、デザインの目的と評価
3	形とデザイン1	目的に合った形を作る1
4	形とデザイン2	目的に合った形を作る2
5	形とデザイン3	目的に合った形を作る3
6	デザイン2	制作の工程を考える
7	デザインの進め方1	目的、制限事項、資料収集
8	デザインの進め方2	試作、評価、改良
9	デザインの進め方3	選択、記録
10	デザイン3	場面に応じたデザイン
11	造形作品の利用1	場面に応じた作品を考える1
12	造形作品の利用2	場面に応じた作品を考える2
13	造形作品の利用3	場面に応じた作品を考える3
14	造形作品の利用4	場面に応じた作品を考える4
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子どもの家庭と福祉

本演習Ⅰを踏まえて、実際のサービス提供の場を訪問し、保育士資格の専門性について考察する。

《テキスト》

プリントの配布，視聴覚教材の利用

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

○机上の学習と受講生間の意見交換を踏まえて、児童福祉施設、関連機関等を訪問して、自ら構築した「考え」を検証する。

○保育士資格の専門性の具体的役割を明確にし、支援を必要とする子どもへの具体的支援方法について、文章にして説明することができる。

《授業時間外学習》

子どもに関する新聞報道等には関心を持ち、現状を把握するよう努めてください。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲（50%）

課題の提出：授業中に提出したレポート等は返却し、次の課題解決に役立たせる（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習のねらいと進め方、到達目標と評価について説明する。なお、本演習は次年度のこども福祉卒業演習と連動していることについて理解する。
2	実際の場の訪問 - 1	各受講生が想定するサービス提供の訪問場所について話し合いをする。
3	実際の場の訪問 - 2	具体的計画と訪問に関する手続等を行う。
4	訪問に向けて - 1	訪問の目的について話し合い、綿密な訪問計画を立てる。
5	訪問に向けて - 2	訪問により何をどこまで明らかにしたいのか等について話し合う。
6	訪問 - 1	訪問を実行する。
7	訪問 - 2	訪問を実行する。
8	訪問を終えて - 1	各自訪問に関しての報告の準備をする。
9	訪問を終えて - 2	訪問に関しての報告会を開催する。
10	文献学習 - 1	訪問の経験を、学びとして深めるために文献学習を行う。
11	文献学習 - 2	訪問の経験を、学びとして深めるために文献学習を行う。
12	卒業演習に向けて - 1	こども卒業演習に向けて、さらに深めたい研究テーマを定めるために受講生間で意見交換をする。
13	文献学習（実践の場の訪問） - 1	受講生の研究テーマ設定に従い、文献学習を進める者、再度異なる施設、機関等を訪問する者に分かれて学習計画を作成する。
14	文献学習（実践の場の訪問） -	受講生の研究テーマ設定に従い、文献学習を進める者、再度異なる施設、機関等を訪問する者に分かれて学習計画を実践する。
15	卒業演習に向けて - 2	1年間の学びを踏まえ、選定した研究テーマにたどり着いた理由、さらに卒業演習において学びたいことについてまとめる。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

こどもとこどもの成長に関わる諸問題を心理学の観点から検討する。受講学生による文献精読⇒まとめ⇒発表⇒討議のプロセスを通して授業を展開する。

《テキスト》

教科書は使用しない。受講学生自身が興味・関心を持った文献がテキストとなる

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①こどもの心理についての理解を深める。
- ②こどもの心理について問題意識を持つ。
- ③こどもの心理について問いを立てられる。
- ④こどもの心理について立てた問いを解くための筋道を思い描くことができる。

《授業時間外学習》

授業時間内には学生個々の発表とディスカッションを行うので、文献の精読は授業時間外に行わなければならない。

《成績評価の方法》

授業に対して積極的に取り組み態度への評価 50%。
 発表内容への評価 50%。
 学生の発表に対してコメントをすることで、こまめにフィードバックを行う。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。受講学生が関心をもっているテーマについて討議し、問題意識を高める。
2	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
3	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
4	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
5	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
6	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
7	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
8	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
9	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
10	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
11	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
12	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
13	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
14	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
15	まとめと展望	自分自身が調べて理解したこと、他の学生の発表を聞いて理解したことをまとめる。4年次の卒業演習で取り上げる研究テーマの目星をつける。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

専門演習Ⅰの内容に基づき、実際に指導案を作成し学内、学外で実践する。ひとりまたは複数のメンバーと関わる課外の制作・研究活動について、各自その計画を報告し、講評をうけます。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》

作ってあそぶお店さんごっこー身近な素材でアイデア工作ーアド・グリーン企画出版

《授業の到達目標》

ごっこあそびを企画する。
 作品を作る、並べて売る、買って使う喜びや面白さ、嬉しさを経験する。

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、随時質疑応答を行う。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後その日の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料・道具の扱い方。
2	企画制作① ケーキ&お菓子屋さん	布ケーキ、クッキー、ビスケット、小麦粉粘土等制作。
3	企画制作② 魚屋さん	魚、カニ、エビ、イカ、たこ等制作。
4	企画制作③ お弁当	サンドイッチ、おにぎり、洋食、和食等制作。
5	企画制作④ アクセサリ	指輪、プレスレット、ブローチ等制作。
6	企画制作⑤ 楽器屋さん	たいこ、カスタネット、マラカス等制作。
7	企画制作⑥ ゲーム屋さん	輪投げ、ボーリング、玉入れ等制作
8	グループ発表準備①	6グループに分かれ企画制作をそれぞれ選びごっこ遊びを展開する。
9	グループ発表準備②	ルール作り、看板、ユニホーム、商品陳列等制作。
10	グループ発表① ケーキ&お菓子屋さん	グループ発表
11	グループ発表② 魚屋さん	グループ発表
12	グループ発表③ お弁当	グループ発表
13	グループ発表④ アクセサリ	グループ発表
14	グループ発表⑤ 楽器屋さん	グループ発表
15	グループ発表 ゲーム屋さん	グループ発表

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

ジャン・ジャック・ルソーの『エミール』研究
 今から約250年前に書かれたルソーの『エミール』第4、5編を解説し、その教育論の現代的意味について考察する。第4、5編は道徳と倫理そして結婚観についてルソーの考え方を議論する。

《授業の到達目標》

- 1 ルソーの人間観を理解する。
- 2 『エミール』の第4編、第5編を理解し、その教育論を説明できる。
- 3 ゼミで『エミール』教育論を述べ、人間教育の意味を説明できる。

《成績評価の方法》

レポート (80%)
 授業参加意欲 (20%)
 別紙にコメントを付して渡す。

《テキスト》

ジャン・ジャック・ルソーの『エミール』(中)(下) 岩波書店

《参考図書》

福田敏一著『ルソー』岩波現代文庫
 林達夫『ルソー』レグルス文庫
 ルソー『告白』岩波書店
 長尾十三二 福田弘『ペスタロッチ』清水書院

《授業時間外学習》

参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
2	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
3	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
4	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
5	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
6	『エミール』第5編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
7	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
8	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
9	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
10	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
11	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
12	ルソーの教育論の内容	ルソーの教育目的と対象について
13	ルソーの教育論の特色	社会の中に生きる自然人とはなにか
14	人間ルソーの思想(1)	ルソーの人間哲学 『告白』を取り上げる
15	人間ルソーの思想(2)	ルソーの社会思想『社会契約論』を取り上げる

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育・保育実践に関する様々な事象や課題について調査・研究を行い、受講生のディスカッションを交えながら検討、考察する。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 主体的な学びの方法を体得し、課題追究する。
- 受講生の意見交換を通して、幅広い考察の視点を獲得する。
- 設定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。

《授業時間外学習》

常に教育・保育に関する話題に関心を寄せ、自身が学びを深めたいテーマ、課題を明確にできるよう努めること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度及び提出課題を総合的に評価する。(100%)
 課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する。
2	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
3	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
4	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
5	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
6	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
7	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
8	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
9	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
10	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
11	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
12	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
13	演習の成果報告	こども福祉専門演習ⅠおよびⅡにおける学習成果を発表する。
14	演習の成果報告	こども福祉専門演習ⅠおよびⅡにおける学習成果を発表する。
15	演習のまとめ	学習の総括を行う

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

乳幼児や保育に関連する音楽の題材に関して、実際に演習を通して修得し、その意義等について文献を用いた考察を行う。その上で、絵本を用いた音楽表現の創造をグループで行い、発表する。また、保育現場で実践できる音楽を用いた保育内容を企画立案し、指導案作成と模擬保育を行うことを通して、保育者としての音楽への理解を深める。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

(1) 保育に関連する音楽の題材に関して知識を得ている。
 (2) 絵本を用いた音楽表現についてグループで協調性をもって取り組み創造する。(3) 音楽を用いた保育内容を企画立案し、指導案を作成できる。(4) 模擬保育を行い、自らの課題を見出し、他学生の模擬保育に対して専門的な視点を持って意見を述べるができる。

《授業時間外学習》

・音楽を乳幼児の保育・教育や支援で活用する際の題材について、日常生活の中で研究心を持っておくこと。
 ・授業で出された課題は、必ず指定期日までに仕上げてくること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)についてはレポート、(2)は作品の発表と参加態度・意欲、(3)はレポート、(4)は発表と参加態度・意欲で評価する。評価の割合は、レポート20%、発表40%、指導案20%、授業への参加態度・意欲20%で評価する。授業における評価は、個人ごとにコメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本科目の概要・目標等の確認
2	保育に関連する音楽の題材に関する研究(1)	昔から伝わる音楽表現
3	保育に関連する音楽の題材に関する研究(2)	現代の音楽表現
4	音楽表現の創造(1)	音絵本の表現制作(1)－絵本を選択する(図書館)－
5	音楽表現の創造(2)	音絵本の表現制作(2)－音作りを検討する－
6	音楽表現の創造(3)	音絵本の表現制作(3)－練習を行う－
7	音楽表現の創造(4)	音絵本の発表
8	保育実践における音楽の方法に関する研究(1)	音楽を用いた保育内容の研究(1)
9	保育実践における音楽の方法に関する研究(2)	音楽を用いた保育内容の研究(2)
10	保育実践における音楽の方法に関する研究(3)	指導案の作成(1)
11	保育実践における音楽の方法に関する研究(4)	指導案の作成(2)
12	保育実践における音楽の方法に関する研究(5)	模擬保育と意見交換(1)
13	保育実践における音楽の方法に関する研究(6)	模擬保育と意見交換(2)
14	保育者としての音楽の捉え方に関する考察	文献を用いて理解を深化させ、まとめる。
15	まとめと今後への展望	総まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教師・保育者論	科目ナンバリング	YS_L13005
担当者氏名	黒崎 令子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、1年生から積み重ねてきた保育に関する知識を深め、理論や実践からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》

- 教職の意義と保育者の役割を理解することが出来る。
- 教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。
- 保育者像を形成することの意義を理解する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度・成果 20%
- (2) レポート課題等の提出物 30%
- (3) 筆記テスト 50%

《テキスト》

『保育者論』上月素子編著 あいり出版

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 2008
 『保育所保育指針』 厚生労働省 2008
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領2014年フレーベル館
 その他、授業中に随時紹介する。』

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習する。
- (2) 出題課題について調べたり、まとめたりする。
- (3) 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめる。

《備考》

・幼稚園・保育所などに関する情報(特に教職)を常に意識して収集する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 目指す保育者像	授業の進め方・評価方法などのガイダンス 現時点で考え、目指す保育者像を明確にすることができる。
2	保育者を目指す	なぜ保育者を目指すかを問い直し、各自の努力目標を具現化することにより、学びを深める。
3	保育職とは	保育職に求められる専門性と人間性について学ぶ。
4	保育者の一日	子どもも保育者も主体的に生きる保育の創造について、意見交流を行う。
5	保育者の専門性①	幼稚園における保育者の役割について理解を深める。
6	保育者の専門性②	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について深く学ぶ。
7	保育者の安全危機管理①	園内外の安全確保について学ぶ。
8	保育者の安全危機管理②	災害等に対する備えについて深く学ぶ。
9	法と保育者	法的・制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し、法律上、制度上の位置づけや意味づけを知る。
10	法と保育者②	保育者の研修は、職責遂行のため、保育者の権利と位置づけられていることを理解する。
11	保育の歴史と保育者像①	海外で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
12	保育の歴史と保育者像②	日本で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
13	保育者への学習課題	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことをもとに、子どもと親・園・社会とをつなぐ保育者に求められる役割について論じる。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容と、得られた知見とその成果をまとめる。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	青年心理学	科目ナンバリング	YS_L23011
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

青年期は人の一生涯にわたる成長・発達の大きな節目となる発達段階である。重要な意味を持つ青年期の発達の特徴を、身体的・社会的・心理的側面から概観する。これまでに提起されてきた青年心理に関する諸説にふれながら、学生自身を含めた青年の心の在り方を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①生涯発達の流れにおける青年期の位置づけを理解する。
- ②青年期の身体的・社会的・心理的特徴を理解する。
- ③青年心理学の基礎的用語の意味を正確に理解する。

《成績評価の方法》

授業時間内に課すレポートへの評価 50%。
 最終週に実施する筆記試験への評価 50%。
 レポートはコメントを付して返却する。
 質問等には、授業終了後やオフィスパワーに対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回配布するプリントを用いて授業を進める。

《参考図書》

- 『エピソードでつかむ青年心理学』 大野久（編著）
 ミネルヴァ書房 2010
 『よくわかる青年心理学』 白井利明（編）
 ミネルヴァ書房 2006
 『やさしい青年心理学 〔新版〕』 白井利明・都築学・森陽子（著） 2012 有斐閣

《授業時間外学習》

参考図書として取り上げた図書をじっくり読み、青年心理の理解、そして自己理解を深めてもらいたい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	青年心理学への導入	青年の誕生そして青年心理学の誕生について、その歴史的経緯を学び、青年心理学への導入とする。
2	青年期の位置づけ	生涯発達の流れの中での青年期の位置づけ、そして青年期の重要性について学ぶ。
3	青年の体と心	青年期の身体発達の特徴を学び、身体発達が青年の心に与えるインパクトについて考える。
4	青年の内面世界	青年が経験する多様な感情に焦点をあて、青年の内面世界について考える。
5	アイデンティティの発達～その1	アイデンティティという概念が内包する意味を、さまざまな事例にふれながら学ぶ。
6	アイデンティティの発達～その2	アイデンティティ概念の広がり、そして多様なアイデンティティの在り方について学ぶ。
7	青年の恋愛～その1	青年の恋愛の特徴とされる「アイデンティティのための恋愛」について考える。
8	青年の恋愛～その2	恋愛と親密性という主題について考える。
9	青年の親子関係	青年期における親子関係の発達の变化を学ぶ。
10	青年の友人関係	青年にとって友人という存在がいかなる意味を持つのかを考える。
11	青年と学校	青年の発達にとって学校での学びがもつ意味を考える。
12	青年と社会	青年と社会との結びつきを、職業選択や労働を通して考える。
13	青年の心の問題～その1	青年の心の問題について、非行を中心に学ぶ。
14	青年の心の問題～その2	青年の心の問題について、ひきこもりを中心に学ぶ。
15	学習内容のまとめ	授業を通して学んだことの理解度を測定するために筆記試験を行う。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	YS_L23013
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
 ②課題の提出と完成度 20%
 ③定期試験 60%（持ち込み不可）
 ＊提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

授業中に指示する。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2017年度版』三省堂。
 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子『図解・表解 教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2012年。
 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.2』昭和堂、2012年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育制度の基礎知識	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育制度の基礎知識
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	就学前教育制度①	・就学前教育とは ・幼稚園の教育課程と保育所の目的
14	就学前教育制度②	・就学前教育の新しい展望：認定こども園 ・子育て支援と幼保小連携
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育方法論	科目ナンバリング	YS_L23014
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育・保育の方法を歴史の変遷や教育者の思想を通して学習する。
また、現代の教育・保育現場で実践されている指導方法について幼児理解の視点を中心に学ぶ。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 教育・保育方法の歴史の変遷を知る。
- 代表的な教育思想を理解する。
- 幼児理解の観点から、望ましい教育・保育方法について学ぶ。

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 試験70%
課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の目的と内容、評価について
2	近世の教育①	近世社会における子ども観と教育①
3	近代教育の誕生①	近代学校の誕生
4	近代教育の誕生②	一斉教授法について
5	子どもの主体性への着目	教育方法の転換
6	児童中心主義の教育①	児童中心主義の教育思想①
7	児童中心主義の教育②	児童中心主義の教育思想②
8	幼児理解に基づく教育①	幼児理解と援助①
9	幼児理解に基づく教育②	幼児理解と援助②
10	幼児理解に基づく教育③	カリキュラムデザインと環境構成①
11	幼児理解に基づく教育④	カリキュラムデザインと環境構成②
12	幼児理解に基づく教育⑤	連続性を踏まえた教育・保育①
13	幼児理解に基づく教育⑥	連続性を踏まえた教育・保育②
14	幼児理解に基づく教育⑦	省察とカンファレンス
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	YS_L23015
担当者氏名	松岡 恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

幼児教育・保育の現場では子どもや保護者に対し指導的役割だけでなく、相手を尊重し理解する姿勢・対応が求められています。カウンセリングの基礎知識、メンタルヘルス、支援について学ぶことで、バランスのとれた教育者になるための視点を得ることを目指します。毎回授業の最後にその日の時講義テーマについての感想、質問、意見などを記述し提出してもらいます。

《授業の到達目標》

- カウンセリングの基本を学び、相手の気持ちを思いやれる。
- 自分自身の心の状態を知り、心身の健康を保つ方法を日常生活で活用できる。
- 子どもたちの心のサインに気づくための基礎知識を習得し、簡潔に説明できる。

《テキスト》

『よくわかるアサーション自分の気持ちの伝え方』平木典子（監修）主婦の友社、2013

《参考図書》

『子どもへのまなざし』佐々木正美、福音館書店、2004
 『続子どもへのまなざし』佐々木正美、福音館書店、2004

《授業時間外学習》

育児不安、いじめ、不登校など子どもや保護者を取りまく子育て・教育環境における問題や心理的支援についてのニュースや記事に日ごろから関心を持って授業に臨みましょう。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論やワークなどへの取り組み 50%
- (2) 授業内容の理解 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などのガイダンス及び、子育てをめぐる状況と教育相談の意義と課題について理解する。
2	メンタルヘルスの問題	メンタルヘルスの問題、背景を知り、将来保護者や教育者として子どもが示すサインに気づき、適切な対応につながる視点をもつための基礎知識を学ぶ。
3	効果的な面接技法①	DVD教材を視聴し、相談者が話しやすいあいづち、質問など相手が話しやすい聴き方と、カウンセリングの基本姿勢や倫理について学ぶ。
4	効果的な面接技法②	DVD教材を視聴し、相談者が安心して話せるような視線のおき方など非言語的コミュニケーションについて学ぶ。
5	自分自身について知る①	ワークシートを用い、自分自身のイメージを探ることで自己理解を深める。
6	自分自身について知る②	ワークシートを用い、自己概念について理解を深め、カウンセリングの基本的な理論について学ぶ。
7	アサーション	アサーションについて学び、自分の気持ちをうまく相手に伝えることができるコミュニケーションのあり方を理解する。
8	発達相談	乳幼児健診などで子どもに実施される発達検査・発達相談について学び、子どもの発達、不安になっている保護者の心理、援助者の役割について理解する。
9	登園渋り・不登校	保育・教育現場で出会う登園渋りや不登校の子供への対応・支援について学び、理解する。
10	不安の高い子ども・緘黙児	保育・教育現場で出会う不安の高い子ども、緘黙児への対応・支援について学び、理解する。
11	相互スキイグルと描画法	相互スキイグルを学び、子どもとのラポール作りや親子遊びに活用できる。
12	ストレスマネジメント	ストレスと心身の関係について学び、その大要を説明できる。またストレスへの対処法の1つとして臨床動作法について体験学習し、気軽に日常生活で活用できる。
13	保護者との関係作り	育児不安の高い、虐待が疑われるなど気がかりな保護者との信頼関係を気付くための関係作りについて学び、対応を考えることができる。
14	他職種・専門機関との連携	子育て支援に関連する他職種の役割、専門機関の役割を知り、将来的に教育・保育現場で連携が必要な基礎知識を学び、対応を考えることができる。
15	まとめ	これまでの学習内容と与えられた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	表現総合演習	科目ナンバリング	YS_S23016
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

身体表現活動が子どもの発育発達にもたらす影響について学ぶ。幼児期に表れる表現の特徴について理解し、子どもにあった表現を使った遊びについて考える。また、自分自身の身体について理解を深め、幅広い表現力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。配布したプリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・自分のイメージや気持ちを動きで表現することができる。
- ・他者の動きを受け入れ、真似したり動きで応答したりして動きを共有することを主体的に楽しもうとする。
- ・基本の動きを発展させ発表することができる。
- ・全身を使った表現作品を創作し発表できる。

《授業時間外学習》

- ・体調管理
- ・日ごろから様々なジャンルの音楽に触れる。
- ・絵本や童話を読み、想像力をつける。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢（45%）、実技テスト（20%）、発表（20%）、提出物（15%）

《備考》

動きやすい服装で参加すること。シューズ忘れは欠席と同等の減点になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意
2	心と身体の結びつきを感じる	身体部位を認識する動き。身体知覚を刺激する遊び。
3	基本的なリズムステップの理解	基本ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
4	基本的なリズムステップの発展	基本ステップを組み合わせた複合的ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
5	基本的なリズムステップの発展②	ステップを組み合わせてひとまとまりの振りを創って踊る。
6	基本ステップのまとめ	基本ステップの体得を確認する。
7	リズム遊び	歌や曲のリズムに合わせて身体を動かす遊びに触れ、動きを発展させる方法を学ぶ。
8	歌を使った表現遊び	歌から全身を使った表現を考える。
9	絵本を使った表現遊び	絵本の言葉に合わせて全身を使った表現を考える。
10	身近な道具を使った表現遊び①	スカーフを使った表現遊びを考える。
11	身近な道具を使った表現遊び②	縄・フラフープを使った表現遊びを考える。
12	影絵遊びとデジタル機器を利用した表現	照明やデジタル機器を使って遊ぶ方法について学ぶ。
13	作品づくり	これまでの表現方法を利用して作品を創作する。
14	作品づくり②	作品の創作。発表会の計画と進行について。
15	発表会	リズムカルに動くこと、作品世界のメッセージ性、効果の使い方など総合的な表現力を確認する。

科目名	こども音楽療育概論	科目ナンバリング	YS_L23019
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

保育者が会う乳幼児の中には、何らかのハンディを持っている子どもも多い。全人的な保育の営みにおいて、保育者対子ども・子ども相互という関わりの中で、音楽が持つ生理的・心理的・社会的な力を利用し心身の発達を促進する音楽療育について学ぶことは意義がある。乳幼児の心身の発達及び音楽面の発達、音楽が持つ医学的・臨床心理学的な働き、音楽療育のプログラム内容、セッションにおける技法等、音楽療育の基本を学ぶ。

《授業の到達目標》

- (1) 音楽が持つ医学的・臨床心理学的な働きについて説明できる。
- (2) 乳幼児の心身の発達及び音楽面の発達を年齢ごとに類別できる。
- (3) 音楽療育のプログラム内容、セッションにおける技法を理解できる。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)(2)については試験を行い、(3)についてはレポート提出とする。評価の割合は、試験50%、レポート50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。
2	保育における音楽療育	保育者が理解しておくべき保育における音楽療育の基礎的内容について
3	音楽と医学	音楽が人間に寄与する医学的(生理的)働きについて
4	音楽と臨床心理学	音楽が人間に寄与する臨床心理学的(心理的)働きについて
5	乳幼児の発達と音楽	乳幼児の発達段階と音楽の関わりについて
6	乳幼児と音楽療育	乳幼児における音楽療育の意義と可能性について
7	音楽療育の対象	乳幼児の音楽療育における対象児及び障がい等の理解
8	音楽療育の形態	対象児に適した音楽療育の形態について
9	音楽療育の意義及び目標	音楽療育を行う意義及び対象児ごとの目標について
10	音楽療育のプログラムについて①	治療形態・治療方法について
11	音楽療育のプログラムについて②	対象児に応じた配慮・アプローチの方法について
12	音楽療育のセッションについて①	具体的な技法について①
13	音楽療育のセッションについて②	具体的な技法について②
14	音楽療育で使用する音楽	音楽療育を実践する上で使用する音楽・リズムの使い方、選び方について
15	学習のまとめ	これまでの学びを振り返り、まとめを行う

《テキスト》

系統立ったプリントを資料として配布する。

《参考図書》

- 「音楽療法の基礎」/村井靖児/音楽の友社/1995
- 「標準 音楽療法入門<上><下>」/日野原重明他/春秋社/1998

《授業時間外学習》

- ・ 保育や乳幼児を対象とした「支援」に関するニュースに常に興味を持ち、調べる。
- ・ 各自授業ノートを用意し、学んだことを整理していくこと。その際、授業時間外学習として、授業に関連する内容を図書館等で調べ、追記していくこと。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育相談支援Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S23023
担当者氏名	大西 雅裕		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

本授業は、2回生で履修した「相談援助」、「保育相談支援Ⅰ」を踏まえて、保護者の育児、地域での子育て支援等々について展開される保育相談支援活動の場での相談援助技術について様々な手法を用いて、特にロールプレイを中心に相談支援の実際を学ぶ。

《授業の到達目標》

保育相談支援の方法とロールプレイを通して、保育士として相談援助に対応できるスキルを涵養する。
その実際と援助方法について、批判的に理解する。

《成績評価の方法》

授業中に課す小テストおよびレポートによって評価する。 50%
合計 100%
授業での参加態度、ロールプレイでの取り組み 50%

《テキスト》

なし

《参考図書》

橋本好市・直島正樹編著『保育実践に求められるソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
赤木正典、大西雅裕編著「相談援助セミナー」建帛社
柏女霊峰、橋本真紀編著「保育相談支援」ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

その都度課題を出すので、積極的に取り組む。

《備考》

小グループでの学習を行うために、積極的な授業態度での参加を条件づける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本授業の進め方 ガイダンス	本授業を集中で行うために、その進め方についてガイダンスを行う。
2	保育相談支援の現状	保育の今日的課題を各自で考察
3	保育相談支援としての面接場面	保育場面での相談状況
4	ロールプレイ 1	ロールプレイの仕方
5	ロールプレイ 2	ロールプレイの設定
6	ロールプレイ 3	ロールプレイの準備と配役
7	ロールプレイ 4	ロールプレイの実際
8	ロールプレイ 5	ロールプレイの実際 2
9	ロールプレイの検討	全員での検討会①
10	ロールプレイの検討②	全員での検討会②
11	ロールプレイ③	全員での検討会
12	ロールプレイ④	全員での検討会
13	保育相談支援の実際 3	記録の仕方
14	保育相談支援の実際 4	記録の仕方②
15	まとめ	まとめと振り返り。レポート作成

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	集団施設保育の現状と課題		科目ナンバリング	YS_L23024
担当者氏名	柏 まり			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

保育者になることを志望する学生に、保育所・幼稚園等に代表される集団施設保育制度の現状を理解させ、課題解決に向けた力量の醸成を図る。具体的には、保育の専門家として幼稚園・保育所・認定こども園の制度を理解し、子どもの健全な育ちの場として、施設保育のあり方について考える。併せて、保育の質を向上させる方策についても模索する。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省
 『保育所保育指針解説』厚生労働省
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 他

《参考図書》

必要に応じて、随時指示する

《授業の到達目標》

- ・幼稚園・保育所・認定こども園制度の歴史と現状、課題について理解する
- ・子ども・子育て支援新制度の概要と課題について理解する
- ・保育の質を向上させるための方策を理解する

《授業時間外学習》

『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』について予習等を行い、内容について理解しておくこと

《成績評価の方法》

期末レポート（60％）・授業中レポート（30％）・授業態度（10％）を総合的に評価

《備考》

グループ活動等もあるので、積極的な態度でのぞむこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や基本的概念の共有を図る
2	保育とは	「保育」概念についての共通理解を行う
3	保育思想の源流（西洋）	西洋における保育思想の芽生え（ペスタロッチ・フレーベル・デュイ等）について
4	保育思想の源流（日本）	わが国における保育思想の芽生え（和田実・東基吉・倉橋惣三等）について
5	保育施設の歴史（幼稚園）	幼稚園の誕生とフレーベル主義について理解する
6	保育施設の歴史（保育所）	託児と保育所の誕生について理解する
7	幼保一元化の歴史	総合モデル施設事業等の施策について理解する
8	幼保一元化の現状	必要性和課題を把握する
9	子ども・子育て支援新制度①	子ども・子育て支援新制度の概要を理解し、課題を顕在化することを目指す
10	子ども・子育て支援新制度②	子ども・子育て会議の役割を理解する
11	保育職の現状と課題①	保育士不足の要因を考え、課題を顕在化する
12	保育職の現状と課題②	保育者のワーク・ライフ・バランスについて理解する
13	保育の質の向上①	保育の質の評価について考察する
14	保育の質の向上②	保育者のワーク・ライフ・バランスと保育の質の評価の関係性を把握する
15	まとめ	講義の総括を行う

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習 I B	科目ナンバリング	YS_F23026
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）／こども理解（こどもの観察とその記録、一人ひとりの状態に応じた援助や関わり）／養護内容・生活環境（こどもの心身の状態に応じた支援、健康管理、安全対策の理解）／計画と記録（支援計画の理解と活用、記録に基づく省察・自己評価）／専門職としての保育士の役割と倫理（保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携、保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

- 児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について理解することができる。
- 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができる。
- 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
- 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

実習施設での評価（60%）
 実習ノート等実習の成果について（40%）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次ほか編、(株)みらい

《参考図書》

《授業時間外学習》

- 実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
- 実習中は慣れない環境、緊張等で体調を崩しやすいので、実習に集中できるよう自己管理を徹底すること。
- 必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《備考》

- ①本実習は「保育実習指導 I B」と一体化している科目であること。
- ②再履修の機会はないこと。以上について留意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童福祉施設での保育実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_F23027
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

実際に保育所保育の現場に参加し、乳幼児理解を深めるとともに保育の実践的課題について学ぶ。

《テキスト》

実習園の指導内容を参考にすること
相馬和子・中田カヨ子『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》

実習園の指導を参考にすること
保育実習指導Ⅱで用いた資料やノートを参考にすること

《授業の到達目標》

- 保育所の機能や役割、保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践を通して学ぶ。
- 具体的な保育参加を通して、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
- 指導計画、実践、記録、省察を通して保育実践の在りようを具体的に学ぶ。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

実習園の評価、実習ノートの記入内容を総合的に判断する(100%)。
課題に対するフィードバック：わからないことは随時質問を受け付ける。

《備考》

円滑な実習が行えるよう体調管理に万全を期すこと。早朝より開始される保育所生活に十分対応できるよう生活リズムを整えて臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所実習	保育実習指導Ⅱ、その他既習科目の内容を十分に踏まえること。実習園の指導に従い、積極的に実習を行うこと。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習Ⅲ	科目ナンバリング	YS_F23028
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能を学ぶ／施設における支援の実際（受容し共感する態度，個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解，個別支援計画の作成と実践，子どもの家庭への支援と対応，多様な専門職との連携，地域社会との連携）について学ぶ／保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ／保育士としての自己課題を明確にする。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，（株）みらい

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。
- 家庭と地域の生活実態に触れて，児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに，保護者支援，家庭支援のための知識，技術，判断力を養う。
- 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と連動させて理解し，保育士としての自己の課題を明確化する。

《授業時間外学習》

- 実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
- 実習中は慣れない環境，緊張等で体調を崩しやすいので，実習に集中できるように自己管理を徹底すること。
- 実習中は，必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《成績評価の方法》

実習施設での評価（60%）
 実習ノート等実習の成果について（40%）

《備考》

- ①本実習は「保育実習指導Ⅲ」と一体化している科目であること。
- ②再履修の機会はないこと。以上を明示しておくこととする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童福祉施設での保育実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習指導ⅠB		科目ナンバリング	YS_S23030	
担当者氏名	杉山 貴要江				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する 			

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設での実習を円滑に進めるために、授業等で修得した知識・技術を再確認する。実習前には実習課題を設定し、目的を明らかにして実習に臨み、実習後は実習報告会を開催し、実習の自己評価、他者評価を基にして実習報告書を作成する。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次ほか編、(株)みらい

《参考図書》

『保育福祉小六法』，保育福祉小六法編集委員会編，(株)みらい
その他、随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。
- プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。
- 実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し修得できる。
- 実習後は、実習全体を振り返り、実習報告書を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

子どもの貧困、虐待に関する新聞報道等には目を通し、施設で生活する子どもの姿を把握してもらいたい。

《成績評価の方法》

事前指導：課題の提出、実習計画書の作成等（50%）
事後指導：実習報告会での発表、実習報告書の作成等（50%）
提出物は返却する。

《備考》

①授業は全出席を原則とするので、やむを得ず欠席をする場合は、事前に連絡をすること。②本科目は「保育実習ⅠB」と一体化しており、再履修の機会はありません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習全体の中の「保育実習ⅠB」の位置付け、授業内容、評価基準と方法、テキストと実習施設に応じた参考資料、予定表の配布、個人票の作成等について
2	事前指導 - 1	実習ノートの配布、実習計画書の作成について
3	事前指導 - 2	視聴覚教材による学習 (1) 各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習
4	事前指導 - 3	視聴覚教材による学習 (2) 各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習
5	事前指導 - 4	書籍、専門誌による学習 実習計画書の書き方と提出方法
6	事前指導 - 5	実習計画書の提出
7	事前指導 - 6	実習日誌の書き方
8	事前指導 - 7	オリエンテーションについて、その意義と諸注意
9	事前指導 - 8	実践者に学ぶ (1) 児童養護施設等について
10	事前指導 - 9	実践者に学ぶ (2) 障害のある子どもの施設について
11	事前指導 - 10	実習に臨むにあたって、実習生の立場と心構えについて 実習報告書の作成について (記述内容と提出方法)
12	事後指導 - 1	実習報告会の準備 (1)
13	事後指導 - 2	実習報告会の準備 (2)
14	事後指導 - 3	実習報告会 (1)
15	事後指導 - 4	実習報告会 (2)

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習指導Ⅱ		科目ナンバリング	YS_S23031
担当者氏名	澤田 真弓			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する 			

《授業の概要》

保育所での現場実習に向けて、保育について総合的に学び実践力を培う。
各自の実習課題を明確にし、事前準備を行う。
実習終了後は自己評価、他者評価を基に実習の振り返りを行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
幼少年教育研究所『遊びの指導』同文書院

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
- 既習科目の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
- 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- 保育に対する課題や認識を明確にする。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

事前指導（50%）、事後指導（50%）
課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

全出席を前提とする。やむを得ず欠席、遅刻をする場合は必ず事前に連絡をすること。連絡先については授業の初回に提示する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習Ⅱの意義と目的
2	事前指導1	保育士の職業倫理
3	事前指導2	子どもの保育と保護者支援①
4	事前指導3	子どもの保育と保護者支援②
5	事前指導4	保育実践の具体的理解①
6	事前指導5	保育実践の具体的理解②
7	事前指導6	実習における観察と指導の視点①
8	事前指導7	実習における観察と指導の視点②
9	事前指導8	実習ノートの記入 指導計画の書き方①
10	事前指導9	実習ノートの記入 指導計画の書き方②
11	事前指導10	直前指導 実習中の注意事項 実習終了後の注意事項
12	事後指導1	実習の振り返り①
13	事後指導2	実習の振り返り②
14	事後指導3	実習報告①
15	事後指導4	実習報告②

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習指導Ⅲ		科目ナンバリング	YS_S23032
担当者氏名	杉山 貴要江、濱口 清子			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する 			

《授業の概要》

社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ」での実習体験を活かして、児童福祉施設（利用施設を含む）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め、家族を含めた家庭支援のための知識や技術、判断力を養う。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 子どもの最善の利益に考慮した具体的理解ができる。
- 子どもの状態に応じた適切なかわりができる。
- 保育士の専門性を活かした支援ができる。
- 職業倫理を理解し実践することができる。
- 事後指導における実習の総括と自己評価ができる。

《授業時間外学習》

子どもに関する新聞報道等には目を通し、子どもの現状を把握するよう努めること。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成等（50%）
事後指導：実習報告書の作成等（50%）
提出物は返却する。

《備考》

①全出席を原則とするので、やむを得ず欠席をする場合は必ず連絡をすること。②本科目は「保育実習Ⅲ」と一体化しており、再履修の機会はない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習における「保育実習Ⅲ」の位置付け、実習の目的と内容 実習施設の選定について
2	実習施設の選定	受講生は各自実習施設を選定し、承諾に努める
3	事前指導 - 1	実習施設の理解、実習計画書について
4	事前指導 - 2	保育士と権利保障について理解する。
5	事前指導 - 3	保育士とソーシャルワークについて理解する。
6	事前指導 - 4	保育士と地域社会のかかわりについて理解する。
7	事前指導 - 5	実習計画書の作成、提出について
8	事前指導 - 6	施設でのオリエンテーションについて
9	事前指導 - 7	実習に臨むにあたって
10	事後指導 - 1	実習報告書の書き方と提出方法について
11	事後指導 - 2	実習報告会の準備
12	事後指導 - 3	実習報告会の準備
13	事後指導 - 4	実習報告会
14	事後指導 - 5	実習報告書の提出
15	事後指導 - 6	保育士資格と進路について

科目名	子育て支援地域活動Ⅱ		科目ナンバリング	YH_S23002
担当者氏名	山村 けい子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

「子育て支援地域活動Ⅱ」については、「子育て支援地域活動Ⅰ」を受講した学生を対象にした科目である。地域の子育て支援施設での活動を実践する中で企画・立案等をし、子育てを支える地域子育て活動の経験を深めて行く。

《テキスト》

子育て支援プロジェクト研究会
『子育て支援の理論と実践』
ミネルヴァ書房

《参考図書》

渡邊頭一郎・橋本真紀編著
『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引』中央法規
授業中に適宜示唆する

《授業の到達目標》

- 実践的な取り組みから子育て支援の歴史文化的な視点から子育て支援の意義を理解する。
- 子育て支援地域活動の事例研究を通して地域活動の重要性を知り、課題を見つける。
- 自らが子育て支援地域活動に参加し、企画・立案できる担い手へとなる。

《授業時間外学習》

- (1)授業中に出された課題には積極的に取り組むこと
- (2)子育て支援に関する情報や資料を必ず収集し、整理しておくこと
- (3)ボランティア活動に積極的に参加することが望ましいが、授業を優先すること

《成績評価の方法》

- (1)授業中の態度や発表当 (10%)
 - (2)レポートなど提出物 (30%)
 - (3)筆記試験 (60%)
- 授業の最後には振り返りを行う

《備考》

授業形態は、演習ですが、理論と実践を結ぶ場として学生自身が主体的に実践からの学びを深めることを期待する

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て支援地域活動の取り組み	オリエンテーション・子育て支援地域活動の取り組みへのグループ作り
2	実践演習に向けての教材研究	子育て支援地域活動についての基本的な知識を学習する
3	実践演習に向けての教材研究	グループで企画・立案をする。共通理解をしておく。
4	実践演習①	演習①
5	実践演習②	演習②
6	グループ討議Ⅰ実践からの学び	演習①②からの学びと課題（レポート）
7	実践演習③	演習③
8	実践演習④	演習④
9	グループ討議Ⅱ実践からの学び	演習③④からの学びと課題（レポート）
10	実践演習⑤	演習⑤
11	実践演習⑥	演習⑥
12	グループ討議Ⅲ実践からの学び	演習⑤⑥からの学びと課題（レポート）
13	子育て地域活動のワークショップ	グループ討議（体験したことについて事例検討をし、課題について考える。）
14	子育て地域活動のワークショップ	グループ討議（体験したことについて事例検討をし、課題について考える。） 地域子育て支援拠点との関連について理解をする。
15	学修のまとめ	子育て支援地域活動について実践からの学びを保育現場でどのように生かすかを話し合う

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童館の機能と運営		科目ナンバリング	YH_L23003	
担当者氏名	濱口 清子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

児童館の基本的な役割と、児童館施策の経緯・児童館活動の実際を知る。
 子どもの発達における「遊び」の大切さを知り、大人が子どもの遊びを支援するときに求められる視点と技法を習得する。
 児童館の今日的課題を学び、児童厚生員が子育て支援に取り組む際の視点を理解する。

《テキスト》

「児童館論」一般財団法人健全育成推進財団2014年発行
 必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

《授業の到達目標》

- 地域における子どもの遊び・育ちの実際を知る
- 児童館の役割を知り、児童館における子どもと子育て支援の技法を理解する
- 子どもから信頼され、子どもの成長・発達に寄り添える指導者となる視点を身につける

《授業時間外学習》

- ・子どもの発達に応じた遊びについて興味関心を持ち、具体的な遊びプログラムが作れるように準備しておくこと。
- ・県内の大型児童館A型（県立こどもの館）や大型児童館B型（姫路市立星の子館）、地元の小型児童館など見学しておくことを期待します。

《成績評価の方法》

- 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 児童館の概要	児童館の概要を知り、児童の遊びを指導する者（児童厚生員）としての学習の見通しを立てる
2	児童館に関する根拠法令	児童福祉施設としての児童館の歴史や根拠法令から児童館の位置づけや今日的課題について理解する
3	児童館の機能と役割	児童館の施設特性や規模別特徴について理解し、活動内容について学ぶ
4	グループ討議 1 子どもの環境課題	子どもを取り巻く家庭や地域の環境を知り、問題点を分析し児童館の役割や取組について考えを深める
5	グループ討議 2 子どもの発達と遊び	児童館に来館する幼児・小学生の遊びと発達の関係を理解し健全育成のための活動内容について考えを深める
6	グループ討議 3 子どもの発達と遊び	児童館に来館する中・高生の遊びと発達の関係を理解し健全育成のための活動内容について考えを深める
7	児童館と子育て支援	地域ぐるみの子育て支援の必要性を理解し、児童厚生員が行う子育て支援やコミュニティワークについて学ぶ
8	グループワーク1 小型児童館活動の実際	小型児童館における子どもを育む遊びのプログラムを立案し実践化する
9	グループワーク2 小型児童館活動の実際	小型児童館における子育て支援活動のプログラムを立案し実践化する
10	小型児童館活動における児童厚生員の役割	各グループの発表内容を共有し検討を深めることで児童厚生員のプレーワーカーやコミュニティワーカーとしての役割を学ぶ
11	児童館における放課後児童クラブ	放課後児童クラブにおける育成支援の基本や活動内容について理解するとともに児童館で実施する放課後児童クラブの長所について理解する
12	児童厚生員の倫理	児童館職員の倫理と児童厚生員の責務を学び、児童厚生員・放課後児童指導員の倫理綱領を通して専門職者としての在り方を考える
13	児童厚生員に必要なコミュニケーション力	演習を通して自らの自己表現について振り返り、子どもや保護者等との信頼関係を紡ぐさわやかな自己表現について学ぶ
14	児童館における衛生管理と安全対策	児童館が安全で安心な子供の居場所となるために平時の衛生管理、安全対策及び緊急時対応について理解する
15	学習のまとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明でき、児童厚生員への関心が高まる

科目名	発達障害児への支援		科目ナンバリング	YH_S23004	
担当者氏名	式部 陽子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

発達障害のある子どもの支援に関する基本的な知識と理解、具体的な支援方法について演習を通して学ぶ。特に、自閉症スペクトラム、ADHD、学習障害等の発達障害のある子どもの障がい特性の正しい理解、子どもの特性に応じた支援のあり方、家族への支援について、実践的な力を培うことを目的とする。演習では発達障害のある子どもへの適切な環境設定や事前の工夫、子どもの行動への具体的ななかかわり方について考える。

《授業の到達目標》

○自閉症スペクトラム、ADHD、学習障害等の発達障害の特性について正しく説明できる ○主な療育技法や発達障害のある子どもの支援方法について説明できる ○発達障害のある子どもの支援について、環境調整や事前の工夫、子どもの行動への具体的ななかかわり方を考えることができる ○家族への支援のあり方について説明できる

《成績評価の方法》

(1) 毎回の講義後のミニレポートおよび授業内演習への参加とその成果50% (参加意欲および演習シートの記入内容によって評価) (2) レポート課題20% (提出遅れは減点) (3) 筆記試験30%

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考図書》

①『保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド』、平澤紀子・山根正夫・北九州市保育士会(著)・藤原義博(監修)、学苑社(2005)、②『子育てが楽しくなる5つの魔法(改訂版)』、井上雅彦(監修)、アスペルデの会(2012)

《授業時間外学習》

(1) 適宜、発達障害に関連する書籍や報道・メディア等の案内を行うので、日常から発達障害への関心を持っておくこと。(2) 授業内で紹介する保護者の手記を読んでレポートを提出してもらいます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達障害とは	発達障害とは何か、障害の定義やそれぞれの特性について学ぶ
2	発達障害のある子どもたち	発達障害のある子どもの特徴について学ぶ(疑似体験含む)
3	発達障害のある子どもの療育(1)	さまざまな療育技法や支援方法について学ぶ
4	発達障害のある子どもの療育(2)	発達障害のある子どもにわかりやすいスケジュールや教材を作成する
5	発達障害のある子どもの家族支援	発達障害のある子どもの家族への支援について学ぶ。保護者の手記を読んでレポート提出を求める
6	発達障害のある子どもと家族への支援(1)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験①ほめ上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
7	発達障害のある子どもと家族への支援(2)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験②観察上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
8	発達障害のある子どもと家族への支援(3)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験③整え上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
9	発達障害のある子どもと家族への支援(4)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験④伝え上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
10	発達障害のある子どもと家族への支援(5)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験⑤教え上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
11	保育所・幼稚園等での具体的支援(1)	仮想事例をもとに、発達障害のある子どもへの具体的な支援について検討する第1回から第10回で学んだ内容を応用する力を身につける
12	保育所・幼稚園等での具体的支援(2)	仮想事例をもとに、発達障害のある子どもへの具体的な支援について検討する第1回から第10回で学んだ内容を応用する力を身につける
13	保育所・幼稚園等での具体的支援(3)	仮想事例をもとに、発達障害のある子どもへの具体的な支援について検討する第1回から第10回で学んだ内容を応用する力を身につける
14	試験	筆記試験を実施する
15	学習のまとめ・振り返り	講義全体のふりかえり及びまとめを行う

《専門教育科目 発展科目》

科目名	発達と疾病・障害 I	科目ナンバリング	YH_L22005
担当者氏名	中塚 志麻		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

子どもの成長と発達を理解し、病気や障害を有する子どもの心理・生理・病理を学ぶ。授業では、病虚弱・肢体不自由（重度重複）・知的障害・発達障害の領域に分け、各障害・疾病の子ども達とその家族に対する理解を深める。また、子ども達が幸せに成長するために必要な力であるレジリエンスを育む課題やワークを取り入れ、学生自身がアクティビティを高める講義を行う。

《授業の到達目標》

①子どもの発達（発達段階と発達課題）を理解する。②各障害・疾病を有する子どもの心理・生理・病理を理解する。③子どもの生きる力としてのレジリエンスを学生自身も習得する。

《成績評価の方法》

グループワークの参加とその成果（30%）・小テスト（30%）・レポート課題（40%）を通して評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション：障害についての基礎知識①	①障害についての基礎知識を学ぶ②障害の考え方の移り変わりを学びながら、私達自身の障害観を再考する。
2	障害についての基礎知識②	①ICIDHとICF ②日常的によく目にしたり聞いたりする「障害を表す表記」について③障害者権利条約と障害者差別解消法を理解する。
3	障害児保育・特別支援教育①	①障害児保育・特別支援教育の概論：歴史・意義・課題について、基礎的知識を理解する。
4	障害児保育・特別支援教育②	障害児保育・特別支援教育現場での活動について学ぶ
5	発達とは	人の心と体の発達のメカニズムについての基礎知識や発達段階や発達課題について学ぶ
6	認知発達と感覚について	①五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）の発達について学ぶ。②感覚過敏・感覚鈍麻を有している子どもについて理解する。
7	神経発達症群（発達障害）①	①神経発達症群（発達障害）の基礎知識を学ぶ②事例・疑似体験を通して神経発達症群の子ども達の行動や心理を理解する。
8	神経発達症群（発達障害）②	①神経発達症群の子ども達とレジリエンス②神経発達症群の子ども達への関わり方を学ぶ。
9	最近の小児医療の動向①	①医師と患者の関係について学ぶ。②全人的医療について ③医療型障害児入所施設について学ぶ。
10	小児医療現場で働く人々①	①病棟保育士の仕事と役割 ②チャイルドスペシャリストの仕事と役割
11	小児医療現場で働く人々②	①入院している子どもの心を癒す取り組みについて：セラピードッグやホスピタルクラウンについて学ぶ。
12	医療の世界のつながりを知る	地域の小児医療現場やその中で働く人々について、興味のある事項をグループワークで調べる。②発表を通して、小児医療とのつながりを深く理解する。
13	病弱教育について①	①特別支援教育の中の病弱教育 ②病弱教育とは ③病弱教育の役割
14	病弱教育について②	①事例を通して病弱教育の現場の実際を知り、理解を深める。
15	病気の子どもの心理	①事例を通して、病気の子どもの気持ちを理解する。①病気の子どもへの関わり方について学ぶ。

《テキスト》

文部科学省：教育支援資料

《参考図書》

図でわかる発達心理学（福村出版）
病弱・虚弱児の医療・療育・教育（金芳堂）

《授業時間外学習》

①授業に関連した課題レポートを提出する。

《備考》

文部科学省：教育支援資料を使用します。文部科学省HPから各自ダウンロードしてください。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	発達と疾病・障害Ⅱ	科目ナンバリング	YH_L23006
担当者氏名	中塚 志麻		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

発達と疾病Ⅰで学んだ「子どもの発達」や「疾病・障害を有する子どもの心理・生理・病理」を想起しながら、支援者として適格な判断や対応が行える実践的な学習を行う。代表的な疾病・障害の具体的な症例や事例を通して、理解を深め、支援につながる関わり方を習得できる授業を実施する。

《テキスト》

文部科学省・教育支援資料

《参考図書》

病弱・虚弱児の医療・療育・教育（金芳堂）

《授業の到達目標》

①各疾病・障害を有する子どもの心理・生理・病理の理解を深め、配慮や支援について学ぶ。②支援者として、子どもやその家族、関係者との関わりを深めるための知識や技術、思いやりの気持ちを習得する。

《授業時間外学習》

①授業に関連した課題レポートを提出する。

《成績評価の方法》

小テスト（30％）・グループワーク（30％）・レポート（40％）を通して、総合的に評価を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害について（制度や取組）	①文部科学省や厚生労働省の制度等の最新情報について学ぶ。
2	障害とレジリエンス	病気や障害をもつ子どもにとって必要なレジリエンス能力を育む支援について学ぶ。
3	病虚弱児の心理・生理・病理①小児がん1	①小児がんについて ②小児がんの子ども心理・生理・病理について理解する。
4	病虚弱児の心理・生理・病理②小児がん2	③小児がんの子ども家族の支援 ④ターミナルケア
5	病虚弱児の心理・生理・病理③I型糖尿病	①I型糖尿病について②事例を通してI型糖尿病の子ども心理・生理・病理について理解する。
6	病虚弱児の心理・生理・病理④腎疾患	①腎疾患について②腎疾患の子ども心理・生理・病理について理解する。
7	病虚弱児の心理・生理・病理⑤心の病気	①心の病気について②心身症・神経症の子ども心理・生理・病理について理解する。
8	肢体不自由児の心理・生理・①脳性まひ	①脳性まひについて②脳性まひの子ども理解と支援
9	肢体不自由児の心理・生理・②筋ジストロフィー	①筋ジストロフィーについて②筋ジストロフィーの子ども理解と支援
10	肢体不自由児の心理・生理・③医療的ケア	①医療的ケアについて②医療的ケアの実際について、演習を通して理解を深める。
11	肢体不自由児の心理・生理・④摂食	①摂食について②摂食指導演習を通して、摂食指導の重要性について理解を深める。
12	知的障害①てんかん	①てんかんについて②てんかんの子ども理解と支援
13	知的障害②アンジェルマン症候群	①アンジェルマン症候群について②アンジェルマン症候群の子ども理解と支援
14	知的障害③ウィリアムス症候群	①ウィリアムス症候群について②ウィリアムス症候群の子ども理解と支援
15	子どものQOL	疾病や障害を有する子どものQOLを向上させるための支援についてグループワークを行う。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	こころとからだのしくみ I	科目ナンバリング	YH_L22007
担当者氏名	木村 省吾		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

前期では主に人体の生理解剖について講義する。

《テキスト》

《授業の到達目標》

人体の骨、筋肉、神経、各種臓器の機能などを理解し、基礎的な医学用語を修得する。

《参考図書》

ぜんぶわかる人体解剖図 坂井 建雄 (著) 橋本 尚詞 (著)
 図解入門よくわかる生理学の基本としくみ 當瀬 規嗣 (著)
 新訂版 解剖生理をおもしろく学ぶ 増田 敦子 (著) 新訂版 人体解剖ビジュアル からだの仕組みと病気 松村 謙
 兜 (著) 心とからだを育む 子どもの保健 I 高内 正子 (編著)

《授業時間外学習》

講義内容によってはあらかじめ授業前の予習が望ましい為、予習必要時は適宜周知する予定。

《成績評価の方法》

レポート作成または筆記試験にて評価する。

《備考》

各週におけるテーマは授業の進行状況に応じて適宜変更する予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ヒトの細胞、循環器について	細胞の構成、それぞれの器官の役割について、循環器では主に心臓や血管の働き、基礎的な医学用語などについて、それぞれ資料とテキストを使い理解を深める。
2	ヒトの細胞、循環器について	細胞の構成、それぞれの器官の役割について、循環器では主に心臓や血管の働き、基礎的な医学用語などについて、それぞれ資料とテキストを使い理解を深める。
3	循環器学とその代表的な病態	代表的な循環器疾患について理解する。
4	消化器・代謝・栄養学について	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸などの管腔臓器の解剖と機能を学ぶ。
5	消化器・代謝・栄養学について	肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓の解剖と機能について理解する。
6	消化器・代謝・栄養学について	3大栄養素や代謝について理解する。
7	代表的な消化器・代謝疾患について	代表的な消化器・代謝疾患について学ぶ。
8	代表的な消化器・代謝疾患について	代表的な消化器・代謝疾患について学ぶ。
9	呼吸器学について	口腔、気管、肺など呼吸器系統の解剖と機能について学ぶ。
10	呼吸器学について	口腔、気管、肺など呼吸器系統の解剖と機能について学ぶ。
11	代表的な呼吸器疾患について	代表的な呼吸器疾患について学ぶ。
12	代表的な呼吸器疾患について	代表的な呼吸器疾患について学ぶ。
13	骨・筋肉の解剖と機能	人体の代表的な骨、筋肉の解剖と機能について理解する。
14	骨・筋肉の解剖と機能	人体の代表的な骨、筋肉の解剖と機能について理解する。
15	前期生理解剖の総復習	これまで講義した内容の復習と質疑応答。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	こころとからだのしくみⅡ	科目ナンバリング	YH_L23008
担当者氏名	木村 省吾		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

前半は前期分の残りの生理解剖と脳神経・神経一般について学ぶ。後半は小児が罹患しやすい代表的な感染症や、小児の発達・発育過程や発達障害の特性について学ぶ。

《授業の到達目標》

簡単な神経学用語や小児の発達について理解できる。

《テキスト》

《参考図書》

幼稚園・保育園での発達障害の考え方と対応 役に立つ実践編
 平岩幹男（著） 心とからだを育む 子どもの保健Ⅰ 高内正子（編著）

《授業時間外学習》

神経学と発達障害の授業前はあらかじめ予習しておくのが望ましい。

《成績評価の方法》

レポート作成で評価する。

《備考》

DVD学習を適宜行う予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	体温調節、免疫について	ヒトの体温調整機能や免疫概論について
2	代表的な内分泌臓器とその疾患について	内分泌臓器の代表例とその疾患について
3	感覚器について	五感を司る感覚器一般について
4	ホルモン産生器官（内分泌臓器）について	内分泌臓器の学習とやや重複するが、その中で体内に重要な役割を持つホルモン産生器官について学習する
5	生殖器臓器について	子宮、卵巣、精巣などの生殖器臓器の解剖と機能について
6	神経総論・脳神経	中枢・末梢神経概論
7	神経総論・脳神経	中枢・末梢神経概論
8	小児の発達について	小児の発育・発達について
9	小児の感染症について	小児に罹患しやすい代表的な感染症について
10	発達障害とは？	発達障害概論
11	発達障害とは？	発達障害概論
12	DVD学習	「実習で学ぶ発達障害とコミュニケーション理論」
13	DVD学習	「災害時の子どもの心のケア講演会&トラウマ体験セミナー」
14	DVD学習	「災害時の子どもの心のケア講演会&トラウマ体験セミナー」
15	これまでの総復習	総復習またはDVD学習

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童の貧困と虐待	科目ナンバリング	YH_L23009
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

この講義では、現代の国際社会の文脈の中で、子どもをとりまく環境がどのように理解され、子どもに関して何が解決すべき課題だと分析され、さらに課題を解決するにはどのようなアクションが必要だと認識されているのかについて、多くの具体的事例を挙げながら諸君とともに議論していきたい。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

講義の中で随時紹介していく。

《授業の到達目標》

- 現代の諸外国の子どもが抱える諸問題を具体的に論じることができる。
- 諸問題を解決するための措置を現実的な文脈の中で思考することができる。
- 日本と諸外国の子どもを取り巻く諸問題について、その相違点を挙げるができる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

「貧困と虐待」というかなりショッキングなタイトルのついた講義ですが、世界の子どもの置かれた社会的な文脈を理解し、そこから様々な問題をじっくり考えていきたいと思えます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、現代の国際社会
2	世界の子ども	様々な国際指標から
3	飢餓と貧困	干ばつ・疫病
4	都市と貧困	拡大するスラム
5	人身売買	売春・買春・ポルノ
6	国際結婚と子ども	国籍・養育権
7	戦火の子ども（1）	少年兵の現状
8	戦火の子ども（2）	難民の現状と課題
9	女子教育（1）	女子に対する差別
10	女子教育（2）	マララ・ユスフザイさんの活動
11	子どもの権利条約（1）	条約成立の背景、構成、選択議定書
12	子どもの権利条約（2）	第1条～第20条の輪読
13	子どもの権利条約（3）	第21条～第40条の輪読
14	課題解決のために（1）	国連、ユニセフの活動
15	課題解決のために（2）	NPOの活動

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童の健全育成と福祉		科目ナンバリング	YH_L23010
担当者氏名	杉山 貴要江			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む 			

《授業の概要》

わが国では児童の貧困問題について注目されてから久しいが、その現状を踏まえて、子どもの健全育成について考察する。事例研究することで、さらに保育者としての実践に役立てられるようにする。

《テキスト》

『健全育成論』一般財団法人 児童健全育成推進財団

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 健全育成の基本を理解し、地域支援について計画の策定ができる。
- 児童の健全育成を考えるうえで、地域の社会資源との連携について具体的に考えることができる。
- 多様化する保護者の価値観を理解し、児童厚生員の役割について考えることができる。

《授業時間外学習》

児童に関わる新聞報道等により子どもの現状を把握するよう努めてもらいたい。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲（50%）
課題の提出：授業終了時に理解度を確認するために小テストを課し、その後返却し復習の機会とする（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健全育成について - 1	児童の健全育成と福祉を学ぶ意義、授業内容、授業の進め方、評価について説明する。健全育成について、法的根拠等について理解する。
2	健全育成について - 2	わが国の健全育成に関わる機関について理解する。
3	健全育成について - 3	子ども・子育て新制度における健全育成を具現化した政策について理解する。
4	子どもの地域生活 - 1	子どもの遊び方の今昔について調べ、子どもを取り巻く環境の変化について理解する。
5	子どもの地域生活 - 2	就学前児童の昼間の居場所について調べ、子育て支援の必要性について理解する。
6	子どもの地域生活 - 3	放課後児童健全育成事業の実際について調べ、自治体ごとに異なる工夫をしていることを理解する。
7	子どもの地域生活 - 4	地域社会における子どもの健全育成に関わっている社会資源と人的資源について、受講生が生活する地域での実情について調べる。
8	子どもの地域生活 - 5	前回の授業内容を踏まえ、受講生の報告を基にして、今後のあるべき姿を各自まとめる。
9	健全育成と福祉 - 1	わが国の子どもの貧困問題について調べ、解決の糸口について考える。
10	健全育成と福祉 - 2	前回の授業を踏まえ、受講生間で討議し、子どもの貧困問題についての考えを各自まとめる。
11	健全育成と福祉 - 3	子どもの虐待問題について、事例研究を行う。
12	健全育成と福祉 - 4	前回の授業を踏まえ、受講生間で討議し、子どもの虐待問題についての考えを各自まとめる。
13	健全育成と福祉 - 5	子どもの地域生活 - 1～5の授業での学びを踏まえ、現在実施されている子育て支援について理解し、家庭、地域社会、保育所等児童福祉施設の役割について討議する。
14	健全育成と福祉 - 6	前回の授業を踏まえ、子育て支援と健全育成についての考えを各自まとめる。
15	まとめ	全授業を通して、児童の健全育成とその政策及び子どものwell-beingについて考察する。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	少子高齢社会とこどもの生活		科目ナンバリング	YH_L23022	
担当者氏名	田中 博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

日本の人口は2008年をピークに減少し始め、50年後は1億人になると推測されている。また、2055年の人口の高齢化は39.4%になることが予測されている。少子高齢社会は大きな社会問題として国民に高い関心があり、経済、社会のあり方に影響を及ぼす。家族と高齢者の扶養・介護と子育て・教育の在り方について論じる。子どもの自立と家庭生活を考察する。

《授業の到達目標》

少子高齢社会は社会を支える役割を果たす働き手が減少し、そのことによって生ずる社会的・経済的影響を理解する。そして、なぜ少子高齢化が進むかを考察し、その解決策等を各自が科学的根拠に基づいて考える力を養う。また、家族の役割と機能の変化を学び現代家族の特徴を理解し、さらに子どもの自立を家庭生活と地域の関係で説明できる。

《成績評価の方法》

レポート (80%)
 授業への参加意欲 (20%)
 別紙にコメントを付して渡す。

《テキスト》

山田正弘著『少子社会日本』岩波書店

《参考図書》

田中博一・小坂淳子編著『人間の尊厳と自立・社会の理解』法律文化社
 小澤勲著『認知症とはなにか』
 前田正子『子育てしやすい社会』ミネルヴァ書房
 江口隆裕『子ども手当と少子化対策』法律文化社
 河合隼雄『家族関係を考える』講談社

《授業時間外学習》

参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本の少子化の現状	人口統計、家族構成（世帯動向）にみる少子化の現状を解説
2	少子化の要因	結婚・出産・子育てをめぐる状況を解説
3	子ども・子育て支援	子ども・子育て支援施策の現状とその課題を解説する。
4	ワーク・ライフ・バランス	男性も女性も仕事と生活が調和する社会とはどのようなもので、その実態と施策を解説する。
5	少子化対策の現状と課題	子ども・子育てビジョン（2010年閣議決定）の内容を検討し、実際の政策の進捗状況を検証し、課題を考察する。
6	日本の高齢化の現状と将来	人口統計、家族構成（世帯動向）にみる高齢化の現状を解説する。
7	高齢化の要因	平均寿命の推移、医学の発達、社会保障の整備等の諸要因を分析して高齢化を分析する
8	高齢者の扶養・医療・介護保障	所得（年金）・医療・介護保障、それぞれの現状を理解し、その将来像を考察する。
9	高齢者世帯の現状	高齢者世帯の生活構造を分析し、その特徴を理解する。一人暮らしの高齢者の生活を理解する。
10	高齢者の介護問題	介護保障が未発達時代では高齢者介護は家族崩壊になることもあった。家族の介護とのかかわりを主として考察する。
11	法律（民法）にみる家族	親族・婚姻・婚外婚・親子関係を中心に制度上の“家族”を理解する。
12	家族関係	子ども、夫、妻、父、母、舅、姑のそれぞれの立場から家族の見方を考えてみる。とりわけ、夫婦関係、親子関係の本質を考察する。
13	こどもの直面する諸問題	いじめ、虐待、不登校など社会問題になっている子どもに深刻な問題を分析し、その解決策を検討する。
14	家庭とこどもの自立	基本的な生活能力とは何かをはじめに、こどもも生きる力を育むために家庭生活（家族関係）の在り方を追求する。
15	地域とこどもの自立	地域崩壊や地域消滅という社会問題に直面しているが、一方で地域の力で子どもを育てる支援が行われており、こどもの自立の視点で考察する。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	施設保育士論	科目ナンバリング	YH_L23012
担当者氏名	藤本 政則		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

乳児院や児童養護施設等の社会的養護施設において児童の養育に携わる保育士養成に焦点を絞り授業内容を構成する。児童虐待を受けた児童へのケアのあり方から始まり、関係機関としての児童相談所の役割、さらには今日強く求められている施設の地域の子育て拠点的功能の役割についても授業対象とする。施設の管理運営面においても知識を習得することを求める。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

乳児院や児童養護施設等の社会的養護施設における保育士が提供すべき養育内容について理解する。また、施設の地域の子育て拠点的功能の役割についても授業対象とするとともに施設の管理運営面においても理解を深める。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

1. 授業態度、授業内討論への参加（40%）
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）（60%）
授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

各講義の開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	虐待対応の実際①－施設入所までの対応－	要保護児童地域対策協議会の体制と役割について。
2	虐待対応の実際②－施設入所までの対応－	児童相談所を中心とする児童虐待対応機関の体制について。
3	虐待対応の実際③－施設における治療的養育－	児童養護施設における被虐待児への対応について。
4	虐待対応の実際④－施設における治療的養育－	児童養護施設における被虐待児への対応について。
5	虐待対応の実際④－施設退所後の支援－	親子再統合、家庭復帰後の再虐待防止の為の支援について。
6	施設養護と小規模化	施設の小規模化、家庭的養護の推進について。
7	施設養護と小規模化の実際	施設の小規模化、家庭的養護を実際に取り組む事例から学ぶ。
8	施設養護と地域分散化	施設の地域分散化、適正配置について。
9	施設養護と地域分散化の実際	施設の地域分散化、適正配置の実際の事例について学ぶ。
10	施設養護と被措置児童虐待予防①	被措置児童虐待予防の法制度体制について。
11	施設養護と被措置児童虐待予防②	被措置児童虐待予防に向けた実際の実践例について学ぶ。
12	施設養護と第三者評価	第三者評価制度の概要と取組について。
13	施設における地域子育て支援①	虐待予防を目的とする子育て支援の内容とその実際について。
14	施設における地域子育て支援②	里親支援の内容とその実際について。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、施設保育士の果たす役割について考える。

科目名	幼児のための福祉教育 I		科目ナンバリング	YH_L23016	
担当者氏名	田中 博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

少子高齢社会において、福祉教育は「共に生きる社会」と「自立」とは何かを理解しそれを実践する心を養うための教育である。「障害」を「生活の困難」という理解をもとに、支えあう心の涵養がその目的である。先人の活動と現代の実態から共生社会実現を考える。

《授業の到達目標》

1 共生社会と自立の意味を学び、共に生きる社会の在り方を理解し説明できる。2 障害者、高齢者が生活（人生）の困難を乗り越え、生きるための全体像を把握し説明できる。3 幼児のための福祉教育の意義を説明でき、その方法を習得して保育に活かすことができる。

《成績評価の方法》

期末テスト（80%）
 授業態度・プレゼンテーション（20%）
 解答用紙に正解とコメントを付して返却する。

《テキスト》

プリント配布

《参考図書》

滋賀県社会福祉協議会編『みんなちがってみな同じ』サンライズ出版
 レオ・バスカーリア『葉っぱのフレディー命の旅』 童話屋こわせ たまみ『クイールはもうどう犬になった』ひさかたチャイルド社
 高谷清『重い障害を生きるということ』岩波書店

《授業時間外学習》

参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児のための福祉教育	少子高齢化社会における「共生社会」と「自立」の精神を養い、「きずき」の意義を解説する。
2	いのちの大切さを語る	いのちの誕生と子どもを見守る人々の存在を認識し、その関係性を解説する。
3	生きる喜びを考える	絵本「葉っぱのフレディー」を使って「生」「死」を考える
4	“ちがい”と“おなじ”	エド・ロバーツの人生を例に、人は心身に障害の有無にかかわらず“差”はあっても“いのち”の価値は同じであることを認識する
5	「障害」とこども	絵本「はせがわくんきらいや」にみる行為と絆を考える
6	「こころを寄せ合う」	写真集「クイールはもうどう犬になった」を活用して「こころを寄せ合う」ことを考える
7	ユニバーサルデザイン	“ひとつですべてを”の標語に示されるユニバーサルデザインの由来から実社会で利用されている制度やものの在り方を通して「共生と自立」の理解
8	ICFの理論と実際 I	WHOのICFの理論と実際を学び、「障害」を正しく理解し、「活動」、「参加」等5つの因子の相互作用による健康の概念と自立支援を理解する。
9	ICFの理論と実際 II	生命・生活・人生を包括する「生活機能」の意味を理解する
10	「ともに生きる」理念	地域、学校（幼稚園）、保育所で行われている高齢者、障害者が生きる活動を通してみる支えあいの教育を解説する。
11	高齢者の生活と活動	高齢者の心身の特性と日常生活を理解し、とりわけ、どのようなことが生活の上で困っているかを知り、その解決のための方策を理解する。
12	福祉教育における「感性」と「理性」	ビデオ「ペコロスの母に会いに行く」を使った高齢者理解の事例検討
13	体験活動と福祉教育	訪問交流、収集・募金活動、清掃・美化活動の過程においてこどもの意識変化について理解する。
14	ボランティア活動と福祉教育	ボランティアは文字どおり自発的なものであり、福祉教育の延長線上に現われるもののひとつである。その意味と活動例を検証する。
15	幼児のための福祉教育プログラム	保育の場で福祉教育を実践するためのポイントと事例を通して紹介する。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	幼児のための福祉教育Ⅱ	科目ナンバリング	YH_S24017
担当者氏名	古川 督		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

人間尊重の精神を基盤として、幼児に支え合う心を理解させ、福祉社会を形成していく能力を育てる教育について、基本的な理解と実践の態度を養う。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

授業内で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- 福祉教育の必要性を理解し、保育者としての資質を身につける。
- 幼児教育の場における支えあいの意味を理解する。
- 福祉教育を実践する方法を身につける。

《授業時間外学習》

- ・幼児に関する新聞やニュースなどの情報を収集し、まとめておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度も含む30%）、小課題（レポートなど）（20%）、筆記試験（50%）により評価する。
 なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉って、何だろう	幼児教育の一分野としての福祉について考える。
2	「いのち」と「こころ」	「いのち」の大切さや「こころ」を育てるということの意味について深く考え、理解することができる。見えないものこそ大切にすることに気付く。
3	幼児のための福祉教育とは	「幼児のための福祉教育」について理解し、幼児教育の場における支えあいの意味を理解することができる。
4	幼児を取り巻く環境の変化（1）	学生各々が資料を収集し、それを基にディスカッション・ロールプレイなどを通じ、理論的認識を深め、実践的応用力を身につける。
5	幼児を取り巻く環境の変化（2）	学生各々が資料を収集し、それを基にディスカッション・ロールプレイなどを通じ、理論的認識を深め、実践的応用力を身につける。
6	幼児を取り巻く環境の変化（3）	学生各々が資料を収集し、それを基にディスカッション・ロールプレイなどを通じ、理論的認識を深め、実践的応用力を身につける。
7	福祉のこころをはぐくむ（1）	実践事例を基に、グループワークを通じ、実践的応用力を身につける。
8	福祉のこころをはぐくむ（2）	実践事例を基に、グループワークを通じ、実践的応用力を身につける。
9	福祉のこころをはぐくむ（3）	実践事例を基に、グループワークなどを通じ、実践的応用力を身につける。
10	福祉のこころをはぐくむ（4）	実践事例を基に、グループワークを通じ、実践的応用力を身につける。
11	幼稚園・保育所の役割（1）	幼児に福祉のこころをはぐくむ指導案などを作成し、福祉教育を実践する方法を知ることができる。（視聴覚教材）
12	幼稚園・保育所の役割（2）	幼児に福祉のこころをはぐくむ指導案などを作成し、福祉教育を実践する方法を知ることができる。（視聴覚教材）
13	幼稚園・保育所の役割（3）	幼児に福祉のこころをはぐくむ指導案などを作成し、福祉教育を実践する方法を知ることができる。（視聴覚教材）
14	こころを育てる資料	学修したことを資料としてまとめ、保育現場で活用することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容と得られた知見とその成果を実習の場で活かすことができる。

平成26（2014）年度入学者

専門教育科目

科目名	国際福祉論	科目ナンバリング	YF_L24023
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

この講義では、20年ほど前に提唱され、近年極めて重要視されるようになった「人間の安全保障(Human Security)」という理念と、それに基づく国際的な活動（国家、国際機関、市民社会、NGO等の取り組み）を紹介し、21世紀の人類社会の新たな国際福祉の局面について考察を深めていきたい。

《授業の到達目標》

- 従来の安全保障概念を超えた「人間の安全保障」という理念の特徴を挙げることができる。
- 人類が世界大で直面する課題を指摘し、それらに対する活動の現状を説明することができる。
- 21世紀の国際福祉のあり方を、具体的に構想することができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100％）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

長有紀枝（著）『入門 人間の安全保障—恐怖と欠乏からの自由を求めて』（2012年、中公新書）
 高橋哲哉・山影進（編）『人間の安全保障』（2008年、東京大学出版会）
 その他、講義の中で随時紹介していく。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

従来、人々の生命や安全を守るのは国家の仕事と考えられてきましたが、その国家が当てにならない時、どうするか？それを皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	安全保障とは何か
2	「人間の安全保障」とは(1)	その成り立ち
3	「人間の安全保障」とは(2)	恐怖からの自由・・・武力紛争
4	「人間の安全保障」とは(3)	恐怖からの自由・・・難民
5	「人間の安全保障」とは(4)	恐怖からの自由・・・核兵器・原子力
6	「人間の安全保障」とは(5)	欠乏からの自由・・・貧困
7	「人間の安全保障」とは(6)	欠乏からの自由・・・保健衛生、環境
8	「人間の安全保障」とは(7)	欠乏からの自由・・・開発、食料
9	「人間の安全保障」とは(8)	尊厳を持って生きる自由・・・人権、子ども
10	「人間の安全保障」とは(9)	尊厳を持って生きる自由・・・ジェンダー
11	「人間の安全保障」とは(10)	尊厳を持って生きる自由・・・災害復興
12	国際機関と「人間の安全保障」	国際連合
13	国家外交政策と「人間の安全保障」	日本、アメリカ
14	市民社会と「人間の安全保障」	様々なNGO
15	まとめ	すべての人の自由と可能性を実現するために

科目名	こどもとメディア	科目ナンバリング	YS_L24027
担当者氏名	森下 博		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む 		

《授業の概要》

こどもとメディアの関わり合いについて、各種メディアによる表現の可能性について考える。こどもが視覚や聴覚を通して興味関心をもつためのアイデアを探る。具体的には、コンピュータやタブレット端末上で体験できる、動的表現、音声表現、連携表現、創造表現による作品を作る。最終的には、現場で活かすことを目指すことにし、構想、制作、構築を通してできあがった作品の評価を互いにおこなう。

《授業の到達目標》

- どのようなメディアがあるのかを理解し、その特性を活かした使用ができる。
- メディアを用いて、思い描くイメージや動作を正確に表現することができる。
- こどもの表現力や創造力を引き出せるような作品を作り上げることができる。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出40%

課題提出とその成果60%

分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

メディアの特性や使い方を踏まえた上で、こどもの目線に立ちながらアイデアを盛り込むといった、自主的な取り組みに期待します。

《備考》

正確な動作をおこなうには、忠実に指示して組み立てる必要があります。一方で、目の前で動作を確認しながら、想定外で得られた表現もどんどん取り入れて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と展開方法	授業計画と展開方法を説明し、こどものメディアの利用と関わりについて説明する。
2	メディアと動的表現(1)	思い通りの動きを表現するための仕組みを知り、実行をおこなう方法について学ぶ。
3	メディアと動的表現(2)	動きの制御とともに、ペンによる描画、キー操作、マウス操作の方法について学ぶ。
4	メディアと動的表現(3)	繊細かつ複雑な動きの実現とともに音や合図に連動させるための方法について学ぶ。
5	メディアと音声表現(1)	リズムを刻んで音を出す仕組みと曲を奏するための処理手続きの方法について学ぶ。
6	メディアと音声表現(2)	テンポや音量等を変えて演奏する仕組みを知り、表現の可能性と方法について学ぶ。
7	メディアと音声表現(3)	楽器の種類等を変更して演奏する仕組みを知り、効果的な演出の方法について学ぶ。
8	メディアと連携表現(1)	音楽と動きの連携について考え、魅力のある見せ方やその演出の方法について学ぶ。
9	メディアと連携表現(2)	一体感のある音楽と動きのコラボについてシミュレーションする方法について学ぶ。
10	メディアと連携表現(3)	演奏の仕方を自ら選択できるようなシステムチックな作品演出の方法について学ぶ。
11	メディアと創造表現(1)	デジタル楽器の音階に対するオブジェクトのレイアウトとデザイン性について学ぶ。
12	メディアと創造表現(2)	オブジェクトに対応する音の割り振りや音の出力の確認および操作性について学ぶ。
13	メディアと創造表現(3)	楽器の種類をリスト化して、切り替えができるデジタル楽器の可能性について学ぶ。
14	メディア表現の可能性	作品の試行と改良と評価を繰り返しながらメディア表現の可能性について追求する。
15	授業の振り返りと総括	メディアを用いた作品を通して、授業の振り返りと今後の発展性について検討する。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	国際こども文化論		科目ナンバリング	YS_L24028
担当者氏名	斎藤 正寿			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる			

《授業の概要》

この講義では、世界の様々な文脈における「子ども」の語られ方を紹介し、その多様な子ども像を検討していく。さらに世界の子どもと日本の子どもを様々な視点で比較する事で、より客観的な子どもの理解の一助としたい。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

講義の中で随時紹介していく。

《授業の到達目標》

- 人類が描いてきた様々な「子ども像」を理解しその特徴を挙げる事ができる。
- 世界の子どもの比較する様々な評価の視点を説明できる。
- 自分なりの「子ども像」を客観的な視点から構想することができる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

学期末にレポートを提出してもらい評価する（100%）。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

様々なメディアに登場する「子ども」を紹介していきます。一緒にその多様さを楽しみましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	子どもとは誰のことか
2	歴史の中の子ども（1）	古代・中世
3	歴史の中の子ども（2）	近代
4	小説の中の子ども（1）	外国の小説
5	小説の中の子ども（2）	日本の小説
6	映画の中の子ども（1）	海外の映画
7	映画の中の子ども（2）	日本の映画
8	国際社会の中の子ども（1）	子どもの権利条約
9	国際社会の中の子ども（2）	ユニセフの活動
10	比較（1）	教育制度
11	比較（2）	学力
12	比較（3）	体力
13	比較（4）	職業
14	比較（5）	文化
15	まとめ	もう一度、子どもとは誰のことか

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

この演習では、専門演習Ⅱにつづき、『論理トレーニング』の第3部「演繹」から第4部「議論を作る」を中心に、論理的な言語運用能力と論理的な文章作成力を鍛えていくつもりである。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考図書》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業の到達目標》

○ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

・文字通り理屈っぽい演習です。理屈がお好きであれば是非ご参加下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	第8章 条件構造（1）
3	論理トレーニング	第8章 条件構造（2）
4	論理トレーニング	第8章 条件構造（3）
5	論理トレーニング	第9章 推論の技術（1）
6	論理トレーニング	第9章 推論の技術（2）
7	論理トレーニング	第9章 推論の技術（3）
8	論理トレーニング	第9章 推論の技術（4）
9	論理トレーニング	第10章 批判への視点（1）
10	論理トレーニング	第10章 批判への視点（2）
11	論理トレーニング	第10章 批判への視点（3）
12	論理トレーニング	第11章 論文を書く（1）
13	論理トレーニング	第11章 論文を書く（2）
14	論理トレーニング	第11章 論文を書く（3）
15	論理トレーニング	まとめと復習

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

紙工作の作品をデザインする。
紙工作のワークショップや作品の利用を考える。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

紙工作の楽しさを知り、その利用と伝え方を考えることができる
こどもの視点で作品を見ることができる

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《成績評価の方法》

作品、レポートなどの提出物（100%）。
提出物にはコメントを付して返却する。
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	演習の目的
2	折りを利用した造形1	折りを利用したペーパークラフト制作1
3	折りを利用した造形2	折りを利用したペーパークラフト制作2
4	折りを利用した造形3	折りを利用したペーパークラフト制作3
5	折りを利用した造形4	折りを利用したペーパークラフト制作4
6	立体構成1	立体構成の作品制作1
7	立体構成2	立体構成の作品制作2
8	立体構成3	立体構成の作品制作3
9	立体構成4	立体構成の作品制作4
10	作品のデザイン1	ペーパークラフトの設計と制作1
11	作品のデザイン2	ペーパークラフトの設計と制作2
12	作品のデザイン3	ペーパークラフトの設計と制作3
13	作品のデザイン4	ペーパークラフトの設計と制作4
14	造形作品の利用1	作品を活用できる場面を考える1
15	造形作品の利用2	作品を活用できる場面を考える2

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

こども福祉専門演習での取り組みを踏まえ、各自の関心領域を探究する。児童の社会的養護に関わる実際の場への訪問と子どもへの関わり、専門スタッフとの意見交換等により、児童家庭福祉の理念について考える。

《テキスト》

プリントの配布

《参考図書》

適宜紹介する

《授業の到達目標》

子どもの幸せとは何か、その方途と現代社会の課題について自分の意見を述べることができる。
 児童家庭福祉の理念について、自らの考えを他者に伝えることができる。

《授業時間外学習》

子ども、女性、家庭に関する報道等、現状を把握するように努める。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲 (50%)
 課題の提出：授業中に提出したレポート等な返却し、次の課題解決に役立たせる (50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習のねらいと進め方、到達目標と評価について説明する。
2	卒業発表に向けての取り組み	社会的養護の場の訪問に向けて、調査計画の作成をする。
3	卒業発表に向けての取り組み	社会的養護の場の訪問に向けて、調査計画の作成をする。
4	卒業発表に向けての取り組み	調査計画に則って、児童養護施設、保育所等を訪問する。
5	卒業発表に向けての取り組み	調査計画に則って、児童養護施設、保育所等を訪問する。
6	卒業発表に向けての取り組み	調査計画に則って、児童養護施設、保育所等を訪問する。
7	卒業発表に向けての取り組み	調査計画に則って、児童養護施設、保育所等を訪問する。
8	卒業発表に向けての取り組み	調査結果をまとめると同時に文献による学習を進める。
9	卒業発表に向けての取り組み	調査結果をまとめると同時に文献による学習を進める。
10	卒業発表に向けての取り組み	調査結果をまとめると同時に文献による学習を進める。
11	卒業発表に向けての取り組み	調査結果をまとめると同時に文献による学習を進める。
12	卒業発表に向けての取り組み	研究成果の報告をし、意見交換をする。
13	卒業発表に向けての取り組み	研究成果の報告をし、意見交換をする。
14	卒業発表に向けての取り組み	研究成果の報告をし、意見交換をする。
15	卒業発表に向けての取り組み	今期の学習を振り返り、Ⅱ期の演習課題を絞り込む。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

受講学生各々が設定した卒業研究のテーマについて、文献研究や調査等を通して理解、認識を深めていく。

《テキスト》

統一されたテキストは使用しない。受講学生が設定した卒業研究のテーマに関わる先行研究がテキストとなる。

《参考図書》

受講学生の設定した卒業研究のテーマのに基づき適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①受講学生自身が設定した卒業研究のテーマについて、理解を深めること。
- ②子どもの心理的発達について知見を深めること。
- ③大学生としての学びに取り組む姿勢を完成させること。

《授業時間外学習》

文献の探索、文献の精読、発表資料の作成と課題は多い。

《成績評価の方法》

授業に対して積極的に取り組む態度への評価 50%。
 発表内容への評価 50%。
 学生の発表に対してコメントをすることで、こまめにフィードバックを行う。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究のテーマの設定	3年次の専門演習における学びを受けて、4年間の学びの総括とすべき卒業研究のテーマを確認し、リサーチ・クエスチョンを設定する。
2	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
3	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
4	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
5	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
6	途中経過報告会 その1	第2週から第5週までの学びの成果を受講学生同士で報告し合い、次の研究へとつなげていく。
7	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
8	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
9	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
10	途中経過報告会 その2	第7週から第9週までの学びの成果を受講学生同士で報告し合い、次の研究へとつなげていく。
11	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
12	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
13	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
14	途中経過報告会 その3	第11週から第13週までの学びの成果を受講学生同士で報告し合い、次の研究へとつなげていく。
15	まとめ	卒業研究Ⅰの学びを振り返り、卒業研究Ⅱにおいてさらに追求すべき課題を明確にする。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

ワークショップの研究。社会環境の中の造形活動の場として捉え、時間や空間も含めたアートとの関わりについて学びます。不特定多数の異年齢の子供達が集まって主体的に参加できる企画内容について研究します。

《テキスト》

毎時間毎に計画表と参考資料を配付する。

《参考図書》

図画工作・みかたがわかる授業づくり 著書：西村徳行

《授業の到達目標》

地域プロジェクト、フィールドワーク、展覧会など活動について学び実践する力を養う。

《授業時間外学習》

予習の方法：毎回使用する素材や材料について収集及び研究をする。復習の方法：授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	各自の研究テーマとポートフォリオ作成の決定
2	造形遊びの視点①	素材：素材そのものと触れ合う。
3	造形遊びの視点①	素材：素材そのものと触れ合う。
4	造形遊びの視点①	素材：素材そのものと触れ合う。
5	造形遊びの視点②	行為：からだ全体の感覚を働かせる。
6	造形遊びの視点②	行為：からだ全体の感覚を働かせる。
7	造形遊びの視点②	行為：からだ全体の感覚を働かせ。
8	造形遊びの視点③	環境：環境へ進んで関わり、想像力や創造的な技能を高める。
9	造形遊びの視点③	環境：環境へ進んで関わり、想像力や創造的な技能を高める。
10	造形遊びの視点④	異年齢：相互に教え合い、学び合い、共に育ち合うことが出来るようにする。
11	造形遊びの視点④	異年齢：相互に教え合い、学び合い、共に育ち合うことが出来るようにする。
12	ワークショップの現場①	地域プロジェクト活動
13	ワークショップの現場②	フィールドワーク活動
14	ワークショップの現場③	展覧会活動
15	まとめ	プレゼンテーション

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 		

《授業の概要》

ルソーの自叙伝。自分の子供を捨てたルソーが児童の福音書と言われる『エミール』を著わした。ルソーの生涯を自ら語った小説『告白』を読みルソーの生き方・価値観を年代的に辿り、「人間ルソー」を考察する。

《テキスト》

ルソー『告白』全3巻 岩波文庫

《参考図書》

桑瀬章一郎『ルソーを学ぶ人のために』世界思想社
 桑原武夫編『ルソー』岩波新書
 E. カッシーラー『ジャン=ジャック・ルソー問題』みすず書房

《授業の到達目標》

第一部の出生からパリに向かうまで（30歳）までの人生を辿る。ルソーの人間像と人間観を考察し、ルソーのという人間を追求する。種々の人間像を体現しながら矛盾と相克に苦しみ、依存的人間の時期の特徴を理解する。

《授業時間外学習》

提示参考書以外のルソーの著作を読む とくに『社会契約論』は必読。

《成績評価の方法》

レポート400字20枚 100%
 別紙にコメントを付して渡す。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	卒業演習の方針
2	幼少期	出生からジュネーブ脱出までの幼少期の生活
3	放浪期1	16歳からの放浪の旅に始まり
4	放浪期2	17歳 神学校時代 職を転々とする時代
5	放浪期3	18歳 リヨン時代の生活・人生
6	恋物語	19歳 ヴァランス夫人の元で落ち着く 依存時代のはじまりシャンペリの生活
7	男と女1	愛の葛藤 バジール夫人との恋物語
8	男と女2	ルソーと母性
9	思想家ルソーの誕生	ノイローゼと自己教育 24歳頃
10	知的準備の時代	シャルメットの地で自然の中での独学とルソーの理想的世界
11	依存からの脱却	1740年ルソー28歳 リヨンからパリに移るまで
12	『社会契約論』の構想	1742年パリに移住 30歳 政治的関心と『社会契約論』関係
13	結婚(?)と子供	1745年テレーズと関係(結婚) 1746年までに2児をもうけ捨てる
14	前期まとめ1	幼少期～依存期(30歳)までの整理1 課題の設定
15	前期まとめ2	幼少期～依存期(30歳)までの整理2 課題の設定

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育・保育実践に関する様々な事象や課題の中から自身の研究テーマを選択し、調査・研究を行う。研究経過を授業内で発表し、ディスカッションを交えながらテーマに対する検討・考察を深める。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 研究課題を設定し、様々な手法を用いて調査・研究ができる。
- 受講生の意見交換を通して様々な考え方に触れ、問題の所在を明確にする。
- 設定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。

《授業時間外学習》

授業内での発表を省察し、さらに自身が学びを深めたいテーマ、課題を探究するよう努めること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度及び提出課題を総合的に評価する。100%課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する
2	教育・保育に関する課題探究と検討	研究テーマを選定する。
3	教育・保育に関する課題探究と検討	研究テーマを選定する。
4	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
5	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
6	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
7	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
8	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
9	教育・保育に関する課題探究と検討	研究テーマを選定する。
10	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
11	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
12	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
13	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
14	演習のまとめ	学習内容を総括する。
15	演習のまとめ	学習内容を総括する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子どもを対象とした音楽会の企画・立案を行い、これまでの学びや情報収集、文献による学習等を通して、企画書の作成を行う。それをもとに、保育・教育における音楽的教材の作成を行う。そして、音楽会で取り入れる音楽による保育内容の研究を行い、技能の習得と向上を図る。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 研究心を持って、音楽を軸とした企画書の企画・立案・作成ができる。
- (2) 音楽的教材研究において、教育的意図を持って、工夫を凝らしながら教材を創造することができる。
- (3) 音楽による保育内容（歌・手遊び・リズム・楽器・合奏・身体表現を伴う音楽等）に関して、技能の習得できる。

《授業時間外学習》

- ・授業で完成しなかった教材研究は、次回の授業までに完成させてくること。
- ・各自の役割を自覚し、知識・技能が不十分であれば、一人ひとりが責任を持ってその回ごとの練習を積み重ねていくこと。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)については企画書、(2)については教材、(3)については技能で評価する。評価の割合は、企画書20%、作品30%、技能30%、授業への参加態度と意欲20%で評価する。授業内においてコメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要及び計画
2	卒業演習の構想(1)	子どもを対象とした「音楽会」の企画(1)
3	卒業演習の構想(2)	子どもを対象とした「音楽会」の立案(2)
4	卒業演習の構想(3)	子どもを対象とした「音楽会」の企画書の作成(2)
5	保育・教育における音楽的教材研究(1)	手作り楽器等(学生の企画書に基づいた教材研究)
6	保育・教育における音楽的教材研究(2)	ペープサート等(学生の企画書に基づいた教材研究)
7	保育・教育における音楽的教材研究(3)	歌紙芝居(1)等(学生の企画書に基づいた教材研究)
8	保育・教育における音楽的教材研究(4)	歌紙芝居(2)等(学生の企画書に基づいた教材研究)
9	音楽による保育内容の研究(1)	歌に関する研究・練習
10	音楽による保育内容の研究(2)	手遊び歌・手合わせ歌に関する研究・練習
11	音楽による保育内容の研究(3)	リズム・ボディパーカッション等に関する研究・練習
12	音楽による保育内容の研究(3)	楽器に関する研究・練習
13	音楽による保育内容の研究(4)	合奏に関する研究・練習
14	音楽による保育内容の研究(5)	身体表現を伴う音楽に関する研究・練習
15	総まとめ	企画書の進捗状況の確認と課題

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

この演習では、『論理トレーニング』を修了し、本格的に卒業研究に入る皆さんのために、リサーチの作法、論理的プレゼンテーションの方法を修得してもらうつもりである。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業の到達目標》

○ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《授業時間外学習》

常に自らの課題を背負って卒業研究を進めてもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、研究発表会におけるプレゼンテーションの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み(60%)、プレゼンテーション(40%)である。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

4年間の大学生活の集大成です。一緒に頑張りましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	卒業研究の準備(1)	各自の卒業研究の方針の決定
3	卒業研究の準備(2)	各自の卒業研究のテーマの決定
4	卒業研究の準備(3)	各自の卒業研究の論理の確認
5	卒業研究の実践(1)	個別研究指導
6	卒業研究の実践(2)	個別研究指導
7	卒業研究の実践(3)	個別研究指導
8	卒業研究の実践(4)	個別研究指導
9	卒業研究リハーサル	プレゼンテーションの予行演習
10	卒業研究発表会(1)	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
11	卒業研究発表会(2)	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
12	卒業研究発表会(3)	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
13	卒業研究発表会(4)	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
14	卒業研究発表会(5)	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
15	まとめ	4年間をふりかえる

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

紙工作の教材を作成する。
紙工作の活用方法を考える。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

紙工作の楽しさを知り、その利用と伝え方を考えることができる
こどもの視点で作品を見て、自ら評価できる

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《成績評価の方法》

作品、レポートなどの提出物(100%)。
提出物にはコメントを付して返却する。
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	今期の目標と計画
2	作品制作1	目的に応じた作品の設計と制作1
3	作品制作2	目的に応じた作品の設計と制作2
4	作品制作3	目的に応じた作品の設計と制作3
5	作品制作4	目的に応じた作品の設計と制作4
6	教材制作1	作品の利用と記録1
7	教材制作2	作品の利用と記録2
8	教材制作3	作品の利用と記録2
9	教材制作4	作品の利用と記録4
10	卒業研究発表会 その1	合同発表会1
11	卒業研究発表会 その2	合同発表会2
12	卒業研究発表会 その3	合同発表会3
13	卒業研究発表会 その4	合同発表会4
14	卒業研究発表会 その5	合同発表会5
15	卒業演習の総まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

4年間の学びを通して、児童家庭福祉についての自らの考え方を確立する。

《テキスト》

プリントの配布

《参考図書》

適宜紹介する

《授業の到達目標》

4年間の学びを卒業研究発表会において報告することができる。

《授業時間外学習》

卒業研究発表に係る作業を課す。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲、報告の内容等：提出物は返却し、次への課題解決に役立たせる(60%)
 研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価(40%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
2	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
3	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
4	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
5	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
6	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
7	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
8	卒業研究発表に向けて	授業の中で、発表会での報告を行い、内容の最終確認する。
9	卒業研究発表に向けて	授業の中で、発表会での報告を行い、内容の最終確認する。
10	卒業研究発表会 その1	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
11	卒業研究発表会 その2	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
12	卒業研究発表会 その3	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
13	卒業研究発表会 その4	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
14	卒業研究発表会 その5	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
15	卒業演習の総まとめ	卒業研究発表会を通して、本演習の意義について考える。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

こども福祉卒業研究Ⅰで成し遂げた研究成果をさらに深め、研究発表会でのプレゼンテーションの準備を進める。研究発表会でのプレゼンテーションの実践、そして討論を通して、こども福祉学科での学びの総まとめとする。

《テキスト》

統一したテキストは使用しない。

《参考図書》

受講学生の設定した卒業研究のテーマに基づいて、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①受講学生自身が設定した卒業研究のテーマについて理解を深める。
- ②受講学生自身が設定したテーマについて学んだことを効果的にプレゼンテーションする。

《授業時間外学習》

文献の精読、発表会の資料作成等、課題は多い。

《成績評価の方法》

授業に対して積極的に取り組み態度への評価 50%。
 研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価 50%。
 学生の発表に対してコメントをすることで、こまめにフィードバックを行う。

《備考》

無断欠席を禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実践	個別研究指導を行う。
2	卒業研究の実践	個別研究指導を行う。
3	卒業研究の実践	個別研究指導を行う。
4	卒業研究の実践	個別研究指導を行う。
5	卒業研究発表のスライドと原稿の作成	卒業研究発表会において用いるスライドと原稿の作成を行う。
6	卒業研究発表のスライドと原稿の作成	卒業研究発表会において用いるスライドと原稿の作成を行う。
7	卒業研究発表のスライドと原稿の作成	卒業研究発表会において用いるスライドと原稿の作成を行う。
8	卒業研究発表の予行演習 その1	卒業研究発表のリハーサルを行い、卒業研究発表会に向けての最終チェックを行う。
9	卒業研究発表の予行演習 その2	卒業研究発表のリハーサルを行い、卒業研究発表会に向けての最終チェックを行う。
10	卒業研究発表会 その1	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
11	卒業研究発表会 その2	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
12	卒業研究発表会 その3	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
13	卒業研究発表会 その4	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
14	卒業研究発表会 その5	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
15	卒業演習の総まとめ	卒業演習を通しての学びを総括する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

4年間の学びの集大成としての演習である。卒業後の進路を考慮し、発展科目の履修、さらなる社会福祉とこども福祉関連科目の履修などについて、各教員が相談に乗り、キャリア教育という意味合いを持つ演習である。各演習で学んだ成果をまとめ、報告する機会も設ける。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配付する。

《参考図書》

イタリア/レッジョ・エミリア市の幼児教育実践記録 子どもたちの100の言葉 学研

《授業の到達目標》

卒業演習Ⅰの内容に基づき、実際に指導案を作成し学内、学外で実践する。更に研究を進め、内容、材料、技術的な面の研究を論文としてまとめ発表する。

《授業時間外学習》

予習の方法：毎回使用する素材や材料について収集及び研究をする。復習の方法：授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《成績評価の方法》

提出作品（60％）と研究発表（40％）により成績評価を行う。

《備考》

授業の始めに出席をとります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究テーマの決定と発表の仕方について
2	イベントの基本計画	安全なイベントの社会的な役割について。
3	制作、合評、制作研究ノート指導①	個人指導
4	制作、合評、制作研究ノート指導②	個人指導
5	制作、合評、制作研究ノート指導③	個人指導
6	制作、合評、制作研究ノート指導④	個人指導
7	制作、合評、制作研究ノート指導⑤	個人指導
8	制作研究ノート、ポートフォリオ仕上げ	個人指導
9	プレゼンテーション	個人指導
10	卒業研究発表会 その1	学科単位で発表
11	卒業研究発表会 その2	学科単位で発表
12	卒業研究発表会 その3	学科単位で発表
13	卒業研究発表会 その4	学科単位で発表
14	卒業研究発表会 その5	学科単位で発表
15	卒業演習の総まとめ	学科単位でのまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

ルソーの自叙伝。自分の子供を捨てたルソーが児童の福音書と言われる『エミール』を著わした。ルソーの生涯を自ら語った小説『告白』を読みルソーの生き方・価値観を年代的に辿り、「人間ルソー」を考察する。

《テキスト》

ルソー『告白』全3巻 岩波文庫

《参考図書》

桑瀬章一郎『ルソーを学ぶ人のために』世界思想社
 桑原武夫編『ルソー』岩波新書
 E. カッシーラー『ジャン=ジャック・ルソー問題』みすず書房

《授業の到達目標》

30歳を過ぎたルソーは依存的時期から戦闘的、そして晩年の隠遁の時期に入っていく。『人間不平等起源論』『エミール』『社会契約論』等の著作を公刊。ルソーの人間の平等、教育論、国家論について理解する。

《授業時間外学習》

『人間不平等起源論』、『社会契約論』についても関心を持つ。

《成績評価の方法》

レポート400字20枚程度（8000～10000字）60%
 研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価 40%
 レポートは別紙にコメントを付して渡す。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	無名の時代	パリに移ってドゥドト夫人等との恋愛などの交錯した生活の中で自己改革を決意する過程を解説
2	『学問的芸術論』1	1750年ルソー38歳 ルソーを有名にした著作。ルソーの諸思想の特徴を解説と討論
3	『学問的』芸術論2	1750年ルソー38歳 ルソーを有名にした著作。ルソーの諸思想の特徴を解説と討論
4	ルソーの子供遺棄	40歳～43歳の間に第4、5児を遺棄する。その心情や生活を考える。
5	『人間不平等起源論』の公刊	1775年 43歳『人間不平等起源論』公刊の概要を解説し、討論する。
6	『エミール』『社会契約論』公刊 1	1762年 50歳 2冊公刊 この時代のルソーの思想を概括し討論する。
7	『エミール』『社会契約論』公刊 2	1762年 50歳 2冊公刊 この時代のルソーの思想を概括し討論する。
8	隠遁生活の時代	1776年ルソー54歳頃から1778年66歳に没するまでの生活を辿り、その晩年の状況を推測し、人間ルソーを振り返る。
9	『告白』出版	1782年ルソー死後4年に出版される。『告白』の総括的議論
10	卒業研究発表会その1	各自の研究結果を聞き講評する
11	卒業研究発表会その2	各自の研究結果を聞き講評する
12	卒業研究発表会その3	各自の研究結果を聞き講評する
13	卒業研究発表会その4	各自の研究結果を聞き講評する
14	卒業研究発表会その5	各自の研究結果を聞き講評する
15	卒業演習の総まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

受講生各自が卒業研究課題を選定し、研究発表に向けて学習成果をまとめる。

《テキスト》

テキストは使用しない。
受講生自身が資料を準備する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 選定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。
- 各自の課題を通して4年間の学習成果を総括する。

《授業時間外学習》

研究課題に関する資料、情報等を丁寧に収集し、整理しておくこと。
授業時間内に受けた指導内容を確認し、次回への準備を調えること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度（20%）提出課題（40%）
研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価（40%）
課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する。 卒業研究課題に沿って研究を深める。
2	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題に沿って研究を深める。
3	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題に沿って研究を深める。
4	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題に沿って研究を深める。
5	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
6	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
7	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
8	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
9	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
10	卒業研究発表会 その1	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
11	卒業研究発表会 その2	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
12	卒業研究発表会 その3	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
13	卒業研究発表会 その4	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
14	卒業研究発表会 その5	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
15	卒業演習の総まとめ	学習の総括を行う。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

「子どもを対象とした音楽会」の企画内容に基づき、個人及び学生同士で練習を重ね、技能の向上を目指す。また、舞台において使用する教材や演出、背景音楽についても検討する。そして、これまでの学びを総合して、音楽を楽しく表現することができる。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 企画書に基づいた音楽表現内容の技能を習得することができる。
- (2) 教育的視点から、舞台演出に関して意見を持ち、実行することができる。
- (3) 人前で、自らが楽しく、音楽を表現することができる。

《授業時間外学習》

・良い舞台を完成するには、一人ひとりが大切な存在であることを自覚し、技能向上の為に練習を積み重ねること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)については技能、(2)についてはレポート、(3)については技能とし、いずれも授業への参加態度と意欲を加味する。評価の割合は、技能60%、授業への参加態度と意欲40%で評価する。
コメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要及び計画 卒業演習発表会個別練習①
2	音楽総合研究 (1)	卒業演習発表会個別練習②
3	音楽総合研究 (2)	卒業演習発表会全体練習①
4	音楽総合研究 (3)	卒業演習発表会全体練習②
5	音楽総合研究 (4)	卒業演習発表会全体練習③
6	音楽総合研究 (5)	卒業演習発表会全体練習④及び舞台演出の検討①
7	音楽総合研究 (6)	卒業演習発表会全体練習⑤及び舞台演出の検討②
8	音楽総合研究 (7)	卒業演習発表会リハーサル①
9	音楽総合研究 (8)	卒業演習発表会リハーサル②
10	卒業研究発表会 (1)	卒業年次生各ゼミによる研究発表①
11	卒業研究発表会 (2)	卒業年次生各ゼミによる研究発表②
12	卒業研究発表会 (3)	卒業年次生各ゼミによる研究発表③
13	卒業研究発表会 (4)	卒業年次生各ゼミによる研究発表④
14	卒業研究発表会 (5)	卒業年次生各ゼミによる研究発表⑤
15	総まとめ	卒業演習の総括

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		科目ナンバリング	YS_S24008
担当者氏名	杉山 貴要江、澤田 真弓			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 			

《授業の概要》

この演習は保育・教職課程の総括的な授業である。これまでの履修状況や記載してきたカルテなどを振り返って不足している知識や技能などを認識し、克服しながら保育者としての実践力を高める。そのため、保育・教育現場等から講師を招いて講義に関連した事例研究やグループ討議を行う。また、模擬保育等を通して保育者として必要な知識・技術を習得したことの確認を行う。

《テキスト》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館
内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《参考図書》

随時紹介する

《授業の到達目標》

○保育・教職課程の履修により習得した知識・技能をもとに、保育者としての実践力を身につける。
○コミュニケーション能力、情報処理能力、論理的思考力、問題解決能力等を養い、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を身につける。

《授業時間外学習》

これまでに各自が作成してきたカルテを中心に履修状況を振り返り、不十分な分野をできるだけ認識しておくこと。

《成績評価の方法》

授業内討議や発表への参加態度・成果（20%）
レポート等の課題提出物（30%）
実践研究（指導案作成・教材研究・模擬保育など）（50%）

《備考》

この科目は全学年を通じた「学びの集大成」として位置付けられるものである。このことを心得て教職生活が円滑にスタートできるように主体的に取り組むことを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	作成済みのカルテをもとに各自がこれまでの学修成果を振り返って自己の知識・技能の再点検をし、不足している知識や技能等の認識を明確化する。
2	講義1 ＜教育委員会＞	教職の意義や保育者の役割、職務内容について認識を深化させる。
3	講義からの学び	講義1の内容についてグループ討議・事例研究などから各自が自己の課題を明らかにする。
4	講義2 ＜幼稚園園長＞	保育者としての成長や保育の課題などについて認識を深化させる。
5	講義からの学び	講義2の内容についてグループ討議・事例研究などから学んだことを今後の保育実践につなげる。
6	講義3 ＜幼稚園教諭・保育士＞	乳幼児期の特性と乳幼児教育・保育の役割について理解を深める。
7	講義からの学び	講義3の内容についてグループ討議・事例研究などから学んだことを今後の保育実践につなげる。
8	保育参観	環境構成のあり方、指導案の役割と実践方法、保育者の言葉かけなどに主眼を置いて保育を参観する。
9	保育実践に向けて1	保育実践に向けて指導案を作成する。
10	保育実践に向けて2	保育実践に向けて教材研究や模擬保育を行い、指導案を修正する。
11	保育実践研究1	保育実践を通して指導力を向上させる。
12	保育実践の振り返り	保育実践研究1からの学びを今後の指導力向上につなげる。
13	保育実践研究2	保育実践を通して指導力を向上させる。
14	保育実践の振り返り	保育実践研究2からの学びを今後の指導力向上につなげる。
15	まとめ	授業内容の総括を行う。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	YS_L24012
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

臨床心理学とは人のこころを理解しようとし人にとっての意味を理解しようとする心理学である。こころの世界の開拓者フロイトは大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の重要性を発見した。この授業の中で「こころ」の研究の歴史を辿り人と人が関わることで育まれる「関係性」について知り、自分自身と他者のこころを理解できるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る
- ・対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親との関係性と関連させて、より適切な関わりが実践できるよう学ぶ。

《成績評価の方法》

- 受講態度30%
- レポート20%
- 筆記テスト50%

《テキスト》

こころの処方箋 (新潮文庫) 河合隼雄

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで、最終授業日までに、レポートを提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学の基本的な考え方を知る
2	フロイトの発見	無意識をめぐって、フロイトの発見から考える
3	フロイトの精神分析①	自由連想法について知る
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いて学ぶ
5	ユングの分析心理学①	ユング自身の人生と分析心理学について知る
6	ユングの分析心理学①	ユングのタイプ論を知る
7	乳幼児期のこころの発達①	赤ちゃんの不安の源泉 メラニー・クラインの精神分析理論を知る
8	乳幼児期のこころの発達②	マーガレット・マラーの分離・個体化過程とウィニコットのホールディングについて学ぶ
9	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法を知る
10	箱庭療法①	ユング心理学と箱庭療法の関連について知る
11	箱庭療法②	箱庭療法の実際を学ぶ
12	行動療法	行動療法の理論を学ぶ
13	認知行動療法	考え方や思考のくせに気づき改善していくための認知行動療法を知る
14	フォーカシング	セルフ・カウンセリングとしてのフォーカシングを知る
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認を行う

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	造形総合演習	科目ナンバリング	YS_S24017
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

モノ作りの楽しさを伝える課題を設定します。人の手がコソコソとつくり上げたモノは、温かく気持ちが癒されます。紙や布、ヒモ、糸、植物、プラスチック、チョークや墨等、使う素材や技法を学びます。芸術作品のような強い主張は少ないですがライフワークとして楽しむことを目的とします。同時にワークショップやイベント等、企画力を身につけます。

《テキスト》

毎時間毎に計画表と参考資料を配付する。

《参考図書》

頭のいい子を育てる手作り知育おもちゃ 寺西恵里子著書

《授業の到達目標》

・課題毎に完成イメージを強くもち、発想や工程、考え方を学ぶ。
 ・特殊な素材、材料、道具を扱い技術を習得する。
 ・同時にワークショップやイベント（時間や空間のアート）等、企画力を身につける。
 ・15週目はギャラリー展示を行います。

《授業時間外学習》

予習の方法：毎回使用する素材や材料について収集及び研究をする。
 復習の方法：授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《成績評価の方法》

全作品（100%）の提出により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバス、課題、材料、道具の説明。
2	おもちゃ作り①	園児達ともできるスタンドグラスを作ります。窓に飾ると光が部屋に入り色が写ります。
3	おもちゃ作り②	園児達ともできるジグゾーパズルを作ります。パズルの数は絵が出来上がってから各自、数を決めてカッターカットします。
4	文字を楽しむ①	POP文字の練習／ひらがな、カタカナ、数字、英語、漢字をまずは鉛筆で次にサインペンで練習します。
5	文字を楽しむ②	イベント看板やお店の看板を作ります。
6	色を楽しむ①	オイルパステルで文字やイラストの練習。 練習の合間に黒板作りをします。
7	色を楽しむ②	黒板に丁寧にチョークアートをします。 最後にチョークでメッセージを書きます。
8	グッズ①	羊の糸巻きカード、チーズマウスレターセット、バナナのメモ帳、そら豆カードの中から2種類制作。
9	グッズ②	羊の糸巻きカード、チーズマウスレターセット、バナナのメモ帳、そら豆カードの中から2種類制作。
10	グッズ③	自然の素材で生活雑貨作り。
11	グッズ④	特殊なガラス絵具を使ってピンに絵付けをします。
12	水墨画①	筆、墨を使って身近なものを一筆で描く。 はじめは点や線の練習から行います。
13	水墨画②	縁起物をモチーフに来年の絵馬を作ろう。
14	大作	ジャバラワークス。紙の人形に描いたり、貼ったり個性豊かに制作します。 最後に全員の作品をつなげて、広げて世界はつ★
15	ギャラリー	各自手作り作家になりきってギャラリー展示を行います。展示場所は要相談。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども音楽療育演習	科目ナンバリング	YS_S24020
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する <input type="radio"/> 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる <input checked="" type="radio"/> 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

音楽療育を実践する為には、対象児や療育の具体的方法についての理解を深め、実際に音楽を使用したアプローチを行える技能が必要である。本授業では、演習を通して、音楽療育の実践に必要な打楽器、鍵盤楽器、歌、手遊び、身体遊び等の技術の習得を目指す。また、障がい種別による対象児を設定し、セッションの立案を行った上で、実践する力を養う。

《授業の到達目標》

- (1) 音楽療育における対象児や具体的な方法について説明できる。
- (2) 音楽療育で使用する音楽的アプローチの技能を実行できる。
- (3) 障がい種別による対象児を設定しセッションの立案を行った上で実践できる。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)については試験、(2)については実技試験、(3)については立案したレポート及び発表を行う。評価の割合は、試験30%、実技試験30%、レポート及び発表40%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。質問や補講レッスン等は、オフィスアワーで受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。
2	音楽療育の対象児及び方法	音楽療育の対象児や具体的方法について理解を深める。
3	音楽的アプローチ(1)	リズム楽器の基礎的な技術を習得する。
4	音楽的アプローチ(2)	鍵盤楽器の音楽療育への活用法について応用的技能を習得する。
5	音楽的アプローチ(3)	音楽療育における歌・歌遊び・手遊びの可能性について知り、技能を習得する。
6	音楽的アプローチ(4)	身体遊びを使った音楽療育の音楽的アプローチについて演習する。
7	障がい種別に応じたアプローチ(1)	それぞれの障がいに適したアプローチ方法について学ぶ。
8	障がい種別に応じたアプローチ(2)	障がいに適したアプローチを実際に実技を通して習得する。
9	セッションの立案(1)	障がい種別による対象児を設定しセッションを立案する。
10	セッションの立案(2)	心身の発達を促す為の具体的なアプローチ方法について検討する。
11	セッション内容の研究及び実践練習(1)	各自の立案したセッションをもとに、実際に音楽療育を実践できるよう、練習を行う。
12	セッション内容の研究及び実践練習(2)	セッション場面で想定される対象児への働きかけや声かけ等、具体的なアプローチについて研究する。
13	研究発表(1)	習得してきたことを発表する。
14	研究発表(2)	発表を通して学生同士意見交換をし、課題を見つける中で、学びを深める。
15	学習のまとめ	これまでの学びを振り返り、まとめを行う。

《テキスト》

系統立ったプリントを資料として配布する。

《参考図書》

- 「音楽療法・レッスン・授業のための ネット帳」/theミュージックセラピー編集部/音楽の友社/2005
- 「こどもの音楽療法ハンドブック」/若尾祐他/音楽の友社/1998

《授業時間外学習》

- ・授業で学んだ音楽アプローチについて、練習を積み重ね、自分のものにしていくこと。
- ・図書館等で文献を読み、支援の視点を持って音楽を活用する可能性について考えながら復習をすること。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども音楽療育実習	科目ナンバリング	YS_F24021
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	実習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

音楽療育のスキルを修得するには、実際の実践場面を観察したり、対象児やセッションに関わることが最も効果的である。本実習では、音楽療育の現場に実際に参加し、観察や参与を行うことを通じて実習を行う。その中で、座学で学んできた概論の理解を深め、演習で習得した技能を活用し、音楽療育の臨床能力を向上させる。

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考図書》

実習先の特色によって適した文献を、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 支援を要する対象児の症状における専門的知識を理解し、その上で、対象児に応じた関りを行うことができる。
- (2) 音楽療育のセッション場面の観察を通して、セッション内容における支援者の意図について考察することができる。
- (3) 座学で学んだ概論、演習で習得した技能を活用し、音楽療育セッションに関わることができる。

《授業時間外学習》

- ・実習で観察した内容を、必ず記録としてまとめていくこと。
- ・実習で出会う対象児の状態や、音楽療育の具体的なセッション内容等実習で得た経験をもとにして、授業資料や文献を読み、専門知識の理解を深めること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)についてはレポート及び実習評価、(2)についてはレポート、(3)については実習評価で評価する。評価の割合は、レポート40%、実習評価60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。実習における評価は、個人ごとにコメントをフィードバックする。

《備考》

実習での注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習事前指導(1)	支援する姿勢と音楽療育の役割について学ぶ。
2	実習事前指導(2)	実習の心得を学び、実習施設の特色を理解する。
3	実習(1)	見学実習(1) 施設の特色及び対象児の理解
4	実習(2)	見学実習(2) 音楽療育の位置づけと果たしている役割について
5	実習(3)	見学実習(3) 音楽療育セッションの内容における理解
6	実習(4)	見学実習(4) 音楽療育セッションにおける支援者(Th.)の意図・目的について
7	実習(5)	見学実習(5) 具体的アプローチの技法について
8	中間報告会	見学実習での報告会及び参加実習に向けた音楽療育セッションの立案
9	実習(6)	参加自習(1) 音楽療育セッションへの参加
10	実習(7)	参加実習(2) 対象児に適したアプローチ方法の研究
11	実習(8)	参加実習(3) 音楽療育の形態と具体的方法について
12	実習(9)	参加実習(4) 支援者(Th.)としての在り方について
13	実習(10)	参加実習(5) 音楽療育を通じた対象児の変化に焦点化した理解
14	実習事後指導(1)	実習での反省と課題の発表
15	実習事後指導(2)	反省と課題についての討議

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	YS_F24034
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育の理論と実践を結ぶ場において、保育者としての基礎的実践力を養う。さらに、保育者としての意思や適性を確認する。

《テキスト》

「幼稚園教育実習の手引き」

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
 相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方』萌文書林

《授業の到達目標》

○授業を通して学んだ知識をもとに実習を行い、保育者としての態度や技能を修得する。

《授業時間外学習》

○手遊び、歌、絵本などの教材研究を計画的に進めておくこと。
 ○実習中に行う部分実習等の指導案を作成すること。

《成績評価の方法》

実習施設での評価（60%）
 実習ノート等実習の成果について（40%）

《備考》

○実習園の教育方針に沿って実習に臨こと。
 ○実習生としての責任ある行動と職業人としての意識を持って実習に臨こと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼稚園実習（4週間）	教育実習指導、その他既習得科目の内容を十分に踏まえること。実習園の指導に従い、積極的に実習を行うこと。
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《専門教育科目 発展科目》

科目名	男女共同参画社会の構築		科目ナンバリング	YH_L24013	
担当者氏名	柏 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

女性と男性がともに社会に参画し、性別にとらわれることなく生き生きとした人生を送ることができる男女共同参画社会を築くことが、重要な国民的課題となっている。集団施設保育における子育て支援を担う保育者として、性別役割観意識に関する理解を深め、地域社会における子育て支援拠点として求められる役割について考える。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する

《参考図書》

必要に応じて指示する

《授業の到達目標》

- ・男女共同参画社会構築のための教育・保育について理解する
- ・女性の社会進出を促進するための子育て支援について理解する
- ・父親の育児参画の重要性について理解する

《授業時間外学習》

授業内に提示された課題についてレポートを作成する

《成績評価の方法》

期末レポート(60%)・授業中レポート(30%)・授業態度(10%)を総合的に評価

《備考》

グループ活動等のあるので、積極的な授業態度でのぞむこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や基本的概念の共有を図る
2	現代の子育て家庭に関わる諸問題	子育て家庭の現状と課題について理解する
3	女性の社会進出の現状と課題	女性の社会進出に関する意識の現状を把握する
4	親の子育てイメージと現実	育児不安の実情を把握し、課題を顕在化する
5	地域の子育て支援	地域の子育て支援プログラムについて理解を深める
6	保育施設における子育て支援	保育施設における支援の取り組みについて理解を深める
7	父親を対象とした子育て支援の実際	父親を対象とした子育て支援プログラムについて理解を深める
8	父親・母親の子育て意識	父親・母親の子育て意識から、子育てニーズについて考える
9	家庭におけるジェンダー再生産	しつけを通じたジェンダー形成について理解する
10	園におけるジェンダー再生産	保育者のかかわりと再生産過程について理解する
11	保育者の性別役割観	保育者自身の性別役割観意識の現状を把握する
12	子育て自助・共助・公助	男女共同参画社会構築に求められる子育て機能について理解する
13	男女共同参画社会における支援プログラム①	男女共同参画社会構築に寄与する子育て支援ニーズについて考える
14	男女共同参画社会における支援プログラム②	男女共同参画社会構築に寄与する子育て支援プログラム内容を検討する
15	まとめ	講義の総括を行う

《専門教育科目 発展科目》

科目名	福祉経営実践演習	科目ナンバリング	YH_S24014
担当者氏名	田中 清人		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
			開講年次・開講期
			4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力			

《授業の概要》

将来の管理職や起業を目指した時に、より良い福祉サービスを継続して提供していけるよう、組織と経営の基礎を理解する。ヒト・モノ・カネ・情報の側面からのマネジメント能力を高めるとともに経営者のあり方について考える。

《テキスト》

プリント等の配布

《参考図書》

随時紹介する

《授業の到達目標》

福祉サービスの組織と経営、マネジメントに係る基礎理論について理解できる。

自らが児童福祉施設等を開業することをイメージしてのビジネスプランを作成し発表できる。

《授業時間外学習》

授業資料、ノートを読み返し、授業内容の理解に努めるよう復習をする。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲 (30%)

レポート課題等の提出物 (70%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習の狙いと進めかた、到達目標と評価についての説明。
2	福祉サービスに関わる組織	社会福祉法人、特定非営利法人、営利法人、その他の組織について違いを理解する。組織の体系について理解する。
3	経営理念・事業計画	事業を立ち上げるうえでの舵取り部分について理解する。
4	マーケティング・経営戦略	マーケティング・経営戦略の基礎について理解する。
5	経営戦略事例検討	事例検討により経営戦略の学びを深める。
6	経営資源・ヒト	人的資源管理・労務について理解する。
7	経営資源・ヒト事例検討	事例検討により人的資源管理の学びを深める。
8	経営資源・モノ・サービス	施設設備・サービス内容についての理解を深める。
9	経営資源・カネ	事業に係るカネの流れについての理解を深める。
10	経営資源・情報	市場に関する情報の収集・ノウハウの活用についての理解を深める。
11	苦情解決とリスクマネジメント	苦情解決とリスクマネジメントについて理解する。
12	コンプライアンス経営	コンプライアンスの基礎知識・コンプライアンス違反事例について学ぶ。
13	ビジネスプラン作成	ビジネスプラン作成にあたっての説明を行う。
14	ビジネスプラン作成	授業を振り返りながらビジネスプランを作成する。
15	ビジネスプラン発表	作成したビジネスプランについての発表・意見交換を行う。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	消費者教育	科目ナンバリング	YH_L24015
担当者氏名	伊藤 由美子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

消費者・生活者として諸問題の歴史を知り将来の自らの生活に役立つ知識を修得して、これを周りの人々に分かり易く伝え一緒に考えることができ、それを行動に移す力をつけて欲しい。講義形式を中心としますが、事例によってはディスカッションを交えて理解を深めます。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『消費生活年報』『くらしの豆知識』国民生活センター、『消費者白書』消費者庁

《授業の到達目標》

幼児期における消費者教育の目標が「安全・契約、取引・情報・環境」において示されたことを受けて、受講者が消費者教育を学び、関わる幼児・保護者に向けて問題提議・問題解決の中心として活動ができる。

《授業時間外学習》

予習の方法：事前に配布するプリントを読んでおく。適宜課題の提出を求める。
 復習の方法：授業内容を確認し、不明瞭な部分をメモして授業展開につなげる。

《成績評価の方法》

①定期試験（60%）②授業時のレジュメ作成（20%）③理解度確認レポート（20%）
 *時間内にレジュメ・レポートなどを提出できない場合は理由を明確にして対応策を要相談すること。

《備考》

生活者の権利と義務を遂行し、持続可能社会に貢献するために必要な教育です。過去の失敗事例に学び、より良い生活を送るために活用して欲しいと考えます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	消費者意識調査&ライフプラン調査、シラバス確認
2	消費者教育の必要性	賢く生き抜く力を育成するために必要とされる知識の構築
3	消費者市民としての役割	経済社会への自らの働きかけを知り貢献する意欲を高める
4	キャリア教育と消費者教育	発達過程に於いて求められる権利と義務を遂行する能力の育成 多様なモノの見方や考え方が立場により変化することを学ぶ。
5	身近な契約と消費者教育	各々の立場で行われる契約の実態を知り賢く生きるための知識の構築
6	金融教育と消費者教育	ローン&クレジットの光と闇を理解したうえで模擬生活設計を行う。
7	食教育と消費者教育	食の安全・安心を求めるためにどのような行動が必要かを理解する。
8	環境教育と消費者教育	次世代につながる継続的な環境見直しの一例を基にディスカッション
9	情報教育と消費者教育	情報リテラシー能力を高めるための知識の構築と応用
10	安全・安心社会構築のために	多様な消費者問題を回避するための能力を高めるためのディベート
11	持続可能社会構築のために	健康社会を理解し継続させる手法の模索（ディスカッション）
12	心身共に安定した社会確保のために	ストレス社会で生き抜くため日々のケアについてディスカッション
13	消費者問題教育と行政	多岐にわたるトラブル事例と行政や教育機関などの連携を知ることで今後の対策を講じることができる。
14	教育現場の課題と新たな取組事例	消費者教育の事例と啓発方法などを知ることで置かれた環境での各々の役割を果たすことができる。
15	試験対策	授業のまとめ（重要個所の確認及びレポート作成）

《専門教育科目 発展科目》

科目名	こども福祉特論	科目ナンバリング	YH_L24018
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

これまでの幼児教育、保育、福祉の学修成果と、これまで行ってきた実習を振り返り、理論と実践の融合について検証する。

自らが獲得した実践力を、各自が描くこども福祉理念と共に確認し、将来に向けての専門職像を確立する。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

授業時間内に必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

①幼児教育、保育、福祉等に関する基本的理念について、さらに認識を深めることができる。

②実習を通して培った実践力を確認し、具体的に示すことができる。③保育に係わる専門職についての理想を他者に伝えることができる。

《授業時間外学習》

これまでの実習を振り返る意味で、実習ノートをよく読み、各回の授業内容に沿って予習し、「こども福祉特論ノート」を作成するようにしてください。なお、提出物に関しては返却し、次への課題解決に役立たせられるようにする。

《成績評価の方法》

- ・「こども福祉特論ノート」の評価 50%
 - ・研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価 50%
- 提出物は返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉特論における学びの全体像を提示する。
2	児童福祉法・児童憲章 1	児童福祉法及び児童憲章等により、こども福祉の理念を復習する。
3	児童福祉法・児童憲章 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
4	児童の権利に関する条約 1	児童の権利に関する条約により、子どもの権利について復習する。
5	児童の権利に関する条約 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
6	保育所保育指針 1	保育所保育指針により、保育士の専門性、保育所の社会的責任、子どもの発達、保育計画、保護者支援等について復習する。
7	保育所保育指針 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
8	幼稚園教育要領 1	幼稚園教育要領により、幼稚園教育とその役割、教育課程の編成、指導計画の作成等について復習する。
9	幼稚園教育要領 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
10	幼保連携型認定こども園教育・保育要領 1	幼保連携型認定こども園教育・保育要領により、認定こども園における教育保育の役割等について復習する。
11	幼保連携型認定こども園教育・保育要領 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
12	研究発表会の準備 1	各自が作成した「こども福祉特論ノート」を基にして、研究発表の原稿を作成する。
13	研究発表会の準備 2	各自が作成した「こども福祉特論ノート」を基にして、研究発表の原稿を作成する。
14	研究発表会 1	研究の成果を発表する。
15	研究発表会 2	研究の成果を発表する。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童福祉実習指導	科目ナンバリング	YH_S24019
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

本演習では、保育士資格を取得すること、4年制大学卒業の学位を修得することを踏まえ、それに相応しい学士力を身につけることを目指す。「兵庫大学特別支援保育士」の学びとして設定している科目（病児・障害のある子どもへの支援）に沿った実習の事前、事後指導を実施する。実習後は実習報告会を開催し、実習の自己評価、他者評価を基にして実習報告書を作成する。

《授業の到達目標》

- 実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。
- プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。
- 実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し修得できる。
- 実習後は、実習全体を振り返り、実習報告書を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《成績評価の方法》

事前指導：課題の提出、実習計画書の作成等（50%）
 事後指導：実習報告書の作成等（50%）
 提出物は返却する。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次ほか編、(株)みらい

《参考図書》

実習施設に応じて随時紹介する。

《授業時間外学習》

子どもの貧困、虐待に関する新聞報道等には目を通し、当該実習施設の特徴を把握するよう努め、生活の質の向上をキーワードに子どもの実態について把握してもらいたい。
 授業は全出席を原則とするので、やむを得ず欠席をする場合は、事前に連絡をすること。

《備考》

本科目には履修要件（「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」の単位取得済み）が設けられている。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育士の役割全体の中の「児童福祉実習」の位置付け、授業内容、評価基準と方法、テキストと実習施設に応じた参考資料、予定表の配布、個人票の作成等について
2	事前指導 - 1	実習ノートの配布、実習計画書の作成について 実習計画書の書き方と提出方法
3	事前指導 - 2	実践者に学ぶ (1) こども病院に勤務する保育士の講話
4	事前指導 - 3	実践者に学ぶ (2) こども病院に勤務する保育士の講話
5	事前指導 - 4	視聴覚教材による学習 (1) 各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習 書籍、専門誌による学習
6	事前指導 - 5	視聴覚教材による学習 (2) 各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習 書籍、専門誌による学習
7	事前指導 - 6	実習計画書の提出
8	事前指導 - 7	オリエンテーションについて、その意義と諸注意
9	事前指導 - 8	オリエンテーション後、実習計画書に従った実習の準備
10	事前指導 - 9	実習日誌の書き方
11	事前指導 - 10	実習に臨むにあたって、実習生の立場と心構えについて 実習報告書の作成について（記述内容と提出方法）
12	事後指導 - 1	実習報告会の準備 (1)
13	事後指導 - 2	実習報告会の準備 (2)
14	事後指導 - 3	実習報告会 (1)
15	事後指導 - 4	実習報告会 (2)

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童福祉実習 I	科目ナンバリング	YH_F24020
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

本実習における実習施設については、子ども病院、特別支援学校等を想定している。

病院に入院している子どもの生活の質の向上について、医療機関勤務の保育士の役割と具体的活動について、障害のある子どもの生活の質の向上及び将来設計について、特別支援教諭または障害児者の施設に勤務する保育士の役割と具体的活動について実践的に学ぶ。

《授業の到達目標》

- 当該実習施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。
- 家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
- 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と連動させて理解し、保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

実習施設での評価 (60%)
 実習ノート等実習の成果について (40%)

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい

《参考図書》

随時紹介する。

《授業時間外学習》

- 実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
- 実習中は慣れない環境、緊張等で体調を崩しやすいので、実習に集中できるように自己管理を徹底すること。
- 実習中は、必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《備考》

本科目には履修要件（「保育実習 I」「保育実習 1 B」の単位取得済み）が設けられている。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習施設での保育実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童福祉実習Ⅱ	科目ナンバリング	YH_F24021
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

本実習における実習施設については、子ども病院、特別支援学校等を想定している。

病院に入院している子どもの生活の質の向上について、医療機関勤務の保育士の役割と具体的活動について、障害のある子どもの生活の質の向上及び将来設計について、特別支援教諭または障害児者の施設に勤務する保育士の役割と具体的活動について実践的に学ぶ。

《授業の到達目標》

- 当該実習施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。
- 家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
- 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と連動させて理解し、保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

実習施設での評価（60%）
 実習ノート等実習の成果について（40%）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい

《参考図書》

随時紹介する。

《授業時間外学習》

- 実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
- 実習中は慣れない環境、緊張等で体調を崩しやすいので、実習に集中できるように自己管理を徹底すること。
- 実習中は、必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《備考》

本科目には履修要件（「保育実習Ⅰ」「保育実習ⅠB」の単位取得済み）が設けられている。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習施設での保育実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《資格関連科目》

科目名	児童館実習（10日間）	科目ナンバリング	
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

児童館活動への参加を通して、児童健全育成の基本的理念を理解するとともに、児童館の目的、機能、運営上の基本的な問題を理解する。また、児童支援員の指導のもとに、その役割や職務上の留意点、児童館における遊びの意義やその指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》

『児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団，2015年

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

児童厚生施設における活動の観察・参加実習を通して施設の機能と実態を理解する。

児童厚生員としての基本的な心構え、態度を研修し、児童厚生員としての資質を高める。

《授業時間外学習》

実習には万全の体調で臨むことが求められる。健康等自己管理を徹底すること。

実習中は、必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《成績評価の方法》

施設の評価表の基づく評価（60%）

実習ノート等の評価（40%）

《備考》

本実習の再履修は行わないこととする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童館での実習	1日8時間かける10日間 80時間以上（但し、「保育実習Ⅲ」を児童館で行った場合は、児童クラブでの実習を読み替えることができる）
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《資格関連科目》

科目名	児童館実習（20日間）		科目ナンバリング	
担当者氏名	杉山 貴要江			
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

児童館活動への参加を通して、児童健全育成の基本的理念を理解するとともに、児童館の目的、機能、運営上の基本的な問題を理解する。また、児童支援員の指導のもとに、その役割や職務上の留意点、児童館における遊びの意義やその指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》

『児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団，2015年

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

児童厚生施設における活動の観察・参加実習を通して施設の機能と実態を理解する。

児童厚生員としての基本的な心構え、態度を研修し、児童厚生員としての資質を高める。

《授業時間外学習》

実習には万全の体調で臨むことが求められる。健康等自己管理を徹底すること。

実習中は、必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《成績評価の方法》

施設の評価表の基づく評価（60%）

実習ノート等の評価（40%）

《備考》

本実習の再履修は行わないこととする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童館での実習	1日8時間かける20日間 160時間以上（但し、「保育実習Ⅲ」を児童館で行った場合は、「児童館実習（10日間）」を受講することとなる。）
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		